

熊谷市教育委員会埋蔵文化財調査報告書 第21集

池ノ上遺跡

2016

埼玉県熊谷市教育委員会

熊谷市教育委員会埋蔵文化財調査報告書 第21集

いけ の うえ い せき
池 ノ 上 遺 跡

2016

埼玉県熊谷市教育委員会

序

私たちの郷土熊谷は、低地、丘陵、台地と様々な地形に富んでおり、利根川、荒川といった我が国でも著名な２大大河に挟まれております。このような自然環境に囲まれての先人たちの営みが埋蔵文化財といった形で確認することができます。こうした埋蔵文化財は、郷土の発展やその過程を物語る証であるとともに、私たちの子孫の繁栄の指標ともなる先人の貴重な足跡であります。

しかしながら、近年においては、多くの開発行為に伴い、我々の郷土の景観は日々変化しております。このような現状の中で、失われつつある文化財を保護し、それらを次世代に伝えていくことは我々の大きな課題であり、責務であるはずです。

本書は、平成２６年１０月から平成２７年２月に実施された妻沼地域に位置する池ノ上遺跡の発掘調査の成果をまとめたものでございます。

この遺跡は平成２４年に国宝に指定された「歓喜院聖天堂」にほど近く、これまで周辺での発掘調査事例が少ないことから、注目されております。

本書が埋蔵文化財の保護、学術研究の基礎資料として、また埋蔵文化財の普及・啓発として広く活用されることとなれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書刊行に至るまで、文化財保護法の趣旨を御理解、御協力を賜りました地権者逸見真一氏をはじめ、株式会社ファイブイズホーム、並びに関係者各位に厚く御礼申し上げます。

平成２８年３月

熊谷市教育委員会
教育長 野原 晃

例 言

- 1 本書は、埼玉県熊谷市妻沼字池ノ上1575-1、1612-1番地に所在する池ノ上遺跡（埼玉県遺跡番号61-52）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査届出に対する埼玉県教育委員会からの指示通知は、平成26年2月9日付教生文第2-44号である。
- 3 本調査は、分譲住宅建設に伴う事前の記録保存のための発掘調査であり、地権者である逸見真一氏の委託を受け、熊谷市教育委員会が実施した。
- 4 本事業の組織は、1章のとおりである。
- 5 発掘調査期間は、平成26年10月27日から平成27年2月28日までである。
また整理・報告書作成期間は、平成27年5月1日から平成28年3月31日までである。
- 6 発掘調査の担当は、腰塚博隆が、本書の執筆・編集は熊谷市スポーツ・文化村「くまびあ」（遺物整理作業室）作業員の協力のもと腰塚、原野真祐が行った。いずれも吉野健がその補佐をした。
- 7 写真撮影は、発掘調査・遺物ともに腰塚が行った。
- 8 遺跡内における地質調査については、清水康守、小川政之、駒井潔、武藤博士の方々の御教示をいただき、その結果について寄稿いただいた。
- 9 出土遺物は、熊谷市教育委員会で保管している。
- 10 本書の作成にあたり多くの方々から御教示、御協力を賜った。記して感謝いたします。
（敬称略、五十音順）
小川政之（日本第四紀会会員）、清水康守（熊谷市史編さん特別調査員）、菅谷浩之（熊谷市文化財保護審議会会長）、駒井 潔（埼玉県立和光高等学校）、武藤博士（化石研究会会員）、埼玉県教育
局生涯学習文化財課

凡 例

- 1 本文中、遺構の表記記号は、次のとおりである。

S I…竪穴式住居跡、S D…溝跡、S K…土坑、P…ピット、S E…水田跡、S X…性格不明遺構

- 2 遺構挿図中の溝跡の一部及び性格不明遺構にスクリーントーンを施してあるが、遺構の区別を明瞭化する目的である。

- 3 土層断面中の表記記号は、次のとおりである。

S ……河原石 P ……土器片

- 4 遺構挿図中、遺物に添えてある番号は、該当する遺構の遺物挿図中の遺物番号と一致する。

- 5 遺構挿図の縮尺は、次のとおりである。

遺構全測図…1／300、各調査区全測図…1／80、住居跡・土坑・ピット・焼成遺構…1／60、溝跡…1／60（一部1／200）、水田跡…1／80（土層断面1／60）、性格不明遺構…1／200（土層断面1／80）

- 6 遺構土層断面図及びエレベーション図のポイントの標高は、原則としてその都度表記して示した。

- 7 遺物実測図の縮尺は、原則1／4であるが一部1／2、1／3もあり、それらは個別に示した。

- 8 遺物実測図の中で、中心線はすべて実線で示し、遺物観察表にできる限り残存率で示した。

また、土師器、土師質土器の断面は白抜き、須恵器の断面は黒塗りで示し、陶磁器のうち緑釉陶器については、を、灰釉陶器については、で表し、鉄釉はで、黒色処理についてはで示した。

また底部調整は、回転糸切りが「」、回転ヘラケズリは「」で示した。

- 9 遺物である礫のうち、敲打痕があるものは、「」がその範囲を、擦り痕があるものは「」でその範囲を示した。

- 10 遺物観察表の凡例は、次のとおりである。

法量の単位は、cmである。また、推定値は括弧付けで示した。

胎土は、土器に含まれる含有鉱物を以下の記号で示した。

A…白色粒子、B…黒色粒子、C…赤色粒子、D…褐色粒子、E…赤褐色粒子、F…白色針状物質、G…長石、H…石英、I…白雲母、J…黒雲母、K…角閃石、L…片岩、M…砂粒、N…礫

色調は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修2010年版）に照らし最も近似した色相を示した。

目 次

序	I
例 言	II
凡 例	III
目 次	IV
挿図目次	V
表 目 次	VI
図版目次	VI
I 発掘調査の概要	1
1 調査に至る経過	1
2 発掘調査・報告書作成の経過	1
3 発掘調査、整理・報告書刊行の組織	2
II 遺跡の立地と環境	2
III 遺跡の概要	6
1 調査の方法	6
2 検出された遺構と遺物	6
IV 遺構と遺物	
1 竪穴式住居跡	22
2 溝跡	58
3 土坑	74
4 焼成遺構	80
5 水田跡	81
6 ヒット	83
7 性格不明遺構	97
8 遺構外出土遺物	102
V 調査のまとめ	105
附編 池ノ上遺跡の周辺の地形と地質	109

挿図目次

- | | | | |
|------|--------------------|--------|------------------------------------|
| 第1図 | 埼玉県の地形図 | 第36図 | 第11号住居跡（E区） |
| 第2図 | 周辺遺跡分布図 | 第37図 | 第12号住居跡（E区） |
| 第3図 | 池ノ上遺跡全測図 | 第38図 | 第13号住居跡（E区） |
| 第4図 | A・B区全測図 | 第39図 | 第13号住居跡出土遺物（E区） |
| 第5図 | C・D区全測図 | 第40図 | 第14号住居跡（E区） |
| 第6図 | E・F区全測図 | 第41図 | 第14号住居跡出土遺物(1)（E区） |
| 第7図 | G・H区全測図 | 第42図 | 第14号住居跡出土遺物(2)（E区） |
| 第8図 | I・J区全測図 | 第43図 | 第15号住居跡（K区） |
| 第9図 | K・L区全測図 | 第44図 | 第15号住居跡出土遺物（K区） |
| 第10図 | R1区(1)・(2)全測図 | 第45図 | 第16号住居跡（R3区） |
| 第11図 | R1区(3)・R2区(1)全測図 | 第46図 | 第16号住居跡出土遺物（R3区） |
| 第12図 | R2区(2)・R3区(1)全測図 | 第47図 | 第17号住居跡（R3区） |
| 第13図 | R3区(2)全測図 | 第48図 | 第17号住居跡出土遺物（R3区） |
| 第14図 | R3区(3)全測図 | 第49図 | 第18号住居跡（R3区） |
| 第15図 | 池ノ上遺跡位置図 | 第50図 | 第18号住居跡出土遺物（R3区） |
| 第16図 | 第1号住居跡（B区） | 第51図 | 第1.7.12.15号溝跡 |
| 第17図 | 第1号住居跡出土遺物(1)（B区） | 第52図 | 第2.3.8～11.16号溝跡 |
| 第18図 | 第1号住居跡出土遺物(2)（B区） | 第53-1図 | 第4～6.13.14号溝跡（西） |
| 第19図 | 第2号住居跡（C区） | 第53-2図 | 第4～6.13.14号溝跡（東） |
| 第20図 | 第2号住居跡出土遺物（C区） | 第54図 | 第4～6.13.14号溝跡土層一覧(1) |
| 第21図 | 第3号住居跡（C区） | 第55図 | 第4～6.13.14号溝跡土層一覧(2) |
| 第22図 | 第4号住居跡（R1区） | 第56図 | 第4号溝跡出土遺物(1)(H. I. J. L. R2区) |
| 第23図 | 第4号住居跡出土遺物（R1区） | 第57図 | 第4号溝跡出土遺物(2)(H. I. J. L. R2区) |
| 第24図 | 第5号住居跡（R1区） | 第58図 | 第5号溝跡出土遺物(H. I. J. K. L. R2区) |
| 第25図 | 第5号住居跡出土遺物（R1区） | 第59図 | 第6号溝跡出土遺物(H. I. K. L. R2区) |
| 第26図 | 第6号住居跡（R1区） | 第60図 | 第7.10～16号溝跡出土遺物(H. I. K. L. R3区) |
| 第27図 | 第7号住居跡（R1区） | 第61図 | 第1～9号土坑（A. B. R1区） |
| 第28図 | 第7号住居跡出土遺物(1)（R1区） | 第62図 | 第10～16号土坑（R2. H区） |
| 第29図 | 第7号住居跡出土遺物(2)（R1区） | 第63図 | 第17～24. 27号土坑(I. J. K. R3区) |
| 第30図 | 第8号住居跡（R1区） | 第64図 | 第25. 26. 28～34号土坑（R3区） |
| 第31図 | 第8号住居跡出土遺物（R1区） | 第65図 | 土坑出土遺物 |
| 第32図 | 第9号住居跡（D区） | 第66図 | 第1. 2号焼成遺構及び出土遺物 |
| 第33図 | 第9号住居跡出土遺物（D区） | 第67図 | 水田跡出土遺物（R3区） |
| 第34図 | 第10号住居跡（D区） | 第68図 | 水田跡（SN）（R3区） |
| 第35図 | 第10号住居跡出土遺物（D区） | 第69図 | 第1～23号ピット（A区） |
| | | 第70図 | 第24～45. 47～51号ピット(B. C. D. E. R1区) |
| | | 第71図 | 第52～61号ピット（F区） |

第72図	第6 2～8 4号ピット (R 2区)
第73図	第8 5～1 0 4号ピット (G. H区)
第74図	第1 0 5～1 2 7号ピット (I. J. K. L区)
第75図	第1 2 8～1 4 3、1 4 5～1 4 8号ピット (R 3区)
第76図	第1 4 9～1 6 7号ピット (R 3区)
第77図	第1 6 8～1 7 3、1 7 5～1 8 2、1 8 4～1 8 7号ピット (R 3区)
第78図	第1 8 8～2 0 3号ピット (R 3区)
第79図	各ピット出土遺物
第80図	性格不明遺構 全体図
第81図	第1. 4号性格不明遺構 (C. D. R 1区)
第82図	第2号性格不明遺構 (A. F. R 1区)
第83図	第3号性格不明遺構 (B. C. F. G. R 1. R 2区)
第84図	第5～9号性格不明遺構 (H. J. K. R 3区)
第85図	各性格不明遺構出土遺物 (J. R 1. R 3区)
第86図	遺構外出土遺物
第87図	周辺の地形区分図及び遺跡位置図
第88図	国道4 0 7号線沿いの地質断面図
第89図	発掘区中央付近の遠景
第90図	遺跡の地質柱状図
第91図	火山灰分析
第92図	砂分比・粒度組成・岩片組成図
第93図	アロフェンの呈色反応

表目次

第1表	掲載遺跡一覧表
第2表	第1号住居跡出土遺物観察表 (B区)
第3表	第2号住居跡出土遺物観察表 (C区)
第4表	第4号住居跡出土遺物観察表 (R 1区)
第5表	第5号住居跡出土遺物観察表 (R 1区)
第6表	第7号住居跡出土遺物観察表 (R 1区)
第7表	第8号住居跡出土遺物観察表 (R 1区)
第8表	第9号住居跡出土遺物観察表 (D区)
第9表	第1 0号住居跡出土遺物観察表 (D区)
第10表	第1 3号住居跡出土遺物観察表 (E区)
第11表	第1 4号住居跡出土遺物観察表 (E区)
第12表	第1 5号住居跡出土遺物観察表 (K区)

第13表	第1 6号住居跡出土遺物観察表 (R 3区)
第14表	第1 7号住居跡出土遺物観察表 (R 3区)
第15表	第1 8号住居跡出土遺物観察表 (R 3区)
第16表	第4号溝跡出土遺物観察表
第17表	第5号溝跡出土遺物観察表
第18表	第6号溝跡出土遺物観察表
第19表	第7. 1 0～1 6号溝跡出土遺物観察表
第20表	土坑一覧表
第21表	各土坑出土遺物観察表
第22表	第1. 2号焼成遺構出土遺物観察表
第23表	水田跡出土遺物観察表
第24表	ピット一覧表
第25表	各ピット出土遺物観察表
第26表	性格不明遺構一覧表
第27表	性格不明遺構出土遺物観察表
第28表	遺構外出土遺物観察表

図版目次

図版1	A区調査区全景 (南東から) B区調査区全景 (南東から)
図版2	第1号土坑 (馬骨) (北から) (A区) 第1号土坑 (馬骨検出状況) (A区) 第1号住居跡 (南東から) (B区) 第1号住居跡 (カマド部分) (B区) 第1号住居跡 (P 4. 5) (B区) 第1号住居跡 (P 3. 6) (B区) 第3. 4号土坑 (東から) (B区)
図版3	C区調査区全景 (南西から) R 1区調査区全景 (西から)
図版4	第2号住居跡 (南東から) (C区) 第3号住居跡 (東から) (C区) 第3号性格不明遺構 (南西から) (C区)
図版5	第4号住居跡 (南から) (R 1区) 第8号住居跡 (煙道部から) (R 1区) 第8号住居跡 (南東から) (R 1区) 第7号住居跡 (カマド部分) (R 1区)

	第7号住居跡（南から）（R 1 区）		I 区調査区全景（西から）
	第7号住居跡（カマド部分）（R 1 区）	図版14	第12号土坑（東から）（H区）
図版6	第7号住居跡（柱穴（左）貯蔵穴（右））（R 1 区）		第18号土坑（北から）（I 区）
	第5号住居跡（南から）（R 1 区）		第15号土坑、第104号ピット、第8号溝跡（南から）（H区）
	第7号土坑（西から）（R 1 区）		第105～107. 114. 115号ピット、第9号溝跡（東から）（I 区）
	R 2 区調査区全景（南から）		第10号溝跡（南東から）（I 区）
	第10号土坑（南から）（R 2 区）		H区、I 区全景（西から望む）
図版7	第5. 6 溝跡（東から）（R 2 区）	図版15	J 区調査区全景（西から）
	第4号溝跡（東から）（R 2 区）		K区調査区全景（東から）
	第3号性格不明遺構（南東から）（R 2 区）	図版16	第4号溝跡（西から）（J 区）
	第4号溝跡 土層断面（西）（R 2 区）		第5. 6 号溝跡、第6号性格不明遺構（西から）（J 区）
	第70. 71号ピット（西から）（R 2 区）		第6. 5. 1 4号溝跡（東から）（K区）
	第73号ピット（西から）（R 2 区）		第15号住居跡（南東から）（K区）
	第72号ピット（西から）（R 2 区）	図版17	第24号土坑（西から）（K区）
	第68号ピット（西から）（R 2 区）		第11. 12号溝跡（西から）（K区）
	第69号ピット（西から）（R 2 区）		第23号土坑（馬骨前歯）（K区）
図版8	D区調査区全景（西から）		第23号土坑（馬骨検出）（南から）（K区）
	E区調査区全景（西から）		第23号土坑（西から）（K区）
図版9	第9号住居跡（南西から）（D区）		第23号土坑（西から）（K区）
	第10号住居跡（南から）（D区）		第9号性格不明遺構（南から）（K区）
	第1号性格不明遺構（西から）（D区）	図版18	L区調査区全景（第4. 14. 5. 6号溝跡）（西から）
図版10	第11号住居跡（北から）（E区）		第13号溝跡（南西から）（L 区）
	第12号住居跡（東から）（E区）		作業風景（R 3 区付近）
	第13号住居跡（北から）（E区）	図版19	R 3 区調査区全景（西から）
	第14号住居跡（東から）（E区）		第18号住居跡出土遺物（南から）（R 3 区）
	第14号住居跡カマド付近（東から）（E区）		第18号住居跡（南から）（R 3 区）
図版11	F区調査区全景（東から）		第17号住居跡（南から）（R 3 区）
	G区調査区全景（南から）		第16号住居跡（南東から）（R 3 区）
図版12	第2号性格不明遺構（西から）（F区）		第16号住居跡出土遺物（南東から）（B区）
	第56～59号ピット（西から）（F区）	図版20	水田跡 南壁土層断面（北から）（R 3 区）
第88号ピット（南から）（G区）			水田跡 南壁土層断面 遺構西端（北から）（R 3 区）
	第91号ピット（南から）（G区）		水田跡 畔跡検出状況（北から）（R 3 区）
	第87号ピット（南から）（G区）		水田跡 完掘状況（東から）（R 3 区）
	第89号ピット（南から）（G区）		作業員作業風景（R 3 区）
	第90号ピット（南から）（G区）	図版21	第1号住居跡（第17図-1）
	第85号ピット（南から）（G区）		第1号住居跡（第17図-12）
図版13	H区調査区全景（東から）		第1号住居跡（第17図-27）

	第1号住居跡 (第17図-4)		第18号住居跡 (第50図-4)
	第1号住居跡 (第17図-35)		第1号住居跡 (第17図-40)
	第1号住居跡 (第17図-36)		第7号住居跡 (第28図-18)
	第1号住居跡 (第17図-37)		第7号住居跡 (第28図-15)
	第1号住居跡 (第17図-39)		第15号住居跡 (第44図-4)
	第2号住居跡 (第20図-11)		第1号住居跡 (第17図-27. 28. 29. 30)
	第4号住居跡 (第23図-1)		第1号住居跡 (第17図-41. 42. 43. 44)
図版22	第4号住居跡 (第23図-5)	図版26	第1号住居跡 (第18図-47)
	第4号住居跡 (第23図-9)		第1号住居跡 (第18図-48)
	第4号住居跡 (第23図-10)		第2号住居跡 (第20図-7. 9. 10)
	第4号住居跡 (第23図-16)		第2号住居跡 (第20図-1. 2. 4. 5. 6)
	第7号住居跡 (第28図-1)		第2号住居跡 (第20図-17. 18. 12)
	第7号住居跡 (第28図-2)		第2号住居跡 (第20図-15)
	第7号住居跡 (第28図-3)		第2号住居跡 (第20図-19)
	第7号住居跡 (第28図-5)		第2号住居跡 (第20図-20)
	第7号住居跡 (第28図-8)	図版27	第4号住居跡 (第23図-12. 13. 14. 15)
	第7号住居跡 (第28図-9)		第4号住居跡 (第23図-16. 17. 18)
図版23	第7号住居跡 (第28図-11)		第4号住居跡 (第23図-20. 21)
	第7号住居跡 (第28図-17)		第5号住居跡 (第25図-3. 4)
	第7号住居跡 (第28図-4)		第5号住居跡 (第25図-5. 6)
	第9号住居跡 (第33図-2)		第7号住居跡 (第28図-7. 9)
	第9号住居跡 (第33図-3)		第7号住居跡 (第28図-6. 13)
	第9号住居跡 (第33図-13)		第7号住居跡 (第28図-23. 20)
	第9号住居跡 (第33図-17)	図版28	第9号住居跡 (第33図-6. 8. 10. 11)
	第10号住居跡 (第35図-1)		第9号住居跡 (第33図-18. 20)
	第14号住居跡 (第41図-1)		第9号住居跡 (第33図-33)
図版24	第14号住居跡 (第41図-2)		第9号住居跡 (第33図-28. 27. 29)
	第14号住居跡 (第41図-4)		第10号住居跡 (第35図-2. 4)
	第14号住居跡 (第41図-5)		第14号住居跡 (第41図-8. 12. 15. 20)
	第14号住居跡 (第41図-6)	図版29	第14号住居跡 (第41図-14. 16. 19)
	第14号住居跡 (第41図-7)		第14号住居跡 (第41図-21. 22. 23. 24)
	第14号住居跡 (第41図-10)		第14号住居跡 (第41図-27)
	第14号住居跡 (第41図-27)		第14号住居跡 (第41図-29)
	第15号住居跡 (第44図-2)		第14号住居跡 (第41図-32. 31. 33. 34)
	第16号住居跡 (第46図-1)		第14号住居跡 (第41図-36. 37)
	第16号住居跡 (第46図-4)		第14号住居跡 (第42図-45)
図版25	第17号住居跡 (第48図-5)	図版30	第15号住居跡 (第44図-8. 5. 6. 7)

	第16号住居跡 (第46図-8. 10)		第4号溝跡 (第56図-5)
	第16号住居跡 (第46図-3. 12)		第4号溝跡 (第56図-9)
	第17号住居跡 (第48図-1. 3)		第4号溝跡 (第56図-15)
	第17号住居跡 (第48図-4. 7)		第4号溝跡 (第56図-6. 8. 9. 10. 12)
	第18号住居跡 (第50図-1. 5)		第4号溝跡 (第56図-17. 18. 19. 20. 21. 22)
	第18号住居跡 (第50図-3)		第4号溝跡 (第56図-24. 25. 26. 27. 28. 29. 30)
	第18号住居跡 (第50図-13)	図版34	第4号溝跡 (第56. 57図-7. 38. 31)
図版31	第1号住居跡 (第18図-45)		第5号溝跡 (第58図-6. 7. 8. 9. 10)
	第7号住居跡 (第29図-25)		第5号溝跡 (第58図-11. 12. 13. 14. 15)
	第7号住居跡 (第29図-28)		第5号溝跡 (第58図-3. 16. 17. 18. 19)
	第7号住居跡 (第29図-29)		第5号溝跡 (第58図-2. 4)
	第8号住居跡 (第31図-1. 2)		第6号溝跡 (第59図-1. 2)
図版32	第9号住居跡 (第33図-30)		第6号溝跡 (第59図-7. 8)
	第14号住居跡 (第42図-39)	図版35	第7号溝跡 (第60図-7-1. 7-2)
	第14号住居跡 (第42図-38)		第15号溝跡 (第60図-15-1. 15-2)
	第18号住居跡 (第50図-6)		水田跡 (左:第67図-1 右:底部「朱」)
	第1号住居跡 (第18図-52. 51)		水田跡 (第67図-5)
	第2号住居跡 (第20図-25. 26. 27. 29. 30. 31)		水田跡 (第67図-2)
図版33	第9号住居跡 (第33図-38. 39. 40)	図版36	江戸期における妻沼村田惣反別絵図、 妻沼地域の治水地形分類図
	第14号住居跡 (第42図-48)		

I 池ノ上遺跡の調査

1 発掘調査の概要

(1) 調査に至る経過

平成25年12月24日付で、逸見真一氏から埼玉県教育委員会あてに、文化財保護法第93条第1項の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出があった。開発の内容は面積2,794㎡の分譲住宅建設（11棟）及び道路造成工事なのであった。

熊谷市教育委員会は届出を受けて、平成26年4月11日に試掘調査を実施した。その結果、古墳時代から平安時代の土師器・須恵器片及び溝跡が検出され、埋蔵文化財の所在が確認された。

その後、埋蔵文化財の所在が確認された旨を逸見 真一氏に回答するとともに、その保存に関する協議を関係者との間で重ねたが、工事は保護層が設けられない工法で行うものであり、計画の変更は不可能であると判断されたため、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、熊谷市教育委員会から、平成26年10月8日付熊教社埋第303号で、文化財保護法第93条第1項の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の届出が提出され、平成26年10月26日から開始された。

なお、埼玉県教育委員会から、逸見真一氏あてに平成26年10月9日付教生文第2-44号で発掘調査実施の指示通知があった。

(2) 発掘調査・報告書作成の経過

発掘調査は、平成26年10月26日から平成27年2月28日にかけて行われた。調査面積は、分譲住宅及び道路造成個所の面積1285㎡であった。調査は調査区画を北から3つのエリアに分け、南側エリアから順に調査し、調査が終了すれば、その北側エリアを調査するという形で行った。なお、便宜上開発内容に準じて、分譲住宅は北からA～K区とし、道路部分は北からR1～R3区としている。

平成27年10月28日に南側エリアを遺構確認面まで重機による表土剥ぎを行い、10月30日から遺構精査作業を行った。その際、住居跡や溝跡、いくつかのピット、沼地などが確認され、順次遺構の調査に着手した。その後、残り2つのエリアについても同様の手順で調査を行った。冬場の調査時期には凍結により、調査復旧にいくらか時間を要したが、平成27年2月28日、調査のすべてを終了した。

整理作業は、平成27年5月1日から始めた。遺物の洗浄・注記・復元を行った。10月までに順次、遺物の実測、拓本取りを行った。11月からは遺構の図面整理作業を行い、遺構・遺物図面のトレース、遺構・遺物の図版組を行い、平成28年1月下旬には、原稿執筆、割付等の作業をして、報告書の印刷に入り、校正を行った後、3月31日に本報告書を刊行した。

(3) 発掘調査、整理・報告書刊行の組織

主体者 熊谷市教育委員会

(1) 発掘調査

平成26年度

教 育 長	野原 晃
教 育 次 長	米澤ひろみ
社会教育課長	岩上 精純
社会教育課副参事	森田 安彦
社会教育課副課長兼文化財保護係長	吉野 健
主 査	松田 哲
主 査	杉浦 朗子
主 査	蔵持 俊輔
主 任	山下 祐樹
主 任	腰塚 博隆
事 務 嘱 託	原野 真祐

(2) 整理・報告書作成

平成27年度

教 育 長	野原 晃
教 育 次 長	米澤ひろみ
社会教育課長	山崎 実
社会教育課副参事	森田 安彦
社会教育課副課長兼文化財保護係長	吉野 健
主 査	松田 哲
主 査	蔵持 俊輔
主 任	山下 祐樹
主 任	腰塚 博隆
主 任	金子 正之
事 務 嘱 託	原野 真祐
事 務 嘱 託	山崎 和子

Ⅱ 遺跡の立地と環境

池ノ上遺跡は、熊谷市妻沼字池ノ上に所在し、ＪＲ高崎線熊谷駅の北約１．１km、荒川から北へ約１．２km、利根川から南へ約２kmに位置する。

池ノ上遺跡の所在する妻沼地区は、熊谷市の北部にあたり、櫛挽台地の北端及びその北と北東に展開する妻沼低地内にある。そして、本遺跡が立地する妻沼低地は、利根川及びその支流により形成された沖積地であり、熊谷市の大半を覆っている洪積扇状地の新荒川扇状地（熊谷扇状地）と自然堤防が広がる地区に分けられる。本遺跡がある妻沼地域は利根川とその支流によって形成された典型的な地域であり、本遺跡はそれらのうち、芝川と利根川の間に形成された微高地に位置している。遺跡から東を望むと微高地の頂となり、西を向くと、芝川へと落ち込む傾斜がある。遺跡を覆っていた土は、河川氾濫の影響や過去の開発等による埋土で、およそ50～70cmの厚さをもっていた。

次に、本遺跡を中心に妻沼低地における歴史環境の一端を簡単に見ていきたいと思う。

まず、縄文時代であるが、この時期における遺跡の発見は少ない状況である。市の南部に位置する江南台地を除き、妻沼低地には発見例が少々ある。前期には寺東遺跡で前期関山式土器（遺物のみ）が、発見されおり、中期では特に後半の加曾利E式期のものが妻沼低地上に集中して確認されている。寺東遺跡では、加曾利E式期後半の住居2軒、埋甕が確認された。後期に至っては、遺跡確認数が増加し、前述の寺東遺跡で称名寺式期の埋甕を伴う土坑、住居跡6軒が発見されており、西城切通遺跡では、高井東式と安行1式の土器や土偶、勾玉などが多量に出土した。道ヶ谷条理里遺跡からは加曾利B式期の土器が出土している。このことから、妻沼地域における妻沼低地の進出期は後期において本格化したこ

とがうかがえる。

一方、縄文時代晩期から弥生時代前半は、熊谷市内の発見例はほとんど確認されていない。

次に熊谷市内において本格的に展開される遺跡は、弥生時代中期以降に出現し始める。中でも、中期から後期初めは比較的良好な遺跡が確認されている時期でもある。須和田式期の再葬墓が13基発見された横間栗遺跡、同じく須和田式期の壺が発見されている三ヶ尻遺跡内の上古遺跡が知られている。地図には示していないが、旧熊谷地域の東部に位置する北島遺跡・平戸遺跡・前中西遺跡も同時期の遺跡として挙げられ、北島遺跡でも再葬墓や土壙墓群が前中西遺跡では再葬墓と方形周溝墓の2タイプの葬送形態が発見されている。一方、同時期の集落・住居跡が検出されている遺跡としては飯塚南遺跡・飯塚遺跡・池上遺跡（地図未掲載）が存在する。飯塚南遺跡では再葬墓、土坑が、飯塚遺跡では土抗墓が確認されている。また、池上遺跡は東日本でも古い環濠集落が確認され、行田市域にある小敷田遺跡の墓域も合わせると、大規模なものとなる。後期には妻沼低地の各地に遺跡が見られ始め、一本木前遺跡・弥藤吾新田遺跡・東沢遺跡（後者1遺跡は地図未掲載）が存在する。一本木前遺跡・東沢遺跡では吉ヶ谷式土器が、弥藤吾新田遺跡では南関東系の弥生町式土器が出土している。

古墳時代に入ると、古墳は台地・自然堤防等の微高地に形成され、集落は低地帯の自然堤防上にも活発に営まれるようになり、遺跡数も比例し増加する。前期では、妻沼低地に大きく遺跡が展開している。横間栗遺跡・根絡遺跡・別府条里遺跡・一本木遺跡・中耕地遺跡・東沢遺跡・北島遺跡・天神遺跡（後半3遺跡は地図未掲載）、深谷市清水上遺跡・明戸東遺跡・東川端遺跡・宮ヶ谷戸遺跡・本郷前東遺跡・上敷免遺跡、弥藤吾新田遺跡、小敷田遺跡等がある。一本木前遺跡では90軒以上の住居跡や4基の方形周溝墓が確認され、そのうち1基から、ヒスイ製の勾玉や緑色凝灰岩製の管玉、人歯が検出している。それ以外では、横間栗遺跡で住居跡が3軒、根絡遺跡では住居跡が13軒、北島遺跡では21軒検出されており、根絡遺跡、北島遺跡さらに弥藤吾新田遺跡等は比較的大規模な集落と推定されている。このほか大我井遺跡、鶴森遺跡、上江袋古墳群で住居跡を確認している。

中期の様相は、初めに古墳に目を向けると、妻沼低地の福川の自然堤防に横塚山古墳が存在する。これは、B種横刷毛の埴輪をもつ5世紀後半の前方後円墳（後円部は一部欠損）である。また、妻沼低地の自然堤防上では利根川の南の飯塚南古墳群が20基をも数えることのできる比較的規模の大きな古墳群である。集落跡の遺跡としては、鶴森遺跡、飯塚南遺跡、道ヶ谷戸遺跡、弥藤吾新田遺跡、一本木前遺跡などで住居跡の確認ができた。

そして、後期になると遺跡は爆発的な増加をみる。台地ばかりではなく自然堤防上にもさらに積極的に進出を図っていったようである。集落は、古墳時代後期から奈良・平安時代へと継続して展開する大規模なものが市内では目立つようになる。櫛挽台地及び新荒川扇状地上では、樋の上遺跡で古墳時代後期から平安時代の住居跡が150軒以上検出され、このうち古墳時代後期のものは14軒以上に上る。また現在では同遺跡の一部となっている上辻・下辻遺跡でも後期から平安時代の住居が50軒以上検出された。三ヶ尻遺跡内の天王遺跡等でも後期の集落が検出されている。一方、妻沼低地の自然堤防上では、一本木前遺跡・天神下遺跡・根絡遺跡・原遺跡・東川端遺跡・新屋敷東遺跡・本郷前東遺跡・上敷免遺跡・砂田遺跡・柳町遺跡・城北遺跡・居立遺跡・飯塚南遺跡・北島遺跡・小敷田遺跡等が存在する。一本木前遺跡では後期を中心に奈良・平安時代の住居跡が450軒以上検出されており、当該期の祭祀

跡も発見され、折り重なるように土師器坏等が出土し、それとともに臼玉も出土している。城北遺跡では住居跡157軒が検出され、住居跡内から人・馬・牛等の獣骨が多数出土し、特に人骨が住居跡から検出された例はあまり知られていない。

一方、古墳を見てみると、群を形成して築造されているのがわかる。櫛挽台地上の別府古墳群・在家古墳群・籠原裏古墳群・三ヶ尻古墳群・深谷市木の本古墳群、新荒川扇状地の玉井古墳群・広瀬古墳群・石原古墳群・肥塚古墳群（地図未掲載）、妻沼低地上の深谷市上増田古墳群・中条古墳群・上之古墳群（後者2古墳群は地図未掲載）等が分布する。これらは概ね6世紀から7世紀ないし8世紀初頭にかけて形成された古墳群である。

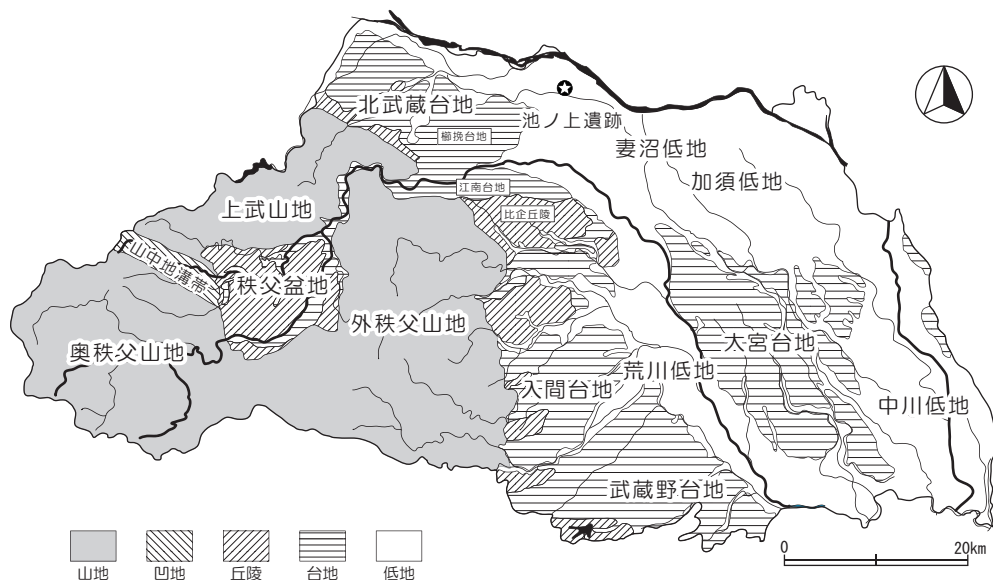
別府古墳群は、農夫の埴輪を出土している。籠原裏古墳群は川原石乱石積の胴張型横穴式石室を有する古墳群であるが、7世紀後半から8世紀初頭の築造と考えられる八角形の墳形をもつ古墳の存在が知られており、終末期の古墳の様相、さらには後述する深谷市幡羅遺跡との関係においても見逃すことのできない発見である。三ヶ尻古墳群は、前方後円墳の二子山古墳を盟主墳とする100基以上の古墳で形成されている大古墳群であるが、現在でも61基の所在が確認されている（消滅・半壊を含む）。また、広瀬古墳群の宮塚古墳は、上円下方墳という特異な墳形を今に残し、熊谷市唯一の国指定史跡として知られている。

古墳時代後半に自然堤防上の微高地に形成された集落の多くは、増減はするもの奈良・平安時代へと継続されていく。新屋敷東遺跡・明戸東遺跡は、竪穴建物を主体に少量の掘立柱建物で構成された集落である。ほかには上敷免遺跡・柳町遺跡・東川端遺跡・清水上遺跡・根絡遺跡等が挙げられる。奈良時代には、この地域も律令体制に組み込まれていき、別府条里遺跡等が見られる。このころの中心的遺跡は櫛挽台地上に見られ、この地域には幡羅郡が設置され、台地上に「原郷」の地名が残り、正倉館、厨家、曹司等が発見された幡羅郡家跡の幡羅遺跡、8世紀初頭創建の西別府廃寺、湧泉祭祀跡・西別府祭祀遺跡が存在する。西別府廃寺は二度の発掘調査によって寺域を区画する大溝、伽藍配置は不明であるが基壇建物跡、瓦溜まり状遺構等とともに軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦が大量に出土し、瓦は8世紀初頭から9世紀後半のものまで確認されており、県内でも滑川町寺谷廃寺に次いで最も古い建立の寺院の一つとして認識されている。また、その北西約200mの湯殿神社裏のかつて湧水があった箇所には西別府祭祀遺跡が所在し、古墳時代後期から平安時代までの土師器・須恵器と共に古墳時代後期の馬形・櫛型・勾玉形・有孔円板形・有線円板形・剣形等の滑石製模造品が約297点発見されており、県内でも類例がほとんどない湧泉に対する祭祀の実態を考える上で貴重な遺跡である。西別府廃寺は、幡羅郡家との関係を考慮に入れば、幡羅郡の郡司関わった郡寺的な機能を有することが考えられるし、郡家成立以前の周辺の高根遺跡を形成した有力氏族との関係も想定できる。

奈良・平安時代の集落遺跡としては、広瀬地区には本遺跡のほか、すぐ北側に高根遺跡が存在する。この高根遺跡は試掘調査及び分布調査の結果、該当期の比較的大規模な集落と考えられる。また、ほかには在家遺跡・籠原裏遺跡・拾六間後遺跡・飯塚南遺跡・新ヶ谷戸遺跡・横塚遺跡・北島遺跡等がある。特に北島遺跡は7世紀から12世紀の大規模な集落で、多数の住居跡とともに大規模な掘立柱建物跡・道路状遺構・河川跡等など、興味深い発見がされている。一本木前遺跡の11世紀初頭の住居跡からは、瑞花鴛鴦八稜鏡が出土し、県内初の住居跡出土例として注目されている。

平安時代末から中世になると、武蔵七党やその他の在地武士団の館跡が散在するようになる。別府城跡・別府氏館跡・西別府館跡・玉井陣屋跡・奈良氏館跡・黒沢館跡・兵部裏屋敷、深谷市東方城跡・庁鼻和城跡・幡羅太郎館跡等であるが、いずれの館跡も実態は不明である。その中で残りの良いものの中に、本遺跡の北西に位置する別府城跡がある。別府氏の居館で方形の敷地に土塁の一部と空堀をよく残している。また、三ヶ尻地区に所在する黒沢館跡は、発掘調査によって出柙形に張り出して台形に全周する堀・土塁の一部・2か所の虎口・柱穴跡・土壇・集石遺構等が検出され、渡辺崋山が記した『訪蹕録』に残る「黒沢屋敷」の記載と調査成果が合致した貴重な例である。遺物としては、14～15世紀の年号が記載された板石塔婆や15世紀から16世紀の瀬戸・美濃焼の陶器・内耳土器・土師質土器等が出土している。その北側に所在する樋の上遺跡でも、15世紀から16世紀の土壇・集石遺構とともに比較的深くコーナーをもつ溝跡が検出されており、館跡の一部である可能性が考えられている。

墓域としては、三ヶ尻遺跡内の天王遺跡・樋の上遺跡・若松遺跡・社裏北遺跡・社裏遺跡・社裏南遺跡等が挙げられ、櫛挽台地及び新荒川扇状地上に分布する。樋の上遺跡・若松遺跡では土葬墓・火葬墓等が検出されており、内耳土器・土師質土器・白磁・青磁、常滑、瀬戸等の陶磁器・板石塔婆・石臼等が出土している。黒沢館跡及び樋の上遺跡の南西に位置する社裏北遺跡・社裏遺跡・社裏南遺跡では土壇墓群が、台地上の天王遺跡で墓地群が検出されている。なお、中世以降の歴史の実態はまだ情報不足で、今後の調査成果によるところが多く、情報の蓄積に期待するところであろう。



第1図 埼玉県の地形図

第1表 掲載遺跡一覧表

1 池ノ上遺跡	15 弥藤吾新田遺跡	29 屋敷遺跡	43 南大ヶ谷戸遺跡
2 大明神遺跡	16 神明遺跡	30 出口北遺跡	44 鵜森遺跡
3 雉子尾遺跡	17 神明南遺跡	31 長井庵遺跡	45 西城城跡
4 摩多利神社古墳	18 杉之道遺跡	32 出口南遺跡	46 長安寺遺跡
5 観音堂瓦窯跡	19 下宿遺跡	33 高林遺跡	47 西城切通遺跡
6 緑川遺跡	20 道祖神遺跡	34 本郷遺跡	48 一本木前遺跡
7 大我井遺跡	21 猿楽遺跡	35 西嬉愛遺跡	49 東通遺跡
8 王子西遺跡	22 釜ノ上遺跡	36 東嬉愛遺跡	50 横塚遺跡
9 年代遺跡	23 一本杉遺跡	37 道ヶ谷戸遺跡	
10 彦松西遺跡	24 杉之道東遺跡	38 実盛館	A 飯塚古墳群
11 彦松遺跡	25 王子遺跡	39 場ヶ谷戸遺跡	B 上江袋古墳群
12 彦松東遺跡	26 王子古墳	40 山ヶ谷戸遺跡	C 別府条里遺跡
13 鎌ヶ谷戸遺跡	27 南王子遺跡	41 鶯ヶ谷戸遺跡	D 奈良古墳群
14 七の丸遺跡	28 上北浦遺跡	42 森谷遺跡	E 乙鵜森古墳群

Ⅲ 遺跡の概要

1 調査の大幅法

発掘調査の方法は、1辺5mのグリッド方式を用いて行い、調査区全体を網羅できる様に、北東隅をA-1として南へ1・2・3・・・、西へA・B・C・・・とし、Aラインは東から西へA-1・A-2・A-3・・・と呼称した。Bライン以南もAラインと同様に呼称し、グリッド設定を行った。

発掘調査は、重機による遺構確認面までの表土剥ぎを行った後、先述のグリッド設定を行った。なお、座標は世界測地系による国家方眼座標に基づく基準点測量による。調査区は分譲住宅建設予定地をそれぞれ、北からA区～K区と設定し、道路造成箇所は北からR1区～R3区と設定した。表土剥ぎ後は、人力による遺構確認のための精査を実施し、確認された各遺構は各々手掘りを行った。原則として遺物は必要に応じて写真撮影後、遺構ごとに一括して慎重に取り上げた。遺構は写真撮影した後、実測を行った。そして、最後に遺構全体の写真撮影を行い、全測図の実測を行った。

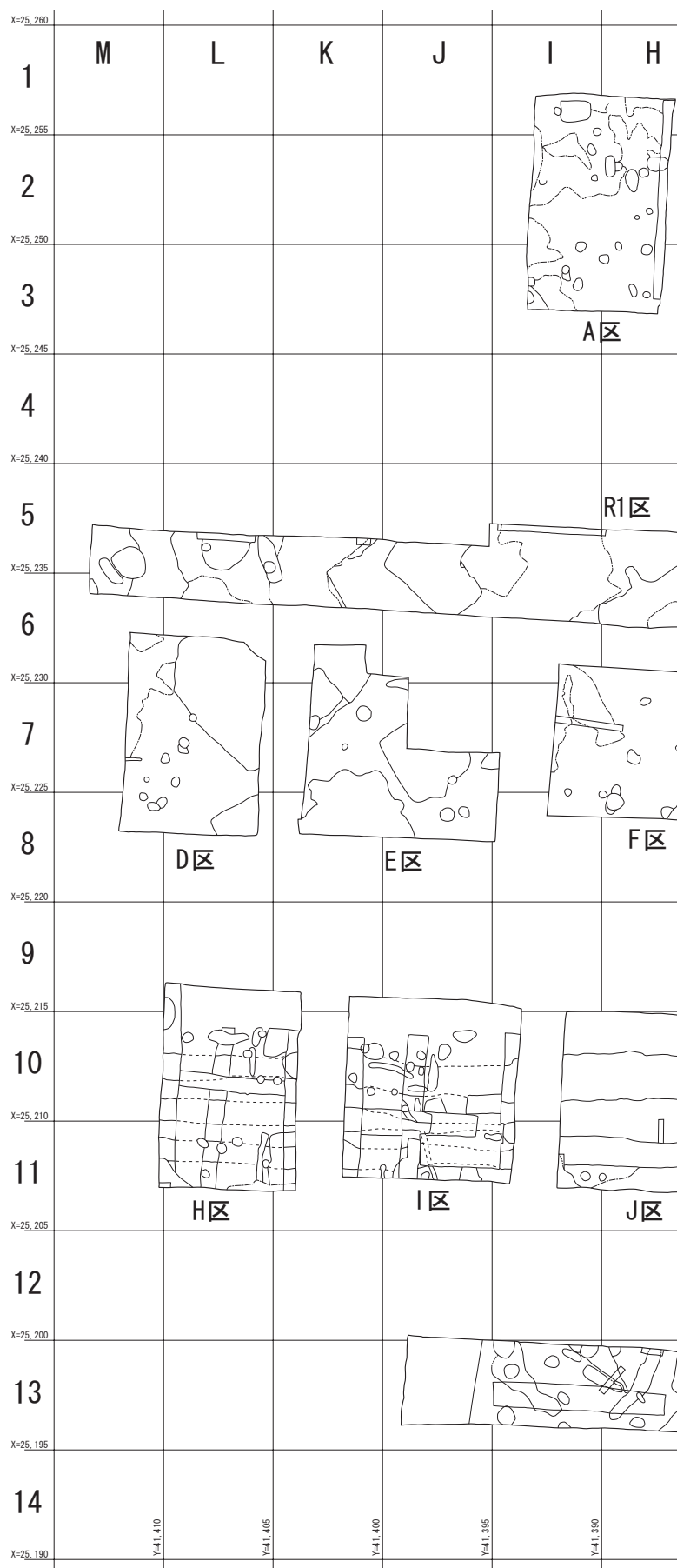
2 検出された遺構と遺物

本調査によって検出された遺構は、総じて調査区全体で、住居跡18軒、溝跡16条、土坑34基、焼成遺構2基、ピット多数などであった。

遺物の多くは各調査区それぞれ住居跡に集中しており、主に奈良～平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器等が多く、住居跡自体もその多くが調査箇所の北側に集中していた。また遺構として特徴なのが中央に走る数条に渡る溝跡である。平安時代末期から鎌倉時代の陶磁器片が確認されている。調査の結果コンテナ11箱分の出土量であった。

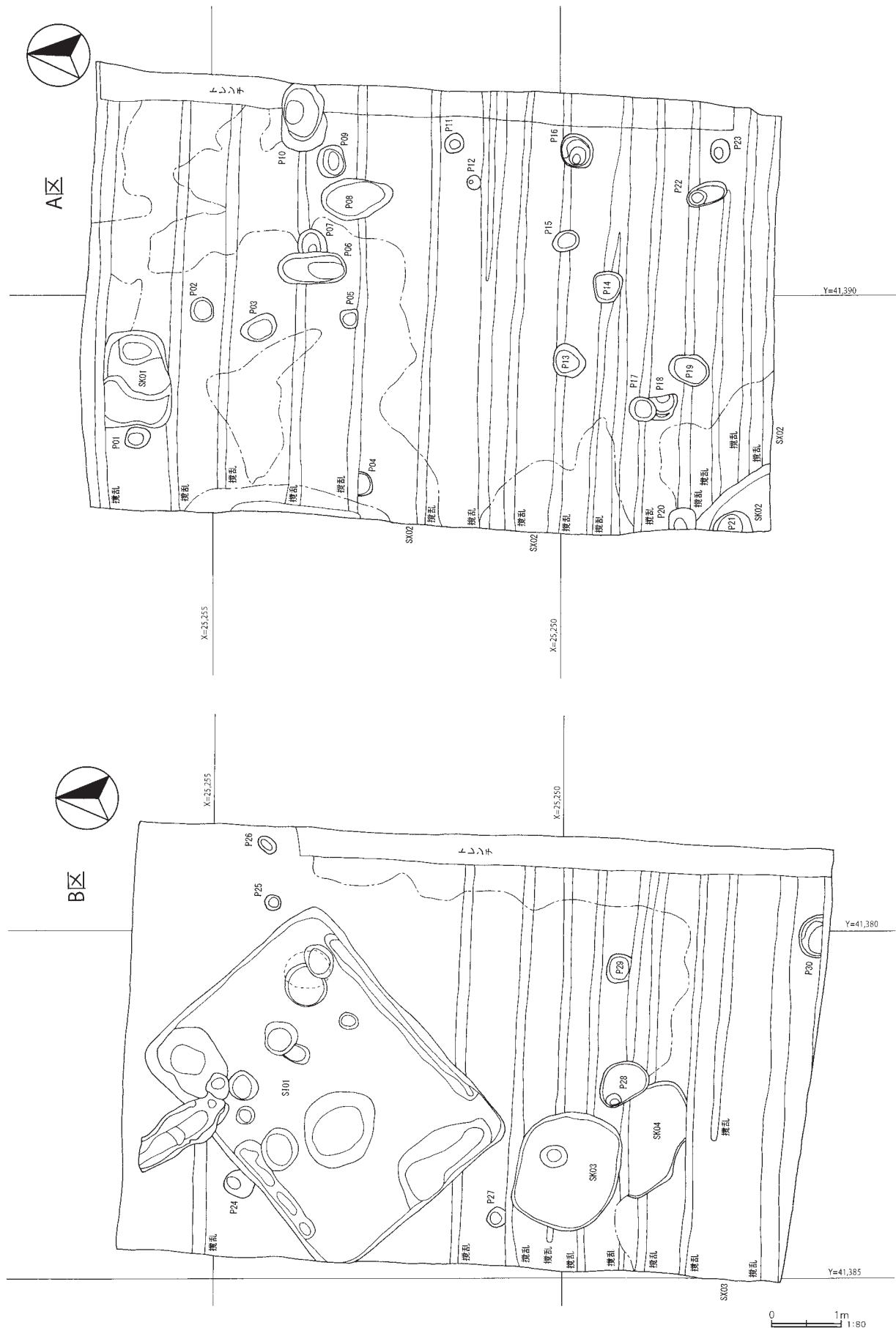


第2図 周辺遺跡分布図

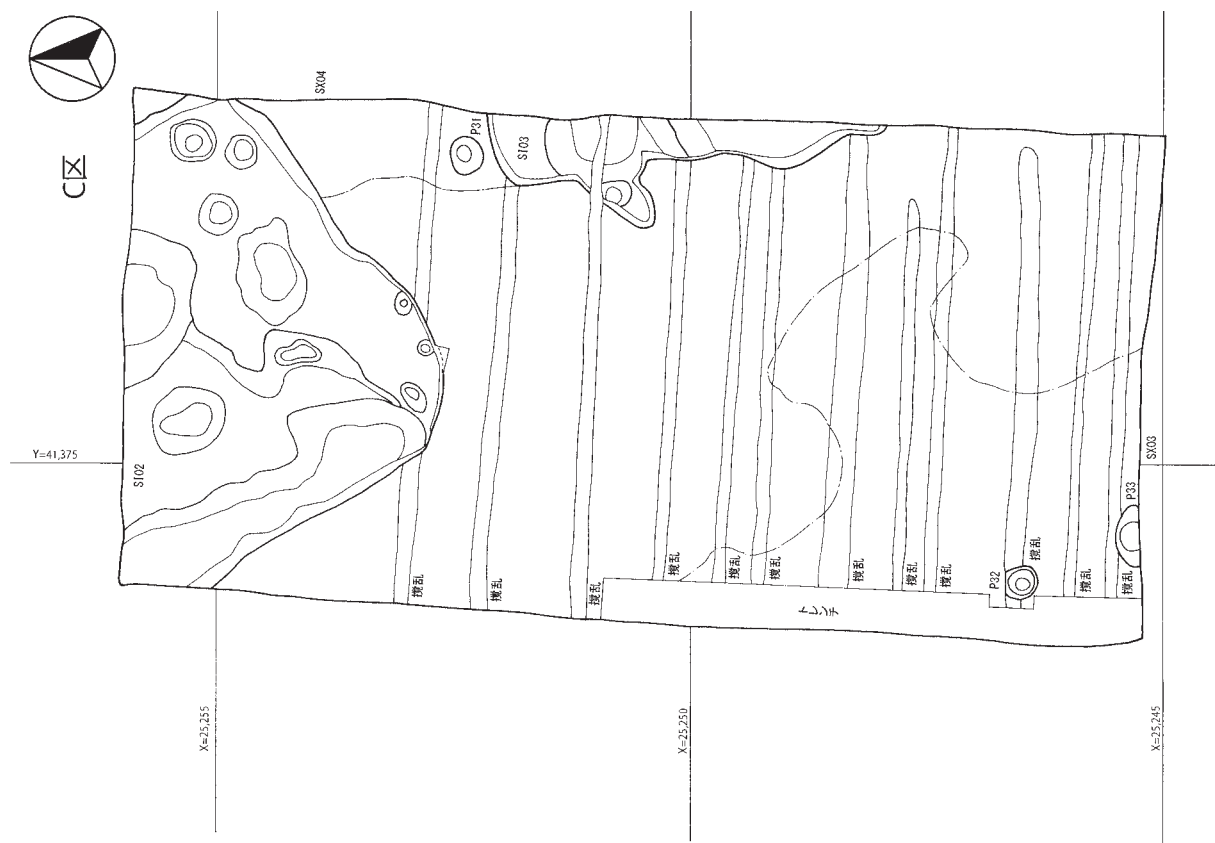




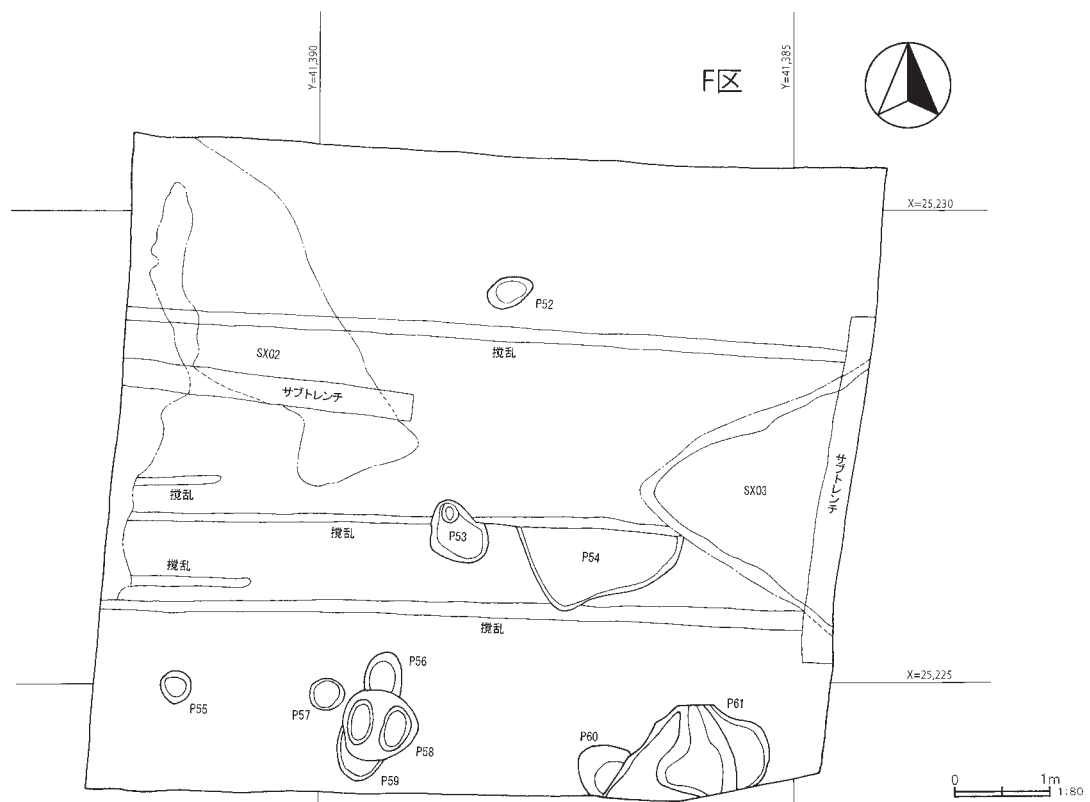
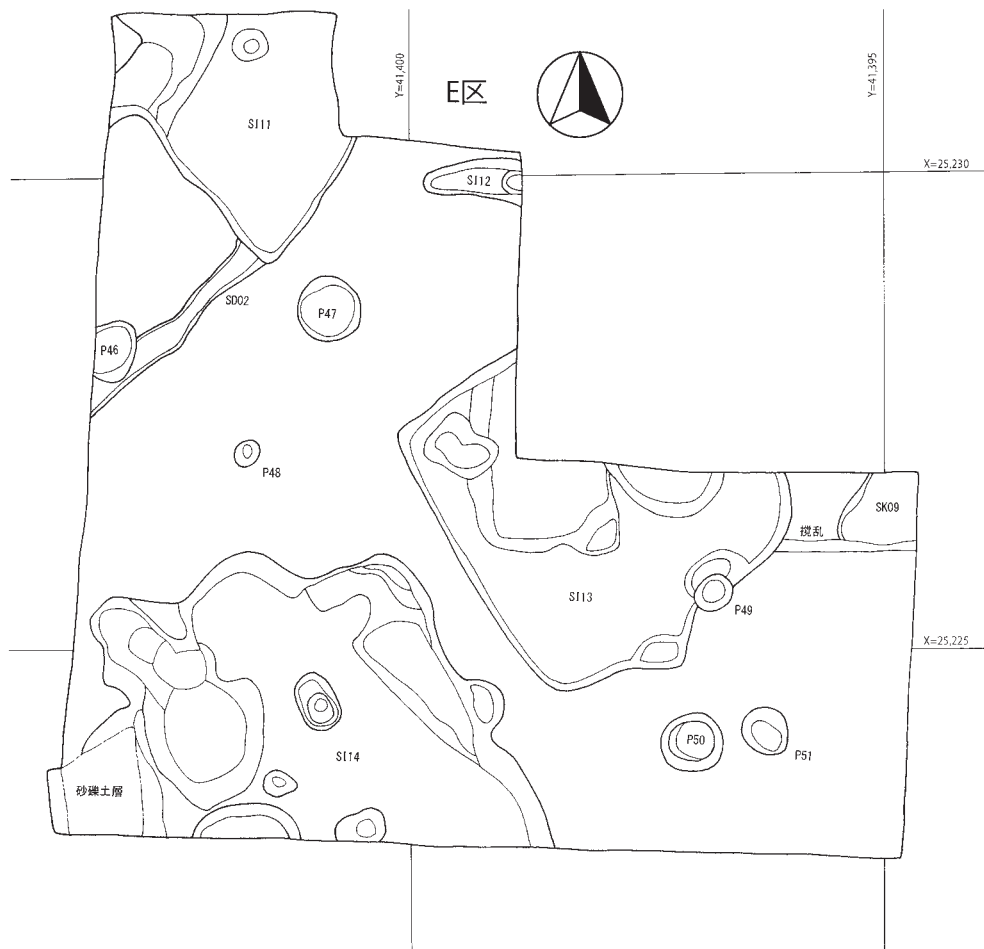
第3図 池ノ上遺跡全測図



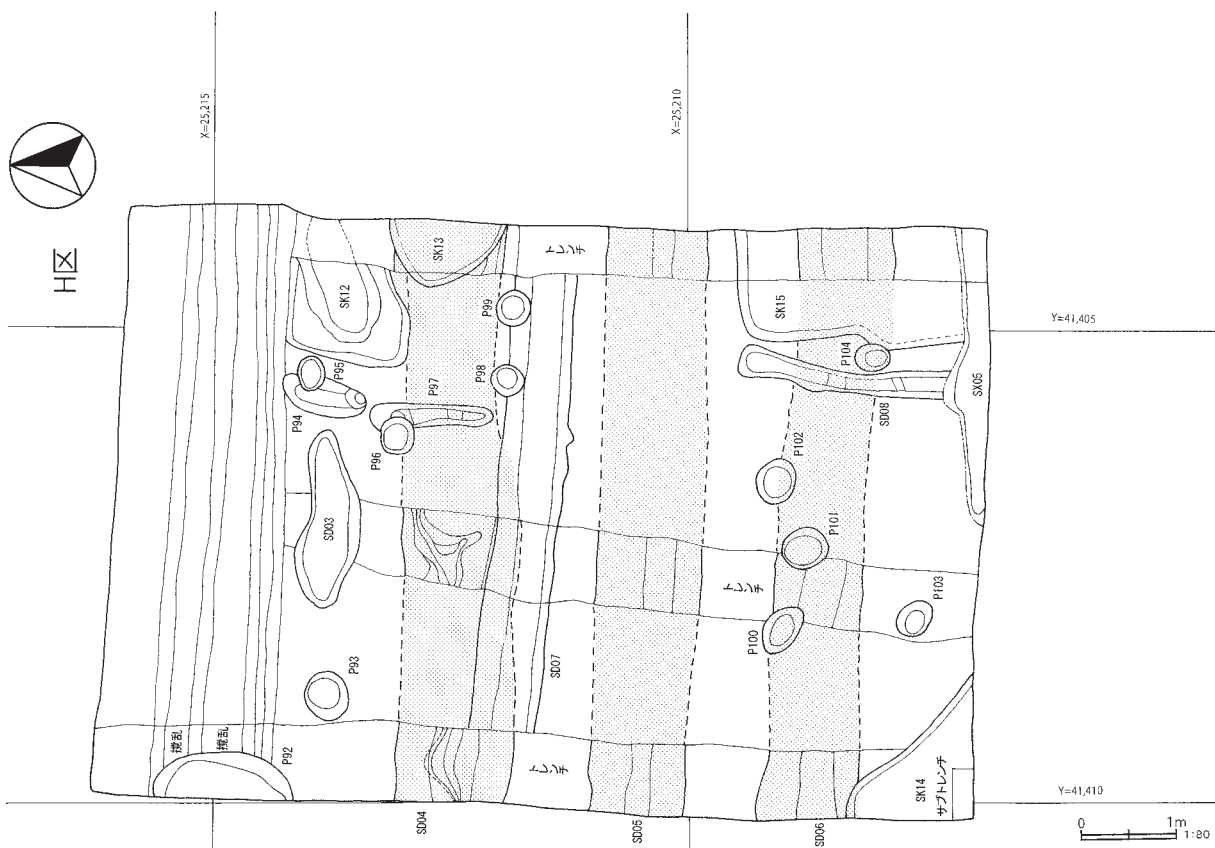
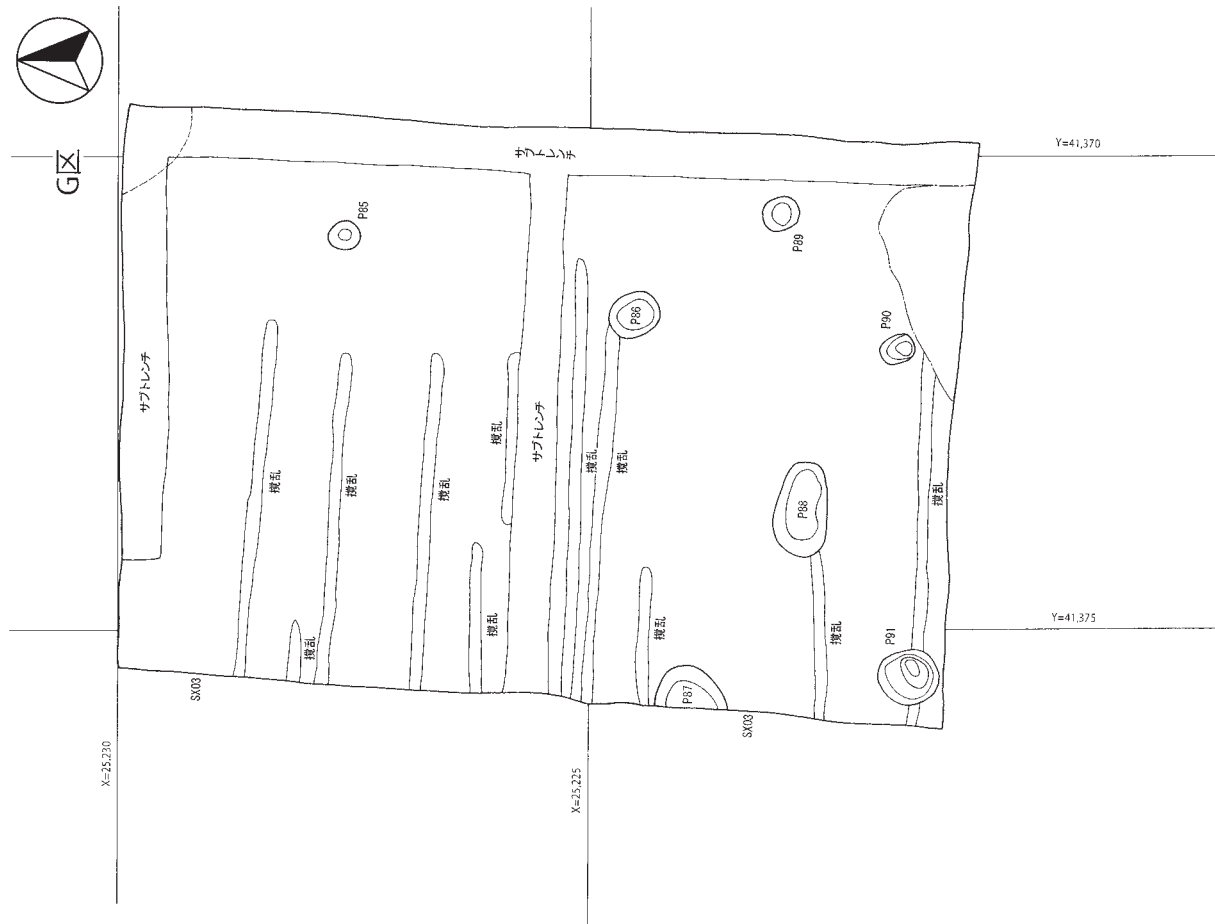
第4図 A・B区全測図



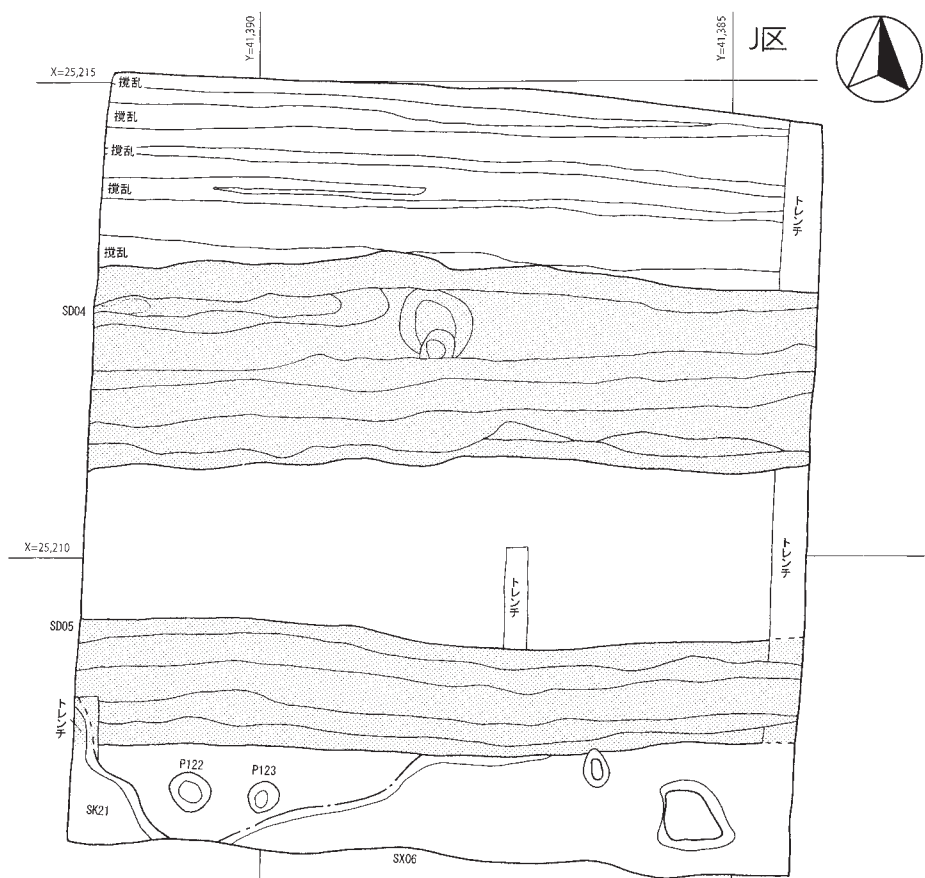
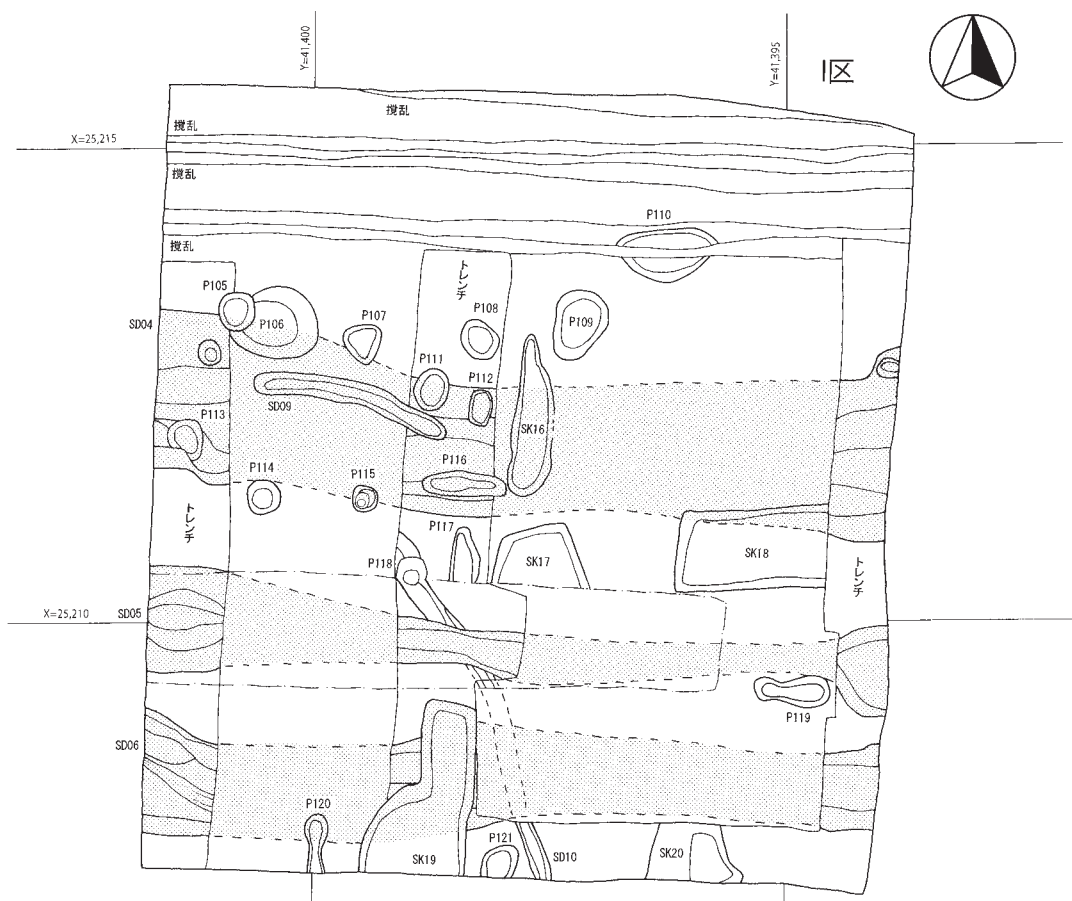
第5図 C・D区全測図



第6図 E・F区全測図

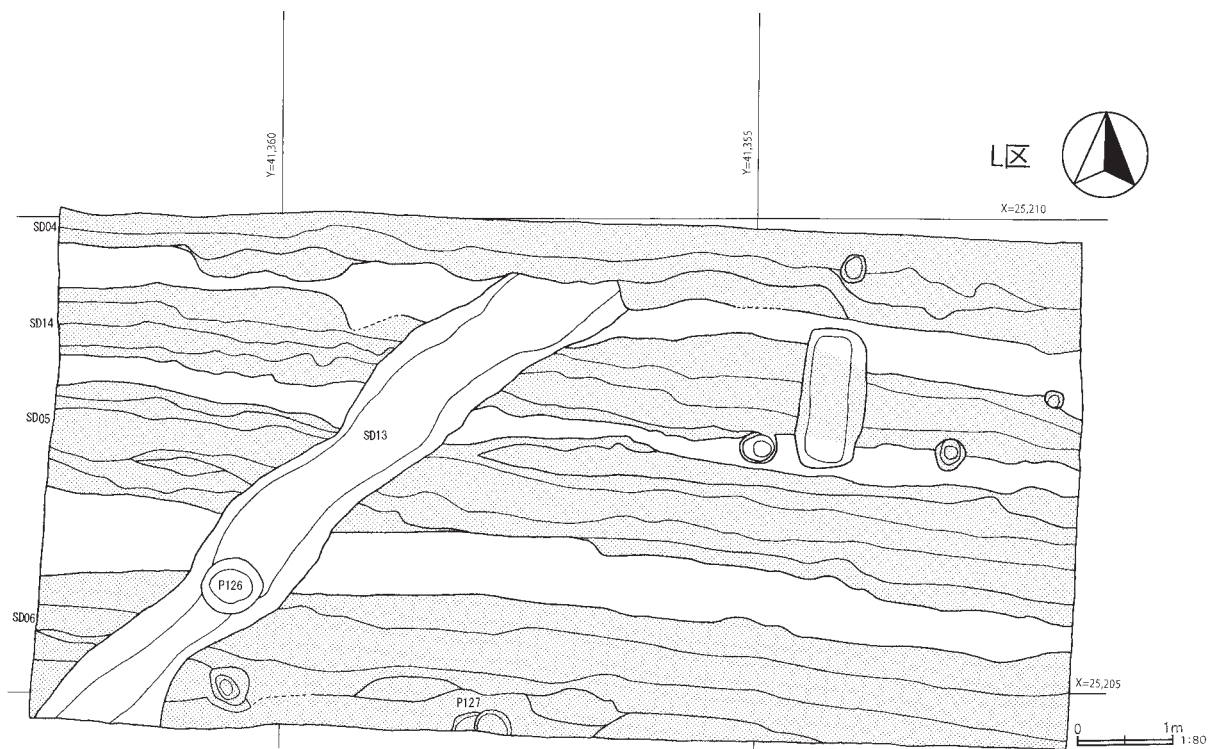
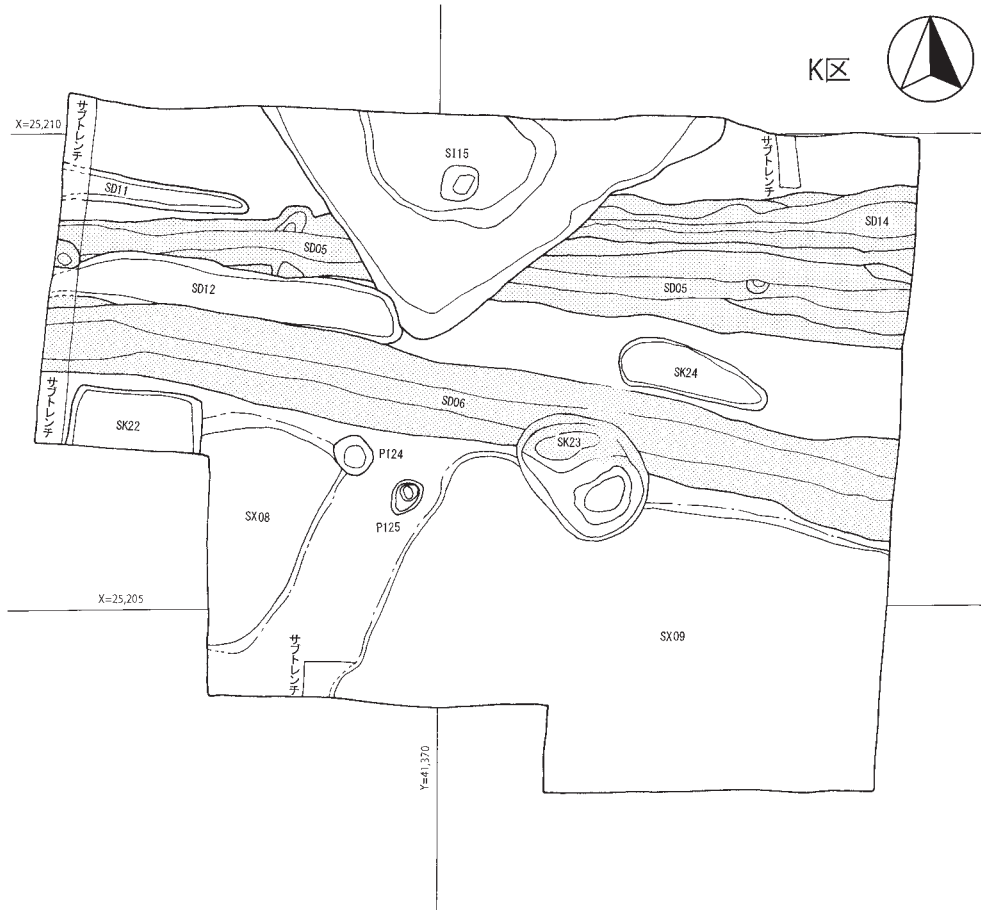


第7図 G・H区全測図

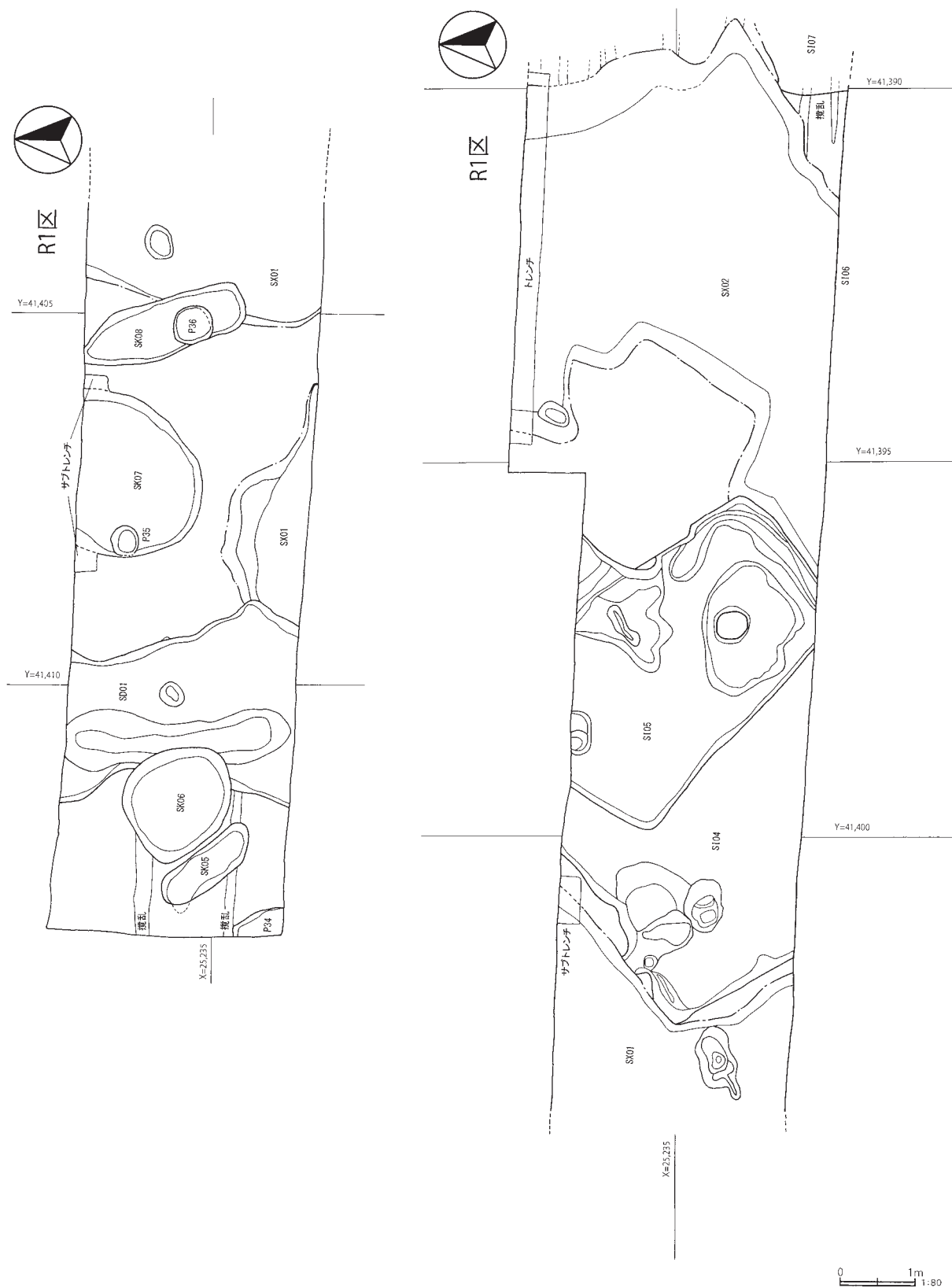


0 1m 1:80

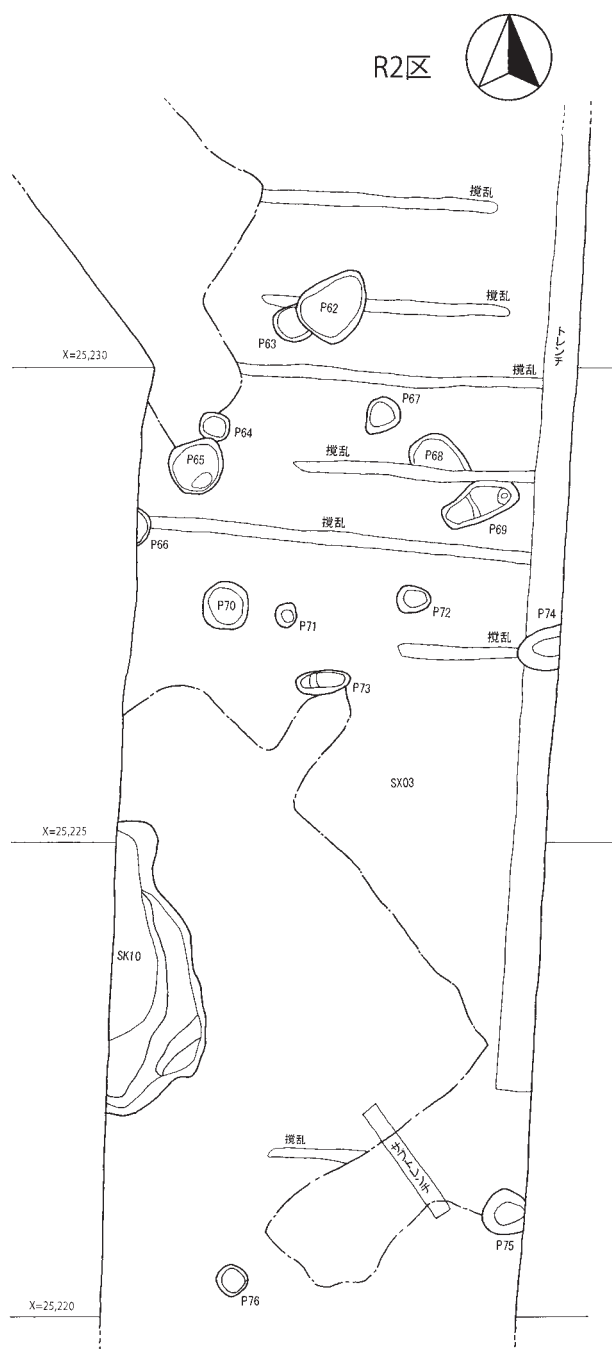
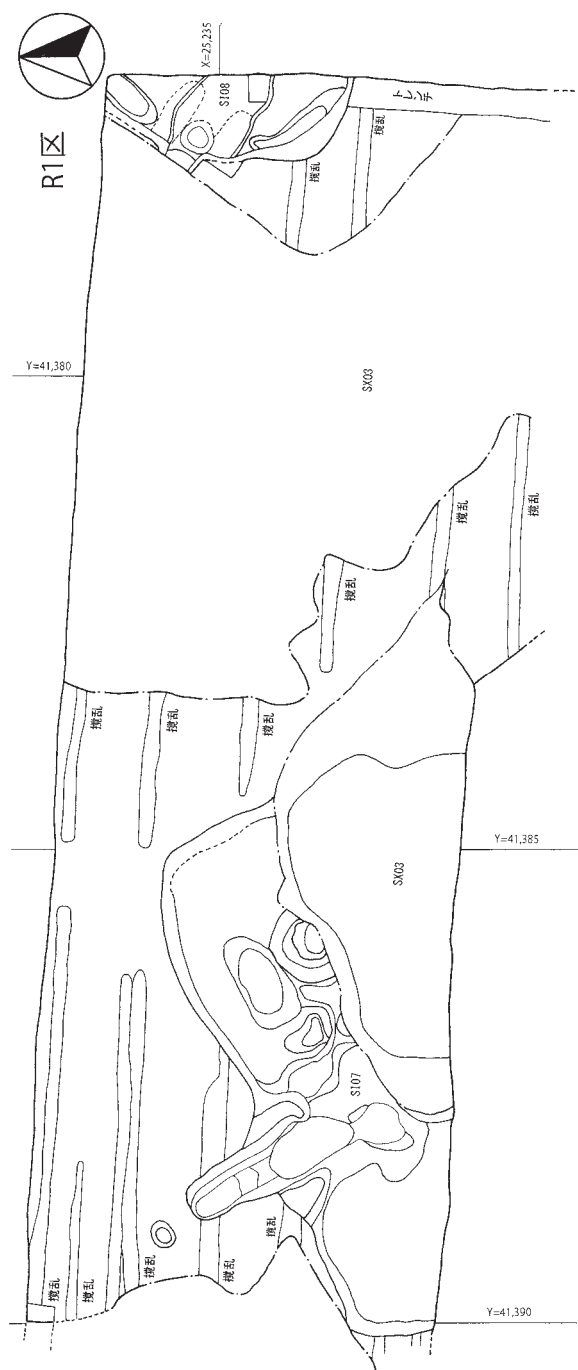
第8図 I・J区全測図



第9図 K・L区全測図

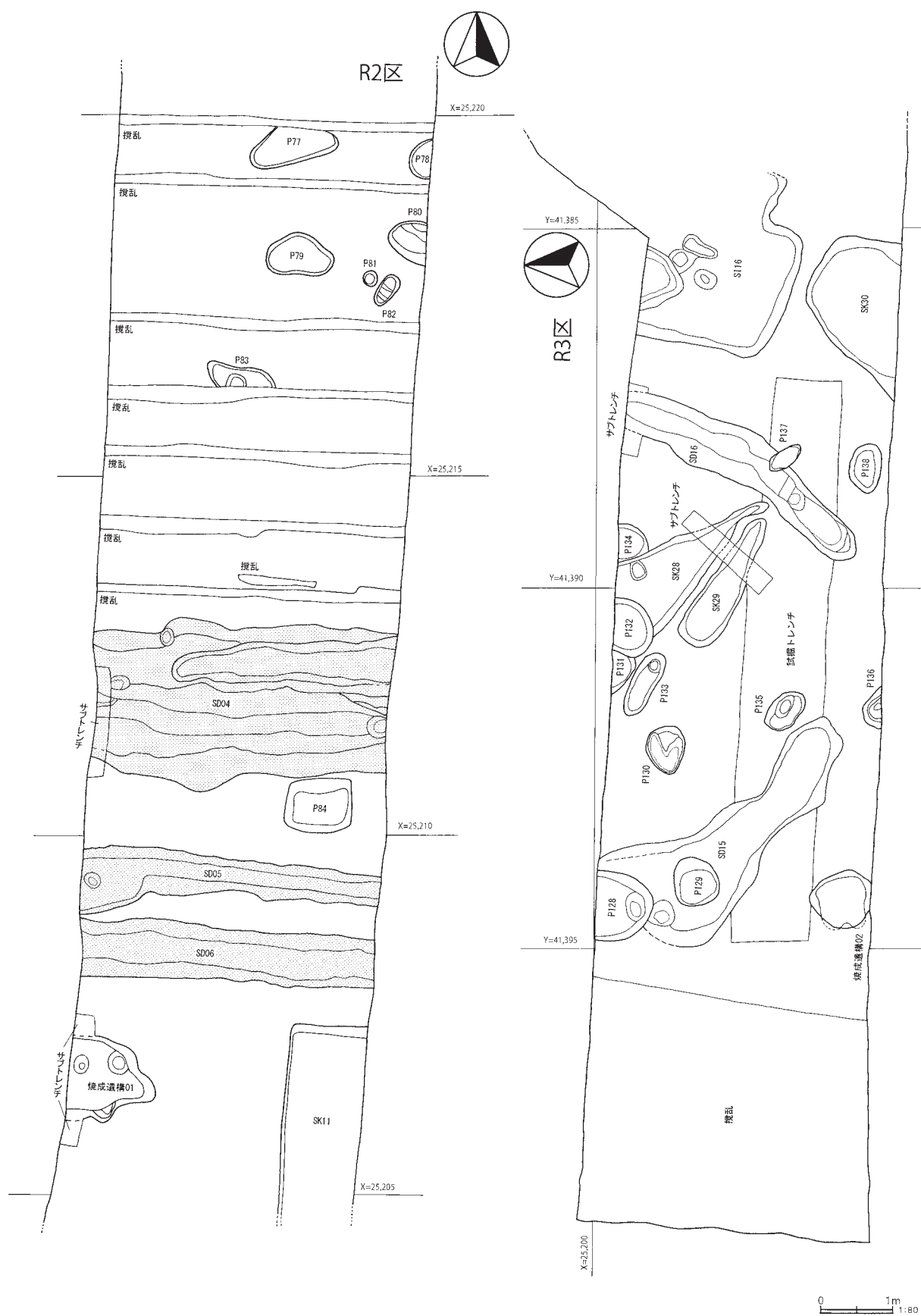


第10図 R1区(1)・(2)全測図



0 1m
1:80

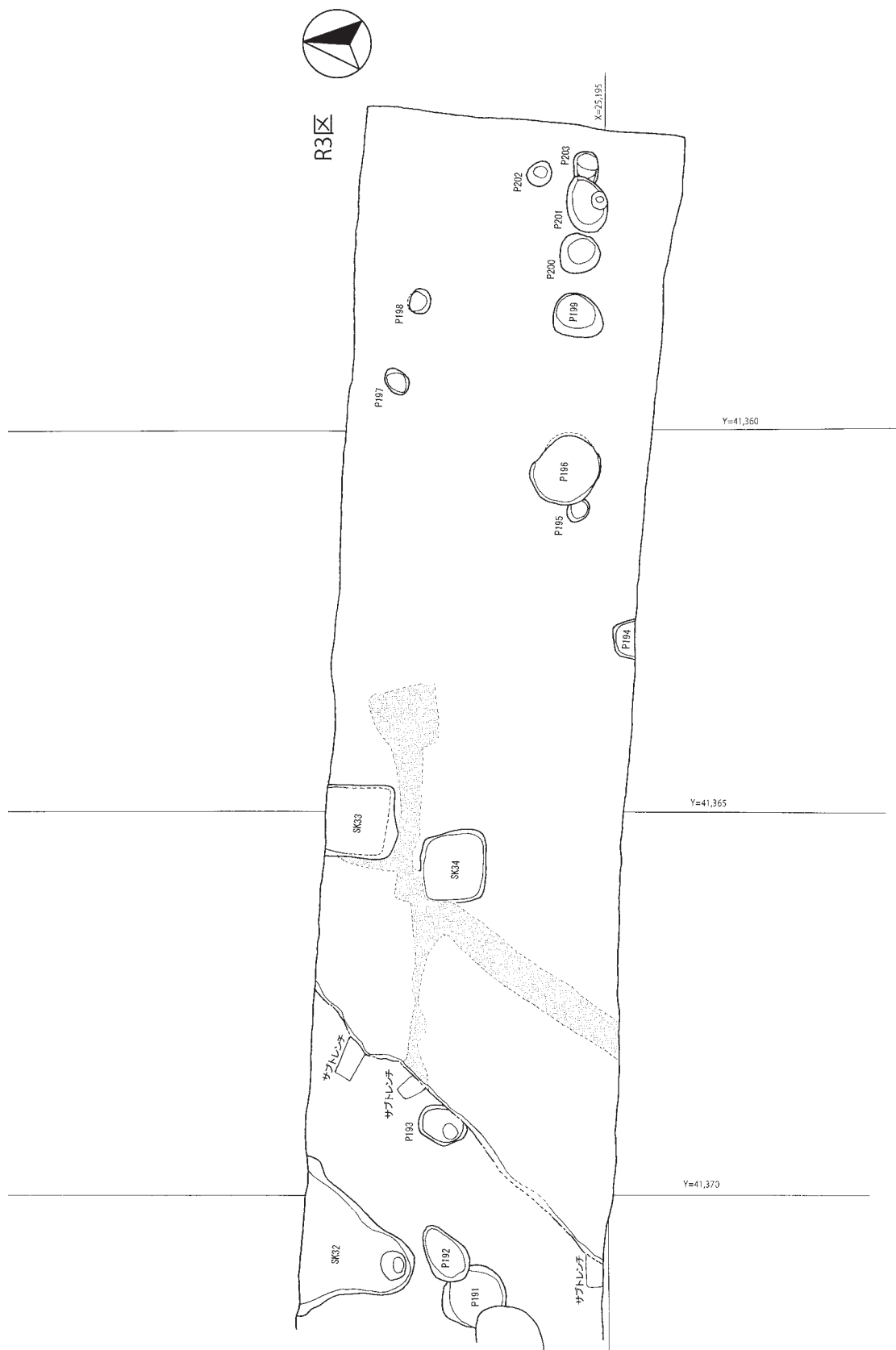
第11図 R1区(3)・R2区(1)全測図



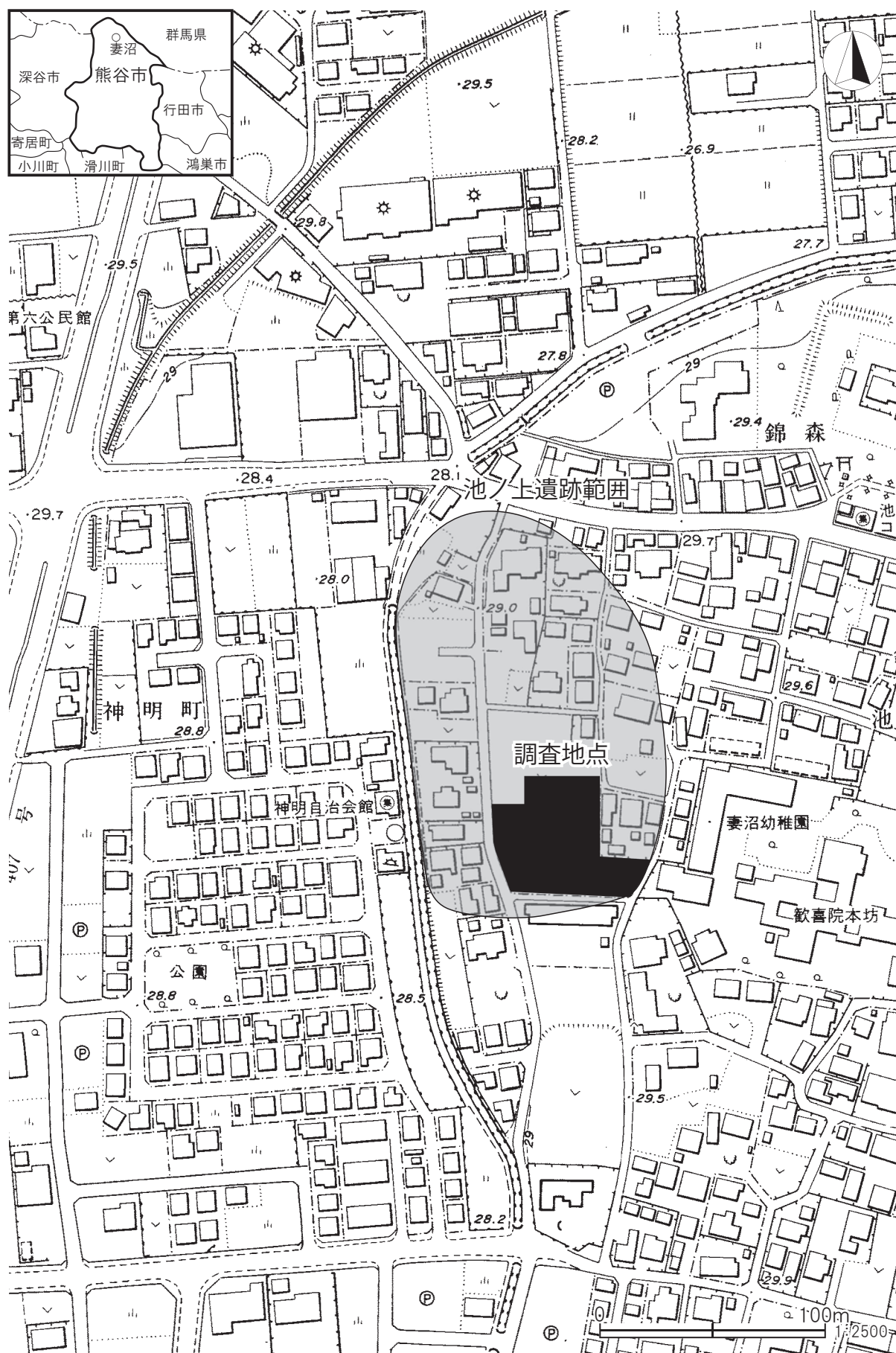
第12図 R2区(2)・R3区(1)全測図



第 1 3 図 R 3 区(2)全測図



第14図 R3区(3)全測図



IV 遺構と遺物

1 住居跡

住居跡は、各調査区で総じて18軒検出した。

まずB区から第1号住居跡が調査区の北西で検出され、C区では第2、3号住居跡が北側と東側から、R1区からは重複した形での第4、5号住居跡が調査区中央部分付近で、さらにその南壁には土層のみではあるが、第6号住居跡が検出された。続く第7号住居跡はきれいなカマドや貯蔵穴も確認される形で、そして第8号住居は調査区域外に大半が入ってしまうが、カマドのそでを土師器甕で補強材として転用しているあとが確認できた。

続いて、D区では北側と南東側に第9、10号住居跡が確認できた。E区においては全面に第11、12、13、14号住居跡が確認できるが、いずれも調査区域外に大半が差し掛かっていた。14号住居跡についてもそでの一方に土師器坏の補強材を転用していた形跡が確認された。第15号住居はK区に溝跡と重複した形で、残りの16、17、18号住居跡はすべてR3区の中心部に検出されていた。ほとんどすべての住居跡でかなり完形に近いものや器種においての種類が豊富に出土することができた。以下住居跡ごとに詳細を記載する。

第1号住居跡（第16～18図、第2表）

G-1、2グリッド（B区）から検出した。

他の遺構との重複関係はみられなく、ほぼ完形の正方形に近い形で検出された。

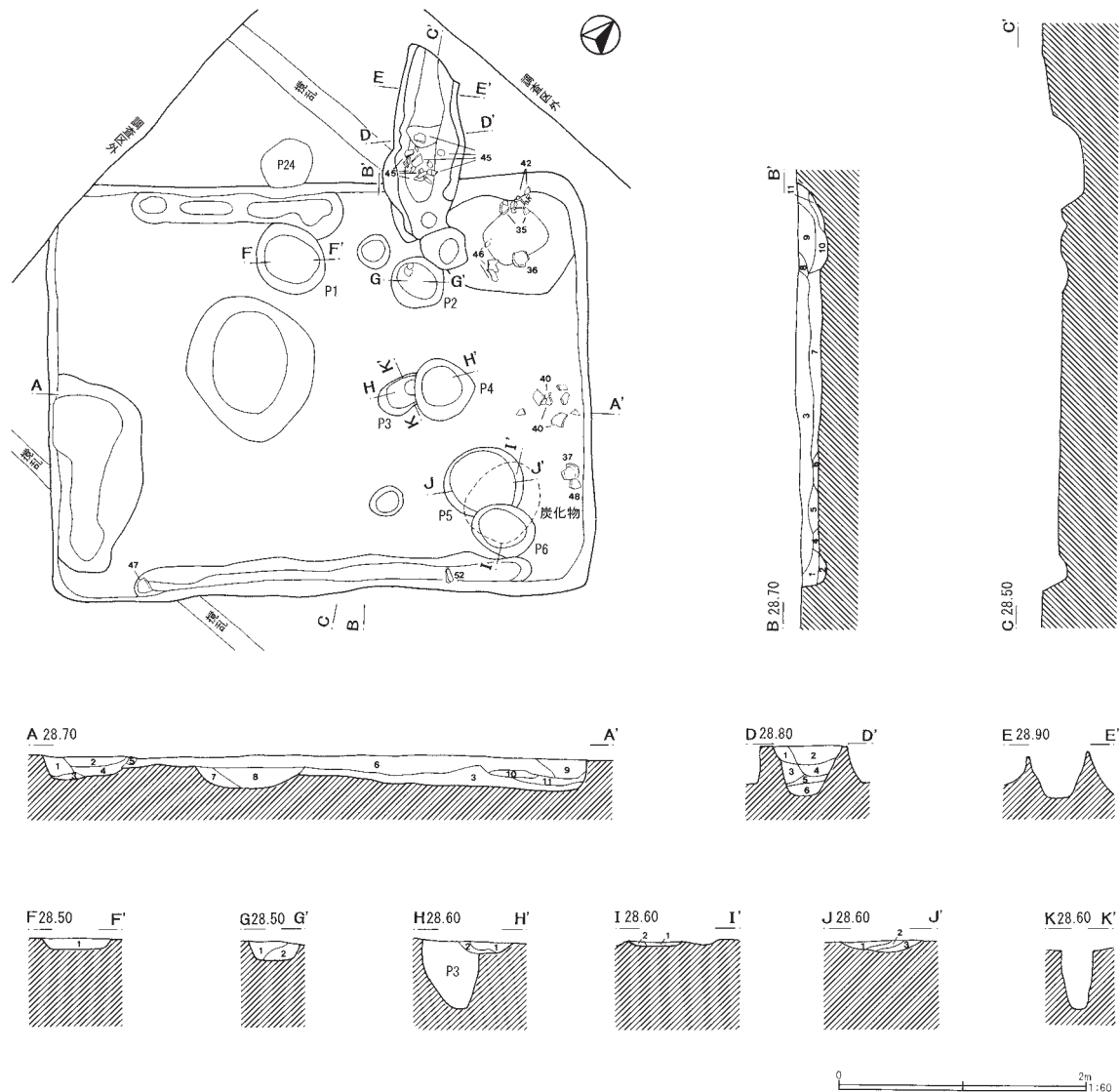
カマドの立ち上がり部分が攪乱及び調査区域外となっているが、推定長軸がおおよそ0.43m、短軸は0.44mを測り、主軸方向はN-65°-Wを指す。確認面からの深さは最大で0.2mであった。地山はやや凹凸があるが、大体東にむかって下がっている。覆土は基本3層～4層で覆われている。ほぼ水平に堆積していたことから自然堆積と想定される。南壁や北壁の一部には壁周溝と考えられるような溝跡が検出されている。

カマドは中央からやや右に寄った位置にあり、保存状態がよく、立ち上がりから22°傾斜で煙道を伝っていく。燃焼部は土坑上に深みがあり、床面からはおおよそ16cm程度の高低がある。袖部分は確認できなかった。

貯蔵穴はカマド手前のカド隅の窪みだと思われる。こちらからは土師器甕片などの土器片が大量に出土した。

ピットとしてはP1～6及び中央の窪んだピットがある。これらのうち柱跡と確定できるのはP6のみであり、他の性格は不明である。

遺物は住居内で大量に出土しており、土師器坏、甕、皿、暗文坏、須恵器坏、蓋、甕などが確認されている。北武蔵型坏以外に身模倣坏や有段口縁坏が定量確認され、暗文坏はそのすべてに内面が放射線状の暗文が施される。一点に使用痕と思われる黒色物が確認できる。須恵器の多くは末野産であった。以上の点からこの住居跡の時期は、おおよそ7世紀後半と思われる。



第1号住居跡 (A-A') (B区)

1. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (土器片、黄 2.5Y-7/8 ブロック有)
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (土器片多量、黄 2.5Y-7/8 粒子少量、焼土ブロック少量)
3. 黄褐 2.5Y-3/3 (暗灰黄 2.5Y-4/2 粒子多量、しまり強)
4. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 多量、土器片少量含、しまり強)
5. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (土器片少量)
6. 灰オリーブ 5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 ブロック、粒子有、土器片多量、少々しまり弱)
7. オリーブ黒 5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 かなり多量、しまり強)
8. 灰オリーブ 5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子多量、しまり強)
9. オリーブ黒 7.5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子ごく少量、土器片)
10. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック多量)
11. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子、しまり強)

第1号住居跡 (B-B') (B区)

1. 暗灰黄 2.5Y-5/3 (にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック有)
2. 灰オリーブ 5Y-4/2 (少々粘質)
3. 灰オリーブ 5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 ブロック粒子、土器片多量、少々しまり弱)
4. 明黄褐 2.5Y-6/6 (黄 2.5Y-7/8 ブロック粒子含)
5. オリーブ黒 5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子少量)
6. 明黄褐 2.5Y-6/6 (黄 2.5Y-7/8 ブロック粒子含)
7. 黄褐 2.5Y-3/3 (暗灰黄 2.5Y-4/2、粒子多量、しまり強)
8. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (かなりしまり弱)
9. 暗オリーブ 灰 2.5GY-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子少量、焼土ブロック有)
10. 黒褐砂質 7.5Y-2/1 (焼土多量)
11. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (若干粘質、にぶい黄 2.5Y-6/4、黄 2.5Y-7/8 微量に含)

第1号住居跡 (D-D') (B区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (少々粘質)
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黄褐 2.5Y-5/3 ブロック少量)
3. 黒褐 2.5Y-3/1 (焼土多量、1 のブロック多量、しまり弱)
4. 黒褐 2.5Y-3/1 (焼土ブロック多量、しまり弱)
5. 灰オリーブ 5Y-4/2 (焼土ブロック、3 のブロック少量)
6. オリーブ黒 5Y-3/1 (少々粘質、焼土ブロック若干有)

第1号住居跡 第1号ピット (F-F') (B区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/1 (にぶい黄 2.5Y-6/4 砂質ブロック少量、焼土多量)

第1号住居跡 第2号ピット (G-G') (B区)

1. 黒褐 2.5Y-3/1 (暗灰黄 2.5Y-4/1 ブロック、オリーブ黒 7.5Y-3/1 粒子)
2. 暗灰黄砂質 2.5Y-4/1 (焼土、オリーブ黒 7.5Y-3/1、黄 2.5Y-7/8 ブロック有、かなりしまり弱)

第1号住居跡 第3号ピット (H-H') (B区)

1. オリーブ黒 5Y-3/1 (焼土ブロック多量、2 の粒子含)
2. 黒褐砂質 2.5Y-3/1

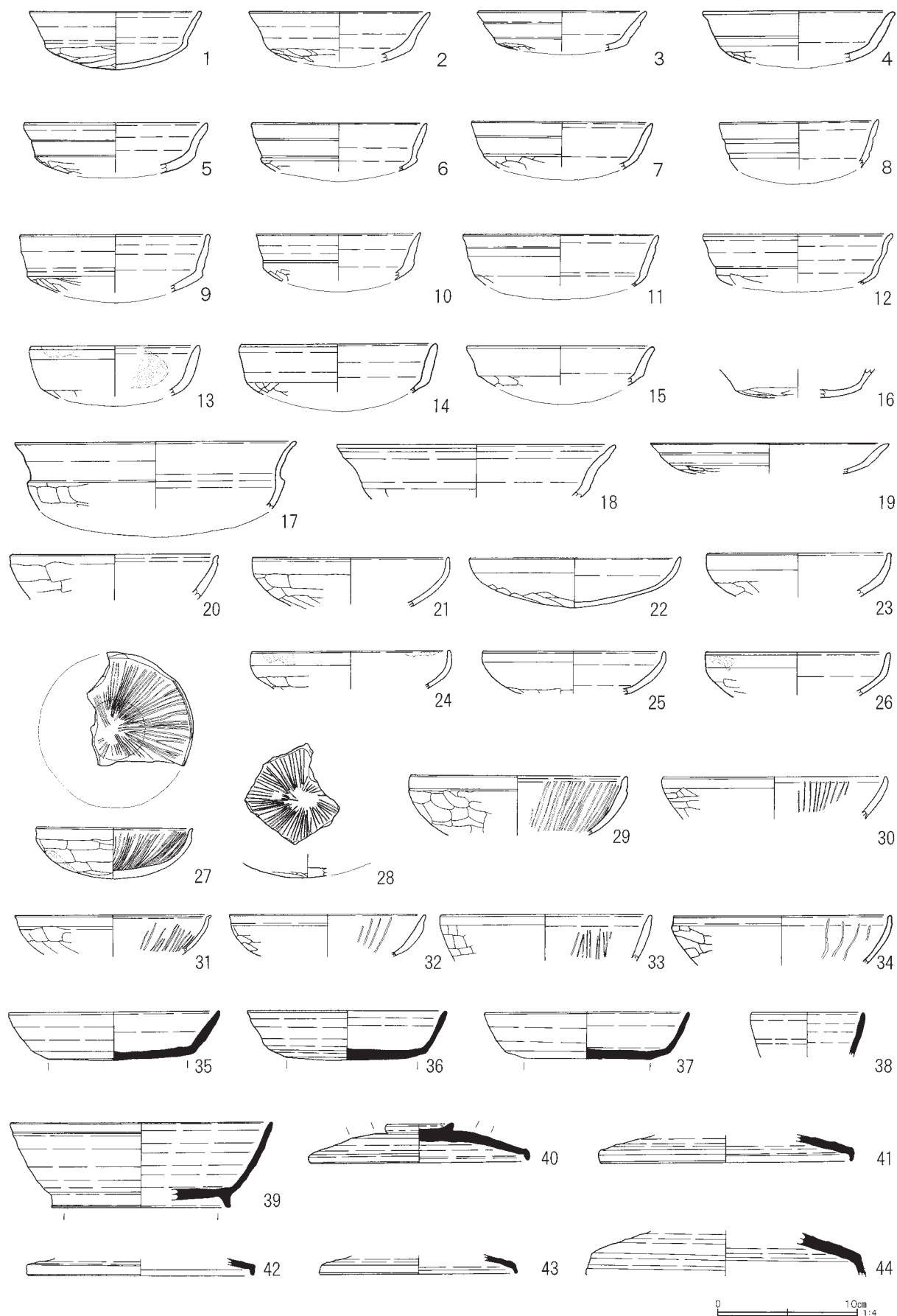
第1号住居跡 第4号ピット (I-I') (B区)

1. 黄褐 2.5Y-5/3 (黒褐 2.5Y-3/1 粒子含)
2. 黒褐 2.5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子多量)

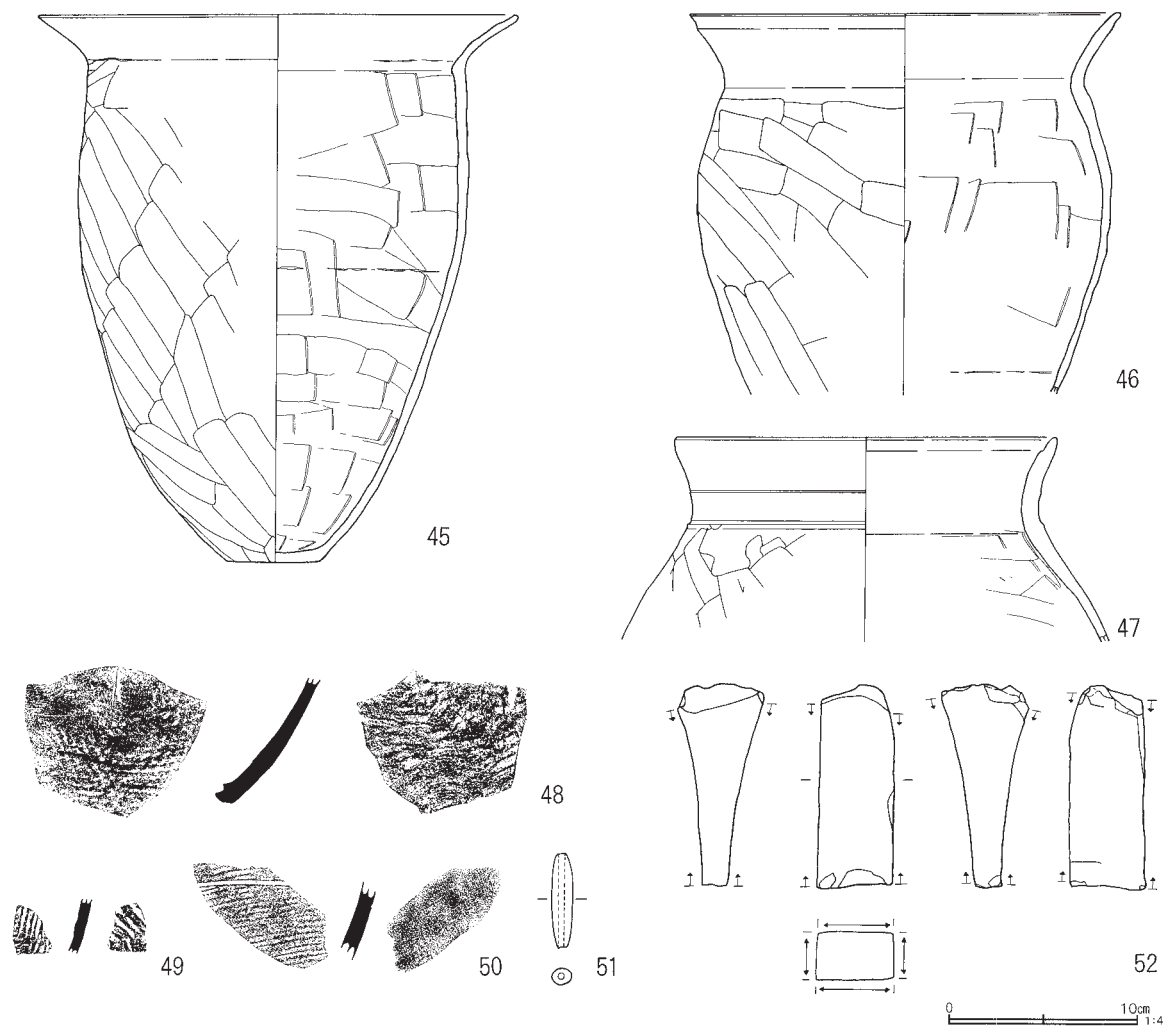
第1号住居跡 第5号ピット (J-J') (B区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 少量)
2. 黒褐砂質 2.5Y-3/1 (少々しまり弱)
3. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 少量、黒褐 2.5Y-3/1 粒子多量)

第16図 第1号住居跡 (B区)



第 17 图 第 1 号住居跡出土遺物(1) (B 区)



第 18 図 第 1 号住居跡出土遺物(2) (B 区)

第 2 表 第 1 号住居跡出土遺物観察表 (B 区)

番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
1	土師器 坏	12.2	4.2	-	体～底部外面ヘラケズリ	ABDIN	橙2.5YR-6/8	良好	50%	
2	土師器 坏	(13.0)	(3.6)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABIJ	灰黄褐10YR-5/2	普通	30%	
3	土師器 坏	(12.0)	(2.9)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABDIJ	灰黄褐10YR-5/2	普通	30%	
4	土師器 坏	(13.6)	(3.6)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABDGIJN	にぶい黄橙10YR-6/3	不良	30%	
5	土師器 坏	(13.0)	(3.6)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABDIJN	橙5YR-6/8	良好	20%	
6	土師器 坏	(12.6)	(3.4)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 口辺部外面沈線2条	ABDJN	外面：橙5YR-6/6 内面：にぶい褐7.5YR-5/3	普通		口縁～底部片
7	土師器 坏	(12.0)	(3.6)	-	口辺部外面沈線2条 体部外面手持ちヘラケズリ	ABDIJN	にぶい橙7.5YR-6/4	普通	20%	
8	土師器 坏	(15.4)	(6.8)	-	口辺部外面沈線2条	ABN	褐灰10YR-5/1	普通		口縁～体部片
9	土師器 坏	(13.4)	(4.1)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABDIN	灰褐7.5YR-6/4	良好	20%	
10	土師器 坏	(11.8)	(3.3)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABGI	にぶい黄橙10YR-7/4	普通	10%	
11	土師器 坏	(14.0)	(3.7)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABDIJN	にぶい黄橙10YR-6/4	普通	10%	
12	土師器 坏	(13.4)	(3.6)	-	底部外面手持ちヘラケズリ 口縁部外面やや外反	ABDHIJN	橙5YR-6/8	良好	20%	

第2表 第1号住居跡出土遺物観察表（B区）

番号	器種	法量(cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
13	土師器 坏	(12.0)	(3.6)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 口縁外面～体部外面黒色物	ABDIJN	橙5YR-6/6	普通	20%	
14	土師器 坏	(14.0)	(3.6)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABGIJ	褐7.5YR-4/4	良好	口縁～体部片	
15	土師器 坏	(13.4)	(2.8)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABIJ	にぶい赤褐5YR-4/4	良好	口縁～体部片	
16	土師器 坏	-	(2.0)	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ	ABDI	外面：にぶい黄橙10YR-6/3 内面：橙7.5YR-6/6	普通	口辺～底部片	
17	土師器 坏	(20.0)	(4.5)	-	口縁部外面外反 体部外面手持ちヘラケズリ	AHI	黒褐2.5Y-3/1	普通	10%	
18	土師器 坏	(20.0)	(3.8)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABDJ	にぶい黄橙10YR-7/3	普通	口縁～体部片	
19	土師器 皿	(17.0)	(2.2)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABGIJ	灰黄褐10YR-5/2	普通	口縁～体部片	
20	土師器 坏	(14.6)	(3.2)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABDJN	明赤褐2.5YR-5/8	良好	口縁～体部片	
21	土師器 坏	(14.0)	(3.6)	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ	ABIJ	にぶい橙7.5YR-6/4	普通	30%	
22	土師器 坏	13.0	(2.6)	-	底部外面手持ちヘラケズリ	ABGHJN	にぶい橙7.5YR-6/4	普通	40%	
23	土師器 坏	(13.0)	(3.1)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABIJ	橙5YR-6/6	良好	10%	
24	土師器 坏	(14.0)	(2.7)	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ 口縁～口辺部内外面黒色物	ABHIJN	にぶい橙7.5YR-6/4	普通	20%	
25	土師器 坏	(13.0)	(3.0)	-	底部外面手持ちヘラケズリ	ABGIJN	にぶい橙7.5YR-5/4	不良	20%	
26	土師器 坏	(13.0)	(3.1)	-	底部外面手持ちヘラケズリ 口縁～口辺部外面黒色物	ABIJ	にぶい橙7.5YR-6/4	普通	口縁～体部片	
27	土師器 坏	(5.5)	3.6	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ 体～底部外面黒色物 内面放射状暗文	ABDIJN	明赤褐2.5YR-5/8	良好	50%	
28	土師器 坏	(15.0)	(2.6)	-	底部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	ABDGHIN	橙5YR-6/6	良好	底部片	
29	土師器 坏	(15.5)	(4.2)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	ABDIJ	暗赤褐5YR-3/3	良好	20%	
30	土師器 坏	(16.0)	(3.0)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	ABI	明赤褐2.5YR-5/8	良好	口縁～体部片	
31	土師器 坏	(14.0)	(2.8)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	ADI	黒褐10YR-3/1	普通	口縁～体部片	
32	土師器 坏	(14.0)	(3.0)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	ABIJ	にぶい褐7.5YR-5/4	良好	口縁～体部片	
33	土師器 坏	(15.0)	(3.3)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	ABGIN	灰黄褐10YR-4/2	普通	口縁～体部片	
34	土師器 坏	(15.4)	(3.5)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文 口縁部付近外面境有段	ABDIJN	にぶい赤褐5YR-5/4	良好	口縁～体部片	
35	須恵器 坏	15.0	3.5	10.0	底部外面全面回転ヘラケズリ	ABIN	灰白2.5Y-7/1	良好	80%	未野産
36	須恵器 坏	14.2	3.6	9.4	底部外面全面回転ヘラケズリ	ABDHIN	外面：にぶい黄橙10YR-6/3 内面：にぶい橙7.5YR-6/4	良好	80%	
37	須恵器 坏	14.6	3.4	9.1	底部外面全面回転ヘラケズリ	ABIN	褐灰10YR-4/1	良好	90%	未野産
38	須恵器 坏？	(8.0)	(3.2)	-	内外面回転ナデ痕	ABN	褐灰10YR-6/1	良好	口縁～体部片	
39	須恵器 坏	(18.6)	(6.1)	-	口縁部外面沈線1条 底部外面回転ヘラケズリ	ABIN	灰黄2.5Y-7/2	良好	30%	産地不明
40	土師器 蓋	15.4	2.8	(鈕径)4.6	環状鈕 天井部外面回転ヘラケズリ	ABIN	外面：褐灰10YR-4/1 内面：にぶい黄橙10YR-7/3	良好	90%	
41	須恵器 蓋	(18.0)	(2.0)	-		ABN	暗灰黄2.5Y-5/2	良好	口縁部片	42と同一産地か？
42	須恵器 蓋	(16.0)	(1.2)	-		ABN	暗灰黄2.5Y-5/2	良好	口縁部片	41と同一産地か？
43	須恵器 蓋	(14.0)	(1.3)	-		ABIN	灰5Y-6/1	良好	口縁部片	
44	須恵器 蓋	(20.0)	(3.1)	-	天井部外面回転ヘラケズリ	ABIN	にぶい黄橙10YR-7/2	良好	20%	未野産
45	土師器 甕	(25.0)	(29.0)	4.8	胴上半部外面横位及び、 胴中央部～下半部外面斜位ヘラケズリ	AEGIJN	にぶい橙7.5YR-6/4	良好	70%	
46	土師器 甕	22.6	20.2	-	胴上半部外面横位及び、 胴中央部外面斜位ヘラケズリ	BHIJN	橙5YR-6/6	良好	70%	
47	土師器 甕	(20.0)	(10.8)	-	胴上半部外面斜位ヘラケズリ	ABDHJN	にぶい黄橙10YR-7/4	良好	口縁～胴上半部20%	
48	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目(重ね) 内面同心円状当て具痕	AN	褐灰10YR-4/1	良好	胴部片	
49	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	AN	褐灰10YR-4/1	良好	胴部片	
50	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目・沈線2条 内面無文当て具痕	ABI	灰黄2.5Y-7/2	良好	胴部片	
51	土鍾	長:5.1	幅:1.1	孔:0.3		BDI	浅黄橙7.5YR-8/4	普通	完形	
52	砥石	長:10.6	幅:3.9	厚:1.3～4.6	擦痕 線状痕多数		浅黄2.5Y-7/3	-	80%	チャート

第2号住居跡（第19、20図、第3表）

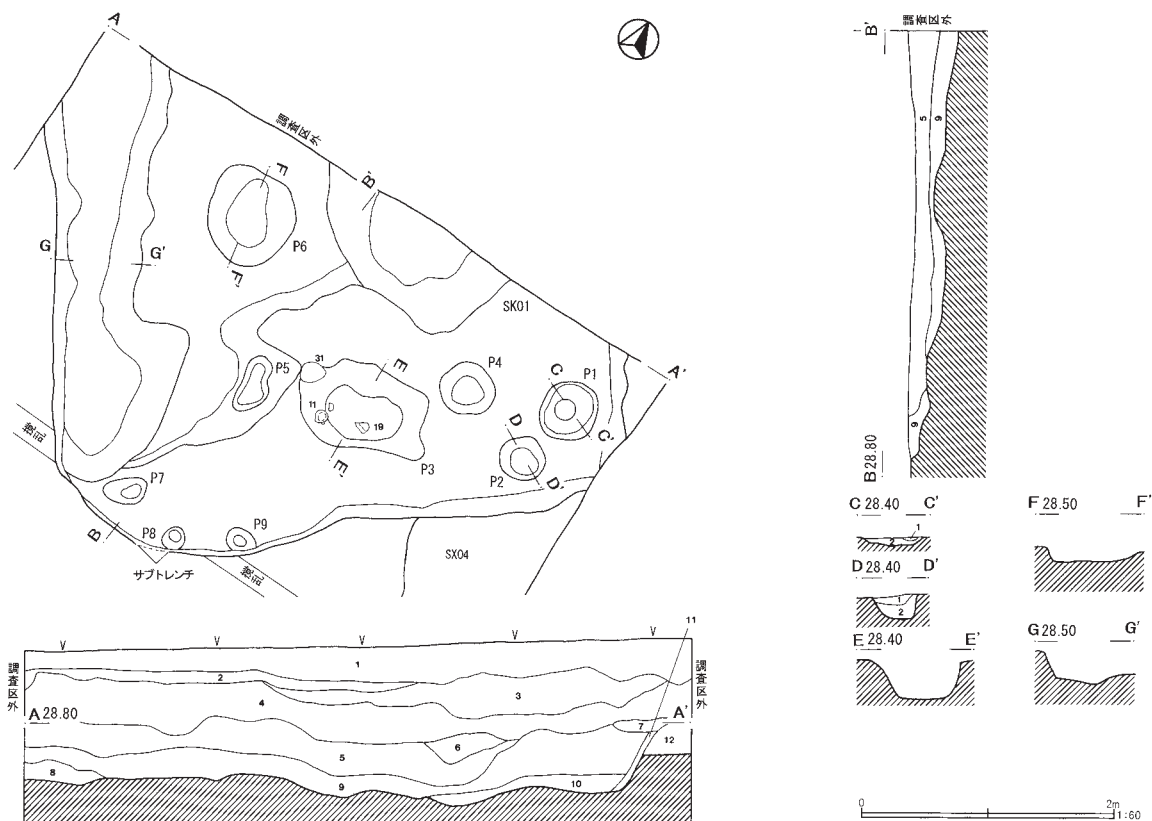
E-1、2、F-1、2グリッド（C区）から検出した。

他の遺構との重複はみられないが、住居跡の半分は調査区域外であると想定される。

正確な規模は不明であるが、半分の四隅は平面上からも検出されており、そこから検出長軸がおおよそ0.41m、短軸は0.28mを測り、主軸方向はカマドを通るものとして想定であるが、第1号住居跡と同様の北西方向に向かうものと思われる。確認面からの深さは最大で0.22～0.27mであった。地山はかなり凹凸があり、この点のみを考えると、住居としての性格に当てはまらない可能性もある。また、西壁付近では壁周溝のような、大きな周溝跡が確認され、そこから東へ向かっていくらか下がっている。

覆土は基本2層～3層で覆われている。（5層、9層、10層）ほぼレンズ状に堆積していたことから自然堆積と想定される。貯蔵穴はカマド手前のカド隅の窪みだと思われる。こちらからは土師器甕片などの土器片が大量に出土した。

ピットとしてはP1～9がある。これらのうち柱跡と確定できるのはP2、P6のみであり、他の性格は不明である。



第2号住居跡（A-A'、B-B'）（C区）

1. 耕作土
2. 黄褐 2.5Y-5/3 (多量に黒褐 2.5Y-3/1 ブロック有)
3. 黒褐 2.5Y-3/2 (土器片少量含)
4. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック少量有、炭化物少量有)
5. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (一部少々粘質、焼土少量有、しまり弱、土器片含)
6. 灰オリーブ 5Y-4/2 (炭化物、土器片含、少々しまり弱)
7. 灰オリーブ 7.5-4/2 (少々しまり強、土器片微量)
8. オリーブ黒 5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子微量)
9. オリーブ黒 5Y-3/2 (少々粘質、黄褐 2.5Y-5/3 粒子、黒褐 2.5Y-3/2 ブロック含)
10. 暗オリーブ灰 2.5GY-3/1
11. 黒褐 2.5Y-3/1 (一部に暗灰黄 2.5Y-4/2 ブロック、黄 2.5Y-7/8 粒子少量含)
12. 黒粘質 7.5Y-2/1 (一部に少量黄 2.5Y-7/8 含)

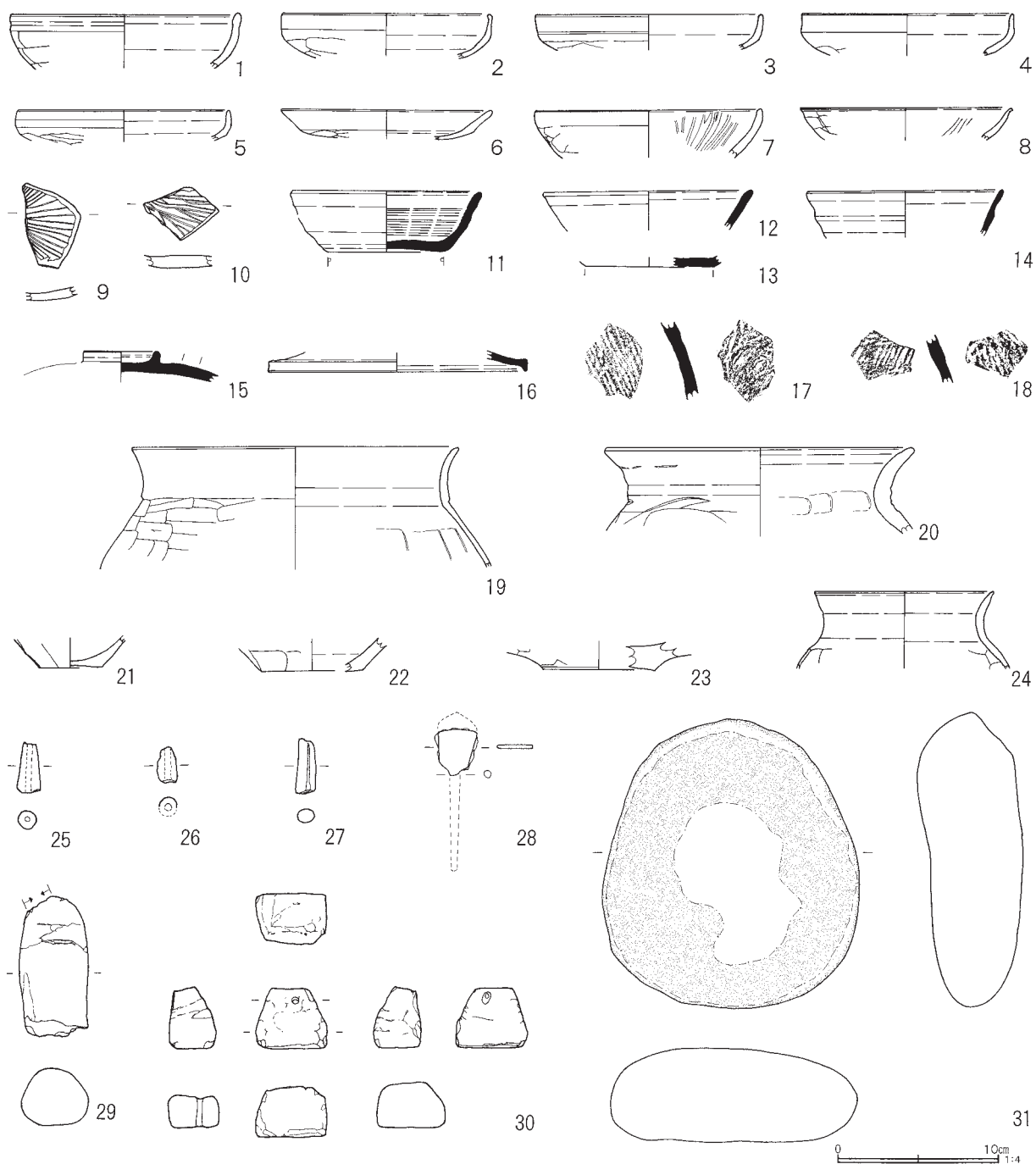
第2号住居跡 第1号ピット（C-C'）（C区）

1. 暗灰黄 2.5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子多量)
2. 黒褐 2.5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子有)

第2号住居跡 第2号ピット（D-D'）（C区）

1. 暗灰黄 2.5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子多量)
2. 黒褐 2.5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子有)

第19図 第2号住居跡（C区）



第20図 第2号住居跡出土遺物（C区）

出土遺物は第1号住居跡と同様に土師器杯、暗文杯、皿、甕、台付甕、須恵器碗、蓋、土錘、鉄鏃が確認できた。それ以外に擦り石を確認することができ、携帯用に紐を通したであろう穿孔があるものが一点検出された。暗文杯はすべて内面が放射線状で、須恵器は南比企産と末野産が混在し、底部調整も検出数が少量であるが、回転糸切りと回転ヘラケズリが混在している。住居跡の時期は、末野窯が一時衰退する前の7世紀後半と考えられる。

第3表 第2号住居跡出土遺物観察表（C区）

番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
1	土師器 坏	(14.0)	(3.4)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABDHIJN	橙5YR-6/8	良好	口縁～体部片	
2	土師器 坏	(13.0)	(2.7)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABIJN	にぶい黄橙10YR-6/4	良好	10%	
3	土師器 坏	(14.0)	(2.2)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABIJN	橙5YR-6/6	良好	口縁～体部片	
4	土師器 坏	(13.0)	(2.6)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 口縁部やや外反	ABIJN	橙5YR-6/6	良好	口縁～体部片	
5	土師器 坏	(13.0)	(2.0)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABIJN	橙5YR-6/6	良好	口縁～体部片	
6	土師器 皿	(13.2)	(1.8)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABIJN	橙5YR-6/6	良好	口縁～体部片	
7	土師器 坏	(14.0)	(3.0)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	ABDEIJKN	灰褐7.5YR-5/2	普通	口縁～体部片	
8	土師器 坏	(13.0)	(2.0)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	ABIJN	橙5YR-6/8	良好	口縁～体部片	
9	土師器 坏	-	-	-	底部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	ABDIJN	にぶい褐7.5YR-5/3	普通	底部片	
10	土師器 坏	-	-	-	底部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	ABDIJN	明赤褐2.5YR-5/8	良好	底部片	
11	須恵器 坏	(11.8)	(3.7)	7.2	底部外面回転系切り	ABDGIN	灰黄2.5Y-7/2	良好	70%	未野産
12	須恵器 坏	(13.0)	(2.4)	-	口縁部外反	ABFN	褐灰10YR-5/1	良好	口縁部片	南比企産
13	須恵器 坏	-	(0.6)	(8.0)	底部外面回転ヘラケズリ	AFN	褐灰10YR-4/1	良好	底部片	南比企産
14	須恵器 坏	(12.0)	(2.8)	-	口縁部外反	ABIN	灰黄褐10YR-6/2	良好	口縁部片	未野産
15	須恵器 蓋	-	(1.9)	(鈕径)4.4	環状鈕 天井部外面回転ヘラケズリ	ABFN	灰黄褐10YR-5/2	良好	20%	南比企産
16	須恵器 蓋	(16.0)	(1.2)	-	内外面回転ナデ	ABN	灰白10YR-7/1	良好	口縁部片	
17	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	AFHN	褐灰10YR-5/1	良好	胴部片	
18	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	AN	褐灰10YR-5/1	良好	胴部片	
19	土師器 甕	(20.2)	(7.7)	-	胴上半部外面横位ヘラケズリ	ABIJN	にぶい橙7.5YR-6/4	良好	口縁～胴上半部20%	
20	土師器 甕	(19.0)	(5.4)	-	胴上半部外面横位ヘラケズリ	ABDIJN	にぶい橙7.5YR-6/4	普通	口縁～胴上半部20%	
21	土師器 甕	-	(1.4)	(4.0)	胴下端部外面斜位ヘラケズリ	ABIJN	外面：にぶい黄褐10YR-5/3 内面：橙5YR-6/6	普通	底部片	
22	土師器 甕	-	(2.0)	(6.1)	胴下端部外面横位及び、斜位ヘラケズリ	DIJ	外面：橙5YR-6/6 内面：にぶい橙7.5YR-7/4	普通	底部片	
23	土師器 壺？	-	(1.7)	-	胴下端部外面横位ヘラケズリ	ABIN	橙5YR-6/6	普通	底部片	
24	土師器 小型台付 甕	(11.0)	(4.8)	-	胴上半部外面横位ヘラケズリ	HIJN	橙7.5YR-6/6	普通	口縁～胴上半部片	
25	土鍾	長:(3.1)	幅:(1.2)	孔:0.3		ABIJN	明赤褐2.5YR-5/6	良好	50%	
26	土鍾	長:(2.2)	幅:(1.1)	孔:0.4		ABIJN	橙5YR-6/6	普通	10%	
27	土鍾	長:(3.3)	幅:(1.1)	-		I	にぶい黄橙10YR-6/4	普通	50%	
28	鉄鏃	長:(2.9)	幅:0.5～2.5	厚:0.2			にぶい黄褐10YR-5/3	-	70%	
29	打石or織 物石？	長:(8.7)	幅:4.2	厚:3.6	敲打痕 機織り時のおもりか？		にぶい橙7.5YR-7/3	-	50%	石英閃緑岩
30	砥石	長:3.7	幅:2.3～4.4	厚:2.7	穿孔 擦痕		灰黄2.5Y-7/2	-	完形	チャート
31	台石？	長:17.4	幅:16.0	厚:5.8	外面黒色物 中央部周辺擦り痕		暗赤灰10R-3/1	-	完形	石英閃緑岩

第3号住居跡（第21図）

E-2、3グリッド（C区）から検出した。

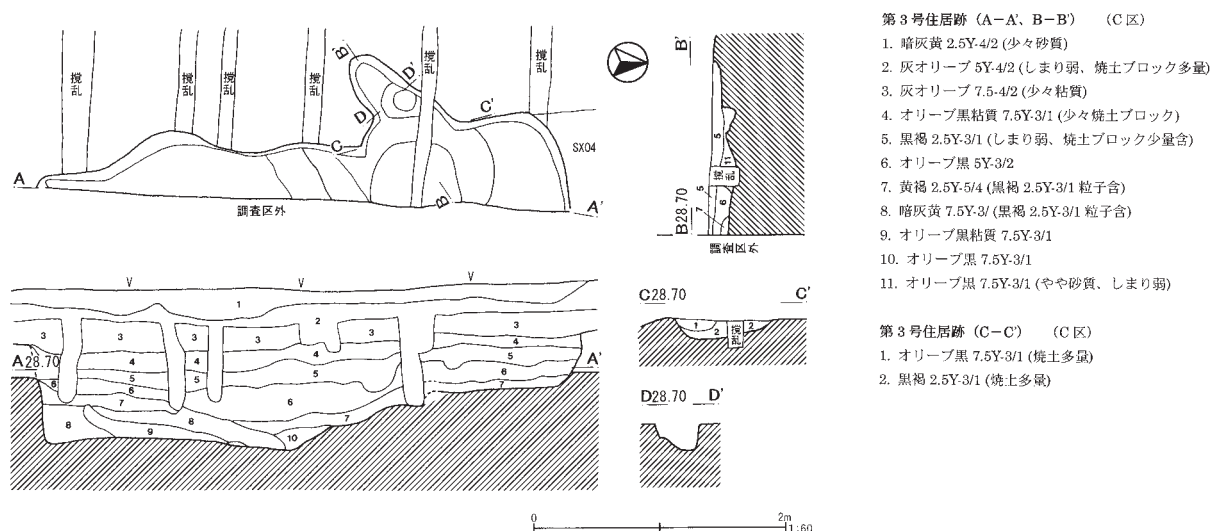
他の遺構との重複はみられないが、住居跡の半分は調査区域外であると想定される。

正確な規模は不明であるが、カマド周辺は平面上から検出しており、西方向のカマドである。そこから検出長軸がおよそ1.35m、短軸は4.25mを測り、主軸方向はN-50°-Wを指す。確認面からの深さは最大で0.37~0.52mであった。地山はかなり凹凸があり、カマド主軸状のB-B'のラインからから西に向かって傾斜が確認された。

覆土は基本7層~8層で覆われている。ほぼレンズ状に堆積していたことから自然堆積と想定される。カマドは中央からやや右に寄った位置にあり、立ち上がりから30°傾斜で煙道を伝っていく。燃烧部は土坑状の落ち込みがあるが、地山の凹凸があるため、高低差の確認はできなかった。袖部分は確認できなかった。

ピットとしての遺構は確認されなかった。

この住居跡から出土した遺物は残念ながら図示可能なものはなかった。



第21図 第3号住居跡（C区）

第4号住居跡（第22、23図、第4表）

K-5、J-5グリッド（R1区）から検出した。

隣接する第5号住居跡と重複し、第5号住居跡に切られている。また、SX04にはカマド部分を切られており、それ以外については調査区域外であると想定される。

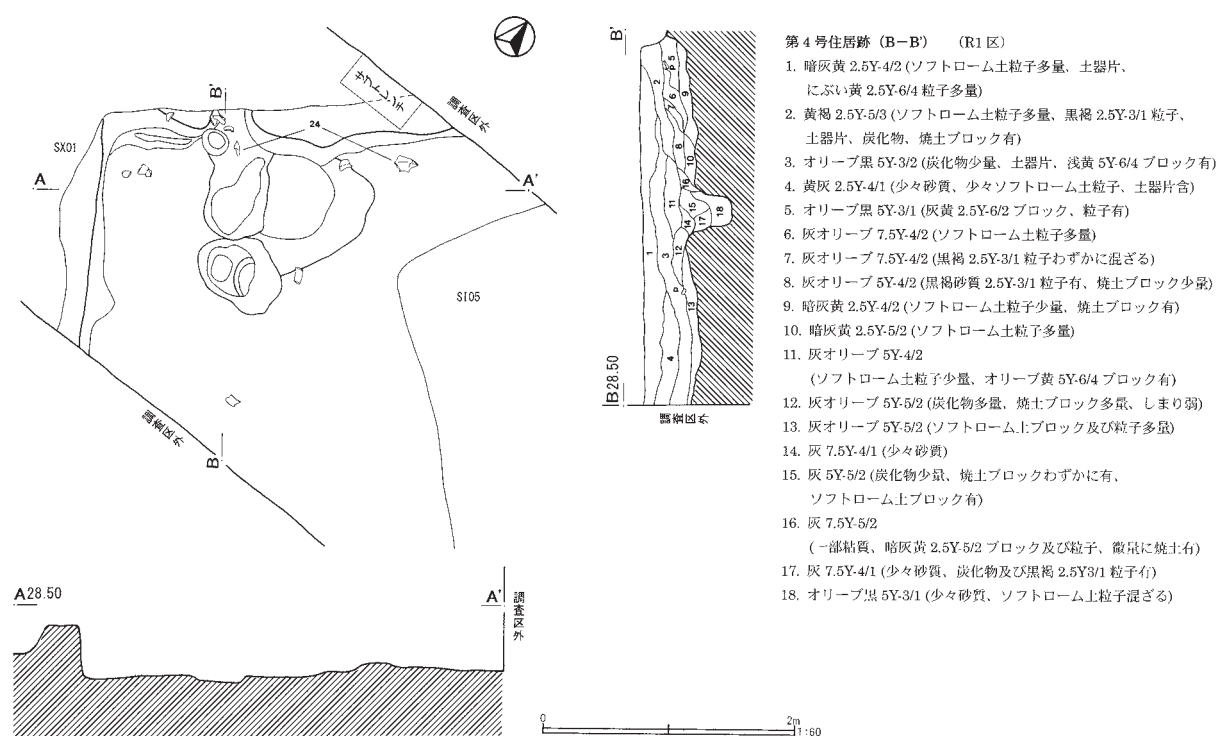
正確な規模は不明であるが、カマド周辺は平面上から検出しており、西方向のカマドである。そこから検出長軸がおよそ2.75m、短軸は3.50mを測り、主軸方向はN-50°-Wを指す。確認面からの深さは最大で0.43~0.45mであった。地山は凹凸がほとんどなく、起伏もほぼない状態であった。

覆土は基本1層~13層で覆われている。堆積状況から考えて、自然堆積と想定される。カマドは推定位置を踏まえてみれば中央からやや左に寄った位置にあり、立ち上がりから12°の緩やかな傾斜で

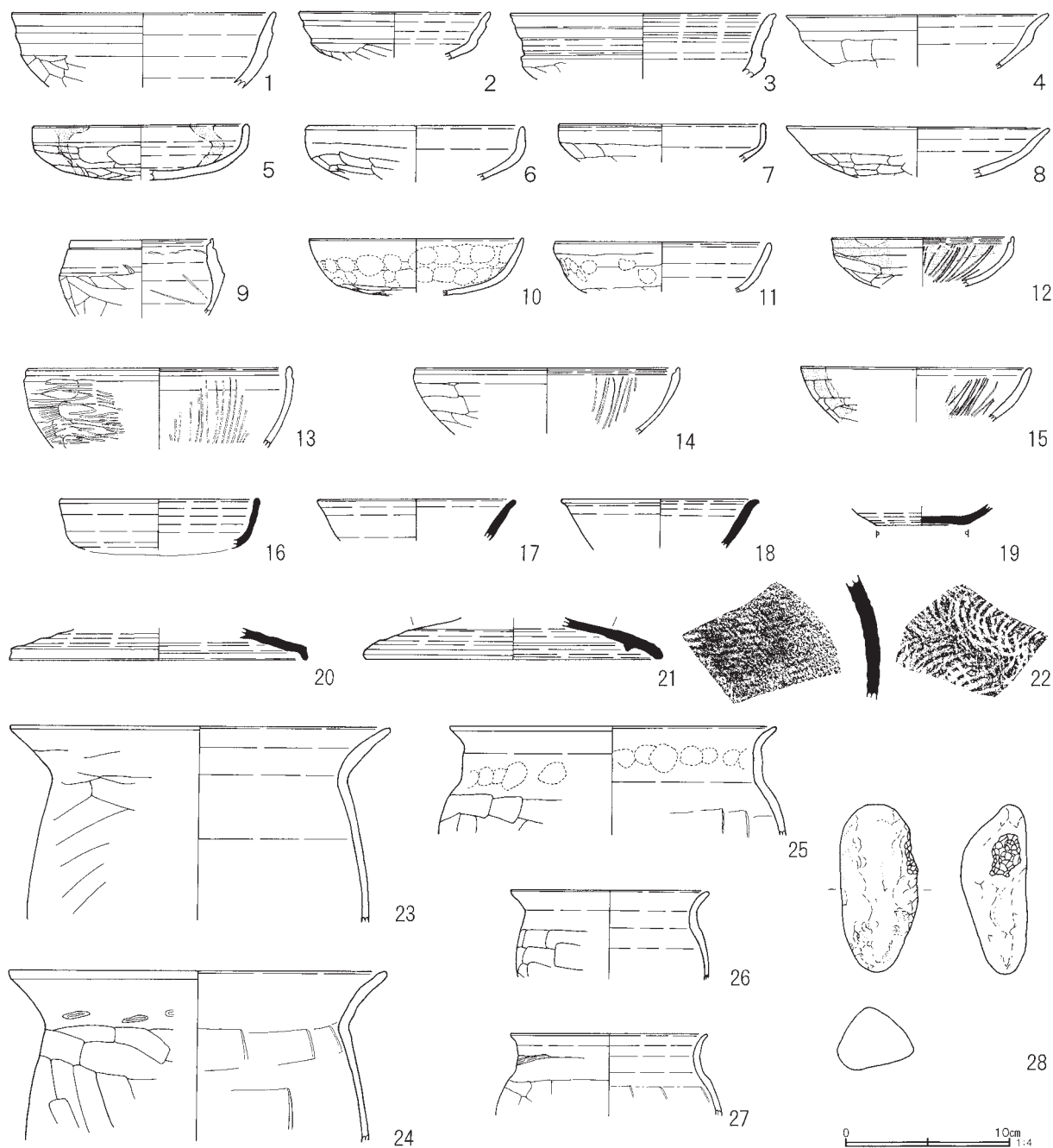
煙道を伝わっていく。燃焼部はカマド手前から土坑状の落ち込みがあり、比較的緩やかな落ち込みとなっている。落ち込みの深さは地山から15cm程度であり、規模は長軸0.12m、短軸0.8mの楕円形である。袖部分は確認できなかった。西壁の一部には壁周溝と考えられるような溝跡が検出されている。

ピットとしての遺構はカマドの落ち込みの手前にあるピットが該当し、場合によっては柱穴となる可能性もある。

出土遺物については次の第5号住居跡と重複関係にあり一部遺物が第5号住居跡に混ざっている可能性もあるが、こちらでは土師器坏、暗文坏、皿、小型鉢、甕、須恵器は坏、蓋、甕が確認された。出土した一部はおそらく第5号住居跡の遺物と思われ、本住居跡の出土遺物としては、須恵器からは東海産や末野産、上野産？と思われる多種産地の胎土をもつ器種が目立つ。また、土師器甕のうち台付甕においては出土物すべてにおいて、口縁部が「コ」の字となっていた。以上のことから、この住居跡の時期は、7世紀末から8世紀初頭と思われる。



第22図 第4号住居跡 (R1区)



第 23 図 第 4 号住居跡出土遺物（R 1 区）

第 4 表 第 4 号住居跡出土遺物観察表（R 1 区）

番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
1	土師器 坏	16.0	4.6	-	口辺部外面有段 体部外面手持ちヘラケズリ	ABIJN	橙2.5YR-6/6	良好	20%	
2	土師質土 器 坏	(11.6)	(2.9)	-	口辺部外面有段 体部外面手持ちヘラケズリ	ABIJN	灰黄褐10YR-6/2	良好	30%	
3	土師器 坏	(16.0)	(4.0)	-	口辺部外面有段 体部外面手持ちヘラケズリ	ABDIJ	にぶい橙7.5YR-6/4	良好	20%	
4	土師器 坏	(16.0)	(3.2)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABIJN	にぶい橙7.5YR-6/4	普通	口縁～体部片	
5	土師器 坏	(13.0)	(3.3)	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ 内外面部分的黒色物 口縁部直立的	BIJ	橙7.5YR-7/6	良好	30%	
6	土師器 坏	(13.0)	(3.3)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 口縁部直立的	ABIJN	にぶい橙7.5YR-6/4	良好	20%	

第4表 第4号住居跡出土遺物観察表（R1区）

番号	器種	法量(cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
7	土師器 坏	(12.4)	(2.3)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 口縁部直立的	BJN	橙5YR-6/6	良好	10%	
8	土師器 皿	(16.0)	(3.0)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	BDIJN	橙5YR-7/6	良好	30%	
9	土師器 小型鉢	(8.6)	(4.7)	-	口縁部有段 体部外面手持ちヘラケズリ	ABIJ	にぶい赤褐5YR-5/3	良好	30%	
10	土師器 坏	(13.0)	(3.4)	-	口辺～体部内外面指頭圧痕有 体～底部外面手持ちヘラケズリ	ABIJN	橙5YR-6/6	良好	40%	
11	土師器 坏	(13.0)	(7.1)	-	口辺～体部上半外面指頭圧痕有 底部外面手持ちヘラケズリ	BIJN	橙5YR-6/6	良好	20%	
12	土師器 坏	(11.0)	(3.0)	-	口唇部内面沈線 体部外面手持ちヘラケズリ 内外面黒色物 内面放射状暗文	ABI	灰黄褐10YR-5/2	良好	30%	
13	土師器 坏	(16.0)	(4.9)	-	体部外面手持ちヘラケズリ・ミガキ 内面放射状暗文	ABIJN	明赤褐5YR-5/6	良好	20%	
14	土師器 坏	(8.0)	(4.1)	-	口唇部内面沈線 体部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	ABIJN	橙5YR-6/8	良好	口縁～体部片	
15	土師器 坏	(14.0)	(3.3)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 内外面黒色物 内面放射状暗文	ABIJN	明赤褐2.5YR-5/6	良好	口縁～体部片	
16	須恵器 坏	(12.0)	(3.0)	-	口縁～体部直線的 底部やや丸底？	ABN	褐灰10YR-6/1	良好	20%	東海産
17	須恵器 坏	(12.0)	(2.5)	-	口縁部やや外反	AGN	黄灰2.5Y-6/1	良好	口縁～体部片	未野産
18	須恵器 坏	(6.0)	(3.0)	-	口縁部外反	BDHN	灰黄褐10YR-6/2	良好	口縁～体部片	東海産
19	須恵器 坏	-	-	(5.6)	底部外面回転糸切り	ABIJN	黄灰2.5Y-5/1	良好	底部60%	
20	須恵器 蓋	(18.0)	(1.9)	-		ABDN	褐灰10YR-5/1	良好	口縁部20%	上野産(秋間か)
21	須恵器 蓋	(18.0)	(2.5)	-	天井部外面回転ヘラケズリ 口縁部内面返し	AGN	灰N-4/	普通	20%	上野産？
22	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕 外面降灰多量に付着	ABJN	灰N-5/	良好	胴部片	未野産
23	土師器 甕	(23.0)	(11.8)	-	胴上半部外面横位斜位ヘラケズリ	ABIJN	橙5YR-6/6	良好	口縁～胴上半部30%	
24	土師器 甕	(23.0)	(10.5)	-	胴上半部外面横位斜位ヘラケズリ	ABIJN	にぶい橙7.5YR-6/4	良好	口縁～胴上半部30%	
25	土師器 甕	(20.0)	(6.6)	-	「コ」の字状口縁 頸部内外面指頭圧痕有 胴上半部外面横位ヘラケズリ	ABIJN	橙5YR-6/6	良好	口縁～胴上半部20%	
26	土師器 台付甕	(12.0)	(5.5)	-	胴上半部外面横位ヘラケズリ	ABIJN	灰褐5YR-4/2	良好	口縁～胴部片	
27	土師器 台付甕	(12.0)	(5.0)	-	胴上半部横位斜位ヘラケズリ	BIJN	にぶい赤褐5YR-5/3	良好	口縁～胴部片	
28	蔽石	長:10.4	幅:3.8	厚:4.6	側面部に蔽打痕		黄灰2.5Y-5/1	-	完形	安山岩

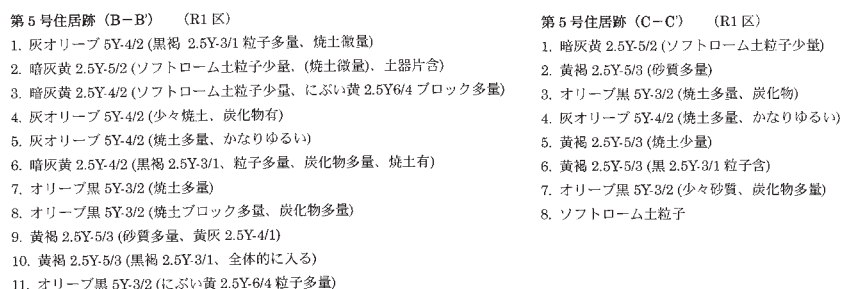
第5号住居跡（第24、25図、第5表）

J-5グリッド（R1区）から検出した。

他の遺構との重複関係があり、第4号住居跡を切っていた。この重複関係については推測となるが、第4号住居跡の建て替えが行われた可能性もある。なおカマドの煙道部が調査区域外であった。

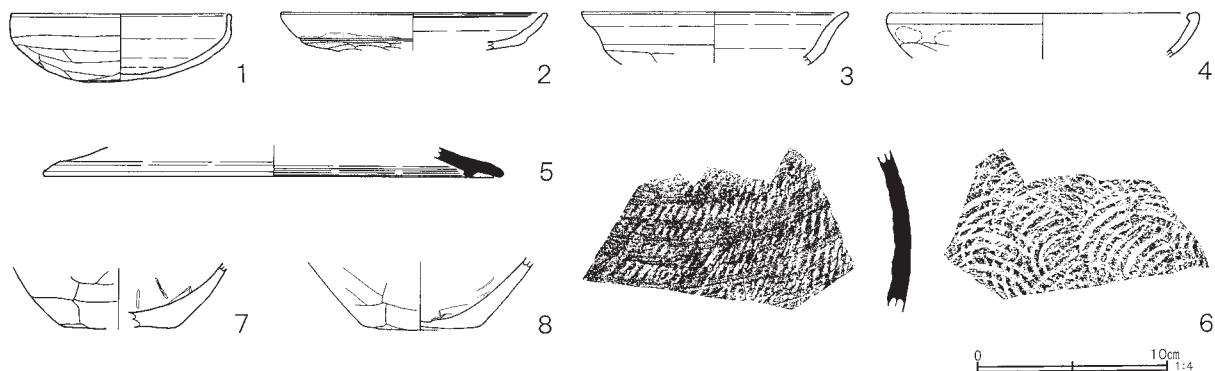
正確な規模は不明であるが、ほぼ8割は確認することができた。検出長軸がおおよそ3.25m、短軸は4.38mを測り、主軸方向はカマドを通るものとしてN-50°-Eを指す。確認面からの深さは最大で0.3～0.5mであった。床面はほぼ平坦であるが若干、西に向かってわずかに傾斜が確認でき、カマド手前ではいくらか凹凸がみられた。覆土は基本土層が5層からなる。ほぼレンズ状に堆積していたことから自然堆積と想定されるが、カマド部分は堆積状況が異なっており、傾斜に沿って層序堆積がなされていた。カマド部分は燃焼部が検出でき、位置は住居のほぼ中央に存在する。粘土で構築されたカマドのそでの一部がカマド右側部分に残存して確認された。大体立ち上がりから23°の緩やかな傾斜で煙道を伝わっていく。燃焼部はカマド手前からの土坑状の落ち込みがあり、比較的緩やかな落ち込みとなっている。一番深い部分の落ち込み部分でもおおよそ12cm程度であった。

この住居跡は第4号住居跡における後世の掘り込みがあるため、その多くが、失われていたり、第4号住居跡によって消失しているが、土師器杯、皿、甕底部や須恵器甕が確認された。うち土師器の一点は身模倣杯、もう一点は暗文系無文杯と考えられる。これらの遺物からこの住居跡の時期は、8世紀初頭と思われる。



第6号住居跡 (第26図)

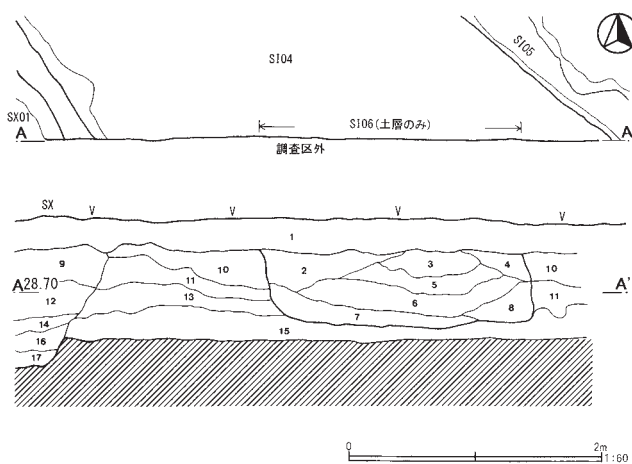
確認面からは10cm程度上部に検出し、おそらく、竪穴式住居跡の端隅の一部の断面だと思われる。近接地に第4、5号住居跡があるため、同時期のものと考えられ、深さから見て、8世紀中ごろから8世紀後半ごろの時期と推定される。



第 2 5 図 第 5 号住居跡出土遺物（R 1 区）

第 5 表 第 5 号住居跡出土遺物観察表（R 1 区）

番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
1	土師器 杯	11.4	3.6	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ 口縁部若干ゆがみ	ABIJN	橙5YR-6/6	良好	80%	
2	土師器 皿	(14.0)	(2.0)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 口辺～体部外面黒色物	BHIJN	外面：褐灰10YR-4/1 内面：橙2.5YR-6/6	良好	20%	
3	土師器 杯	(14.0)	(2.8)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABIJN	橙5YR-6/6	良好	口縁～体部片	
4	土師器 杯	(16.0)	(2.4)	-	口辺部外面指頭圧痕有 体部外面手持ちヘラケズリ 口縁部内湾	ABHN	にぶい赤褐5YR-5/4	良好	口縁～体部片	
5	須恵器 蓋	(24.0)	(1.5)	-	口縁部内面返り	AN	黄灰2.5Y-5/1	良好	口縁部片	
6	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タキ目 内面同心円状当て具痕	ADJN	灰N-5/	良好	胴部片	末野産
7	土師器 甕底部	-	(3.2)	(6.0)	胴下端部外面斜位横位ヘラケズリ	ABIJ	にぶい黄橙10YR-6/3	普通	底部30%	
8	土師器 甕底部	-	3.5	6.0	胴下端部外面斜位横位ヘラケズリ	ABIJN	にぶい赤褐5YR-5/4	良好	底部20%	



第 6 号住居跡（A-A'）（R1 区）

- 表土
- 灰 5Y-4/1(黒褐 2.5Y-3/1 ブロック及び粒子多量)
- 暗灰黄 2.5Y-5/2(黒褐 2.5Y-3/1 粒子多量、かなりゆるい)
- 暗灰黄砂質 2.5Y-5/2
- 暗灰黄 2.5Y-4/2(にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック有、かなりゆるい)
- 灰黄 2.5Y-4/1(にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック有、かなりゆるい)
- 暗灰黄 2.5Y-4/2(土器片含、かなりゆるい)
- 黒褐 2.5Y-3/1(少々シルト質、かなりゆるい)
- 灰オリーブ 5Y-5/3(しまり強)
- オリーブ黒 5Y-3/2(土器片含、しまり弱)
- オリーブ黒 5Y-3/1(土器片含、しまり弱)
- オリーブ黒 5Y-3/2(灰 5Y-4/1 ブロック及び粒子、土器片含、しまり若干弱)
- オリーブ黒 5Y-3/1(ソフトローム土多量、土器片含、しまり若干弱)
- 暗灰黄 2.5Y-4/2(ソフトローム土粒子一部有、しまり強)
- 灰オリーブ 5Y-4/2(土器片含、にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック少量、炭化物少量)
- 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強)
- 黒褐 2.5Y-3/1(ソフトローム土多量)

第 2 6 図 第 6 号住居跡（R 1 区）

第7号住居跡（第27～29図、第6表）

H-5、6、G-6グリッド（R1区）から検出した。

他の遺構との重複関係があり、SX03に切られていた。SX03の下部に切られてはいたが、床面に至ってはSX03に削られていなかった。カマド部分や煙道部が検出され、さらに煙突部分のピットも検出された。

正確な規模は不明であるが、ほぼ8割は確認することができ、これまでの住居跡と比較して、規模がやや大きい。検出長軸がおよそ3.40m、短軸は5.63mを測り、主軸方向はカマドを通るものとしてN-55°-Wを指す。確認面からの深さは最大で0.44mであった。床面はほぼ平坦であるがカマド手前ではいくらか凹凸がみられた。覆土は基本土層がだいたい4層からなる。ほぼ水平状に堆積していたことから自然堆積と想定されるが、カマド部分は堆積状況が異なっており、傾斜に沿って層序堆積がなされていた。また燃焼部付近の土層には炭化物層の塊が存在する。カマド部分は燃焼部が検出でき多量の遺物と共に、土製支脚が利用当時の様相で検出することができた。位置は住居のほぼ中央に存在し、粘土で構築されたカマドのそでが左右に残存して確認され、カマドは大体立ち上がりから18°の緩やかな傾斜で煙道を伝わっていく。燃焼部はカマド手前からの土坑状の落ち込みがあり、比較的緩やかな楕円形の落ち込みとなっている。一番深い部分の落ち込み部分でもおよそ10cm程度であった。カマドの右手には横楕円の貯蔵穴が確認できる。また、すぐ近くには柱穴と考えられるピットが確認できる。同一ピット内で、建て替えが行われたようで、2つの窪みが確認でき、どちらも底部付近の土層は粘土質であった。

遺物は本発掘中の住居跡からは一番の出土量を誇る。検出遺物は、土師器坏、暗文坏、皿、甕、甑、須恵器蓋、甕、短頸壺などが検出された。うち、土師器坏では内外面黒色であったり、暗文坏においてもすべて放射線状暗文であり、かつ内外面に黒色物が確認されており、生活感を確認できる印象である。また、上野産と思われる須恵器蓋からは天井部外面に「×」が確認でき、工房における窯印と考えられる。さらに、土師器甑は転用品であり、甕底に穿孔をし、甑に転用したようである。

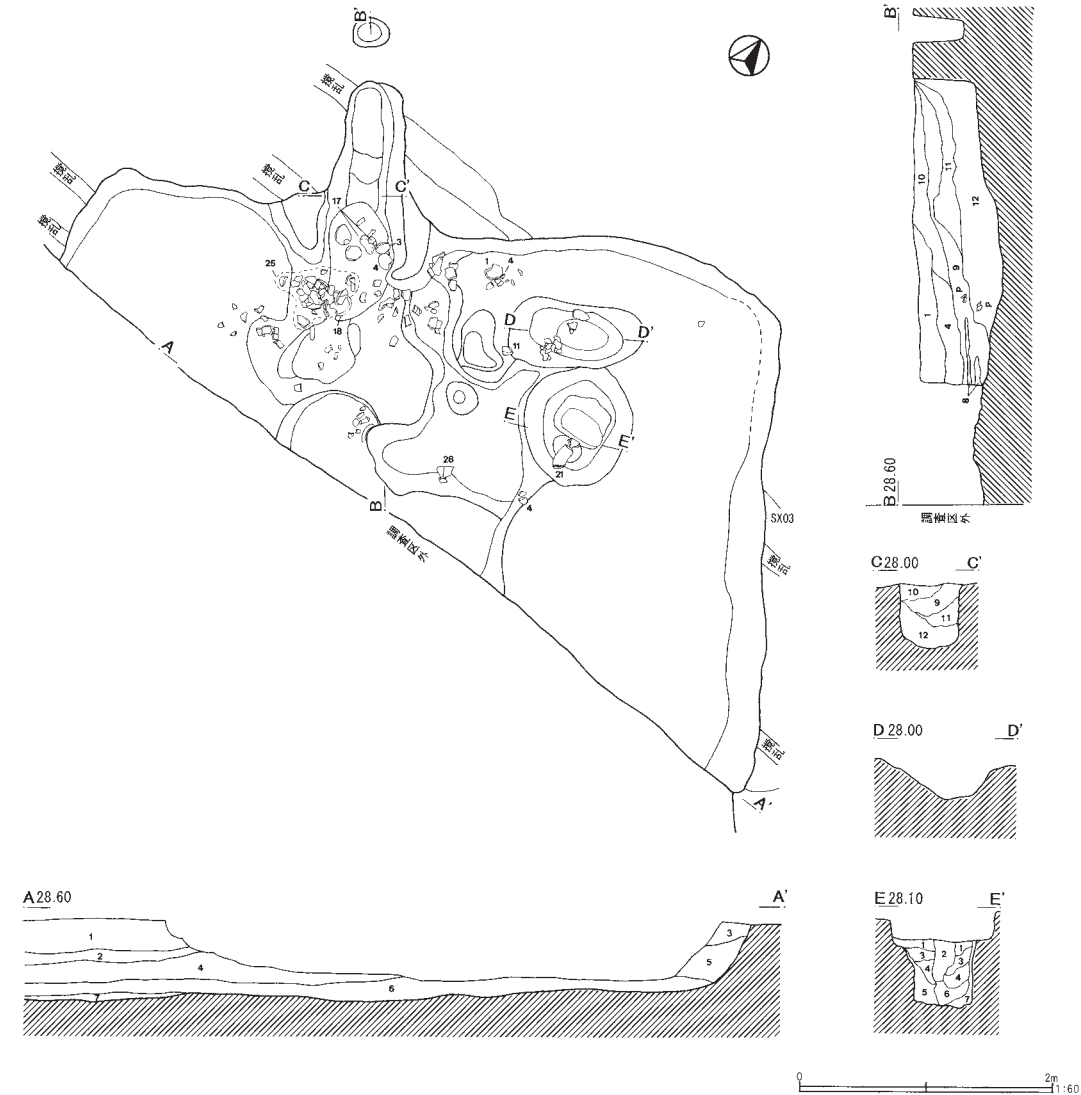
以上のことから、この住居跡の時期は7世紀末～8世紀初頭と思われる。

第6表 第7号住居跡出土遺物観察表（R1区）

番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
1	土師器坏	14.0	4.8	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ 内外面黒色物 口縁部やや内湾	GHJ	にぶい褐7.5YR-5/4	普通	60%	
2	土師器坏	13.2	4.1	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ 内面ミガキ 内外面黒色物 やや厚手	AGIJ	にぶい赤褐5YR-5/4	良好	80%	
3	土師器坏	12.5	3.9	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ 内外面黒色物 口縁部直立的	AJN	明赤褐5YR-5/6	良好	完形	
4	土師器坏	(13.8)	(4.0)	-	口唇部内面沈線、口縁部やや外反 体～底部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文、底部外面黒色物	AJ	橙2.5YR-6/8+M271F2F271:H271	良好	90%	
5	土師器坏	(17.0)	(3.6)	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文、体部外面黒色物 口縁部やや外反	J	橙5YR-6/6	良好	40%	
6	土師器坏	(13.0)	(2.3)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 口辺部内外面黒色物 内面放射状暗文	GJ	褐灰5YR-4/1	普通	口縁～体部片	
7	土師器皿	(18.0)	(2.8)	-	口辺部外面指頭圧痕有 体部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	CHJ	橙5YR-6/6	普通	20%	
8	土師器坏	11.0	3.5	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ 体部内外面黒色物	DIJN	にぶい赤褐5YR-5/4	良好	40%	
9	土師器坏	(13.0)	(3.4)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 内外面黒色物 口縁部内湾	EGJ	にぶい褐7.5YR-5/3	普通	20%	

第6表 第7号住居跡出土遺物観察表（R1区）

番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
10	土師器 杯	(13.0)	(4.0)	-	体部上半内外面指頭圧痕有 体～底部外面手持ちヘラケズリ 底部外面黒色物	AGJMN	橙5YR-6/6	普通	20%	
11	土師器 皿	(8.0)	(4.2)	-	口辺部外面指頭圧痕有 体部外面手持ちヘラケズリ 口縁部大きく外反	GHJN	橙5YR-6/6	良好	30%	
12	土師器 杯	(12.6)	(3.7)	-	体部外面指頭圧痕有 体部外面手持ちヘラケズリ	GJM	にぶい赤褐5YR-4/3	普通	20%	
13	土師器 杯	(12.0)	(2.7)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 口辺部内外面黒色物	EGHJN	にぶい橙7.5YR-6/4	普通	20%	
14	土師器 杯	(15.0)	(3.9)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 厚手	GIJ	橙2.5YR-6/8	良好	20%	
15	土師器 皿	(16.0)	(3.6)	-	体部下半外面手持ちヘラケズリ 口縁部外反	GHJN	橙5YR-6/6	良好	30%	
16	土師器 杯	(12.0)	(3.3)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	GIJN	橙5YR-6/8	普通	20%	



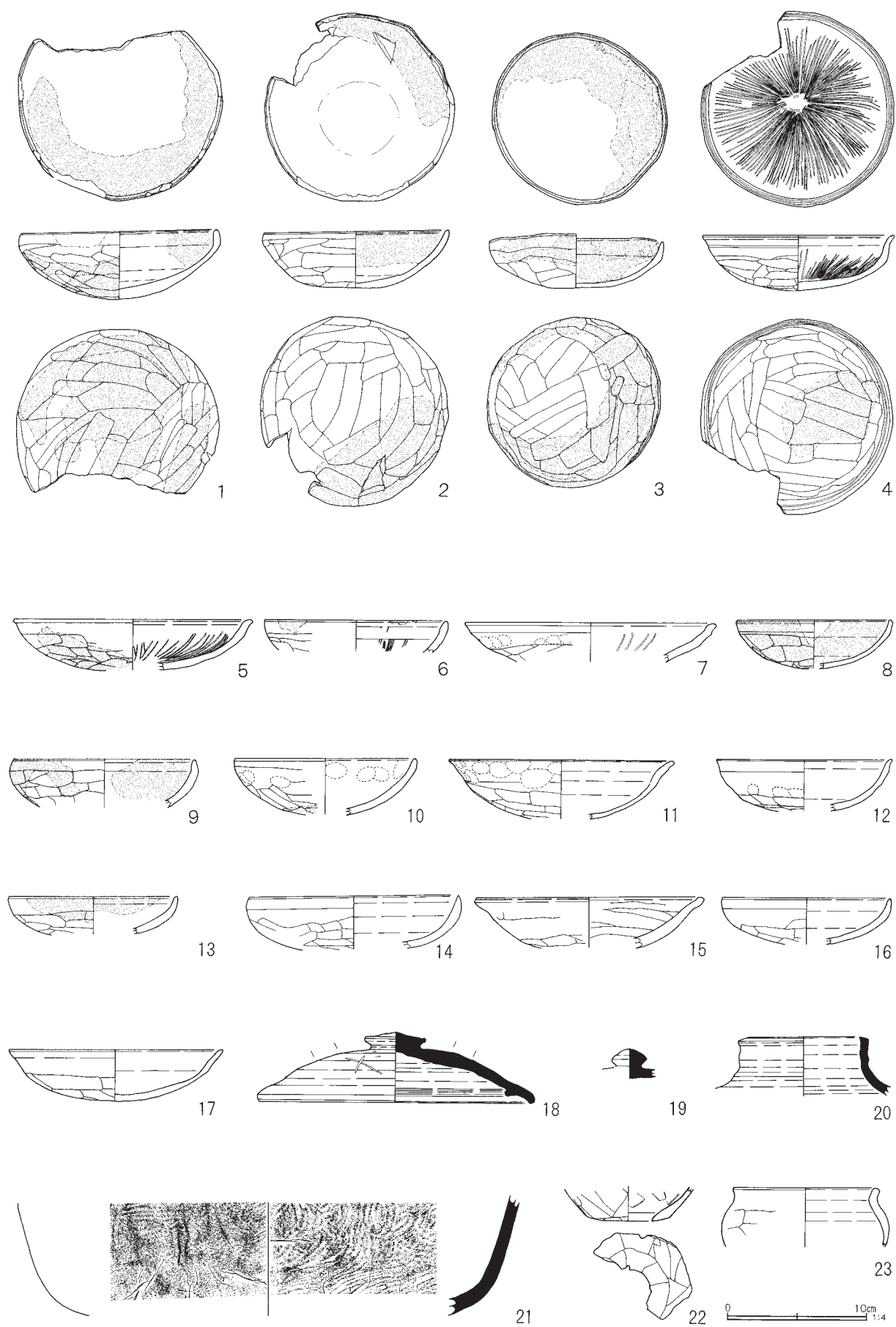
第7号住居跡（A-A'、B-B'、C-C'）（R1区）

1. オリーブ黒粘質 7.5Y-3/2(土器片含)
2. 灰オリーブ黒砂質 5Y-5/2(土器片含)
3. 黒褐砂質 2.5Y-3/1(にぶい黄 2.5Y-6/4 粒子含)
4. オリーブ黒 7.5Y-3/1(土器片、灰オリーブ 5Y-5/2 帯状に有)
5. 暗灰黄 2.5Y-4/2(少々砂質、一部黒褐 2.5Y-3/1 ブロック少量)
6. 灰オリーブ 7.5Y-4/2(ソフトローム土ブロック有、しまり若干弱)
7. 暗灰黄 2.5Y-4/2(炭化物、帯状に有、土器片含)
8. 炭化物層
9. 灰オリーブ砂質 5Y-5/2(炭化物わずかに含む、焼土多量)
10. 暗灰黄 2.5Y-4/2(若干粘質、焼土多量)
11. 黒褐 2.5Y-3/1(にぶい黄 2.5Y-6/4 粒子含)
12. オリーブ黒粘質 7.5Y-3/2(焼土少量、しまっている)

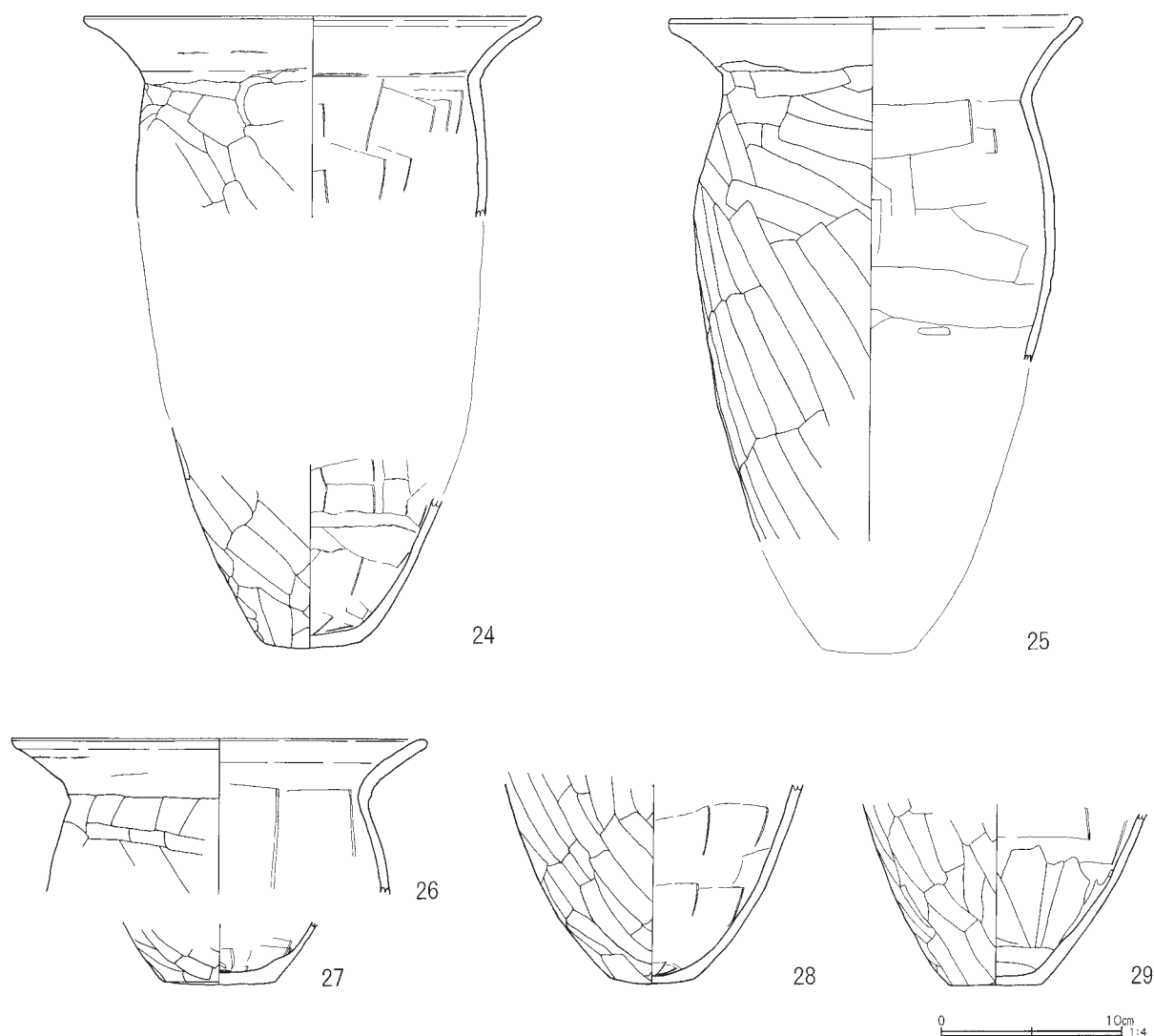
第7号住居跡（D-D'）（R1区）

1. 灰オリーブ 5Y-4/2(オリーブ黒 5Y-3/2、土器片含)
2. オリーブ黒砂質 5Y-3/1(炭化物、一部シルト質、焼土ブロック微量)
3. 灰オリーブ砂質 5Y-5/2(にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック有)
4. 暗灰黄 2.5Y-5/2(土器片、灰黄 2.5Y-6/2 ブロック少量)
5. 暗灰黄 2.5Y-4/2(ソフトローム土ブロック、炭化物少量)
6. 灰オリーブ砂質 5Y-5/2
7. 灰オリーブ 5Y-4/2(にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック有)

第27図 第7号住居跡（R1区）



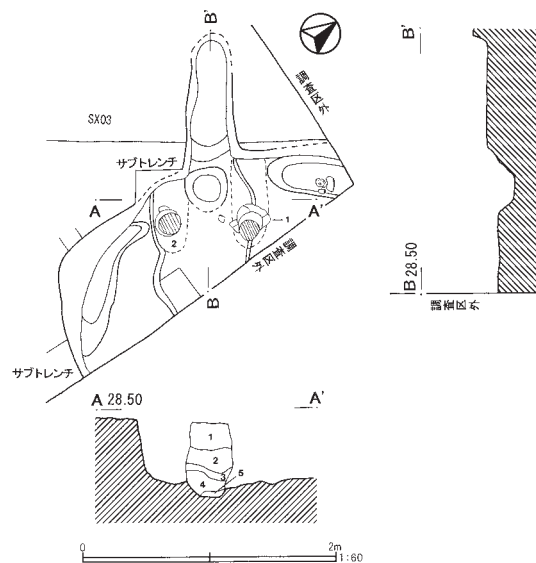
第28図 第7号住居跡出土遺物(1) (R1区)



第29図 第7号住居跡出土遺物(2) (R1区)

第6表 第7号住居跡出土遺物観察表 (R1区)

番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
17	土師器 皿	15.6	3.2	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ	IJN	にぶい橙7.5YR-6/4	普通	70%	
18	須恵器 蓋	19.8	5.0	(鈕径)4.4	擬宝珠鈕 天井部外面回転ヘラケズリ 天井部外面「×」ヘラケズリ 口縁部内面返り	AFGHJN	暗青灰5PB-4/1	良好	95%	上野産?
19	須恵器 蓋	-	(2.1)	(鈕径)(2.5)	擬宝珠鈕 小ぶり	AFG	黄灰2.5Y-5/1	良好	鈕部片	
20	須恵器 短頸壺	(8.0)	(4.0)	-	頸部外面一部わずかに自然釉	IJ	灰白10YR-7/1	良好	口縁～頸部片	東海産
21	須恵器 甕	-	(8.0)	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	FGHN	灰5Y-4/1	良好	胴部片	
22	土師器 転用甕	-	(2.4)	(6.0)	胴下端部外面斜位ヘラケズリ 底部穿孔、甕底部の転用	AJ	にぶい赤褐5YR-5/4	良好	底部20%	
23	土師器 壺	(10.0)	(4.2)	-	胴上半部外面横位ヘラケズリ	EJN	橙5YR-6/6	普通	口縁～胴部片	
24	土師器 甕	(25.0)	(11.2)	5.4	胴上半部外面横位及び、 胴下半部外面斜位ヘラケズリ	ABDG IJN	明赤褐5YR-5/6	良好	40%	
25	土師器 甕		(28.2)	-	胴上半部外面横位及び、 胴中央～下半部外面斜位ヘラケズリ	ABDIJN	にぶい橙5YR-6/4	良好	60%	
26	土師器 甕	(23.0)	(8.5)	-	胴上半部外面横位ヘラケズリ	IJM	橙5YR-6/6	良好	口縁～胴上半部片	
27	土師器 甕	-	(3.5)	(6.0)	胴下端部外面斜位横位ヘラケズリ	J	褐灰7.5YR-4/1	良好	底部50%	
28	土師器 甕	-	(11.0)	4.4	胴下半部外面斜位ヘラケズリ	ABHIJ	にぶい橙7.5YR-6/4	良好	底部100%	
29	土師器 甕	-	(10.0)	6.0	胴下半部外面斜位ヘラケズリ	ABHIJ	外面：にぶい橙7.5YR-6/4 内面：橙5YR-6/8	良好	底部100%	



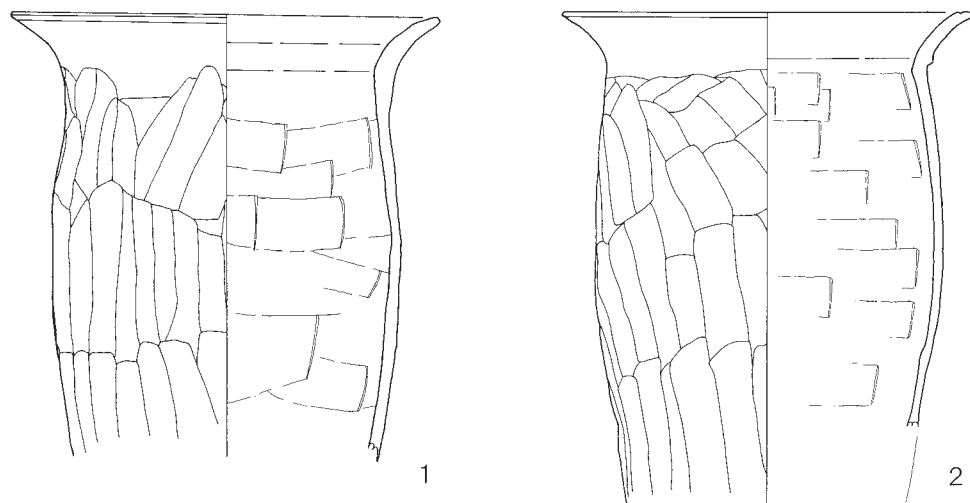
第8号住居跡 (A-A') (R1区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2(にぶい黄 2.5Y-6/4)
2. 灰オリーブ 5Y-4/2
3. 黒褐 2.5Y-3/1(焼土ブロック、炭化物多量)
4. 暗灰黄 2.5Y-4/2(オリーブ黒 5Y-3/1 粒子有、少々焼土有)
5. 黄褐粘質 2.5Y-5/3

第30図 第8号住居跡 (R1区)

居のやや左に存在すると想定される。粘土で構築されたカマドのそでが左右に残存し、そでの補強材として使用した土師器甕が確認された。大体立ち上がりから 15° の緩やかな傾斜で立ち上がり、そこから水平に煙道を伝わっていく。燃焼部はカマド手前からの落ち込みがあり、比較的緩やかな円形の落ち込みとなっている。一番深い部分の落ち込み部分でもおよそ12cm程度であった。カマドの右手には横楕円の規模の大きな貯蔵穴が確認できる。南壁付近には、壁周溝であろう溝跡が確認できた。

この住居跡から検出された遺物は、カマド構築時の補強材として転用されたものを確認することができた。これはカマドのそでの部分に補強するために埋め込まれており、どちらも逆さまで底部は当初から欠損していた。大体7世紀末ごろのものと思われ、住居跡においても大体その時期が妥当であろう。



第31図 第8号住居跡出土遺物 (R1区)

第8号住居跡 (第30、31図、第7表)

F-5、6グリッド (R1区) から検出した。

他の遺構との重複関係があり、SX03に切られていた。カマド煙道部がSX03の下部に切られてはいたが、床面に至ってはSX03に削られていなかった。カマド部分や煙道部が検出されたが、住居跡の本体部分の大半が調査区域外であった。

正確な規模は不明であるが、検出長軸がおよそ2.0m、検出短軸は2.38mを測り、主軸方向はカマドを通るものとして $N-35^{\circ}-W$ を指す。確認面からの深さは最大で0.58mであった。床面はいくぶん凹凸があり、とくにカマド手前ではいくらか凹凸がみられた。覆土は基本土層が3層からなる。ほぼ水平状に堆積していたことから自然堆積と想定されるが、残念ながら、煙道部分はSX03により、土層堆積状況は確認できなかった。カマド部分は燃焼部が検出でき、位置は住

第7表 第8号住居跡出土遺物観察表（R1区）

番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
1	土師器 甕	22.4	(23.3)	-	胴部外面縦位ヘラケズリ カマド補強材として転用	ABDGIJN	橙7.5YR-6/6	普通	60%	
2	土師器 甕	21.6	(26.0)	-	胴部外面縦位ヘラケズリ カマド補強材として転用	ABDIJN	橙7.5YR-6/6	良好	60%	

第9号住居跡（第32、33図、第8表）

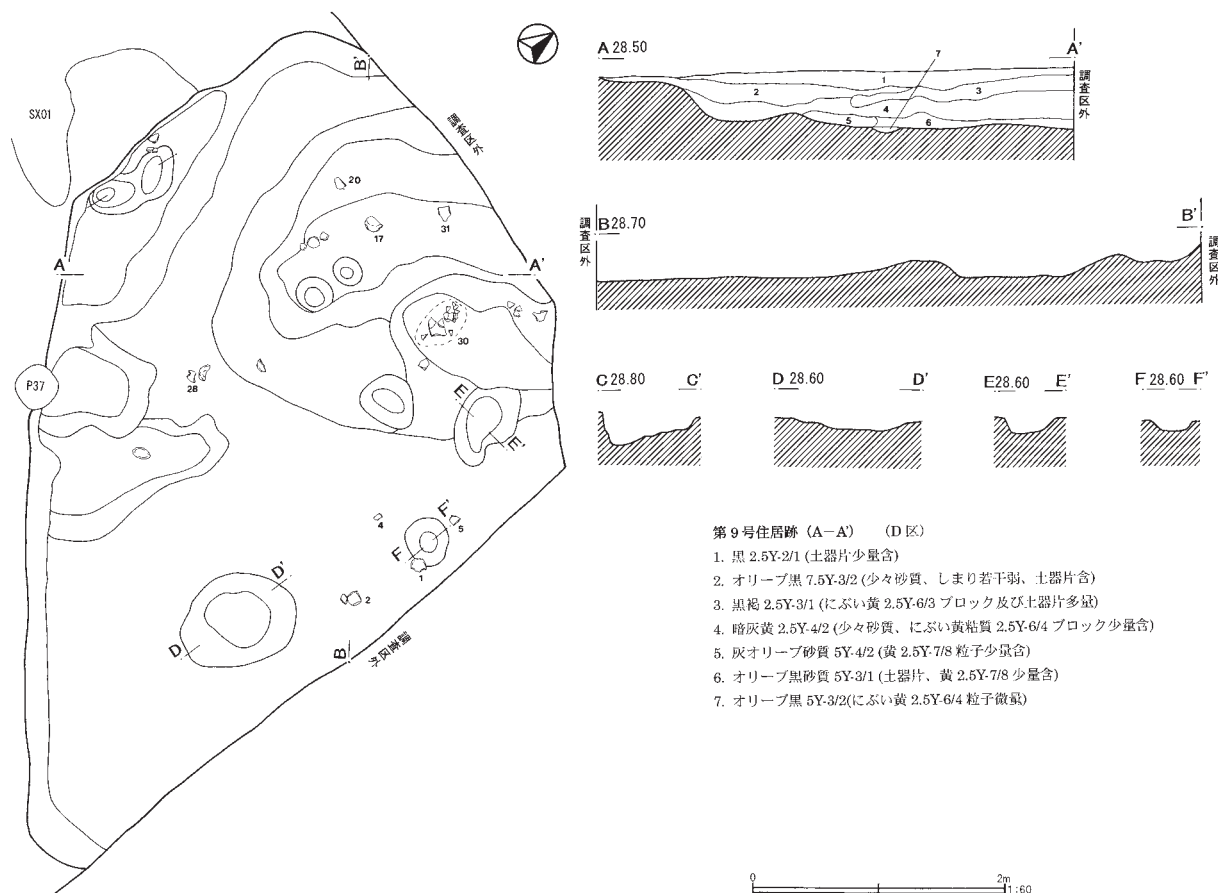
L-6. 7グリッド（D区）から検出した。

他の遺構との重複関係があり、SX01に切られていた。SX01の下部に切られてはいたが、床面に至ってはSX01に削られていなかった。カマドなどの箇所はどうやら調査区域外にあるようである。

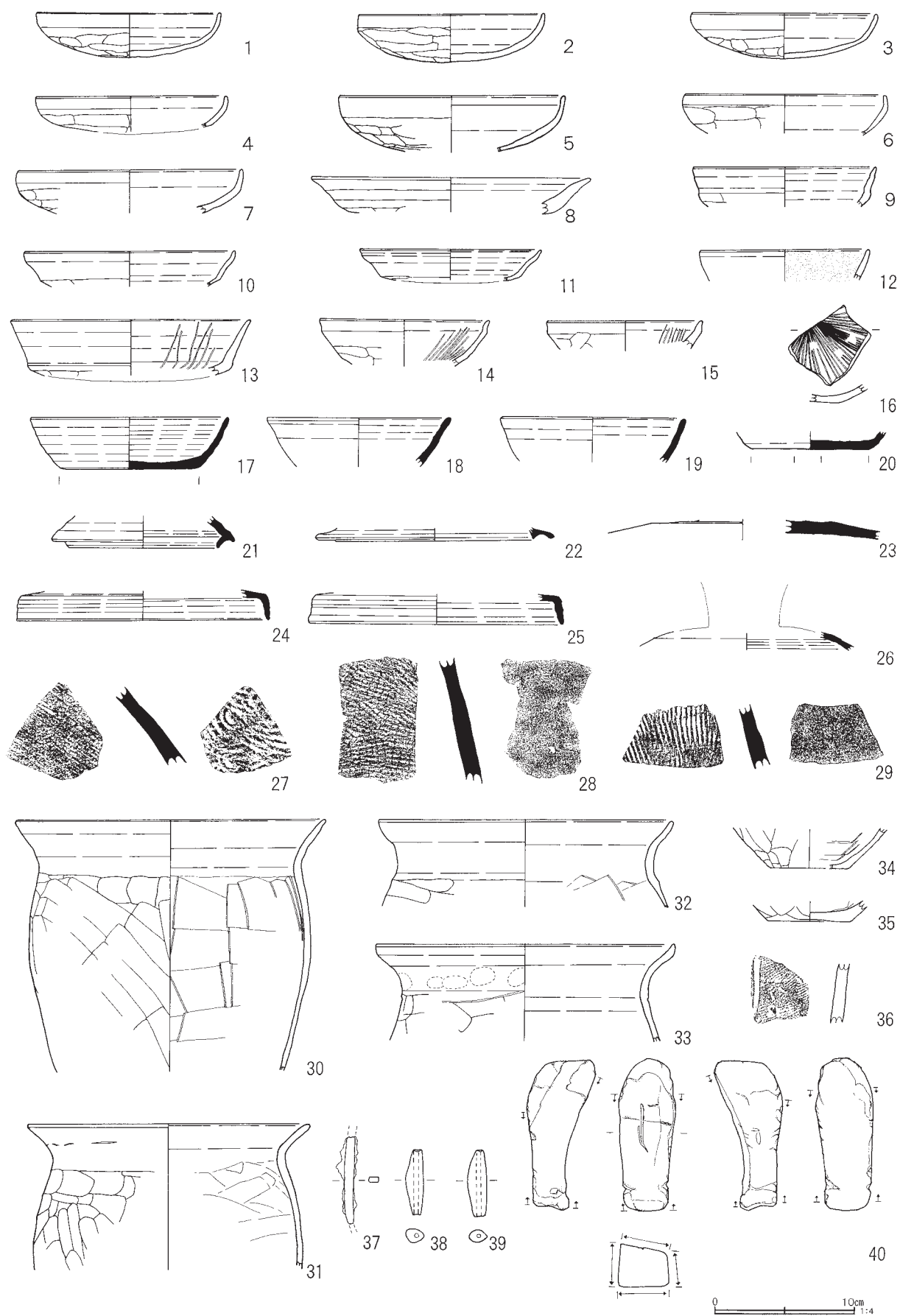
正確な規模は不明であるが、これまでの住居跡と比較して、規模がやや大きい。検出長軸がおよそ5.6m、短軸は4.15mを測る。確認面からの深さは最大で0.38～0.46mであった。床面は北東方向付近を中心に凹凸がみられ、それ以外には南西壁部分には、住居内への昇降口のような段差がみられる。覆土は基本土層が4層からなる。ほぼ水平状に堆積していたことから自然堆積と想定される。また住居内にはピットが数基確認できる。しかし、いずれのピットも、柱穴ではないようで、性格は不明である。

遺物はかなりの量の検出があった。土師器坏、暗文坏、甕、須恵器坏、蓋、短頸壺蓋、長頸瓶、甕、土器以外では鉄釘、土錘も確認されている。土師器坏の種類としては北武蔵型以外に有段口縁坏、身模倣杯、また身模倣杯の暗文坏なども少量ではあるが確認できた。須恵器も南比企産、末野産が少数確認され、東海産も一部入り込んでいた。これらからこの住居跡は8世紀前半ごろの時期と思われる。

なお、この住居跡のカマドはおそらく、北側に位置すると考えられるが、E区の該当するであろう部分には第11号住居跡があり、残念ながら、詳細は不明である。



第32図 第9号住居跡（D区）



第 3 3 图 第 9 号住居跡出土遺物 (D 区)

第8表 第9号住居跡出土遺物観察表（D区）

番号	器種	法量(cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
1	土師器 坏	13.0	3.2	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ	ABGIJN	橙5YR-6/6	良好	90%	
2	土師器 坏	13.2	3.4	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ	ABGIJ	橙5YR-6/6	良好	80%	
3	土師器 坏	13.2	3.4	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ 口縁部やや内湾	ABGIJN	橙5YR-6/6	良好	50%	
4	土師器 坏	13.6	2.8	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ	ABDIJN	橙5YR-6/6	良好	50%	
5	土師器 坏	(16.0)	(4.0)	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ	ABDGIJ	にぶい赤褐5YR-5/4	良好	30%	
6	土師器 坏	(14.2)	(2.8)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 口縁部やや内湾	ABGIJN	橙5YR-6/6	良好	10%	
7	土師器 坏	(16.0)	(3.1)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABDIJN	橙5YR-6/6	良好	20%	
8	土師器 坏	(20.0)	(4.0)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABIJ	橙7.5YR-6/6	普通	口縁～体部片	
9	土師器 坏	(13.0)	(2.8)	-	体部外面手持ちヘラケズリ わずかに有段	BDJ	灰白10YR-8/2	普通	口縁～体部片	
10	土師器 坏	(15.0)	(2.5)	-	底部外面手持ちヘラケズリ	ABDIJ	橙5YR-6/6	良好	10%	
11	土師器 坏	(13.0)	(2.2)	-	底部外面手持ちヘラケズリ 体部外面指頭圧痕有	ABDIJ	にぶい橙7.5YR-6/4	普通	口縁～底部片	
12	土師器 坏	(12.0)	(2.2)	-	内面黒色処理	ABDIJN	黒7.5YR-2/1	良好	口縁～体部片	
13	土師器 坏	(17.0)	(4.0)	-	底部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	ABGIJ	橙5YR-6/6	良好	50%	
14	土師器 坏	(12.0)	(3.2)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	ABGJN	橙2.5YR-6/6	良好	口縁～体部片	
15	土師器 坏	(11.0)	(2.1)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	ABIJ	明赤褐2.5YR-6/6	良好	口縁～体部片	
16	土師器 坏	-	-	-	底部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	ABJ	橙2.5YR-6/6	良好	底部片	
17	須恵器 坏	(14.0)	(3.7)	(8.0)	底部外面全面回転ヘラケズリ	ABGIJ	灰白7.5Y-7/1	良好	70%	未野産
18	須恵器 坏	(13.0)	(3.5)	-	回転ナデ	AFG	黄灰2.5Y-5/1	良好	口縁～体部片	南比企産 20と 同一個体
19	土師質土 器 坏	(13.0)	(3.2)	-	回転ナデ、ロクロ土器	ABDI	にぶい黄橙10YR-7/3	普通	口縁～体部片	
20	須恵器 坏	(10.6)	(1.2)	8.4	底部外面周辺回転ヘラケズリ	ABFG	褐灰10YR-6/1	良好	底部50%	南比企産 18と 同一個体
21	須恵器 蓋	(13.0)	(2.2)	-	口縁部内面返り やや器高が高い	ABI	灰白2.5Y-7/1	良好	口縁部片	
22	須恵器 蓋	(17.0)	(0.9)	-	口縁部内面返り	ABGH	灰5Y-5/1	良好	口縁部片	
23	須恵器 蓋?	-	(1.4)	-	天井部外面回転ヘラケズリ	ABIN	外面：黄灰2.5Y-4/1 内面：褐灰10YR-6/1	良好	天井部30%	
24	須恵器 短頸壺 蓋	(18.0)	(2.1)	-		ABGIJ	黄灰2.5Y-6/1	良好	口縁部10%	未野産
25	須恵器 短頸壺 蓋	(18.0)	(2.1)	-		ABIN	黄灰2.5Y-6/1	良好	口縁部10%	未野産
26	須恵器 長頸瓶	(14.4)	(1.2)	-	胴部外面自然釉	ABG	灰白10YR-7/1	良好	胴部片	東海産
27	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	AGIN	灰N-4/	良好	胴部片	
28	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面無文状当て具痕	AGI	黄灰2.5Y-6/1	良好	胴部片	
29	須恵器 甕	-	(4.5)	-	外面平行タタキ目 内面無文状当て具痕	AG	灰N-5/	良好	胴部片	
30	土師器 甕	22.0	(18.0)	-	胴上半部外面横位及び、 胴中央部外面斜位ヘラケズリ	ABIJN	橙2.5YR-6/6	良好	口縁～胴中央部50%	
31	土師器 甕	(20.0)	(10.4)	-	胴上半部外面横位斜位ヘラケズリ	ABGIJ	橙2.5YR-6/6	普通	口縁～胴上半部20%	
32	土師器 甕	(21.0)	(6.2)	-	胴上半部外面横位ヘラケズリ	ABGIJN	明赤褐2.5YR-5/6	良好	口縁～胴上半部20%	
33	土師器 甕	(21.2)	(6.9)	-	胴上半部外面横位ヘラケズリ 外面口辺部指頭圧痕	ABDIJ	橙2.5YR-6/8	良好	口縁～頸部60%	
34	土師器 甕	-	(2.8)	(5.6)	胴下端部外面横位斜位ヘラケズリ	ABIJ	にぶい赤褐5YR-5/4	普通	底部片	
35	土師器 甕	-	(1.4)	(6.0)	胴下端部外面横位斜位ヘラケズリ	ABIJ	外面：黒褐10YR-3/1 内面：にぶい赤褐5YR-5/4	普通	胴～底部片	
36	縄文 土器 深鉢	-	-	-			にぶい橙7.5YR-6/4	普通	胴部片	加曽利EⅡ式?
37	鉄釘	長:(6.3)	幅:0.3～0.6	厚:0.4			にぶい褐7.5YR-5/4	-	頭部先端欠損	
38	土錘	長:4.6	幅:1.3	孔:0.3		ABDIJ	灰褐7.5YR-6/2	良好	完形	
39	土錘	長:4.6	幅:1.3	孔:0.3		ABIJ	褐灰10YR-4/1	良好	完形	
40	砥石	長:11.0	幅:3.1～4.0	厚:2.5～4.2	擦痕		灰黄2.5Y-7/2	-	完形	チャート

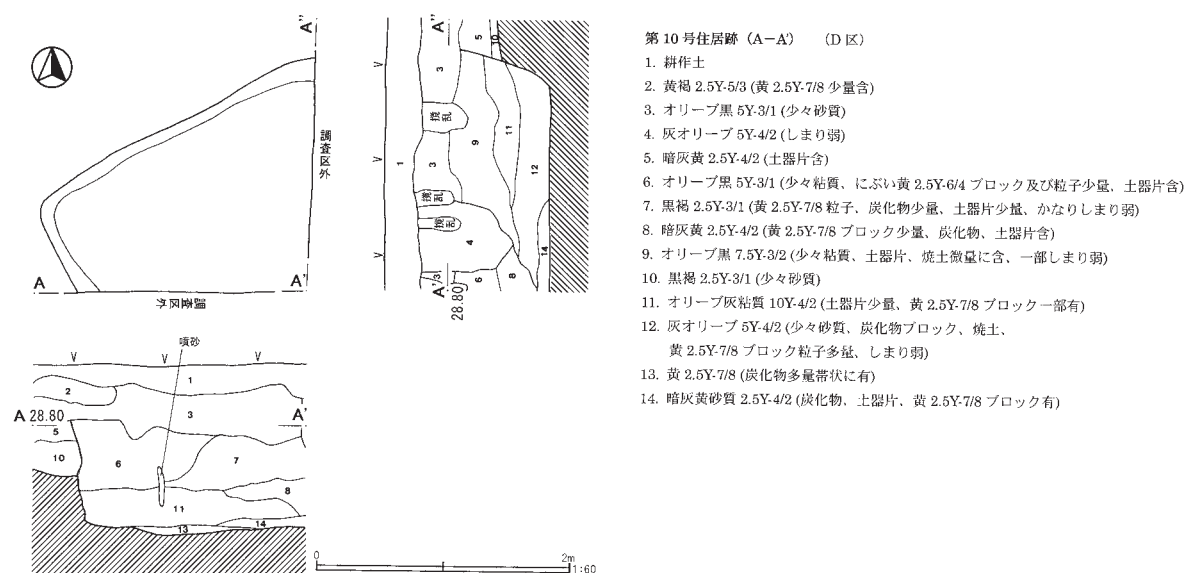
第10号住居跡（第34、35図、第9表）

L-8グリッド（D区）から検出した。

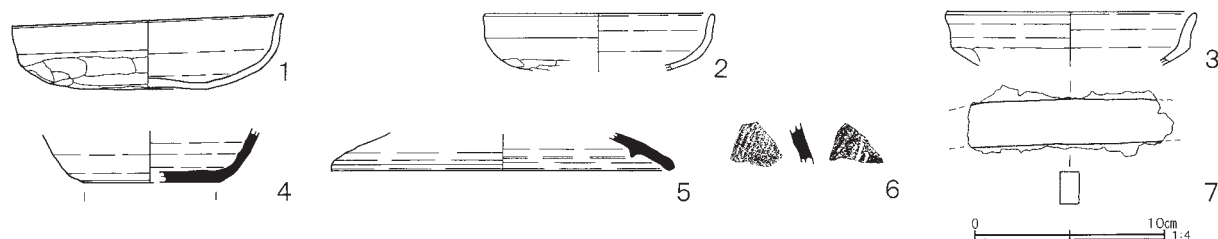
他の遺構との重複関係はなかったが、住居跡の隅の部分しか検出されず、大半は調査区域外だと推測される。

正確な規模は不明であるが、検出長軸がおおよそ2.43m、短軸は1.60mを測り、確認面からの深さは最大で0.40～0.45mであった。床面はほぼ平坦である。覆土は基本土層が3層からなる。レンズ状に堆積していたことから自然堆積と想定されるが、床面から2層上の層は厚く堆積していることから、短時間で埋設したようである。

この住居跡からの遺物は土師器杯、須恵器杯、蓋などが出土した。8世紀後半が主体で、一部の土師器杯は8世紀中ごろにまで下がることのできるものもある。須恵器も末野産、南比企産がどちらも確認できた。この住居跡の主体時期は大体8世紀末ごろになると推測される。



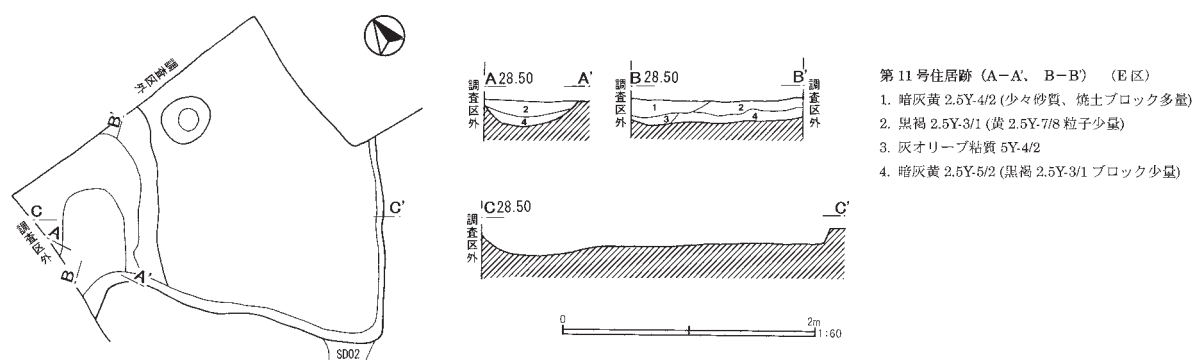
第34図 第10号住居跡（D区）



第35図 第10号住居跡出土遺物（D区）

第9表 第10号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
1	土師器 杯	14.2	3.5	6.0	体～底部外面手持ちヘラケズリ	ABIJN	橙5YR-6/6	良好	70%	
2	土師器 杯	(13.0)	(3.0)	-	体部外面指頭圧痕有 底部外面手持ちヘラケズリ	ABIJN	明赤褐5YR-5/6	良好	10%	
3	土師器 杯	(13.0)	(2.8)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABHIJN	橙5YR-6/6	良好	口縁～体部片	
4	須恵器 杯	-	(2.7)	(7.0)	底部外面回転ヘラケズリ 外面ミガキ	FN	黄灰2.5Y-5/1	良好	体～底部30%	南比企産
5	須恵器 蓋	(18.0)	(2.0)	-	口縁部内面返り	AND	褐灰10YR-6/1	良好	口縁部片	未野産
6	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	AGN	灰5Y-4/1	良好	胴部片	
7	鉄製品	長:(10.3)	幅:2.3	厚:1.0			にぶい褐7.5YR-6/3	-	-	



第36図 第11号住居跡 (E区)

第11号住居跡 (第36図)

K-6. 7グリッド (E区) から検出した。

他の遺構との重複関係があり、第2号溝跡を切っていた。この住居跡はカマド部分と煙道部の一部が検出されているがそれ以外は調査区域外にある。

正確な規模は不明であるが、検出長軸がおよそ1.42m、短軸は2.90mを測り、主軸方向はカマドを通るものとしてS-30°-Wを指し、今回の調査では一例のみの南向きのカマドである。確認面からの深さは最大で0.18mであり、比較的浅い。床面はほぼ平坦であるがカマド手前ではいくらか凹凸がみられた。覆土は基本土層が2層からなる。ほぼ水平状に堆積していたことから、自然堆積と言って差し支えないだろう。ほかにピットが1基確認できたが、柱穴ではなく、性格は不明である。

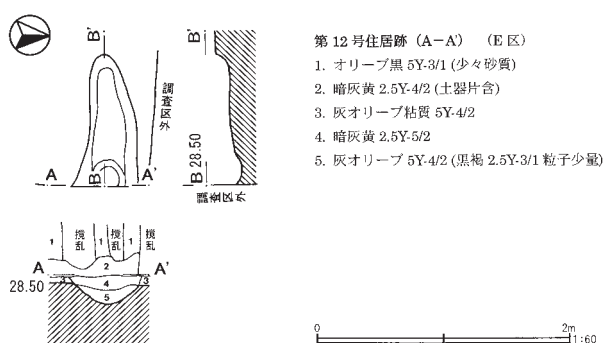
この住居跡からは、土師器、須恵器片は検出されたが、残念ながら図示不可能なものであった。

第12号住居跡 (第37図)

J-6グリッド (E区) から検出した。

他の遺構との重複関係はなく、検出できた遺構は、カマドの煙道部のみで、それ以外は調査区域外であった。

正確な規模は不明であるが、検出長軸がおよそ1.50m、短軸は0.50mを測り、主軸方向はカマドを通るものとしてN-90°-Wを



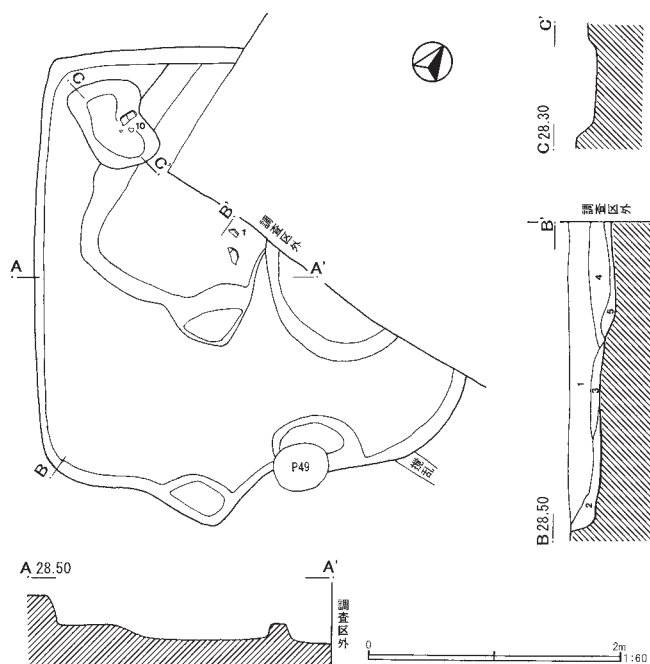
第37図 第12号住居跡 (E区)

指す。確認面からの深さは最大で0.2mであった。カマド底部は煙道のため、西にむかって、 13° の傾斜で立ち上がっている。覆土は全部で2層からなる。ほぼレンズ状に堆積していたことから自然堆積と想定される。カマド部分は燃焼部が検出でき、確認された。燃焼部からは、土師器甕片が数点検出でき、同一個体と思われる胎土であったが、復元できず、図示できなかった。

第13号住居跡（第38、39図、第10表）

J-7、8グリッド（E区）から検出した。

他の遺構との重複関係はないが、カマド部分等を含め住居の一部が、調査区域外であった。



第13号住居跡（B-B'）（E区）

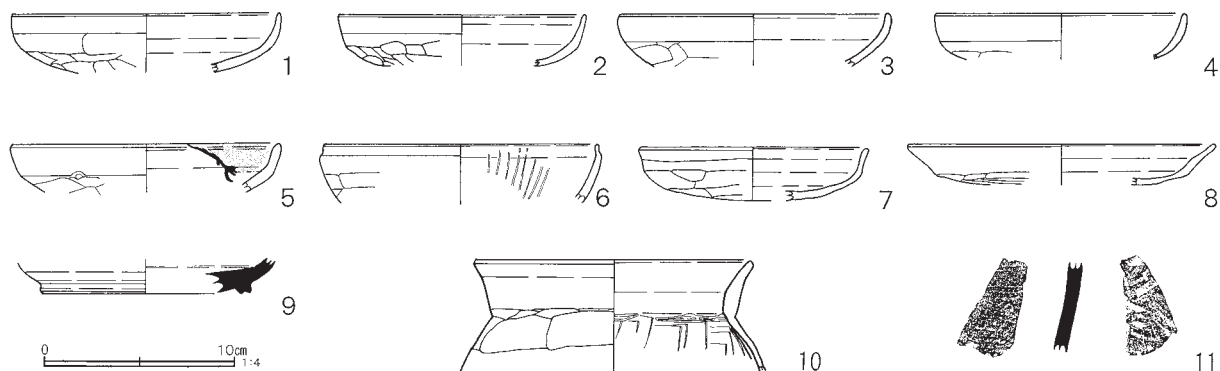
1. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (土器片、炭化物、しまり強)
2. 暗灰黄 2.5Y-5/2 (黄 2.5Y-7/8 多量)
3. 灰オリーブ 5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 多量に含)
4. 黄褐粘質 2.5Y-5/3 (炭化物多量、黄 2.5Y-7/8 少量含)
5. 灰オリーブ 5Y-4/2 (焼土多量、にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック少量)

第38図 第13号住居跡（E区）

部分は調査区域外であることから、土層堆積状況は確認できなかった。ピットが1基確認でき、柱穴と考えられる。

遺物は土師器坏(一部燈明皿)、暗文坏、皿、小型壺、須恵器甕、高台盤が確認できた。これらの状態からこの住居の時期は大体8世紀前半ごろと思われる。

正確な規模は不明であるが、検出長軸がおおよそ3.68m、短軸は3.35mを測り、主軸方向はカマドの検出がないが、北西方向を向くと想定される。確認面からの深さは最大で0.22~0.28mであった。床面はいくぶん凹凸があり、とくに土坑がある北西方向で凹凸がみられた。住居内には2基の土坑が確認でき、うち北西の1基は一部が調査区域外であるが、長方形を呈し、検出長軸が2m、検出短軸が1.5mである。深さは床面からおおよそ0.15mである。それに隣接する土坑も半分が調査区域外であるが、楕円形を呈すると思われる。検出長軸は1.3m、検出短軸は0.5m、深さは床面から0.45mであり、先の土坑に比べ、かなり深い。2基とも遺物量が少ないことから、性格不明である。覆土は基本土層が5層からなる。ほぼ水平状に堆積していたことから自然堆積と想定されるが、残念ながら、煙道部



第 39 図 第 13 号住居跡出土遺物（E 区）

第 10 表 第 13 号住居跡出土遺物観察表

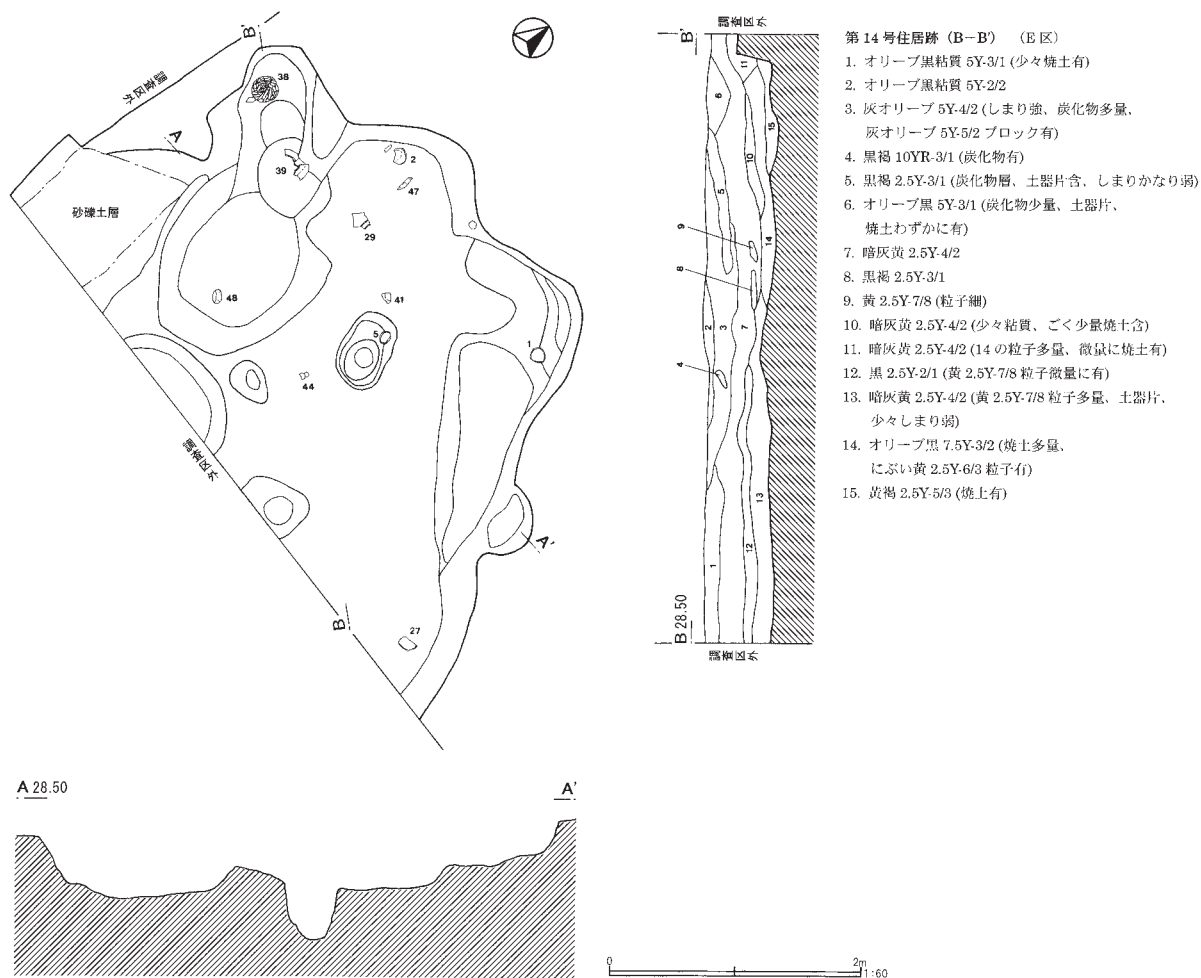
番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
1	土師器 杯	(14.0)	(3.1)	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ	ABGIJN	橙5YR-6/6	良好	30%	
2	土師器 杯	(13.0)	(2.7)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 口縁部やや直立	ABGIJN	橙5YR-6/6	良好	30%	
3	土師器 杯	(14.0)	(2.7)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 口縁部やや内湾	ABIJN	橙5YR-6/6	良好	30%	
4	土師器 杯	(13.0)	(2.4)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABIJN	にぶい橙7.5YR-6/4	普通	口縁～体部片	
5	土師器 杯	(14.0)	(2.5)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 内面油煙付着	ABIJN	橙5YR-6/6	良好	口縁～体部片	灯明皿？
6	土師器 杯	(14.4)	(3.1)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	ABIJN	橙2.5YR-6/8	良好	口縁～体部片	
7	土師器 杯	(12.0)	(2.8)	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ	ABIJN	にぶい橙7.5YR-6/4	普通	10%	
8	土師器 皿	(16.0)	(2.1)	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ	ABIJN	橙5YR-6/6	良好	30%	
9	須恵器 高台盤	-	(1.8)	(11.0)	底部出尻	ABN	灰白2.5Y-7/1	良好	高台部片	未野産
10	土師器 小型壺	(14.6)	(5.8)	-	胴上半部外面横位ヘラケズリ	ABIJ	にぶい赤褐5YR-5/4	良好	口縁～胴上半部30%	
11	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	ABN	黄灰2.5Y-5/1	良好	胴部片	

第 14 号住居跡（第 40～42 図、第 11 表）

K-7、8、J-7、8グリッド（E 区）から検出した。

他の遺構との重複関係はないが、住居の一部が調査区域外であった。

正確な規模は不明であるが、長軸がおよそ 4.70m、短軸は 3.62m を測る。主軸方向はカマドを通るものとして N-60°-W を指し、確認面からの深さは最大で 0.54m であった。床面はほぼ平坦であり、カマド手前には直径 1.2m の楕円上の土坑があり、その南には一部調査区域外だが、楕円形と推定される土坑がもう一基確認された。また、南西隅においては、噴砂による影響なのか一部床面が砂質土の箇所があった。基本的な覆土は全部で 8 層からなる。一部攪乱も混入していたが、木の根によるものと思われる。土層はほぼレンズ状に堆積していたことから自然堆積と想定されるが、カマド部分は 3 層にわたって上面からの崩落により住居内に向かって堆積したことが分かる。カマド部分は燃焼部が検出でき、粘土で構築されたカマドのそでの一部が残存しており、カマド左手のそでは構築時の補強材として転用された甕を確認するができた。一個体をそのまま逆さまに転用したもののように、底部が欠損していた。カマドは中央の位置にあり、立ち上がりからの傾斜はほとんど見られないで煙道を伝っていく。燃焼部は土坑上にやや深みがあり、床面からはおよそ 10cm 程度の高低がある。ピットとしては 3 基検出され、うち一基は柱穴と想定される。なお、北東壁については住居への出入り口として利用した形で段



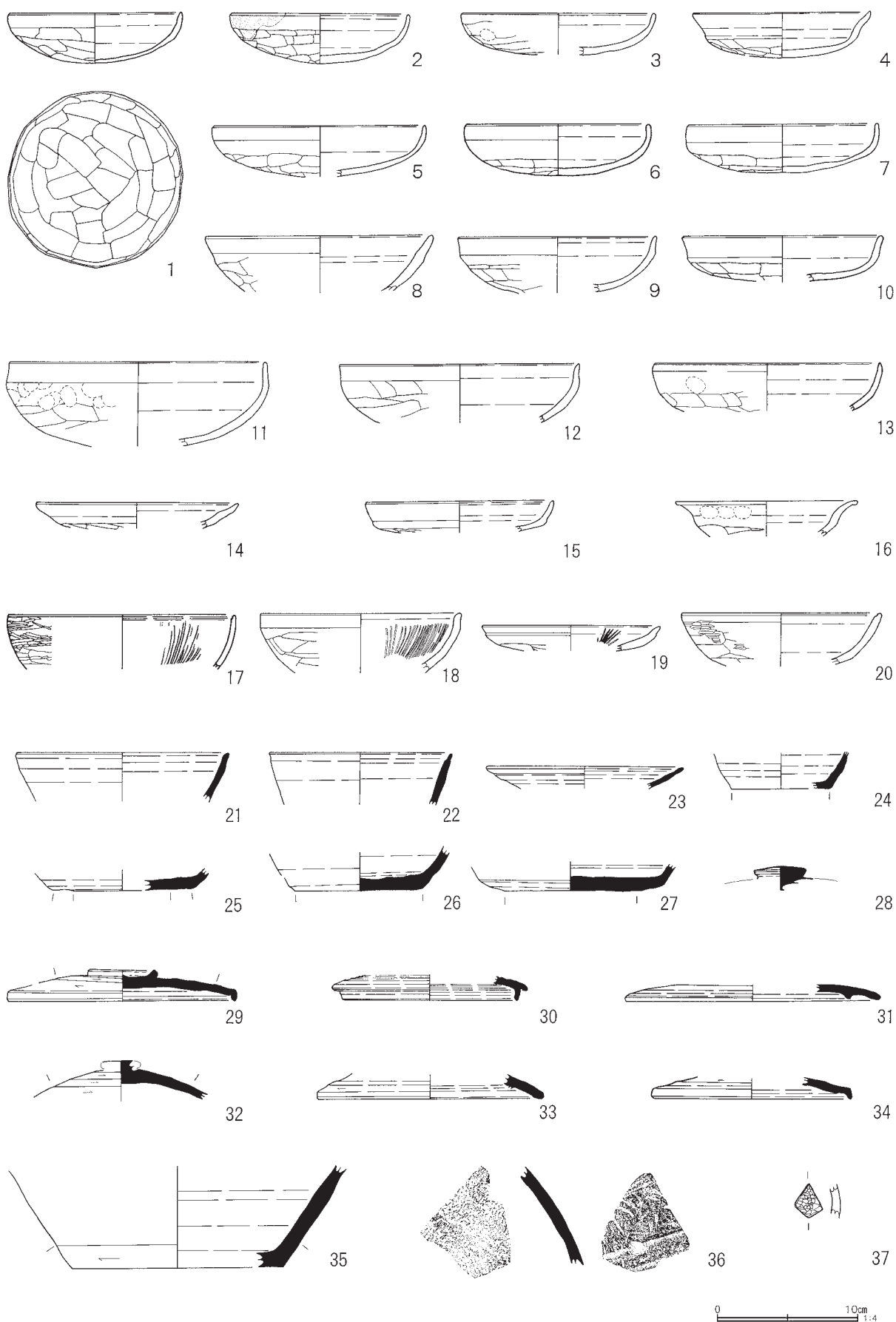
第 40 図 第 14 号住居跡 (E 区)

差が確認された。

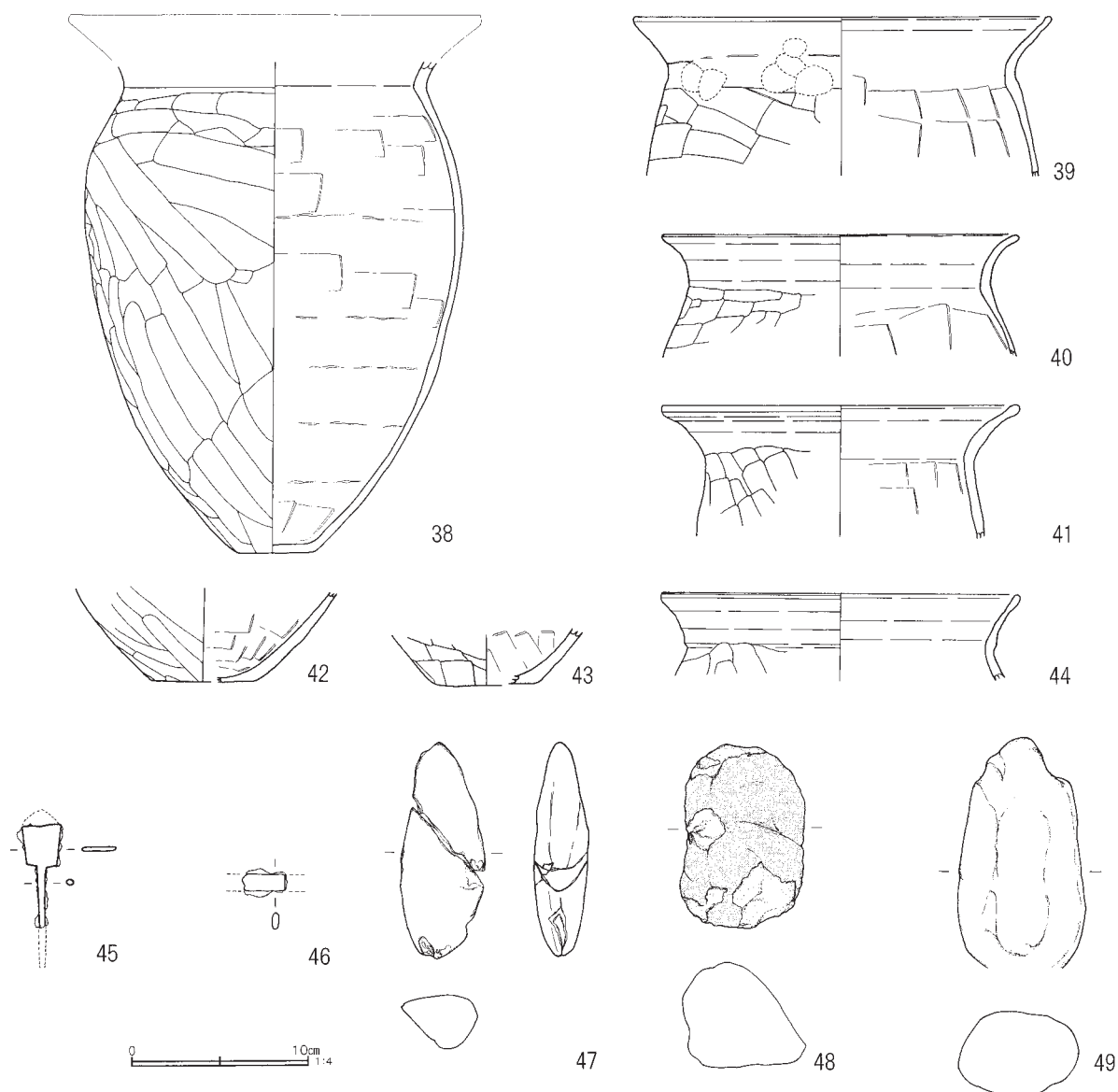
遺物はカマド付近を中心に多量に出土した。土師器杯、暗文杯、皿、甕、須恵器杯、皿、椀、蓋、甕、土器以外では刀子、流れ込みと思われる白磁胴部片が確認されている。なお、須恵器においてはほぼすべてが末野産であった。土師器杯は北武蔵型以外に身模倣杯、有段口縁杯、暗文系無文杯などがわずかなではあるが含まれている。これらの結果から、この住居の時期は大体 7 世紀後半に位置すると思われる。

第 11 表 第 14 号住居跡出土遺物観察表 (E 区)

番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
1	土師器杯	12.2	3.6	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ	ABG1J	橙 5YR-6/6	良好	完形	
2	土師器杯	12.6	3.6	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ 口縁～口辺部外面黒色物	AB1JN	橙 5YR-6/6	良好	90%	
3	土師器杯	(13.6)	(3.0)	-	体部外面指頭圧痕有 体～底部外面手持ちヘラケズリ	AB1	にぶい橙 7.5YR-6/4	良好	30%	
4	土師器杯	14.6	3.2	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ 口縁部外反	ABDIJ	橙 5YR-6/6	良好	60%	
5	土師器杯	(15.0)	(3.6)	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ	AB1J	橙 7.5YR-6/6	良好	60%	
6	土師器杯	(13.0)	(3.6)	-	底部外面手持ちヘラケズリ 口縁部内湾	AB1JN	にぶい橙 7.5YR-6/4	良好	50%	
7	土師器杯	13.4	3.4	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ	AB1J	橙 5YR-6/6	良好	60%	



第 4 1 图 第 1 4 号住居跡出土遺物(1) (E 区)



第 4 2 図 第 1 4 号住居跡出土遺物(2) (E 区)

第 1 1 表 第 1 4 号住居跡出土遺物観察表 (E 区)

番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
8	土師器 坏	(16.0)	(4.0)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABJ	橙7.5YR-7/6	良好	20%	
9	土師器 坏	(14.0)	(4.0)	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ	AB	橙5YR-6/6	良好	50%	
10	土師器 坏	(14.0)	(3.2)	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ	ABIJ	橙5YR-6/6	良好	40%	
11	土師器 坏	(18.0)	(6.0)	-	体部外面指頭圧痕有 体～底部外面手持ちヘラケズリ 口縁部内湾	ABIJ	橙5YR-6/6	良好	50%	
12	土師器 坏	(17.0)	(4.1)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABDIJ	にぶい橙7.5YR-6/4	普通	20%	
13	土師器 坏	(16.0)	(3.4)	-	体部外面指頭圧痕有 体部外面手持ちヘラケズリ	ABIJ	にぶい橙7.5YR-6/4	普通	20%	
14	土師器 皿	(14.4)	(1.8)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 平底・浅身	ABJN	橙2.5YR-6/8	良好	10%	
15	土師器 坏	(13.4)	(2.2)	-	底部外面手持ちヘラケズリ	ABIJ	にぶい橙7.5YR-6/4	普通	10%	
16	土師器 皿	(13.0)	(2.5)	-	口辺部外面指頭圧痕有 体部外面手持ちヘラケズリ	ABDJN	橙5YR-6/6	良好	10%	
17	土師器 坏	(16.0)	(3.9)	-	体部外面手持ちヘラケズリ・ミガキ 内面放射状暗文	ABJ	橙2.5YR-6/8	良好	口縁～体部片	
18	土師器 坏	(14.0)	(4.2)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	ABDIJN	橙5YR-6/6	良好	20%	

第 1 1 表 第 1 4 号住居跡出土遺物観察表（E 区）

番号	器種	法量(cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
19	土師器 皿	(12.6)	(1.8)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	ABJ	橙2.5YR-6/8	良好	口縁～体部片	
20	土師器 坏	(14.0)	(3.7)	-	体部外面手持ちヘラケズリ・ミガキ 内面消耗著しい	ABN	明赤褐2.5YR-5/6	良好	10%	
21	須恵器 椀	(15.0)	(3.5)	-		ABFN	黄灰2.5Y-5/1	良好	口縁～体部片	南比企産
22	須恵器 小型鉢	(13.0)	(3.7)	-	口唇部先細り	ABN	黄灰2.5Y-6/1	良好	口縁～体部片	未野産?
23	須恵器 皿	(14.0)	(1.5)	-	口縁部わずかに外反	ABDGN	黄灰2.5Y-6/1	良好	口縁～体部片	未野産
24	須恵器 坏	-	(2.6)	(7.0)	底部外面回転ヘラケズリ	ABFGN	黄灰2.5Y-6/1	良好	体～底部片	未野産
25	須恵器 坏	-	(1.5)	(10.0)	底部外面周縁回転ヘラケズリ	BDFGN	灰白2.5Y-7/1	良好	底部10%	
26	土師質土 器 坏	-	2.7	9.0	底部外面回転ヘラケズリ	ABDJN	にぶい橙7.5YR-6/4	普通	60%	未野産
27	須恵器 坏	-	(2.0)	9.4	底部外面回転ヘラケズリ	ABGN	灰白10YR-8/1	良好	底部60%	未野産
28	須恵器 蓋	-	(1.6)	(鈕径)0.8	ボタン状鈕	ABJN	黄灰2.5Y-5/1	良好	鈕100%	未野産?
29	須恵器 蓋	(16.0)	(2.2)	-	環状鈕 天井部外面回転ヘラケズリ	ABDH	外面：黄灰2.5Y-4/1 内面：にぶい黄橙10YR-7/3	良好	70%	
30	須恵器 蓋	(12.4)	(1.7)	-	口縁部内面返り	ABJ	灰5Y-5/1	良好	10%	未野産
31	須恵器 蓋	(18.0)	(1.1)	-	口縁部内面返り	ABGN	黄灰2.5Y-5/1	良好	10%	未野産
32	須恵器 蓋	-	(鈕高)0.6	-	ボタン状鈕 天井部外面回転ヘラケズリ	ABGN	灰白10YR-7/1	良好	天井部60%	未野産
33	須恵器 蓋	(16.0)	(1.7)	-	口縁部内面返り	ABGN	黄灰2.5Y-6/1	普通	口縁部片	未野産
34	須恵器 蓋	(14.0)	(1.5)	-	天井部外面回転ヘラケズリ	BN	褐灰10YR-6/1	普通	口縁部10%	未野産
35	須恵器 甕	-	(7.0)	(15.0)	胴下端部外面ヘラケズリ	ABGN	赤灰2.5YR-5/1	良好	胴下半～底部片	
36	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	ABN	外面：褐灰7.5YR-4/1 内面：灰白10YR-7/1	普通	胴部片	
37	白磁	-	-	-	流れ込みか?		明オリープ灰2.5GY-7/1	良好	胴部片	
38	土師器 甕	(胴径) (21.2)	(27.3)	4.6	胴上半部外面横位及び、 胴中央部～下半部外面斜位ヘラケズリ	ADEIJN	橙2.5YR-6/6	良好	70%	
39	土師器 甕	(23.4)	(9.0)	-	頸部外面指頭圧痕有 胴上半部外面横位ヘラケズリ	ABIJN	橙7.5YR-7/6	良好	30%	
40	土師器 甕	(20.0)	(7.0)	-	胴上半部外面横位ヘラケズリ	ABHJ	橙7.5YR-6/6	普通	口縁～胴上半部片	
41	土師器 甕	(20.0)	(7.4)	-	胴上半部外面斜位ヘラケズリ 口縁部大きく外反	ABGJ	橙2.5YR-6/8	良好	口縁～胴上半部片	
42	土師器 甕	-	(5.1)	(6.0)	胴下端部外面斜位ヘラケズリ	BDIJ	にぶい橙7.5YR-6/4	普通	底部80%	
43	土師器 甕	-	(6.0)	-	胴下端部横位ヘラケズリ	ABJ	にぶい褐7.5YR-5/3	良好	底部片	
44	土師器 甕	(20.0)	(4.6)	-	胴上半部外面斜位ヘラケズリ	ABIJ	橙5YR-6/8	良好	口縁～胴上半部片	
45	鉄鏃	長:5.7	幅:0.4～2.2	厚:0.3～0.35	頭部及び、先端部欠損		にぶい黄橙10YR-6/4	-	60%	
46	刀子	長:(2.5)	幅:1.0	厚:0.4	本体胴部のみ		にぶい黄橙10YR-6/4	-	20%	
47	すり石	長:12.2	幅:4.7	厚:3.0	全面擦り痕		灰7.5Y-6/1	-	完形	砂岩
48	多孔質 角閃石	長:10.2	幅:6.5	厚:5.5	燃焼痕有 すす多量に付着		黒10YR-1.7/1	-	80%	
49	すり石	長:13.2	幅:6.9	厚:4.6	全面擦り痕		にぶい黄橙10YR-6/3	-	完形	花崗岩

第 1 5 号住居跡（第 4 3、4 4 図、第 1 2 表）

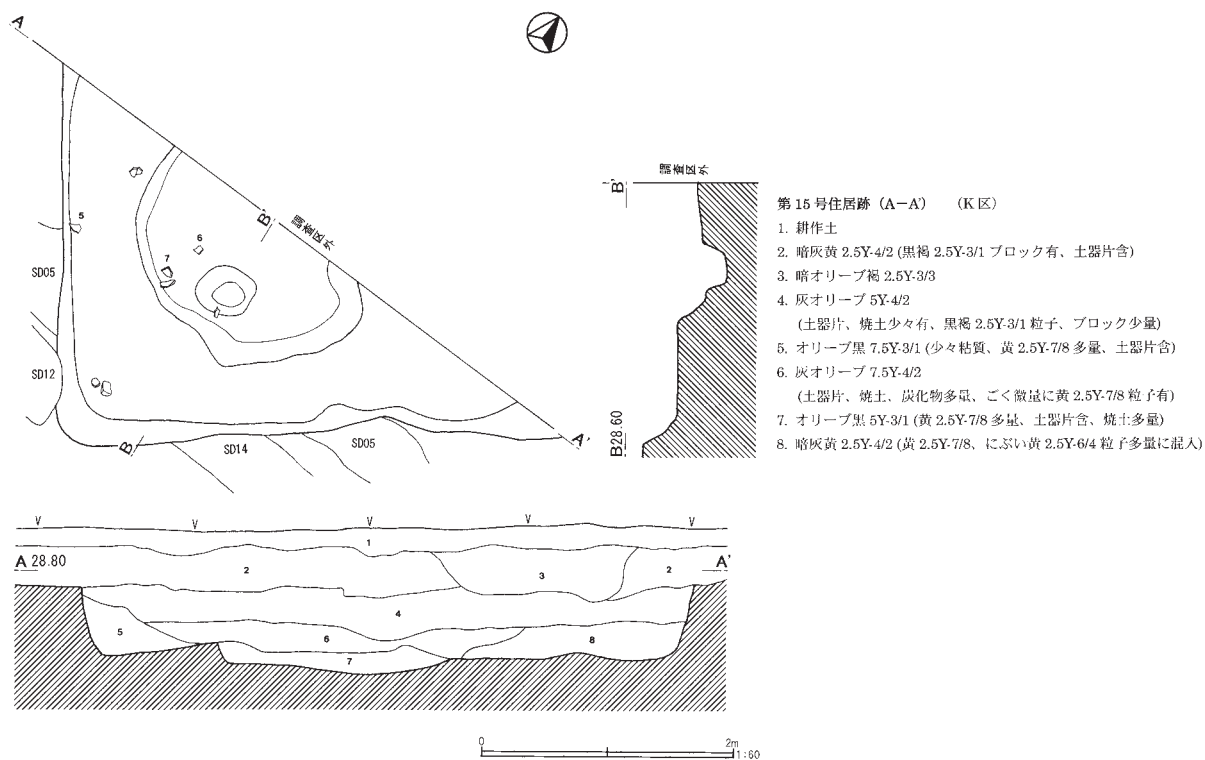
D-10.11、E-10.11グリッド（K区）から検出した。

他の遺構との重複関係があり、第 5、12、14 号溝跡を住居跡が掘り込んでいた。なお、住居跡の大半が調査区域外であった。

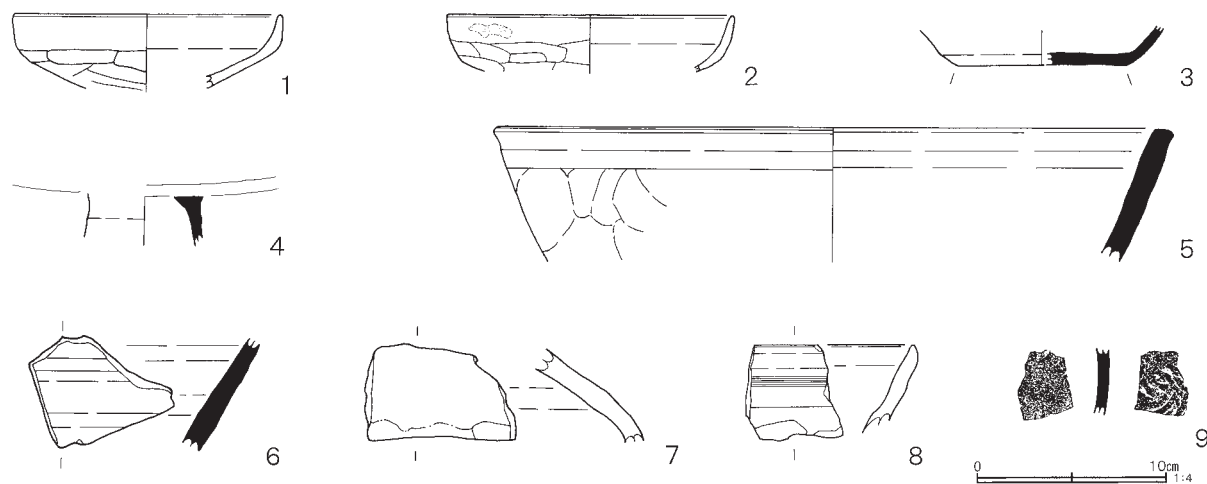
正確な規模は不明であるが、検出長軸がおおよそ2.85m、短軸は3.96mを測り、主軸方向はカマドの検出がないが、他の住居跡から鑑みて、北西方向を向くと想定される。現地表面下からの深さは最大で1.05mであるが、調査区壁で土層断面を観察するとおおよそ0.5mの深さがあったことが確認された。床面は

ほぼ平坦であり、住居跡の中央には大きな土坑が確認され、内部にピット状の落ち込みがあった。覆土は確認面から全部で5層からなる。ほぼレンズ状に堆積していたことから自然堆積と想定される。

遺物は土師器坏、須恵器鉢、長頸瓶、陶器壺等であった。陶器類については鎌倉期に入ころの時期と思われるが、隣接する溝跡からの流れ込みと考えられることから、この住居の主体的な時期は8世紀前半ごろと想定できる。



第43図 第15号住居跡 (K区)



第44図 第15号住居跡出土遺物 (K区)

第 1 2 表 第 1 5 号住居跡出土遺物観察表

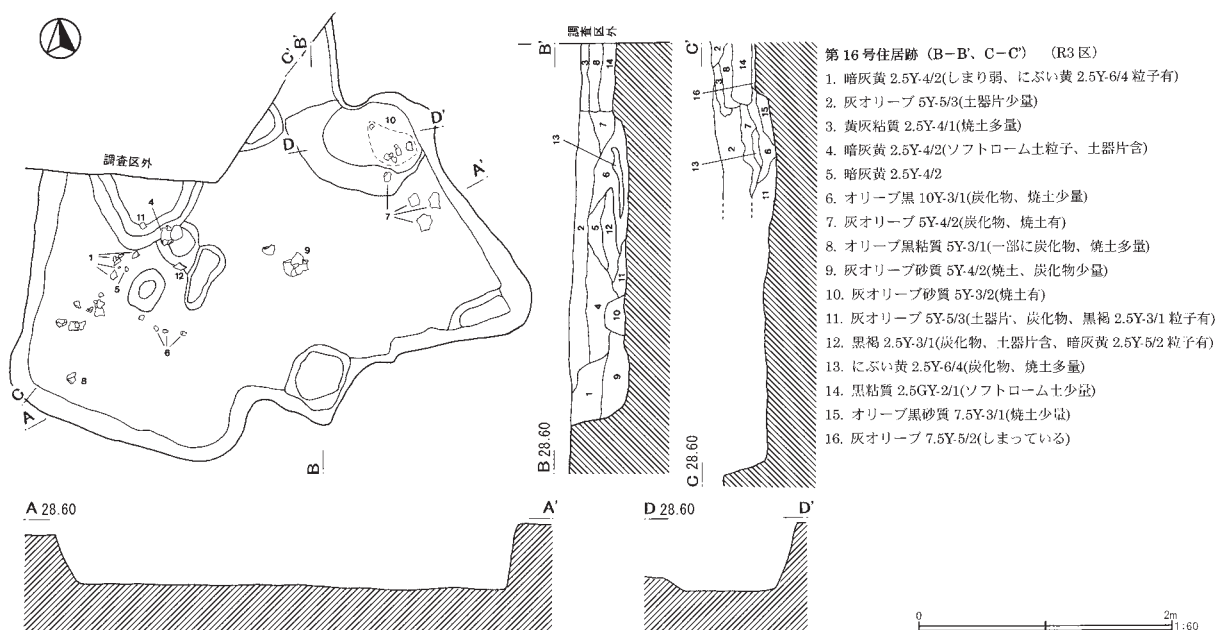
番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
1	土師器 坏	(14.0)	(4.0)	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ 口縁部やや直立	ABIJN	にぶい赤褐5YR-5/4	良好	30%	
2	土師器 坏	(15.0)	(2.9)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 口辺部外面黒色物	ABIJN	橙5YR-6/6	良好	20%	
3	須恵器 坏	-	(1.9)	(9.0)	底部外面回転ヘラケズリ	ADFN	褐灰10YR-6/1	良好	底部30%	末野産
4	土師質土 器 高盤？	-	(2.2)	-		ABIN	灰黄2.5Y-7/2	不良	脚部片	
5	須恵器 鉢	(34.0)	(7.0)	-		AGHI	にぶい赤褐5YR-5/4	良好	口縁部片	東金子産？
6	須恵器 長頸瓶	-	-	-	胴部外面沈線2条	ABN	灰白2.5Y-7/1	良好	胴部片	湖西産
7	陶器	-	-	-	外面釉薬 溝からの流れ込みか		褐灰7.5YR-4/1	良好	胴部片	
8	在地 土器 鉢	-	-	-	口辺部外面掻目数条		灰7.5Y-5/1	良好	口縁部片	
9	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	AGN	灰7.5Y-5/1	良好	胴部片	末野産

第 1 6 号住居跡 (第 4 5、4 6 図、第 1 3 表)

G-13、14、H-13、14グリッド (R3区) から検出した。

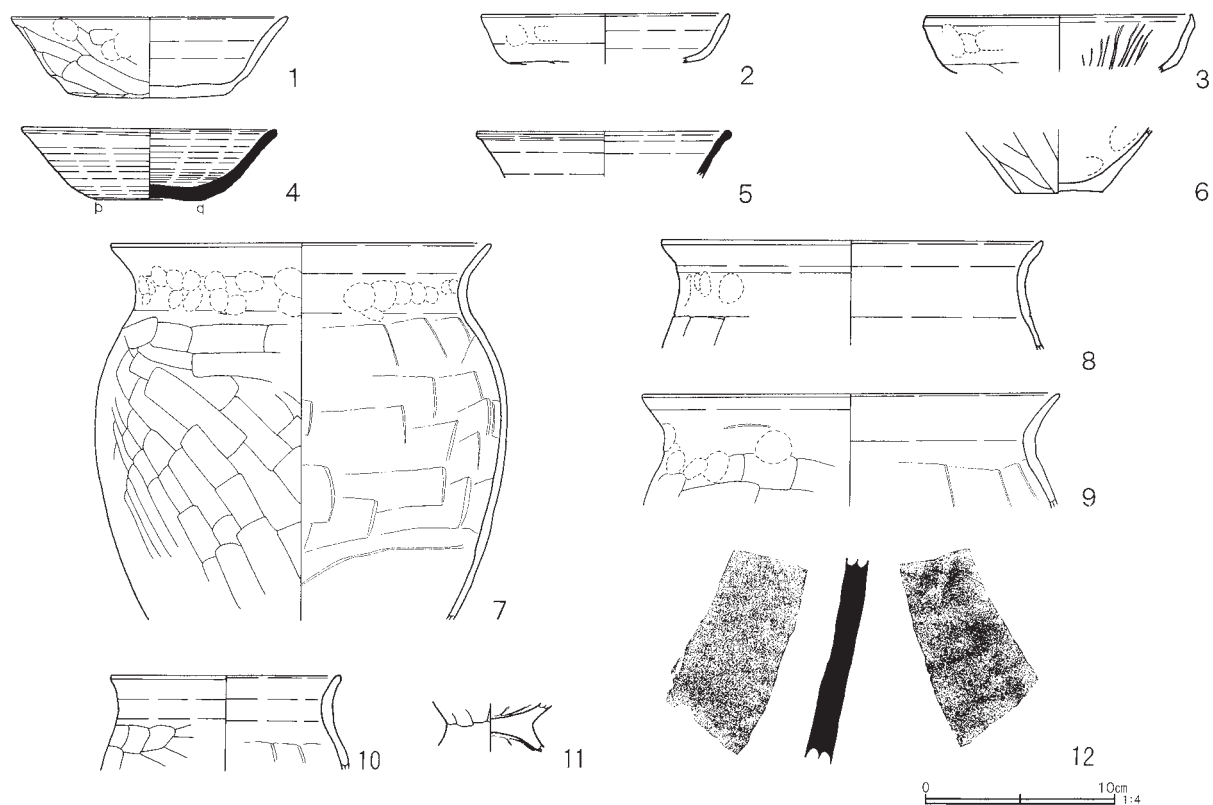
他の遺構との重複関係はないが、カマドは半分、それ以外も調査区域外に入っていた。

正確な規模は不明であるが、推定長軸がおよそ4.00m、短軸は3.95mを測り、主軸方向はカマドを通るものとしてほぼ真北を指す。確認面からの深さは最大で0.5mであった。床面は土坑、ピット以外ほぼ平坦であり凹凸等は見られない。覆土は全部で11層からなる。ほぼレンズ状に堆積していたことから自然堆積と想定されるが、B-B' 第6層については不自然な堆積状況を呈しており、疑問符を残す。カマド部分は燃焼部の検出はできなかったが、カマド手前に貯蔵穴と推定できる土坑を確認することができた。カマドは煙道の半分も確認でき、3層の土層が堆積していた。西側においても土坑、ピットが検出され、その周辺からは遺物が多量に集中しており、須恵器の甕片や坏が多く確認された。南端には柱穴と考えられるピットを一基確認した。



第 4 5 図 第 1 6 号住居跡 (R3区)

遺物は土師器坏、暗文坏、甕、台付甕、須恵器坏、甕であった。この住居からの坏は大体が浅身で平底のものが多く、このことからこの住居跡は9世紀中ごろから末にかけてのものだと考えられる。以上のことを考えると他の住居跡と時期がややかけ離れている。



第46図 第16号住居跡出土遺物（R3区）

第13表 第16号住居跡出土遺物観察表（R3区）

番号	器種	法量(cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
1	土師器 坏	(14.4)	(4.3)	(8.2)	口辺部外面指頭圧痕有 口辺～底部外面手持ちヘラケズリ	ABDIJN	灰褐7.5YR-4/1	普通	60%	
2	土師器 坏	(13.0)	(2.6)	-	口辺部外面指頭圧痕有 底部外面手持ちヘラケズリ 浅身	ABDIJ	橙5YR-6/6	良好	10%	
3	土師器 坏	(14.0)	(3.0)	-	口辺部外面指頭圧痕有 体部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	ABDI	橙5YR-6/6	良好	口縁～体部片	
4	須恵器 坏	13.0	3.8	5.6	底部外面回転系切り やや浅身	ABGHJN	褐灰10YR-5/1	良好	70%	未野産
5	須恵器 坏	13.2	(2.4)	-	口縁部外反 胴部直線的	AN	灰N-4/	良好	口縁部片	
6	土師器 甕	-	(3.3)	4.6	胴下端部外面斜位ヘラケズリ 胴部内面指頭圧痕	ABIJN	外面：褐7.5YR-4/3 内面：橙2.5YR-6/8	良好	底部片	
7	土師器 甕	(20.0)	(19.9)	-	頸部内外面指頭圧痕有、「コ」の字 状口縁 胴上半部外面横位及び、 胴中央部外面斜位ヘラケズリ	ABIJN	橙5YR-6/8	良好	30%	
8	土師器 甕	(20.0)	(5.6)	-	頸部外面指頭圧痕有 胴上半部外面横位ヘラケズリ 「コ」の字状口縁	ABDIJN	橙2.5YR-6/6	良好	口縁～胴上半部片	
9	土師器 甕	(22.0)	(5.9)	-	頸部外面指頭圧痕有 胴上半部外面横位ヘラケズリ 口縁部外面粘土紐横上痕	ABDIJN	橙5YR-6/6	良好	口縁～頸部片	
10	土師器 台付甕	(12.0)	(5.0)	-	胴上半部外面横位ヘラケズリ	ABI	灰褐5YR4/2	良好	口縁～胴上半部片	
11	土師器 台付甕	-	(2.5)	-	胴下端部外面横位ヘラケズリ	ABDIJ	にぶい赤褐5YR-5/4	良好	脚部片	
12	須恵器 甕	-	-	-		ABGHJN	灰黄2.5Y-7/2	良好	胴部片	未野産

第17号住居跡（第47、48図、第14表）

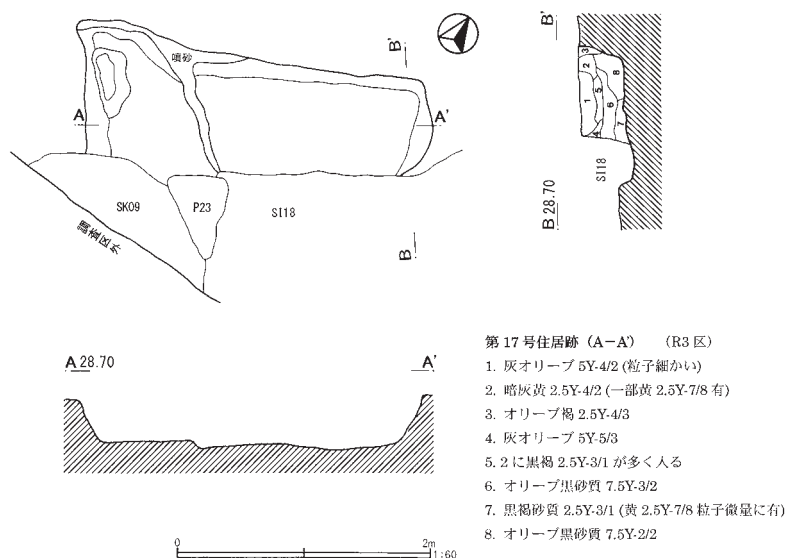
G-13グリッド（R3区）から検出した。

他の遺構との重複関係があり、第18号住居跡、第23号ピット及び第9号土坑が住居跡を掘り込んでいた。大半は第18号住居跡に切られており、全容を把握することはできなかった。

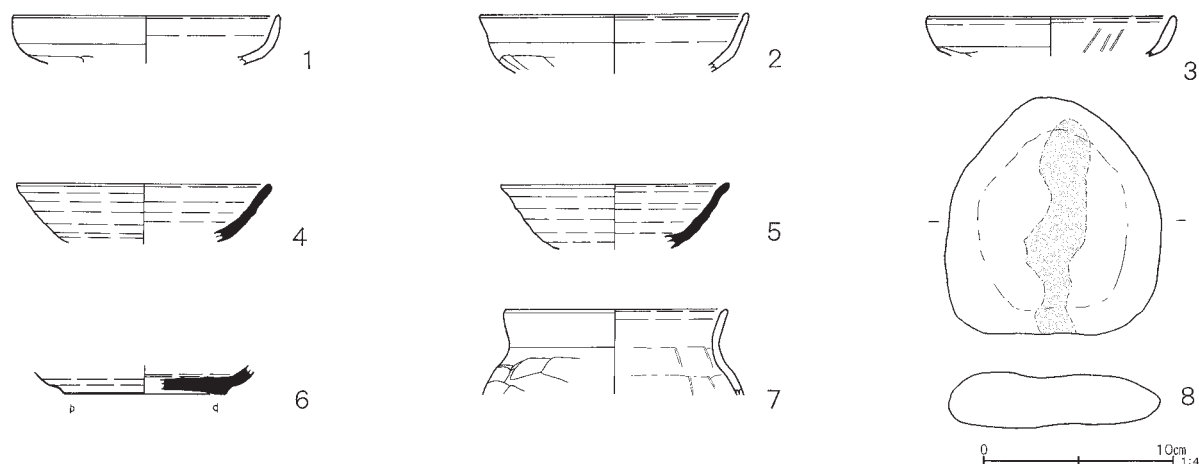
正確な規模は不明であるが、検出長軸がおよそ2.70m、短軸は0.92mを測り、確認面からの深さは最大で0.38～0.4mであった。床面はほぼ平坦であるが若干、東に向かって傾斜が確認できた。土層断面は住居端の南北方向の一部しか実測することができなかった。覆土は全部で8層からなる。下層の3層については砂質であった。ほぼレンズ状に堆積し、上層部分は周囲からの崩落による入り込みと考えられることから自然堆積と想定される。

この住居跡中央床面に噴砂が発生しており、規模の大きいものである。また、西壁にはいびつな楕円形状のピットが確認された。規模は長軸0.56m、短軸0.25mであった。

遺物は土師器坏、台付甕、須恵器坏などであった。こちらも第16号住居跡と同様、浅身で平底のものが坏では目立つ。時期から見ても、この住居跡は8世紀後半から9世紀初頭と考えられる。



第47図 第17号住居跡（R3区）



第48図 第17号住居跡出土遺物（R3区）

第 14 表 第 17 号住居跡出土遺物観察表 (R3区)

番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
1	土師器 坏	(14.0)	(2.5)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABHIJ	にぶい褐7.5YR-5/4	普通	口縁～体部片	
2	土師器 坏	(14.0)	(3.0)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABHIJN	橙5YR-6/6	良好	20%	
3	土師器 坏	(13.0)	(2.1)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	BIJ	橙5YR-6/6	良好	口縁～体部片	
4	須恵器 坏	(13.2)	(3.1)	-		ABHIJ	灰黄2.5Y-7/2	普通	20%	未野産
5	須恵器 坏	(12.0)	(3.3)	-	口縁部やや外反	ABDFGH	オリーブ灰2.5GY-5/1	良好	30%	未野産
6	須恵器 坏	-	(1.5)	(8.4)	底部外面回転糸切り	ABF	灰5Y-5/1	良好	底部30%	
7	土師器 台付甕	(11.6)	(5.3)	-	胴上半部外面横位ヘラケズリ	ABGHI	にぶい赤褐5YR-5/4	良好	口縁～胴上半部片	
8	石器	長:12.3	幅:11.2	厚:3.0	外面中央黒色物		褐灰10YR-4/1	-	完形	用途不用 砂岩(堆積岩)

第 18 号住居跡 (第49、50図、第15表)

F-13、G-13グリッド (R3区) から検出した。

他の遺構と複合的に重複関係があり、当該住居跡が第17号住居跡を掘り込み、そのほか第162、163、168～171号ピットが住居跡を掘り込んでいた。なお住居跡南が調査区域外であった。

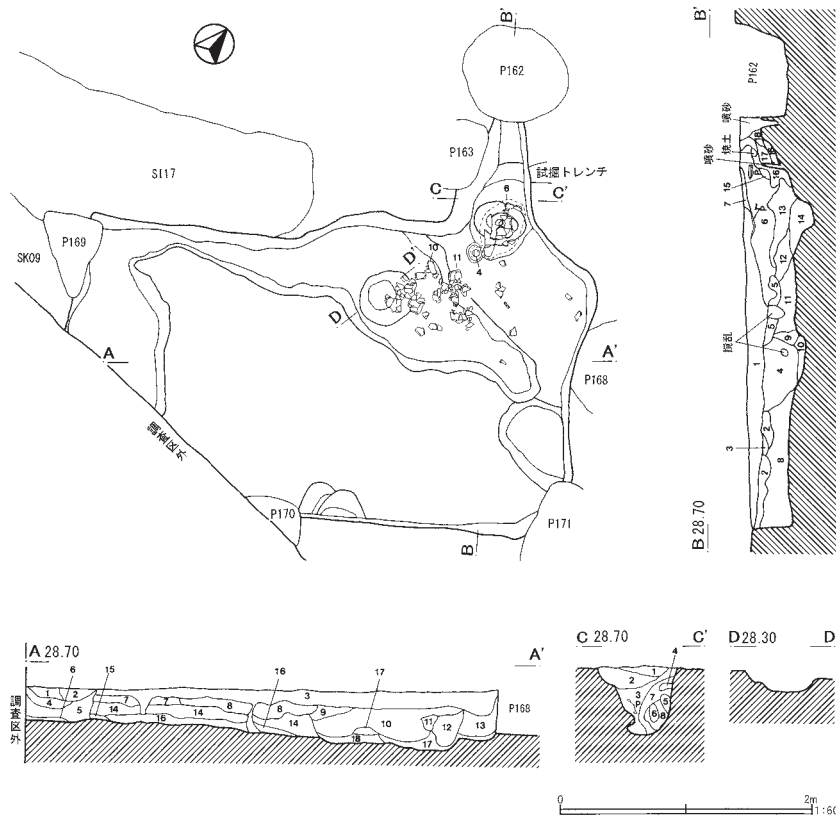
正確な規模は不明であるが、推定長軸がおよそ3.50m、短軸は4.10mを測り、すでに検出された他の住居跡と比較すると、規模が小さい。主軸方向はカマドを通るものとしてN-40°-Wを指す。確認面からの深さは最大で0.45mであった。床面はほぼ平坦であるが住居跡中央付近に西から東に向かって浅い溝状の遺構が確認された。付近で遺物が集中して検出され、ピット状のくぼみが1基確認でき、東に向かってやや傾斜し、溝状遺構は西壁の壁周溝と一緒になる。基本土層は3層からなると想定され、全体的に砂質が多く、噴砂による影響も見られる。かなり複雑に土層の層序が組まれているが自然堆積と想定される部分もあり、噴砂による影響もみられることから、地震による影響も考えられる。カマド手前ではいくらか凹凸がみられ、カマドでは燃焼部が検出され、土層からは底部において粘土で構築されただろう様子が確認できる。カマドは中央からやや右に寄った位置にあり、保存状態がよく、立ち上がりから28°傾斜で煙道を伝っていく。燃焼部は土坑上に深みがあり、床面からはおよそ20cm程度の高低がある。袖部分は確認できなかった。

燃焼部からは、甕片が数点検出でき、すべて一個体として復元できた。

遺物は土師器坏、甕、台付甕、須恵器碗、緑釉陶器長頸瓶などが確認されている。またロクロ土器の中には内面が黒色、ミガキ処理してある黒色土器も確認できた。この住居は第17号住居跡の跡に重複する形で存在することも勘案し9世紀中ごろから後半ごろの時期だと思われる。

第 15 表 第 18 号住居跡出土遺物観察表 (R3区)

番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
1	土師器 坏	(13.0)	(3.6)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABDGIN	橙5YR-7/6	普通	10%	
2	須恵器 碗	-	1.4	(高台径)6.0	底部外面回転糸切り	ABN	褐灰10YR-4/1	良好	高台部片	
3	土師器 坏	-	(0.8)	6.4	ロクロ土器 底部外面回転糸切り 内面黒色処理・ミガキ	ABIN	外面：にぶい黄橙10YR-6/3 内面：黒2.5Y-2/1	普通	底部100%	
4	土師質土 器碗	14.4	5.3	6.4	ロクロ土器 底部外面回転糸切り	ABHIN	にぶい黄橙10YR-6/3	普通	90%	



第 18 号住居跡 (A-A') (R3 区)

1. 暗灰黄 2.5Y-5/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子多量)
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子少量、しまり弱)
3. 黄褐 2.5Y-5/3 (土器片、黒褐 2.5Y-3/1 ブロック粒子有)
4. 1 に黒褐 2.5Y-3/1 ブロック粒子少量
5. オリーブ黒 5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子少量)
6. 灰オリーブ砂質 5Y-4/2
7. オリーブ黒 5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子有、しまり弱)
8. 黄灰 2.5Y-4/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子有)
9. オリーブ灰砂質 10Y-5/2
10. 14 に少々粘質
11. 灰オリーブ 10Y-5/2 (かなり砂質、噴砂か?)
12. オリーブ黒 10Y-3/1 (3 のブロック少量)
13. 黒褐 2.5Y-3/1 (3 が少量含)
14. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子少量、8 の粒子少量有)
15. 灰オリーブ 5Y-4/2
16. 灰オリーブ 5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子多量)
17. オリーブ黒 7.5Y-3/2 (少々砂質、噴砂か?)
18. オリーブ灰砂質 10Y-4/2

第 18 号住居跡 (B-B') (R3 区)

1. 黄褐 2.5Y-5/3
(土器片、黒褐 2.5Y-3/1 ブロック粒子有)
2. オリーブ黒 5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子有、しまり弱)
3. 1 に多量に黒褐 2.5Y-3/2 ブロック有
4. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (少々粘質)
5. 黒褐 2.5Y-3/1
6. 暗オリーブ灰粘質 2.5GY-4/1 (焼土多量、土器片含)
7. 黒褐 5Y-3/1 (少々砂質)
8. オリーブ黒 7.5Y-3/1
(黄 2.5Y-7/8 粒子少量、2 の粒子少量有)
9. 暗オリーブ灰 2.5GY-4/1
10. オリーブ黒 7.5Y-3/2 (少々砂質、噴砂か?)
11. 暗オリーブ灰 5GY-3/1
12. 暗オリーブ灰粘質 5GY-3/1
13. 暗オリーブ灰 2.5GY-4/1
(一部砂質、黄 2.5Y-7/8 ブロック有)
14. 黄褐 2.5Y-5/3 (少々粘質)
15. 灰オリーブ 5Y-5/2 (黄 2.5Y-7/8 微量)
16. オリーブ黒 7.5Y-3/1
(灰オリーブ 5Y-5/2 ブロック少々有、一部ゆるい)
17. オリーブ黒 7.5Y-3/2 (焼土微量に有)
18. オリーブ黒粘質 7.5Y-3/1

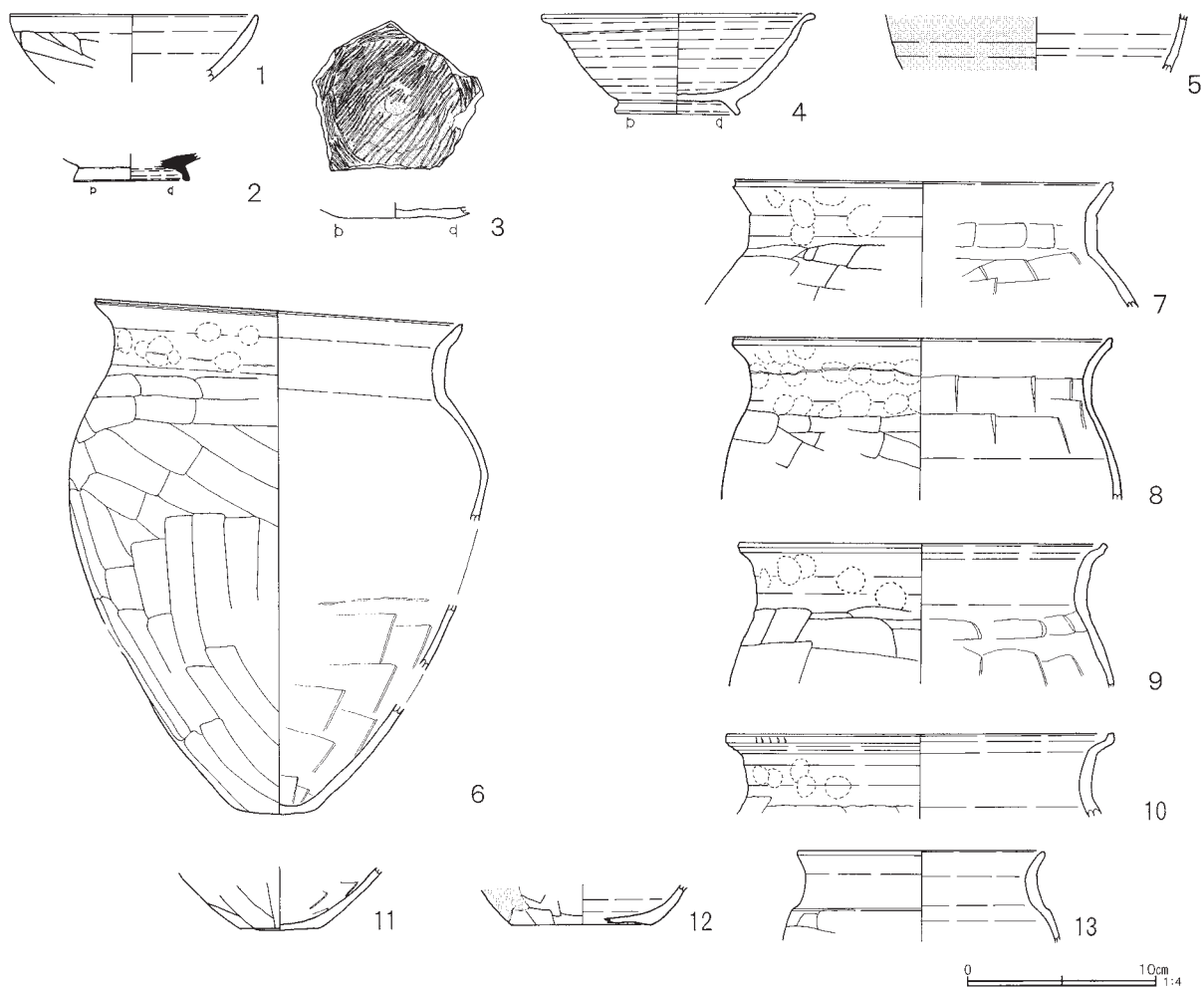
第 18 号住居跡 (C-C') (R3 区)

1. 黄褐 2.5Y-5/3 (少々粘質)
2. 暗オリーブ灰粘質 2.5GY-4/1 (焼土多量、土器片含)
3. 暗オリーブ灰 2.5GY-4/1
(一部砂質、黄 2.5Y-7/8 ブロック有)
4. 黄灰 2.5Y-4/1 (黄 2.5Y-7/8 混ざる)
5. 噴砂 (黒褐 10Y-3/1)
6. 黒褐 2.5Y-3/1
7. 黄褐 2.5Y-5/3 (噴砂)
8. 暗灰黄粘質 2.5Y-4/2
(黒褐 2.5Y-3/1 ブロック混ざる)

第 4 9 図 第 18 号住居跡 (R3 区)

第 15 表 第 18 号住居跡出土遺物観察表 (R3 区)

番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
5	緑釉陶器 長頸瓶	-	-	-	外面緑釉		褐灰 10YR6/1	良好	胴部片	東海産?
6	土師器 甕	19.6	26.7	4.0	頸部外面指頭圧痕有 胴上半部外面横位ヘラケズリ 胴中央～下半部外面斜位ヘラケズリ	ABDGIJN	橙 2.5YR-6/6	良好	80%	
7	土師器 甕	(20.0)	(6.6)	-	頸部外面指頭圧痕有 胴上半部外面横位ヘラケズリ 「コ」の字状口縁	ABDIJN	橙 5YR-6/6	良好	口縁部 30%	
8	土師器 甕	(20.0)	(8.5)	-	頸部外面指頭圧痕有 胴上半部外面横位ヘラケズリ 「コ」の字状口縁	ABDHIJN	橙 5YR-6/6	良好	口縁～胴上半部片	
9	土師器 甕	(19.4)	(7.5)	-	頸部外面指頭圧痕有 胴上半部外面横位ヘラケズリ 「コ」の字状口縁	ABDIJ	橙 7.5YR-7/6	良好	口縁～胴上半部片	
10	土師器 甕	(20.4)	(4.4)	-	頸部外面指頭圧痕有 胴上半部外面横位ヘラケズリ 「コ」の字状口縁	ABDGJ	橙 7.5YR-7/6	普通	口縁～体部片	
11	土師器 甕	-	(3.3)	4.0	胴下端部外面斜位ヘラケズリ	ABDIJ	橙 5YR-6/6	良好	底部 100%	
12	土師器 甕	-	(2.1)	(7.6)	体部外面横位ヘラケズリ 体部外面黒色物	ABDHJ	橙 7.5YR-7/6	普通	底部 20%	
13	土師器 台付甕	(13.0)	(4.8)	-	胴上半部外面横位ヘラケズリ	ABDEJ	にぶい黄橙 10YR-6/3	良好	口縁～胴上半部 30%	



第50図 第18号住居跡出土遺物（R3区）

2 溝跡

溝跡は、総じて16条検出した。ただし、そのうち数条については、調査区が異なるため別々の遺構名に存在しているが、同一のものがある。

主体的な溝跡としてH～L区にかけて、同一の溝跡と思われる溝跡が東西方向に走る形で3条ないしは4条（第4、5、6、14号溝跡）確認することができる。また、それ以外にはR1区に南北方向に伸びる比較的浅い第1号溝跡、E区では規模の小さい第2号溝跡が確認されている。

また、I区からは第10号溝跡が第5、6号溝跡の下から確認された。さらにL区の第13号溝跡は第4、5、6号溝跡をクロスする形で南西方向に伸びていた。

以下溝跡ごとに詳細を記載する。

第1号溝跡（第51図）

L-5、M-5グリッド（R1区）から検出した。第6号土坑とSX01と重複関係にあり、双方を切っているものと推定される。溝の起点、終点ともに調査区域外であった。

規模は、検出全長3.1m、幅2.61～1.62m、深さは確認面から0.32～0.41mであった。本溝跡は、いびつな幅で南北方向に延びており、底部にさらに落ち込みを確認できる。

土層断面をみると、水平堆積であることから自然堆積と考えることができた。

遺物は少量で図示可能な遺物はなかった。時期については不明である。

第2号溝跡（第52図）

K-7グリッド（E区）から検出した。第11号住居跡及び第46号ピットと重複関係にある。溝跡は双方の遺構に切られていた。

規模は、検出長2.30m、幅0.32～0.20m、深さは0.08mであった。南北に真っ直ぐ走り、第11号住居跡に切られていた。遺物は検出されなかった。

第3号溝跡（第52図）

L-10グリッド（H区）から検出した。

規模は、全長1.92m、幅0.64～0.51m、深さは0.13mであった。南北に伸びるが、いびつな幅であり、底部は平坦な様相である。出土遺物は検出されなかった。

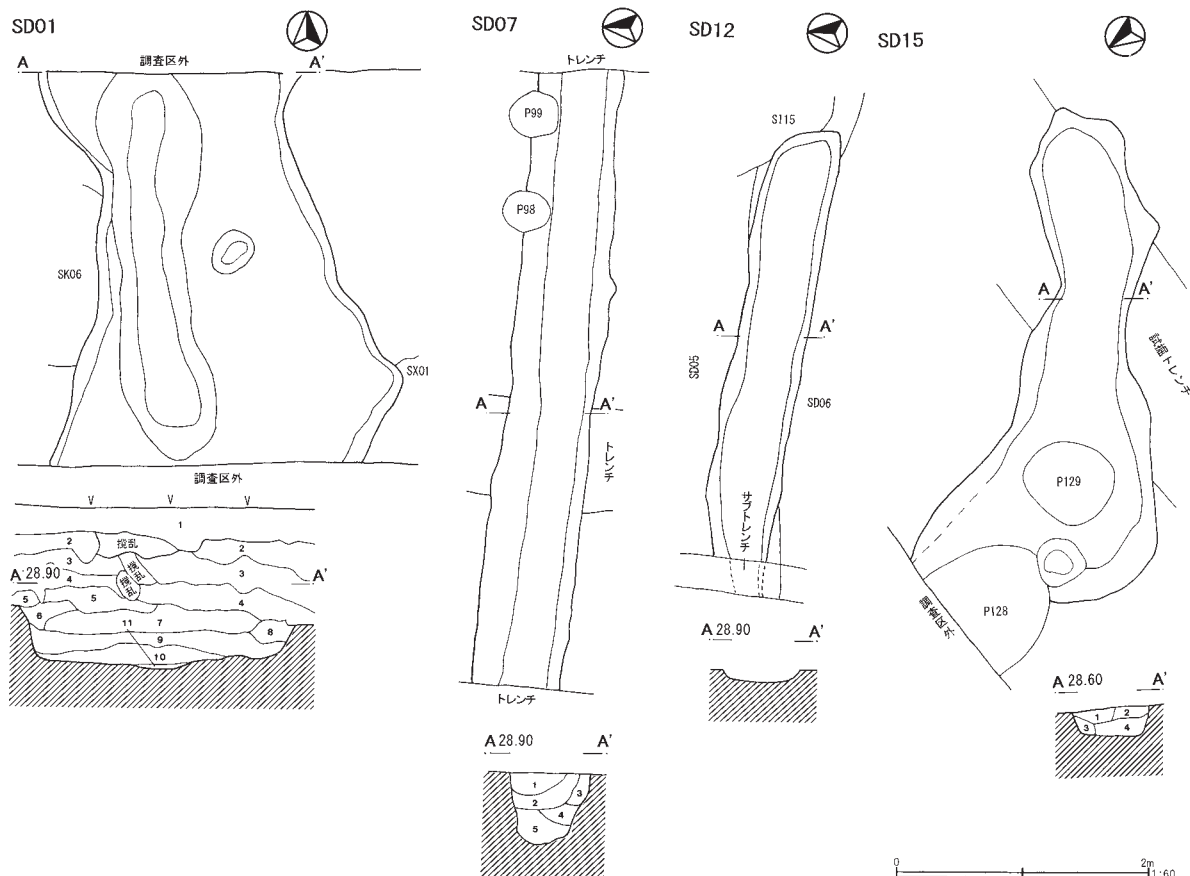
第4号溝跡（第53-1、53-2、54～57図、第16表）

F～L-10、A～C-11グリッド（H、I、J、R2、L区）から検出した。各調査区で複数の遺構と重複しており、第7、9号溝跡及び、第12、13、16、18号土坑、第96～99、111～116号ピットらに掘り込まれ、第13号溝跡を掘り込んでいた。

規模は、各調査区にまたがっておりH区～L区まで検出長58m、幅2.25～1.25m、深さはポイントの標高（28.80）から0.95～1.18mであった。調査区域外をまたがっており詳細が不明であるが、ほぼ東西方向に伸びており、H～R2区部分では自然傾斜に沿う形で、東から西にやや傾斜していたが、R2区、L区間では反対に西から東への傾斜が若干確認された。いずれの土層断面を見ても分かる通り「V」字形の掘り方である。

溝跡の覆土は、地山に近づくにつれやや砂質土混じりであった。

遺物はかなりの点数が検出され、土師器坏、甕、須恵器高台、甕、長頸瓶、青磁、陶器壺、天目茶碗、丸瓦などが確認されている。一部に8世紀中ごろのものも混じっているが、溝跡の主體的な時期としては大体12世紀～13世紀ごろと思われ、特に陶磁器がその時期のものとして確認できる。多くは東海系の常滑、渥美窯、天目茶碗は古瀬戸窯で、一点のみ陶器甕は珠洲窯のものと思われるものがある。貿易陶磁器である白磁、青磁も破片ではあるが、確認されており、椀、皿、壺などが器種としては確認できた。



第1号溝跡 (A-A') (R1区)

1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (炭化物、土器片少量)
3. 黒褐 2.5Y-3/1 (少々砂質、土器片含)
4. ソフトローム土 (一部に黒褐 2.5Y-3/1 ブロック及び粒子有)
5. オリーブ黒 5Y-3/2 (少々砂質、かなりゆるい、土器片多量、ソフトローム土ブロック有)
6. 黄褐 2.5Y-5/3 (オリーブ黒 5Y-3/1 粒子多量)
7. 黒褐 2.5Y-3/1 (ソフトローム土粒子多量)
8. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黒褐 2.5Y-3/1 ブロック及びソフトローム土ブロック有)
9. オリーブ黒粘質 5Y-3/1 (ソフトローム土ブロック粒子有)
10. 黒褐 2.5Y-3/1 (暗灰黄 2.5Y-4/2 ブロック粒子有り 暗灰 N-3/1 全体的に混ざる)
11. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (少々砂質)

第7号溝跡 (A-A') (H区)

1. 黒褐砂質 2.5Y-3/1 (土器片少量有)
2. オリーブ黒 5Y-2/2
3. 暗灰黄 2.5Y-4/2
4. 黒褐 2.5Y-3/2
5. オリーブ黒 10Y-3/1

第15号溝跡 (A-A') (R3区)

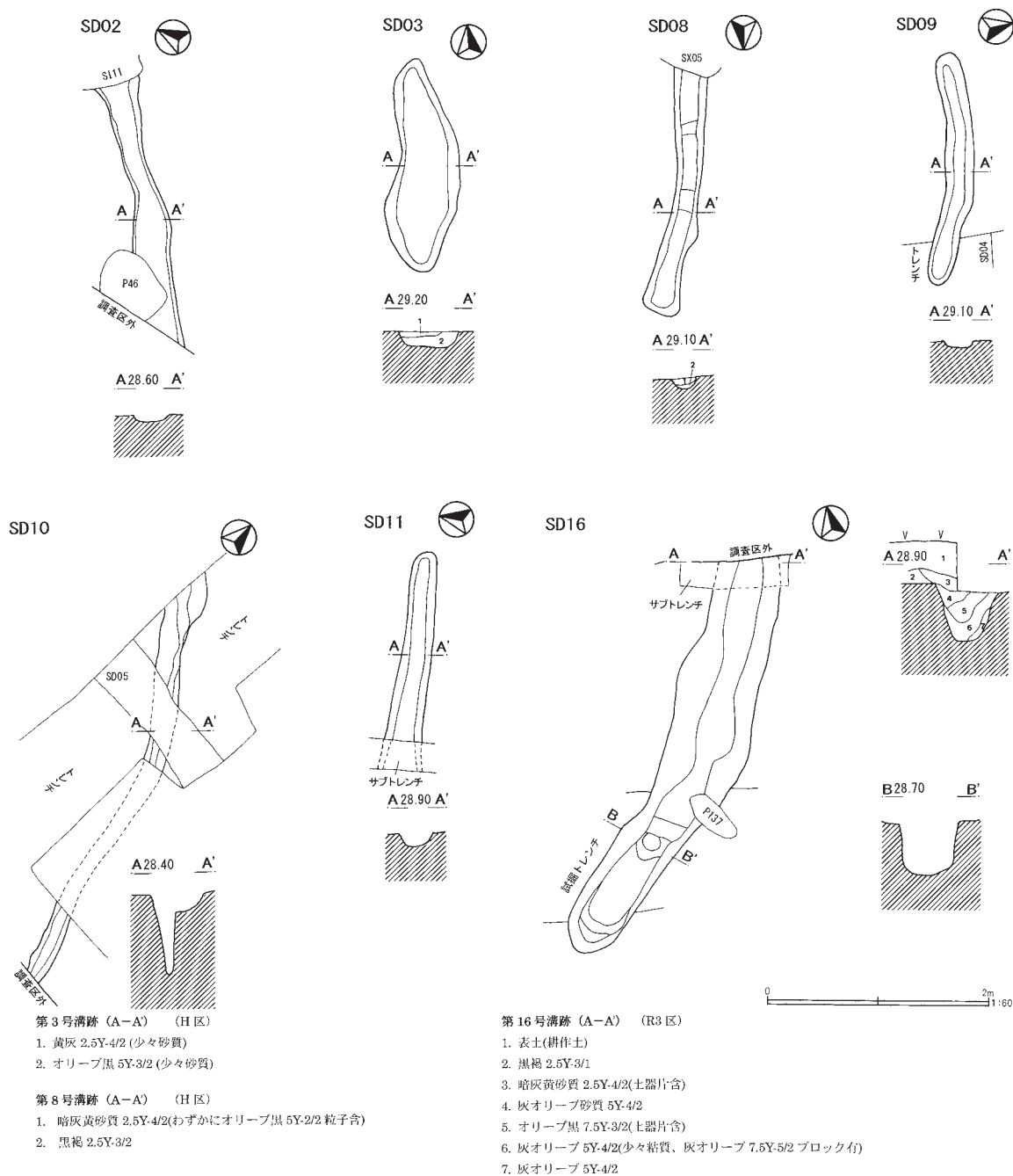
1. 灰オリーブ 5Y-5/3 (ソフトローム土粒子少量)
2. 灰オリーブ 5Y-4/2 (炭化物含、しまり弱)
3. 灰オリーブ砂質 5Y-4/2 (炭化物多量)
4. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック含)

第51図 第1・7・12・15号溝跡

第5号溝跡 (第53-1、53-2、54、55、58図、第17表)

K、L-10、A~J-11グリッド (H、I、J、K、R2、L区) から検出した。第4号溝跡と同様、複数の遺構と重複しており、第15号住居跡、第12、13号溝跡、第21号土坑、第119号ピットに掘り込まれ、第10号溝跡及びSX06を掘り込んでいた。また土層断面から第4号溝跡に切られていた。

規模は、各調査区にまたがり詳細は不明であるが、H区~L区まで検出長59m、幅1.51~0.48m、深さはポイントの標高 (28.80) から0.40~1.45mであった。本溝跡は、ほぼ東西方向に延びており、R2区付近で一度幅が狭まるが、大体一貫して同じ幅をとる。なお、J区において一担、第6号溝跡と合流する。溝は東から西に傾斜しており、R2、K区付近では、急激に立ち上がり、H区とK区では、高低差が約80cmにもなる。しかし、L区付近では反対に西から東への傾斜が確認された。

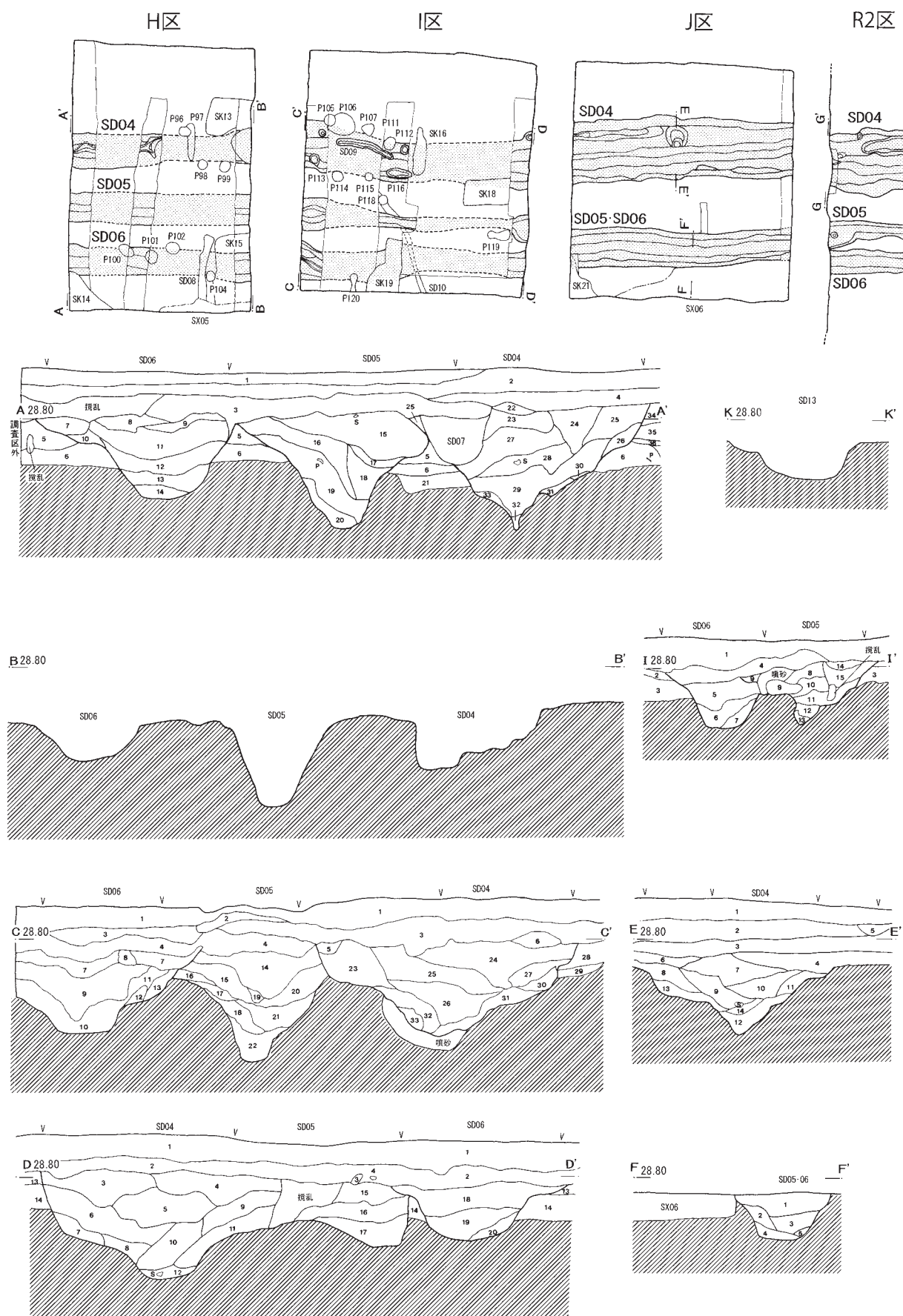


第52図 第2・3・8～11・16号溝跡

本溝跡も、土層断面を観察した結果、地山に近づくにつれ、砂質土になっており、第4号溝跡と同様に「V」字形の掘り方を呈している。

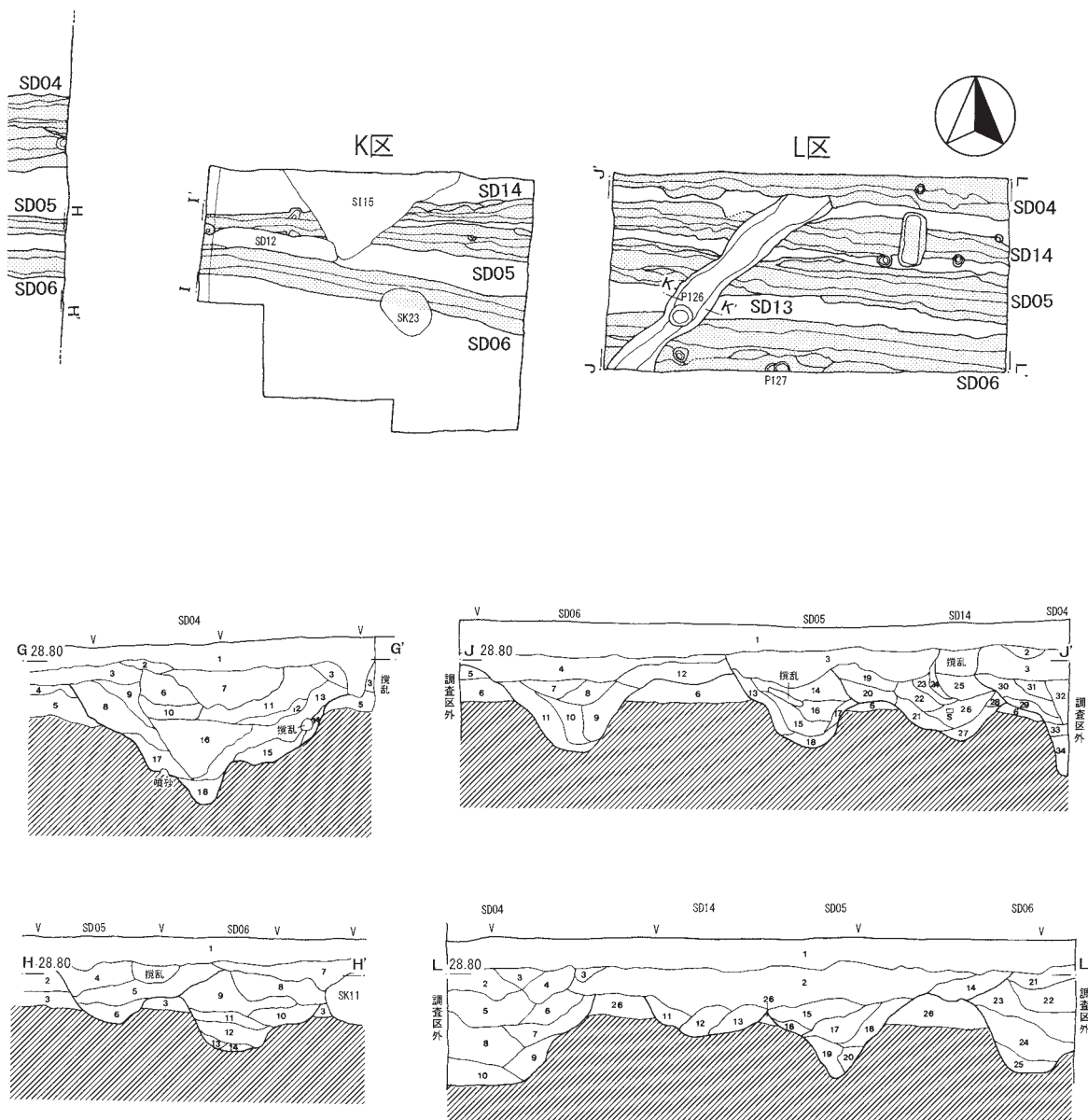
遺物は、土師器坏、須恵器甕、陶器鉢、甕、青磁が検出された。この溝跡からは7世紀末から8世紀後半と、12世紀中ごろにかけての遺物が検出され、時期に開きがある。出土量から考えて、この溝も12世紀前後が比定できるが、土層断面から考えると、7世紀末頃からの掘り方であるとも考えられる。

なお、この溝跡からは多くの須恵器甕の胴部片が検出した。これらはそのほとんどが、上野産、末野産で占められ、南比企産などは見られなかった。これらは南比企窯の生産が落ち込む8世紀初めごろのものと思われる。



第53-1図 第4・5・6・13・14号溝跡(西)

R2区



第4.5.6号溝跡 (A-A') (H区)

1. 耕作土
2. オリブ黒砂質 5Y-3/2
3. 灰オリブ 7.5Y-4/2
4. 黒褐 2.5Y-3/2 (灰オリブ 7.5Y-4/2 粒子少量)
5. オリブ黒 10Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子少量、しまり弱)
6. 黒粘質 2.5GY-2/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子ブロック少量有、しまり弱)
7. 灰オリブ 5Y-5/3 (灰 5Y-4/1 ブロック少量有)
8. オリブ黒 7.5Y-3/1 (灰オリブ 7.5Y-5/2 ブロック及び黄 2.5Y-7/8 粒子有)
9. 灰オリブ 7.5Y-5/2 (一部に黒褐 2.5Y-3/1 粒子有)
10. 灰オリブ 7.5Y-4/2 (若干しまり有)
11. 灰オリブ 5Y-4/2 (一部黄 2.5Y-7/8、灰オリブ 5Y-5/3 粒子有、若干しまり弱)
12. オリブ黒砂質 7.5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子わずかに有)
13. オリブ黒砂質 7.5Y-3/2 (しまりかなり弱)
14. オリブ黒砂質 10Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子微量、しまり弱)
15. オリブ褐 2.5Y-4/3 (黄 2.5Y-7/8 粒子ごく少量有)
16. オリブ黒 5Y-3/2 (一部砂質、黄 2.5Y-7/8 ブロック有)
17. 灰オリブ 5Y-4/2 (土器片含)
18. オリブ黒砂質 10Y-3/1
19. オリブ黒 7.5Y-3/2 (少々砂質、土器片含、ごく少量灰オリブ 5Y-5/3 粒子有)
20. 黒砂質 5Y-2/1

21. 黄褐 2.5Y-5/3 (しまり強)
22. 黄灰 2.5Y-4/1
23. 灰オリブ 5Y-4/2 (ごく少量黄 2.5Y-7/8 粒子有)
24. 灰オリブ 5Y-4/2 (かなりしまり強、ごく少量にふい黄 2.5Y-6/4 ブロック有)
25. オリブ黒 5Y-3/1 (一部シルト質、土器片含)
26. オリブ黒 5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子少量含、かなりしまり弱)
27. 黒褐 2.5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子有、明黄褐 2.5Y-6/6 ブロック有)
28. 黒褐 2.5Y-3/1 (しまり強)
29. オリブ黒 7.5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子少量有)
30. 黄 2.5Y-7/8 (30 の粒子多く有)
32. オリブ黒砂質 10Y-3/1
33. オリブ黒 10Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 多量に含)
34. オリブ黒 5Y-3/1 (灰オリブ 5Y-5/2 ブロック多量、若干しまり弱)
35. 暗オリブ灰 2.5GY-3/1 (にふい黄 2.5Y-6/4 ブロック少量含)
36. 黒褐 2.5Y-3/1 (土器片、炭化物、焼土少量有)

断面図 0 2m 1:60 平面図 0 5m 1:200

第53-2図 第4・5・6・13・14号溝跡 (東)

第 4.5.6 号溝跡 (C-C') (I 区)

- 耕作土
- 1 に黒褐 2.5Y-3/1 ブロック及び炭化物多量
- オリープ黒 5Y-3/1 (土器片、灰オリープ 5Y-5/2 ブロック一部有)
- オリープ黒 7.5Y-3/1 (しまり強)
- 3 にオリープ黒砂質 7.5Y-3/2 含
- オリープ黒 7.5Y-2/2 (かなりしまり強)
- オリープ黒 10Y-3/1 (一部シルト質、灰黄 2.5Y-6/2 ブロック有)
- 暗灰黄 2.5Y-4/2 (にぶい黄 2.5Y-6/3 ブロック多量、しまりかなり弱)
- 黒褐砂質 2.5Y-3/1
- 黒褐砂質 10YR-3/1 (しまりかなり弱)
- 灰黄褐 10YR-4/2 (ごく微量に 7 の粒子有)
- 黒褐砂質 2.5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子少量有)
- オリープ黒砂質 5Y-3/2
- オリープ黒 7.5Y-3/1 (土器片、上部若干しまり弱)
- 14 にオリープ黒粘質 7.5Y-3/1 混入
- 黒粘質 5Y-2/1
- オリープ黒 5Y-3/1 (少々砂質)
- オリープ黒砂質 5Y-3/1 (しまりかなり弱、黄 2.5Y-7/8 ブロック有)
- オリープ黒砂質 5Y-3/1
- オリープ黒 7.5Y-3/2 (少々砂質、黄 2.5Y-7/8 ブロック有)
- 黒褐砂質 2.5Y-3/1 (にぶい黄 2.5Y-6/3 ブロック有)
- 黒褐 2.5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 ブロック有)
- オリープ黒 10Y-3/2 (土器片、灰 7.5Y-4/1 粒子少量有)
- オリープ黒 10Y-3/1 (しまり弱、オリープ黄 5Y-6/4 ブロック有)
- 暗灰黄 2.5Y-4/2 (しまり強、土器片含)
- 黒褐砂質 2.5Y-3/1 (炭化物有)
- 24 に黄褐 2.5Y-5/3
- オリープ黒 7.5Y-3/1 (しまり強、黄 2.5Y-7/8 かなり多量)
- オリープ黒粘質 7.5Y-2/2
- 29 に黄褐 2.5Y-5/3 ブロック粒子多量に含
- 暗灰黄砂質 2.5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 ブロック粒子ごく少量有)
- 暗灰黄砂質 2.5Y-4/2
- 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 ブロック粒子多量)

第 4 号溝跡 (G-G') (R2 区)

- 表土
- 黄灰砂質 2.5Y-4/1
- 暗灰黄 2.5Y-4/2 (少々砂質)
- 黒褐 2.5Y-3/2
- 黒褐 2.5Y-3/1 (かなりしまっている、にぶい黄 2.5Y-6/4 粒子多量)
- オリープ褐 2.5Y-4/3 (土器片少量、粒子細)
- 暗オリープ褐 2.5Y-3/3 (少々砂質)
- 黒 7.5Y-2/1 (少々砂質、土器片含、焼土ブロックわずかに有、一部しまり強)
- 黒褐 2.5Y-3/1 (少々砂質、土器片含)
- 黒 2.5GY-2/1 (一部粘質、オリープ褐 2.5Y-4/3 粒子少々)
- 黒褐 10YR-3/2 (にぶい黄褐 10YR-6/4 ブロック多量、しまり強)
- 暗褐 10YR-3/3
- 黒褐 10YR-3/1 (一部砂質、若干シルト質化、ソフトローム土粒子少量)
- オリープ褐 2.5Y-4/3 (黒褐 2.5Y-3/1 粒子若干有、ソフトローム土粒子有?)
- 黄灰砂質 2.5Y-4/1 (粒子細、ソフトローム土ブロック多量、しまり若干弱)
- 黒褐 10YR-3/1 (土器片含、ソフトローム土ブロックわずかに有、褐灰砂質 10YR-4/1 粒子有)
- 黒粘質 2.5Y-2/1 (ソフトローム土粒子ブロック多量)
- 黒砂質 2.5GY-2/1 (ソフトローム土粒子及びブロック多量、黄灰砂質 2.5Y-4/1 粒子多量)

第 5.6 号溝跡 (I-I') (K 区)

- 耕作土
- 黒褐 2.5Y-3/1 (ごく少量黄 2.5Y-7/8 粒子含)
- オリープ黒 10Y-3/1 (少々粘質、黄 2.5Y-7/8 少量)
- 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黒褐 2.5Y-3/1 粒子多量)
- オリープ黒 5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 ブロック及び粒子含、土器片)
- オリープ黒 7.5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 ブロック及び粒子含)
- オリープ黒 5Y-3/1 (少々粘質、黄 2.5Y-7/8 含)
- 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黒褐 2.5Y-3/1 粒子多量)
- 黒 10YR-2/1 (黄 2.5Y-7/8 ブロック粒子多量に混入)
- 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 ブロック有、一部に黒褐 2.5Y-3/1 ブロック有)
- 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子ブロック多量、土器片)
- オリープ黒 10Y-3/2 (少々砂質、黄 2.5Y-7/8 微量に有)
- オリープ黒砂質 5Y-3/1
- 暗灰黄 2.5Y-4/2 (にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック粒子有)
- オリープ黒 5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 ブロッカー一部有)

第 4.5.6 号溝跡 (D-D') (I 区)

- 耕作土
- オリープ黒 5Y-3/1 (土器片、灰オリープ 5Y-5/2 ブロック一部有)
- 暗灰黄 2.5Y-4/2 (少々砂質)
- 暗灰黄 2.5Y-4/2 (にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック及び粒子含)
- オリープ黒 5Y-3/2 (少々砂質)
- 3 に黄 2.5Y-7/8 ブロック多量 (しまり若干弱、土器片含、一部オリープ黒 5Y-3/2 粒子有)
- オリープ黒 7.5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 多量、しまりかなり弱)
- オリープ褐 2.5Y-4/3 (黄 2.5Y-7/8 多量、しまり強)
- オリープ褐 2.5Y-4/3 (土器片、黒褐 2.5Y-3/1 粒子少量含、少々しまり強)
- オリープ黒砂質 5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 ブロック粒子多量に含)
- オリープ黒 7.5Y-3/2 (黒褐 2.5Y-3/1、にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック有)
- オリープ黒砂質 7.5Y-3/2
- オリープ黒 7.5Y-3/1 (しまり強)
- オリープ黒 7.5Y-3/1 (しまり強、黄 2.5Y-7/8 かなり多量)
- 暗灰黄 2.5Y-4/2 (少々砂質、土器片含)
- 黄褐 2.5Y-5/4 (黄 2.5Y-7/8 ブロック多量、にぶい黄 2.5Y-6/4、黒褐 2.5Y-3/1 ブロック有)
- 黒褐 2.5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 ブロック多量、にぶい黄 2.5Y-6/4、黒褐 2.5Y-3/1 ブロック有)
- 灰オリープ 5Y-4/2 (しまり弱、黄 2.5Y-7/8 粒子少量有)
- 暗オリープ灰 2.5GY-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子少量有)
- 黒褐砂質 2.5Y-3/1

第 4 号溝跡 (E-E') (J 区)

- 耕作土
- オリープ黒 5Y-3/1 (土器片多量、灰オリープ 5Y-5/2 ブロック多量)
- オリープ黒 10Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 及び黒 2.5GY-2/1 粒子混入、しまり弱)
- 灰黄褐 10YR-4/2 (にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック含、しまりかなり強)
- 黄灰 2.5Y-4/1 (しまりかなり弱、根による擾乱)
- 暗灰黄 2.5Y-4/2 (土器片、一部黒褐 2.5Y-3/1 ブロック有)
- 黒褐 2.5Y-3/2 (6 の粒子、ブロック多量、土器片含)
- 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子有、土器片、しまり強)
- オリープ黒 7.5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子及びブロック有、炭化物有)
- オリープ黒 5Y-3/2 (少々砂質、炭化物、黄 2.5Y-7/8 粒子有)
- オリープ黒粘質 5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子若干有)
- オリープ黒粘質 7.5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子ブロック多量)
- 暗灰黄 2.5Y-4/2 (一部砂質、黄 2.5Y-7/8 多量)
- オリープ黒粘質 7.5Y-3/2

第 5 号溝跡 (F-F') (J 区)

- オリープ黒 10Y-3/1 (少々シルト質)
- 1 に黄 2.5Y-7/8 微粒子有
- オリープ黒 7.5Y-3/2 (少々砂質)
- オリープ黒 5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 多量)
- 3 に黄 2.5Y-7/8 多量

第 5 号溝跡・第 6 号溝跡・第 11 号土坑 (H-H') (R2 区)

- 表土
- 黄褐 2.5Y-5/3 (ソフトローム土粒子多量)
- オリープ黒粘質 5Y-3/1 (ソフトローム土粒子少量)
- 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黒褐 2.5-3/1 粒子全体に有)
- 暗灰黄 2.5Y-4/2 (ソフトローム土粒子及びブロック有、しまり若干弱)
- 黒褐砂質 2.5Y-3/1
- オリープ黒 5Y-3/1 (土器片多量、灰オリープ 5Y-5/2 ブロック多量)
- オリープ黒 5Y-3/2 (土器片含、しまっている)
- オリープ黒 5Y-3/1 (暗灰黄 2.5Y-4/2 粒子多量、土器片含)
- にぶい黄 2.5Y-6/4 (黒褐 2.5Y-3/1 粒子ごく少量)
- 暗灰黄 2.5Y-4/2 (少々砂質、にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック、土器片含)
- オリープ黒砂質 7.5Y-3/2 (ソフトローム土粒子及びブロック多量)
- 暗灰黄 2.5Y-4/2 (ソフトローム土ブロックかなり多量)
- 暗灰黄砂質 2.5Y-4/2

第 4.5.6.14 号溝跡 (J-J') (L 区)

- 耕作土
- 黒褐 2.5Y-3/2
- オリープ褐 2.5Y-4/3 (黄 2.5Y-7/8 ブロック多量、しまり強、土器片含)
- オリープ黒 7.5Y-2/2 (黄 2.5Y-7/8 ブロック、土器片含)
- 灰オリープ 5Y-5/3 (黄 2.5Y-7/8 有)
- オリープ黒 5Y-3/2 (少々砂質)
- 灰オリープ 5Y-4/2
- 灰オリープ 5Y-4/2 (少々砂質、しまり弱)
- オリープ黒砂質 7.5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 ブロック有)
- オリープ黒砂質 10Y-3/2 (土器片含、黄 2.5Y-7/8 ブロック有)
- オリープ黒砂質 10Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子ブロック有)
- 灰オリープ 5Y-5/3 (黄 2.5Y-7/8 有)
- 黒褐 10YR-3/1 (しまりかなり強、黄 2.5Y-7/8 ブロック多く有)
- 黒褐 2.5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子及びブロック若干有)
- 黒褐 2.5Y-3/2 (少々粘質、しまりかなり強、16 粒子が少々入る)
- オリープ黒 5Y-3/2 (しまり強、土器片)
- 暗オリープ 5Y-4/3 (土器片含)
- オリープ黒砂質 5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子ブロック少量有)
- 暗灰黄砂質 2.5Y-4/2 (黄褐 2.5Y-5/3 多量、土器片含)
- 灰オリープ 5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 ブロック多量に含)

第 5 4 図 第 4・5・6・1 3・1 4 号溝跡土層一覧(1)

21. にぶい黄砂質 2.5Y-5/3 (しまり若干弱、一部 26 粒子が含)
22. 黄褐 2.5Y-5/4 (やや砂質)
23. 黄褐 2.5Y-5/3 (しまり強)
24. 黄褐 2.5Y-5/4 (しまりかなり強)
25. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (一部砂質、灰オリーブ 5Y-4/2 混入)
26. オリーブ黒 5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 ブロック有、一部に 22,23 粒子含、若干しまり弱)
27. オリーブ黒 5Y-3/2 (一部黄 2.5Y-7/8 粒子ブロック有)
28. 黄褐 2.5Y-5/4
29. オリーブ褐 2.5Y-4/3 (黄 2.5Y-7/8 ブロック多量、しまりかなり強)
30. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (一部に 29 粒子を含、黄 2.5Y-7/8 ブロック有)
31. 暗オリーブ 5Y-4/3 (黄 2.5Y-7/8 ブロック少量含)
32. 暗オリーブ 7.5Y-4/3 (土器片含)
33. 暗オリーブ砂質 5Y-4/3 (少々しまり弱)
34. 暗オリーブ砂質 5Y-4/3 (黄 2.5Y-7/8 微粒子多量、しまりかなり弱)
6. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (しまりかなり強)
7. オリーブ褐 2.5Y-4/3 (一部砂質、炭化物、黄 2.5Y-7/8 微粒子有)
8. オリーブ褐 2.5Y-4/3 (しまりかなり強)
9. オリーブ黒 5Y-3/1 (若干しまり弱)
10. オリーブ黒砂質 5Y-3/2
11. オリーブ黒 5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 ブロック有)
12. 黄褐 2.5Y-5/4 (少々砂質、しまり強)
13. にぶい黄 2.5Y-5/3 (黄 2.5Y-7/8 少々有)
14. オリーブ黒 5Y-3/1 (少々粘質、土器片含、炭化物有)
15. 灰オリーブ 5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 少量有、炭化物)
16. 灰オリーブ 5Y-4/2 (少々砂質、黄 2.5Y-7/8 多量)
17. オリーブ黒 7.5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8、黒褐 2.5Y-3/1 ブロック有)
18. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8、黒褐 2.5Y-3/1 ブロック有)
19. オリーブ黒砂質 5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子ブロック少量有)
20. 黄砂質 2.5Y-7/8 (粒子細、黒褐 2.5Y-3/1 粒子含)
21. 暗オリーブ灰 2.5GY-3/1 (しまり弱)
22. オリーブ黒 7.5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子ごく少量有)
23. 灰オリーブ砂質 7.5Y-4/2
24. オリーブ黒砂質 5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子少量有、土器片含)
25. オリーブ黒砂質 5Y-3/1 (黒褐 2.5Y-3/1 ブロック粒子有、黄 2.5Y-7/8 粒子わずかに有)
26. オリーブ黒粘質 5Y-3/1 (ソフトローム土粒子少量)

第 4.5.6.14 号溝跡 (L-1) (L 区)

1. 耕作土
2. 暗オリーブ褐 2.5Y-3/3 (炭化物多量、土器片含)
3. 灰オリーブ砂質 5Y-4/2 (しまり弱)
4. 灰オリーブ 5Y-4/2 (しまり強、黒褐 2.5Y-3/1 粒子含)
5. 灰オリーブ 5Y-4/2 (土器片、炭化物少量有)

第 5 5 図 第 4・5・6・13・14 号溝跡土層一覧(2)

第 6 号溝跡 (第 5 3-1、5 3-2、5 4、5 5、5 9 図、第 1 8 表)

A～L-11 グリッド (H、I、K、L、R 2 区) から検出した。こちらにも同様に複数の遺構と重複関係がある。第 8 号溝跡、第 1 5、1 9、2 1、2 3 号土坑、第 1 0 0～1 0 2、1 0 4、1 2 6、1 2 7 号ピットに切られ、第 1 0、1 3 号溝跡、S X 0 6 を掘り込んでいた。

規模は、検出長 60m、幅 1.40～0.80m、深さはポイントの標高 (28.80) から 63～100m であった。東西に真っ直ぐ走り、一度 J 区で第 5 号溝跡と接続していた。東に向かうに従い、幅が広がり、傾斜が東から西へ落ち込むことが確認されるが、先の 2 条と同様、L 区付近になると傾斜が反対の東へ向かう。

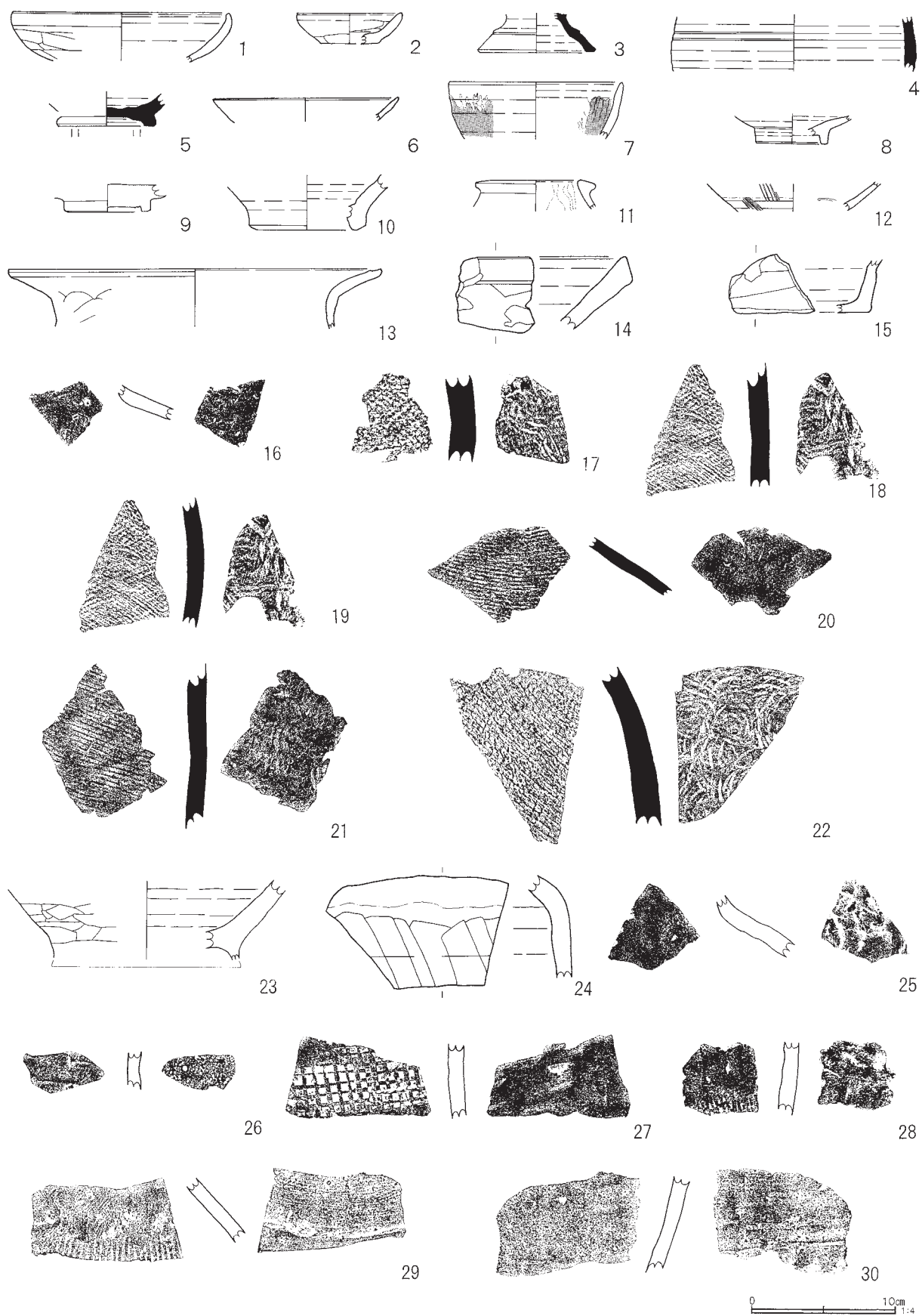
遺物は土師器杯、台付甕、須恵器杯、白磁碗、磁器碗などが出土した。この溝跡も時代的には 7 世紀末及び 1 2 世紀前後の隔たりがあり、遺物量としては 7 世紀末ごろのものが全体の大多数を占める。身模倣杯や暗文杯なども確認でき、須恵器では南比企産のものが確認された。この溝跡の主体時期は 7 世紀末ごろで、時代を経るにつれて次第に土砂が堆積し、1 2 世紀ごろには利用はなくなったのではないかと思われる。

第 7 号溝跡 (第 5 1、6 0 図、第 1 9 表)

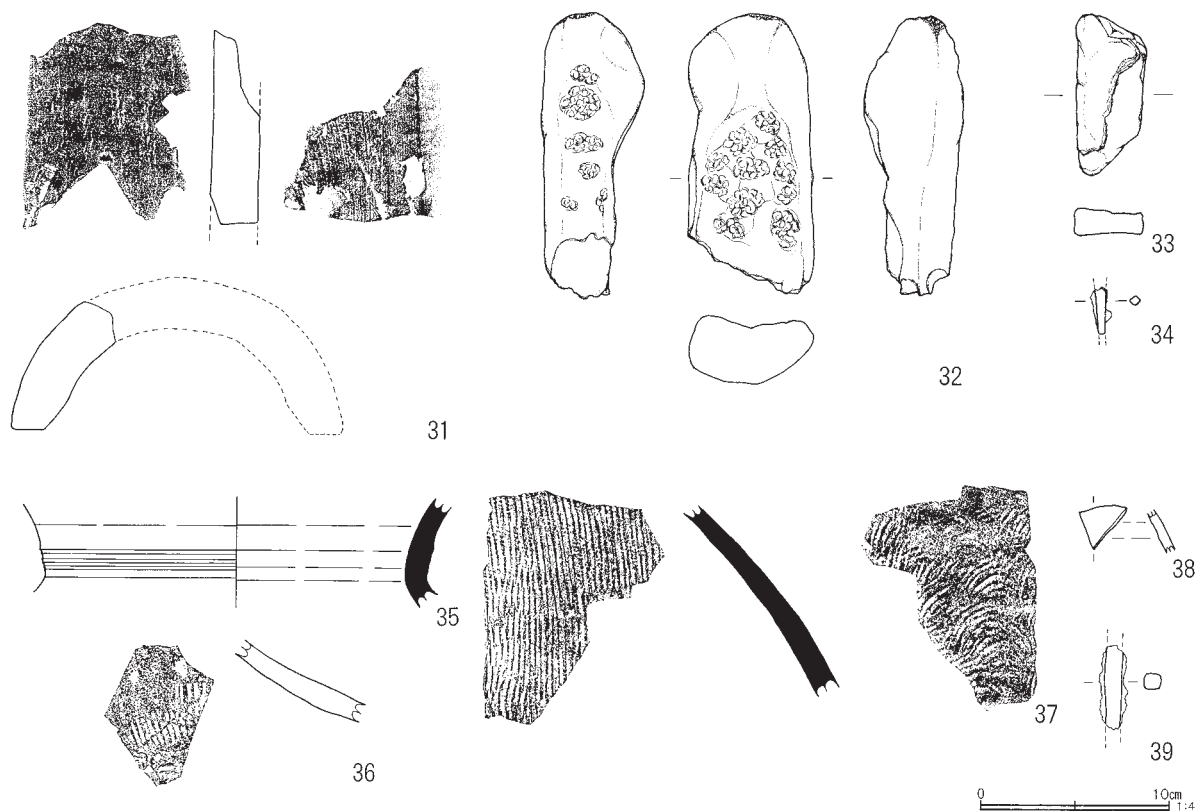
L-10、K-10 グリッド (H 区) から検出した。第 9 8、9 9 号ピットと重複関係にあり、各ピットに一部掘り込まれていた。サブトレンチや調査区域外に接続していた。

規模は、検出長 4.95m、幅 0.65m、深さは 0.58m であった。東西に真っ直ぐ走り調査区域外に向かっており、西にさらに延伸するものと考えられる。傾斜も西に向かって緩やかに傾いており、この溝跡のすぐ北に隣接する第 4 号溝跡との関係性を考えさせられる。

この溝跡からの遺物は陶器長頸瓶、瓦が出土した。これらから、この溝跡は 1 3～1 4 世紀代の時期に当てはめられる。



第56图 第4号沟迹出土遗物(1) (H区·I区·J区·L区·R2区)



第57図 第4号溝跡出土遺物(2) (H区・I区・J区・L区・R2区)

第16表 第4号溝跡出土遺物観察表 (H区 I区 J区 K区 L区 R2区)

番号	器種	法量(cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
1	土師器 坏	(15.0)	(2.2)	-	体部外面横位ヘラケズリ	ABJ	橙5YR-6/6	良好	口縁～体部片	
2	土師質 土器 坏	(7.2)	(2.1)	(4.0)	体部下端外面横位ヘラケズリ 口径小	ABDJ	外面：黒褐7.5YR-3/1 内面：灰白10YR-8/2	普通	30%	
3	須恵器 高台	-	(2.7)	(7.8)	脚部外面沈線1条	B	灰白2.5Y-7/1	良好	脚部30%	東海系?
4	須恵器 長頸瓶	-	-	-	外面沈線2条	AB	灰黄2.5Y-6/2	良好	胴部片	
5	須恵器 長頸瓶	-	(2.3)	6.6	底部周縁回転ヘラケズリ 台部外面わずかに自然釉付着	AGJN	黄灰2.5Y-5/1	良好	高台部70%	南比企産
6	青磁 小碗	(9.0)	(1.6)	-	内外面緑釉 ツケガケ		オリープ黄5Y-6/3	良好	口縁～体部片	東海産
7	天目 茶碗	(12.0)	(4.0)	-	鉄釉		黒7.5YR-2/1	良好	口縁部片	古瀬戸窯?
8	白磁 高台碗	-	(1.8)	(5.0)			灰白5Y-8/2	良好	高台部片	
9	青磁 皿	-	(1.9)	6.0			灰白10YR-7/1	良好	高台部片	
10	白磁 高台壺?	-	(3.0)	(3.5)			灰白5Y-7/2	良好	高台部片	
11	壺頸部 or 陶器 高台	-	-	-	内面鉄釉か?		黒2.5Y-2/1	良好	脚部片	
12	青磁 碗	-	-	-	外面文様 外面上部ハケヌリ		浅黄2.5Y-7/3	良好	体部片	
13	土師器 甕	(26.0)	(4.0)	-	胴上半部横位ヘラケズリ	ABDGJ	にぶい橙7.5YR-7/4	普通	口縁部片	
14	瓦質 土器 鉢	-	-	-		AIJN	灰黄2.5Y-6/2	良好	口縁部片	
15	焙烙	-	-	-	体部下端外面ヨコナデ	BJ	灰黄褐10YR-6/2	普通	底部片	
16	陶器 甕	-	-	-	内面ナデ		灰褐5YR-5/2	良好	肩部片	
17	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	AG	灰N-4/	良好	胴部片	

第 16 表 第 4 号溝跡出土遺物観察表（H 区 I 区 J 区 K 区 L 区 R 2 区）

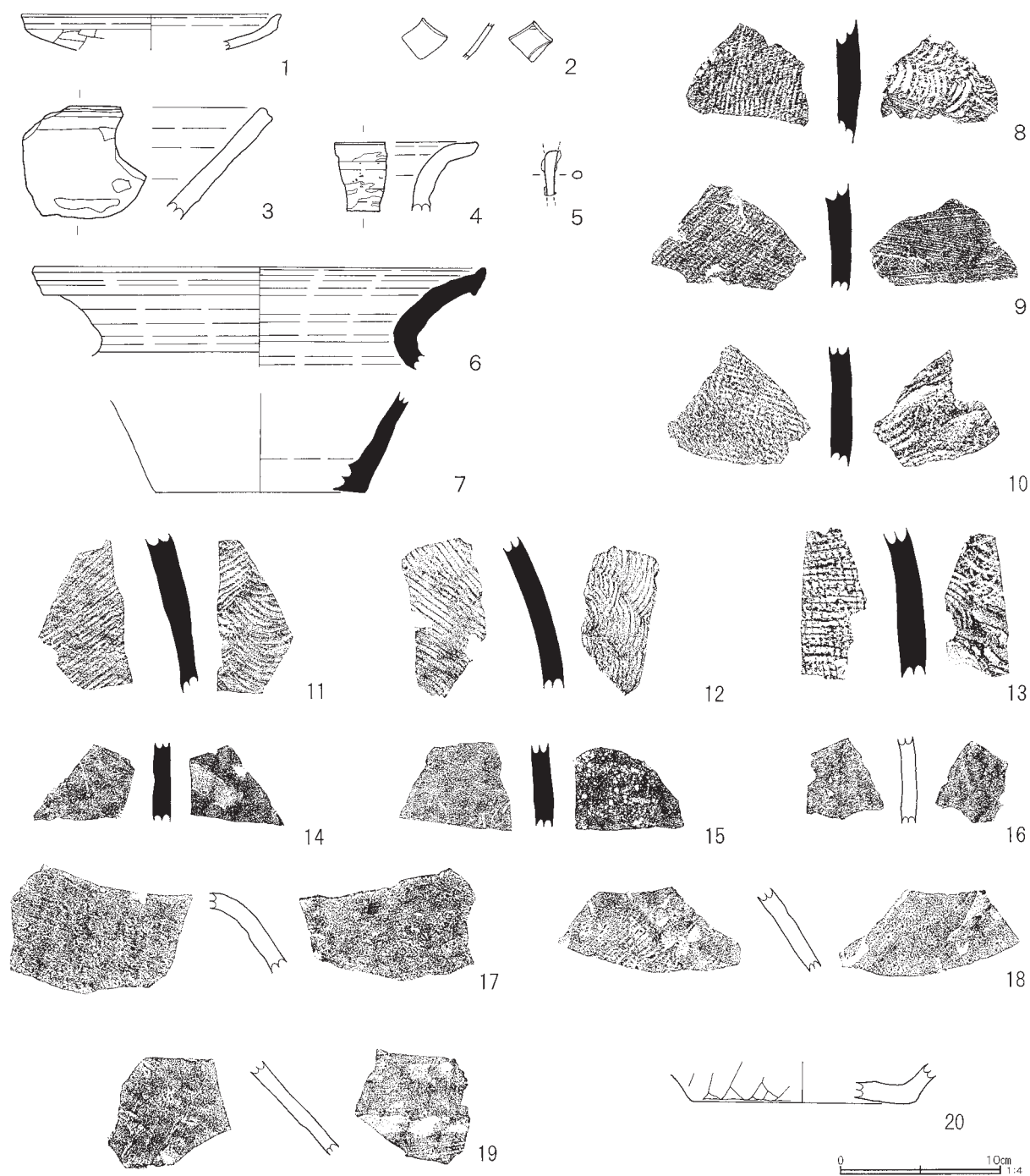
番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径 -						
18	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	AN	黄灰2.5Y-4/1	良好	胴部片	
19	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	AGN	褐灰10YR-4/1	良好	胴部片	
20	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面無文当て具痕	AND	灰黄褐10YR-5/2	良好	胴部片	
21	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	AD	灰N-4/	良好	胴部片	
22	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	AG	灰5Y-5/1	良好	胴部片	
23	在地 土器 甕	-	-	-	胴部下端外面横位ヘラケズリ？ 内面ミガキ	AGN	灰褐7.5YR-5/2	普通	高台部片	
24	陶器 甕	-	-	-	外面釉薬 胴部外面ヘラケズリ痕残る やや鉄釉がかかる		外面：灰赤2.5YR-4/2 内面：にぶい赤褐5YR-5/3	良好	肩部片	常滑窯
25	陶器 壺？	-	-	-	外面釉薬 灰釉		灰白2.5Y-7/1	良好	肩部片	
26	陶器 壺？	-	-	-	外面釉薬 鉄釉 内面自然釉		にぶい赤褐5YR-5/3	良好	胴部片	
27	陶器 甕？	-	-	-	外面格子文タタキ目 内面自然釉 無釉		黄灰2.5Y-6/1	良好	胴部片	珠洲窯？
28	常滑 甕？	-	-	-	外面押印文		外面：灰赤10YR-5/2 内面：にぶい褐7.5YR-5/4	良好	胴部片	常滑窯
29	常滑 甕	-	-	-	外面押印文		外面：にぶい赤褐5YR-5/3 内面：灰黄褐10YR-5/2	良好	肩部片	常滑窯
30	常滑 甕？	-	-	-	内面ナデ		にぶい褐7.5YR-5/3	良好	胴部片	常滑窯？
31	丸瓦	-	-	-	凹面布目痕粗い 凸面縄叩き後ナデ調整	BJ	暗灰黄2.5Y-5/2	良好	-	
32	石皿	長:14.7	幅:6.5	厚:2.9	外面敲打痕		にぶい赤褐5YR-5/4	-	-	花崗岩
33	滑石製 砥石	長:8.5	幅:3.5	厚:3.4			浅黄+C394橙10YR-8/4	-	完形	滑石
34	鉄釘	長:(2.5)	幅:(0.2~0.6)	厚:(0.4)	頭部及び先端部欠損		にぶい黄橙10YR-6/3	-	-	
35	須恵器 甕	-	-	-	頸部外面沈線	ABGIN	灰黄褐10YR-6/2	良好	頸部片	末野産
36	陶器 甕？	-	-	-	外面押印文	AGHN	にぶい赤褐5YR-5/4	良好	肩部片	常滑窯
37	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	ABG	黄灰2.5Y-5/1	良好	胴部片	
38	灰釉陶器	-	-	-	胴部外面釉薬		灰白10YR-7/1	良好	胴部片	
39	鉄釘	長:(4.0)	幅:(0.9)	厚:(0.8)	頭部及び先端部欠損		にぶい褐7.5YR-5/4	-	-	

第 17 表 第 5 号溝跡出土遺物観察表（H 区 I 区 J 区 K 区 L 区 R 2 区）

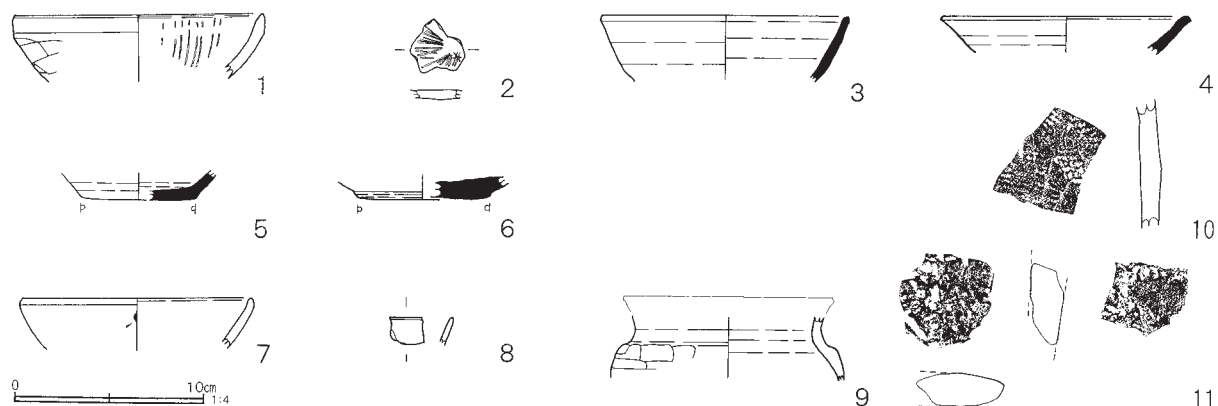
番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径 -						
1	土師器 坏	(16.0)	(3.4)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABIJN	明赤褐2.5YR-5/6	良好	口縁～体部片	
2	青磁	-	-	-			灰オリーブ5Y-6/2	良好	胴部片	
3	陶器 鉢	-	-	-	体部外面横位ナデ		にぶい赤褐2.5YR-5/4	良好	口縁部片	常滑窯？
4	陶器 甕	-	(4.2)	-	灰釉		灰白2.5Y-8/2	良好	口縁部片	渥美窯
5	鉄釘	長:(2.8)	幅:0.4~0.9	厚:0.5	頭部及び先端部欠損		明黄褐10YR-6/6	-	50%	
6	須恵器 甕	(28.0)	(6.3)	-		AGN	灰N-4/	良好	口縁部片	末野産
7	須恵器 甕	(13.0)	(5.8)	-	底部外面ヘラケズリ	AGN	灰5Y-4/1	良好	底部片	上野産
8	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	AGN	灰2.5Y-4/1	良好	胴部片	上野産
9	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面ナデ	AGN	灰2.5Y-4/1	良好	胴部片	上野産
10	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	AGN	灰2.5Y-4/1	良好	胴部片	末野産
11	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	ABGN	灰7.5Y-5/1	良好	胴部片	末野産
12	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	AG	灰N-4/	良好	胴部片	末野産
13	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	AGN	灰N-4/	良好	胴部片	上野産
14	須恵器 甕	-	-	-	外面ヨコナデ 内面無文当て具痕	ABGN	黄灰2.5Y-5/1	良好	肩部片	東海系
15	須恵器 甕	-	-	-	外面ヨコナデ 内面無文当て具痕	ABN	黄灰2.5Y-5/1	良好	肩部片	
16	陶器 甕	-	-	-	内面ナデ		灰黄褐10YR-6/2	良好	胴部片	

第17表 第5号溝跡出土遺物観察表（H区 I区 J区 K区 L区 R2区）

番号	器種	法量(cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
17	陶器 甕	-	-	-		AGN?	外面：にぶい赤褐5YR-5/4 内面：灰黄褐10YR-5/2	良好	肩部片	常滑窯
18	陶器 甕	-	-	-	押印文		外面：灰赤10R-4/2 内面：にぶい褐7.5YR-5/4	良好	胴部片	常滑窯
19	陶器 甕?	-	-	-	外面押印文		灰黄褐10YR-5/2	良好	肩部片	常滑窯
20	陶器 甕	-	(2.5)	(14.0)	胴下端部外面斜位ケズリ		にぶい褐7.5YR-5/3	良好	底部片	常滑窯



第58図 第5号溝跡出土遺物（H区・I区・J区・K区・L区・R2区）



第 5 9 図 第 6 号溝跡出土遺物（H 区・I 区・K 区・L 区・R 2 区）

第 1 8 表 第 6 号溝跡出土遺物観察表（H 区 I 区 K 区 L 区 R 2 区）

番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
1	土師器 坏	(13.0)	(3.5)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	ABN	橙2.5YR-6/8	良好	口縁～体部片	
2	土師器 坏	-	-	-	底部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	AB	橙5YR-6/6	普通	底部片	
3	須恵器 坏	(13.0)	(3.5)	-	口縁部内湾	BG	褐灰10YR-6/1	良好	口縁部片	
4	須恵器 坏	(13.0)	(2.0)	-	口縁部外反	AB	灰白2.5Y-7/1	良好	口縁部片	
5	須恵器 坏	-	(1.4)	(6.0)	底部外面回転糸切り	FGN	黄灰2.5Y-5/1	良好	底部30%	南比企産
6	須恵器 坏	-	(1.3)	(7.0)	底部外面回転糸切り	ABG	灰黄2.5Y-7/2	良好	底部片	
7	磁器 碗	(12.0)	(2.7)	-	外面染付文 自然コバルト		灰白10Y-7/1	良好	口縁部片	肥前系
8	白磁 碗	-	-	-			灰白2.5Y-8/2	良好	口縁部片	
9	土師器 台付甕	-	-	-	胴上半部外面横位ヘラケズリ	AB	橙5YR-6/6	普通	頸部片	
10	弥生 土器	-	-	-	外面縄文痕		明赤褐2.5YR-5/6	良好	胴部片	
11	瓦	-	-	厚:1.9	磨耗激しい	BN	黄灰2.5Y-6/1	良好	破片	

第 8 号溝跡（第 5 2 図）

L-11（H区）グリッドから検出した。SX05と重複関係にあり、SX05に切られていた。

規模は、検出長2.2m、幅0.30～0.22m、深さは0.29～0.22mであった。北側がSX05で切られており、全体が不明であるが、ほぼ南北方向に伸びており、南に向かって傾斜していた。出土遺物は検出されなかった。

第 9 号溝跡（第 5 2 図）

J-10、K-10（I区）グリッドから検出した。第4号溝跡と重複関係にあり、サブトレンチにより詳細は不明であるが、第4号溝跡を切っているものと推定される。

規模は、全長2.10m、幅0.21m、深さは0.05mであった。本溝跡は、ほぼ同じ幅で東西方向に延びていたが、やや蛇行しており、傾斜は認められなかった。遺物は検出されなかった。

第10号溝跡（第52、60図、第19表）

J-10、11グリッド（I区）から検出した。第5・6号溝跡と重複関係にあると推定される。いずれの溝跡にも切られていた。残念ながらサブトレンチ内のみでの検出であり、全容を確認するまでには至らなかった。

規模は、検出全長3.72m、幅0.22～0.18m、深さは0.72mであった。ほぼ南北に、第5・6号溝跡を斜めに横切る形で走り、幅が狭いわりに、深さがかなりのものであった。時期としては他の溝跡と異なり、平安時代のものと想定できる。

遺物は流れ込みと思われる弥生土器、須恵器甕片のみであった。

第11号溝跡（第52、60図、第19表）

E-11（K区）グリッドから検出した。一部が調査区域外であった。

規模は、検出全長1.98m、幅0.34～0.24m、深さは0.12mであった。東西に真っ直ぐ走り、西に向かってなだらかな傾斜がある。第12号溝跡と関係性が疑われる。

出土遺物は土師器坏、瓦質土器鉢が確認された。土師器坏は器形が確認できる程度に検出できたため、時期判断が可能となり、大体8世紀初めから中ごろと思われる。

第12号溝跡（第51、60図、第19表）

E-11（K区）グリッドから検出した。第15号住居跡及び第5、6号溝跡と重複関係にあり、当該溝跡がそれらをいずれも掘り込んでいた。

規模は、検出長3.70m、幅0.45～0.55m、深さは0.08mであった。東西に真っ直ぐ走り、西向かってなだらかな傾斜がある。第11号溝跡と関係性が疑われる。

出土遺物は須恵器甕、陶器甕片の2点のみであった。時期判断ができる遺物は確認できなかった。

第13号溝跡（第53-1、53-2、54、55、60図、第19表）

B-11、C-11（L区）グリッドから検出した。複数の溝跡と重複関係にあり、第5、6、14号溝跡を掘り込んでおり、また、第4号溝跡、第126号ピットに切られていた。全体像は不明で、一部は調査区域外に含まれているものと推測される。

規模は、検出長6.8m、幅1.20～0.91m、深さは0.35mであった。本溝跡は、一貫して大体同じ幅で南西から北東方向に延びていた。本溝跡は、3条の溝跡を斜めに横断する形で掘り込んでおり、興味深い。遺構の時期は正確には判断できないが、溝跡の切り合いから12世紀から13世紀の間と考えられる。

遺物は土師器碗以外、図示可能な遺物はなかった。

第14号溝跡（第53-1、53-2、54、55、60図、第19表）

A～D-11（K、L区）グリッドから検出した。調査区をまたがって、いくつかの遺構と重複関係にあり、第15号住居跡、第13号溝跡に切られていた。詳しいことは調査区域外も含まれるため、不明である。規模は、検出長17.4m、幅1.21～0.52m、深さは0.30～0.55mであった。第4～6号溝跡同様、東西に延びる溝跡であり、第13号溝跡と重複するあたりが一番深く、そこから東西に傾斜が上がっていく形をとる。L区東部分では途中、長方形の土坑が掘り込まれており、10cm程度の深さを持つ。後世の掘り込みの可能性も考えられるが詳細は不明である。

遺物は灰釉陶器甕、須恵器甕、陶器甕等が検出している。時期判断ができる遺物は残念ながら確認できなかったが大体12世紀前後だと推定される。

第15号溝跡（第51、60図、第19表）

I-13（R3区）グリッドから検出した。第129、131号ピットと重複関係にあり、それら遺構に切られていた。

規模は、検出全長4.30m、幅0.55～1.15m、深さは0.12mであった。北西から南東向かって走り、いびつな幅で延伸しながらも、底部は全体的にほぼ平らであった。なお、ピット状の窪みを第131号ピット脇で確認することができた。

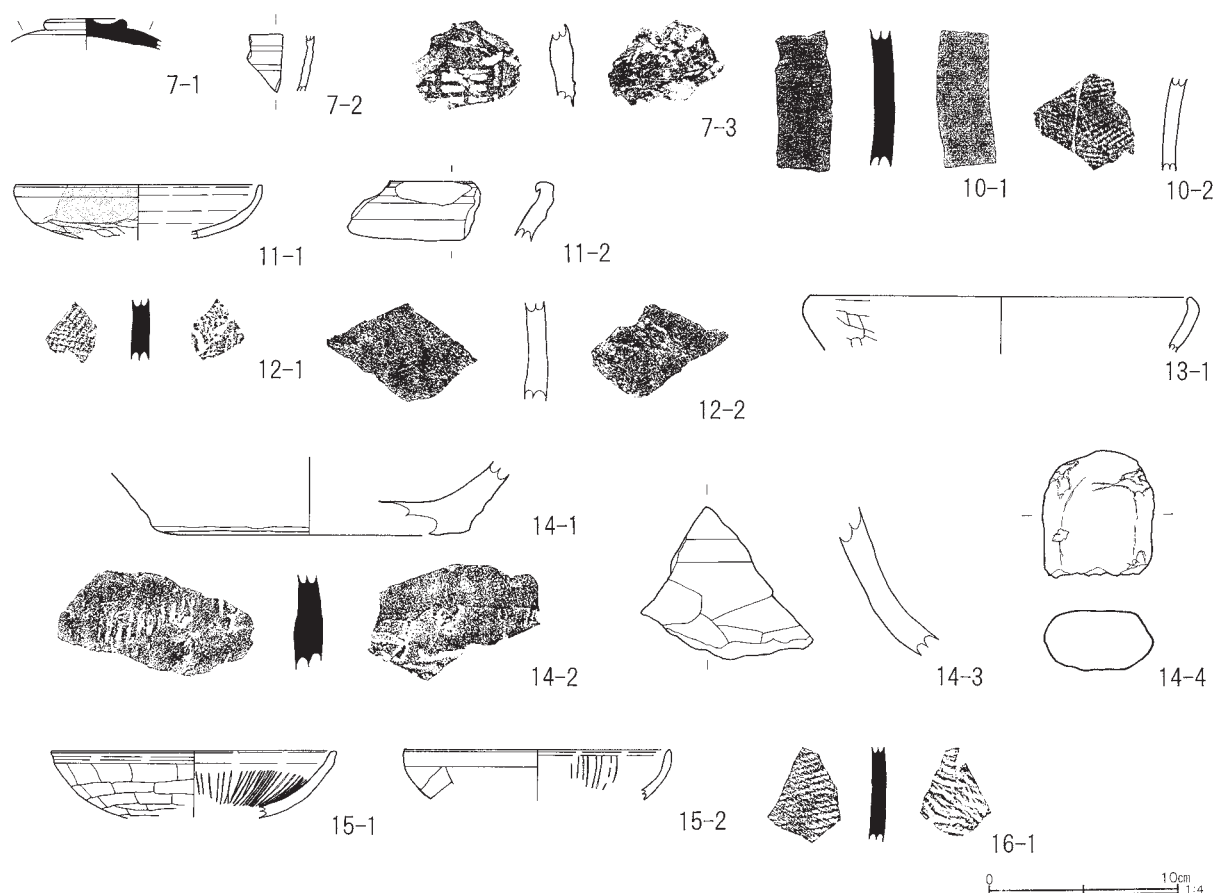
出土遺物は土師器杯が2点検出された。どちらも内面に放射線状暗文があり、時期は7世紀末～8世紀初めと考えられる。

第16号溝跡（第52、60図、第19表）

H-13（R3区）グリッドから検出した。第137号ピットと重複関係にあり、ピットに一部掘り込まれていた。溝跡の起点はおそらく調査区域外にあると想定される。

規模は、検出長3.90m、幅0.60～0.75m、深さは0.45mであった。全容は不明だが、北東から南西方向に伸びており、南西に向かって傾斜があり、途中で13cm程度の落ち込み後、ピット状の窪みがあり、そこから終点に向かってまた傾斜がある。

溝跡の覆土は、底部付近はやや粘土が混ざり、層序から、レンズ状の自然堆積と考えられる。図示可能な遺物としては須恵器甕片が確認された。



第60図 第7・10～16号溝跡出土遺物（H区・I区・K区・L区・R3区）

第19表 第7・10～16号溝跡出土遺物観察表（H区 I区 K区 L区 R3区）

番号	器種	法量(cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
7-1	須恵器 蓋	(8.0)	(1.6)	(鈕径)4.0	環状鈕 天井部外面回転ヘラケズリ	BGN	灰7.5Y-5/1	良好	鈕部片	
7-2	灰釉 陶器 長頸瓶	-	-	-	外面全面釉 外面沈線2条		灰白2.5Y-8/1	良好	胴部片	東海産
7-3	瓦	-	-	-	凸面格子文タタキ	BN	にぶい黄橙10YR-7/2	普通	-	
10-1	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面無文当て具痕	ABGN	灰N-5/	良好	胴部片	
10-2	弥生 土器	-	-	-	流れ込みか？ 外面縄文痕		明赤褐2.5YR-5/6	良好	胴部片	
11-1	土師器 杯	(13.0)	(2.8)	-	口縁～口辺部外面黒色物 体部外面手持ちヘラケズリ	ABIJN	橙7.5YR-6/6	良好	口縁～底部片	
11-2	瓦質 土器 鉢	-	-	-	口縁部外面凹状沈線	ABDJ	灰白2.5Y-7/1	良好	口縁部片	
12-1	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	A	灰N-5/	良好	胴部片	
12-2	陶器 甕	-	-	-			外面：にぶい橙7.5YR-6/4 内面：にぶい黄橙10YR-5/3	良好	胴部片	産地不明
13-1	土師器 椀	(10.0)	(2.9)	-	体部外面ヨコナデ 口縁部内湾		灰褐7.5YR-4/2	良好	口縁～体部片	
14-1	灰釉 陶器 甕	-	(4.1)	(16.0)	外面釉薬		にぶい黄橙10YR-7/2	良好	底部片	産地不明
14-2	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面無文当て具痕	AGN	黄灰2.5Y-4/1	良好	肩部片	
14-3	常滑 甕	-	-	-	外面ヘラミガキ及びナデ		にぶい黄褐10YR-5/3	良好	肩部片	
14-4	蔽石	長:6.6	幅:5.7	厚:3.1	先端部蔽打痕		にぶい黄橙10YR-7/3	-	-	花崗岩
15-1	土師器 杯	(15.0)	(3.5)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 体部内面放射状暗文	AB	橙5YR-6/8	良好	30%	
15-2	土師器 杯	(14.0)	(2.6)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	ABG	明赤褐2.5YR-5/6	良好	口縁部片	
16-1	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	AG	黒7.5YR-2/1	良好	胴部片	

3 土坑

土坑は、総じて34基検出した。規模平面プランについては、方形または楕円形を呈するものが多く、深さは、一部を除けば、遺構確認面から概ね0.20～0.40mに収まり、0.30m前後が主体をなす。中には40cm以上の深さを持つものもある。

特に調査区の北側（A～G区、R1、2区）には農業耕作における攪乱が認められ、多くの土坑を掘り込んでいた。

土坑の中には近代における掘り込みと認められるものもあり、複数基確認している。

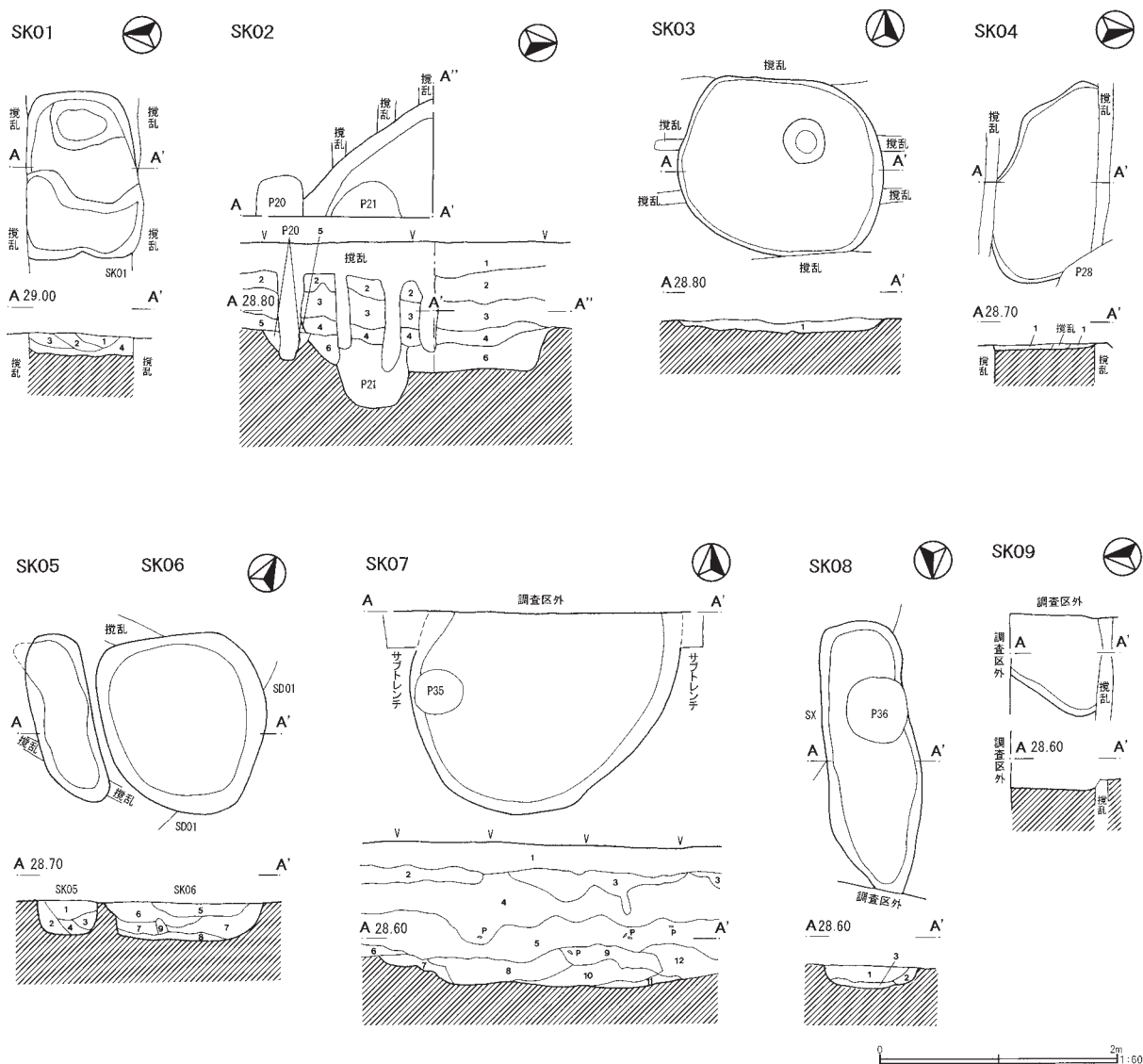
また、第10号土坑については、現地表面下からの深さは1.32mであり、規模が大きく、掘り方はやや垂直に掘り込まれている印象を受けた。遺物の出土もなく、特に特徴もないことから、土坑としたが、住居跡の可能性も否めないと考えられる。第11号土坑は完全な方形となっており、落ち込みもかなり垂直気味なことから、意図的な掘り方と考えて差し支えないと考えられる。第13土坑においては、第5号溝跡と重複関係であるが、円形の土坑内にピットがあり、それは柱穴と考えられる。残念ながら、その柱穴は掘り切ることができなかった。第33、34号土坑は水田跡の畔に近接して検出しており、一層で10cm程度の浅い掘り込みながら、その性格については興味を持つ。

各土坑を見ても、遺物について、特に特出すべきものは検出されなかったが、第1号、23号土坑において馬骨の検出があった。検出は双方とも頭部、大腿骨付近のみに留まり、一頭分の検出とはならなかった。双方とも性格不明遺構を掘り込んでおり、骨自体も劣化状態がそんなに進んでいないことから近世におけるものと考えられる。

以下、各土坑の特徴等について一覧表で掲載をする。（第61～65図・第20、31表）

第20表 土坑一覧表

No.	位置	平面形状	長軸×短軸×深さ (m)	出土遺物	時期	重複関係(新旧)	備考
1	I-1	(長方形)	1.51×(1.01)×0.16	須恵器長頸瓶、馬骨 鉄釘	近世	SX	A区
2	I-3	(長方形)	(1.40)×(0.77)×0.35				A区
3	G-2・3	楕円形	1.82×1.60×0.10				B区
4	G-3	(不整楕円形)	1.75×(0.81)×0.04			SX、P28	B区
5	M-5・6	楕円形	1.46×0.48×0.28				R 1 区
6	M-5・6	楕円形	1.62×1.42×0.29			SD01	R 1 区
7	L-5	(楕円形)	2.26×(1.59)×0.21			P35	R 1 区
8	L・K-5・6	(楕円形)	2.27×0.76×0.17			SX、P36	R 1 区
9	J・I-7	(長方形)	1.07×0.78×0.07				E区
10	G-7・8	(不整楕円形)	3.10×(0.85)×0.31				R 2 区
11	F-11・12	(長方形)	(2.54)×(1.12)×0.22			SX	R 2 区
12	L・K-10	(不整楕円形)	(1.90)×(1.30)×0.44	五輪塔風部か？			H区
13	K-10	(円形)	1.21×(0.64)×0.14			SD04	H区
14	M・L-11	(長方形)	(1.88)×(0.98)×0.27	須恵器甕		SD06	H区
15	L・K-11	(長方形)	(2.33)×(1.12)×0.19			SX、SD06、P104	H区
16	J-10	不整楕円形	0.67×0.40×0.16				I 区
17	J-10	(楕円形)	1.03×(0.63)×0.18				I 区
18	J・I-10	(長方形)	(1.50)×0.85×0.20	灰釉陶器	9 c 後半～10 c 前	SD04	I 区
19	J-11	(不整楕円形)	(1.86)×0.65×0.21	土師器甕、須恵器坏、陶器甕	8 c ごろか	SD06	I 区
20	J-11	(不整形)	(0.82)×(0.61)×0.27				I 区
21	I-11	(不整楕円形)	(1.46)×(1.04)×0.48			SD05	J 区
22	E-11	(長方形)	1.39×(0.62)×0.38			SX	K区
23	D-11	楕円形	1.51×1.14×0.24	馬骨	近世	SX、SD06	K区
24	D-11	楕円形	1.62×0.49×0.06				K区
25	G-11・12	(長方形)	2.74×(0.71)×0.34	土師器坏	9 c 代	P141	R 3 区
26	G-12	(不整楕円形)	2.03×(0.79)×0.38			P146	R 3 区
27	F-12	(楕円形)	1.17×(0.68)×0.35				R 3 区
28	I・H-13	(不整楕円形)	2.35×0.55×0.32			P132、P134	R 3 区
29	I・H-13	楕円形	2.01×0.49×0.38				R 3 区
30	H-13	(楕円形)	2.18×(1.11)×0.41	須恵器坏、蓋、陶器甕？	9 c ～10 c 初		R 3 区
31	G-13	(不整円形)	(0.89)×(0.52)×0.31			SI17、SI18、P169	R 3 区
32	E・D-13	(不整楕円形)	(2.15)×(1.19)×0.43				R 3 区
33	D・C-13	(長方形)	(0.92)×0.91×0.10			SX	R 3 区
34	D-13	(正方形)	0.93×0.86×0.12	鉄釘		SX	R 3 区



第1号土坑 (A-A') (A区)

1. オリーブ黒 5Y-3/1 (にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック少量)
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック少量)
3. オリーブ褐 2.5Y-4/3
4. オリーブ黒 5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子少量)

第2号土坑 (A-A'-A'') (A区)

1. 表土
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (一部暗灰黄 2.5Y-5/2, 黒褐 2.5Y-3/1 粒子多量)
3. オリーブ褐 2.5Y-4/3
4. オリーブ黒 5Y-3/2 (一部暗灰黄 2.5Y 粒子少Y弱)
5. 黒 7.5Y-2/1 (少々ソフトローム土含)
6. 黒 2.5Y-2/1 (少々砂質、しまり強)

第3号土坑 (A-A') (B区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (多量に黄 2.5Y-7/8 含)

第4号土坑 (A-A') (B区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (多量に黄 2.5Y-7/8 含)

第5・6号土坑 (A-A') (R1区)

1. オリーブ黒 5Y-3/2 (ソフトローム土粒子少量)
2. 黒褐 2.5Y-3/1
3. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック粒子有)
4. 暗灰黄 2.5Y-4/2
5. 灰オリーブ 5Y-4/2 (オリーブ黒 5Y-3/1 及びソフトローム土ブロック、粒子少量)
6. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (ソフトローム土粒子有、しまり強)
7. 黒褐 2.5Y-3/1 (にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック多量)
8. 灰オリーブ砂質 5Y-5/2
9. 黒 2.5Y-2/1 (根か?)

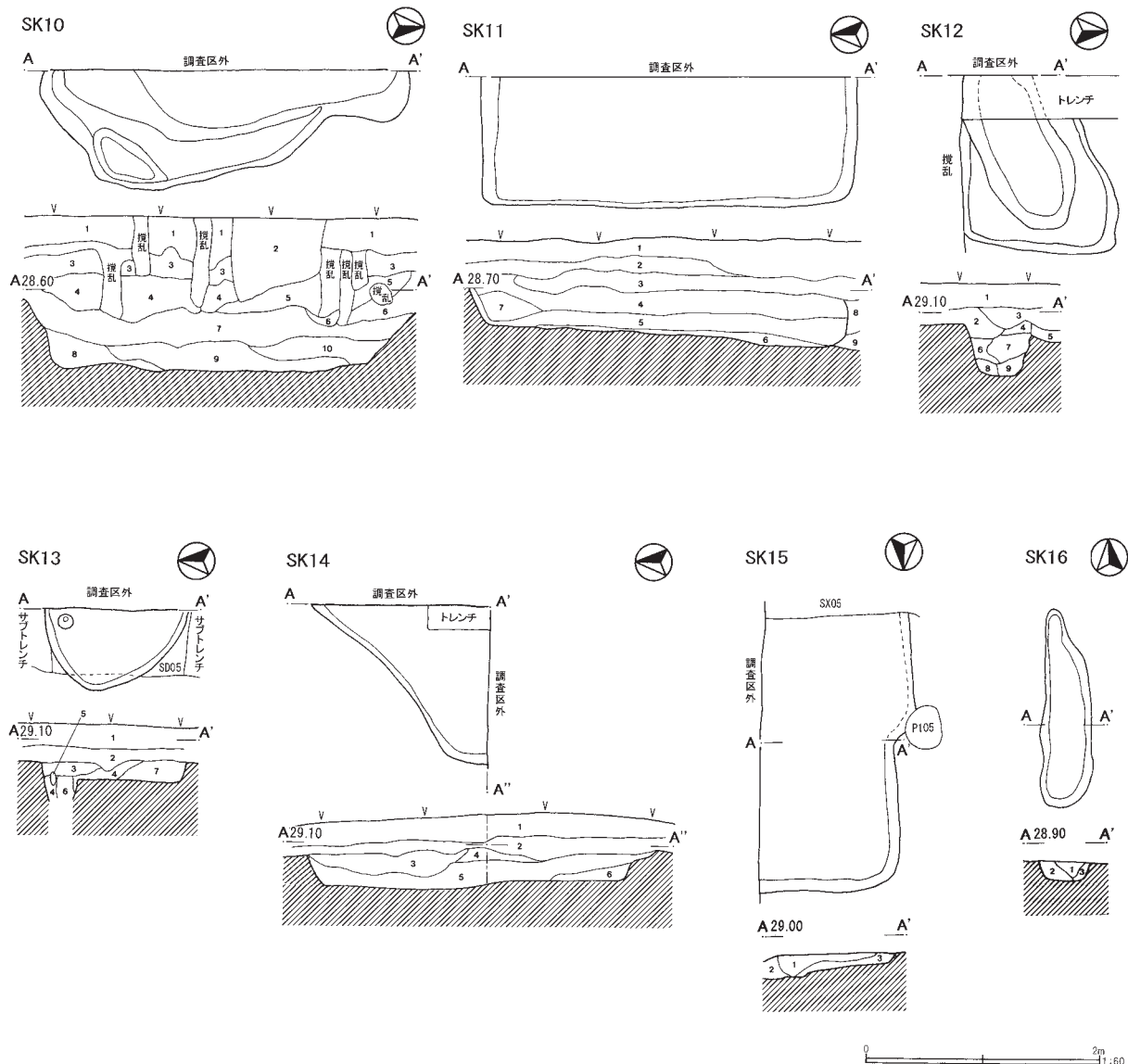
第7号土坑 (A-A') (R1区)

1. 表土
2. にぶい黄砂質 2.5Y-6/4
3. 灰オリーブ砂質 5Y-5/2
4. オリーブ黒 5Y-3/2 (土器片少量、しまっている)
5. 灰オリーブ 5Y-4/2 (土器片含、にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック少量、炭化物少量)
6. 黄褐 2.5Y-5/3 (土器片、にぶい黄 2.5Y-6/4 粒子及びブロック有)
7. 黒褐 2.5Y-3/1 (土器片少量、黄灰 2.5Y-4/1 有)
8. 暗青灰粘質 5B-3/1
9. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (しまり若干弱、土器片多量)
10. オリーブ黒粘質 5Y-3/1 (暗灰黄 2.5Y-4/2 粒子及びブロック少量)
11. 黒褐 2.5Y-3/2 (ソフトローム土粒子多量)
12. 黄褐砂質 2.5Y-5/3

第8号土坑 (A-A') (R1区)

1. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (ソフトローム土ブロック多量、しまり弱)
2. オリーブ黒 5Y-3/1 (少々砂質)
3. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (ソフトローム土粒子多量)

第61図 第1～9号土坑 (A区・B区・R1区)



第10号土坑 (A-A') (R2区)

1. 表土
2. 黒褐 10Y-3/1 (焼土少量、土器片含、少々しまり弱)
3. 黒褐粘質 2.5Y-3/1 (土器片含)
4. 黒褐 2.5Y-3/1 (ソフトローム土粒子多量、土器片含、にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック有)
5. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (ソフトローム土粒子多量、黒褐 2.5Y-3/1 粒子有)
6. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (ソフトローム土粒子少量、しまり弱)
7. 暗緑灰 10G-3/1 (少々粘質、ソフトローム土粒子多量、一部暗灰黄 2.5Y-4/2 ブロック、灰オリーブ 5Y6/2 ブロック有)
8. オリーブ黒 5Y-3/1 (一部粘質、ソフトローム土粒子多量)
9. 灰オリーブ 5Y-4/2 (ソフトローム土粒子少量、灰黄砂質 2.5Y-6/2 粒子多量)
10. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (ソフトローム土ブロック及び粒子多量、黒褐 2.5Y-3/1 粒子多量)

第11号土坑 (A-A') (R2区)

1. 表土
2. オリーブ黒 5Y-3/1 (土器片多量、灰オリーブ 5Y-5/2 ブロック多量)
3. ソフトローム土 (オリーブ黒 10Y-3/1 ブロック、粒子多量に含、少々)
4. オリーブ黒粘質 10Y-3/1 (灰オリーブ 5Y-5/2 ブロック少量有、ソフトローム土ブロック及び粒子含)
5. 緑黒粘質 10G-2/1 (ソフトローム土ブロック及び粒子少量有)
6. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (一部ソフトローム土)
7. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (浅黄 2.5Y-7/3 ブロック少量、ソフトローム土ブロック有)
8. オリーブ黒 10Y-3/1 (ソフトローム土及び9の粒子混ざる)
9. 黒粘質 2.5GY-2/1 (ソフトローム土粒子及びブロック有、しまり強)

第12号土坑 (A-A') (H区)

1. 表土
2. オリーブ黒 5Y-3/2
3. 灰オリーブ 7.5Y-4/2
4. 灰オリーブ砂質 5Y-5/2
5. 灰オリーブ 5Y-5/2 (ソフトローム土ブロック少量含)
6. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (少々シルト質)
7. オリーブ黒 5Y-3/2 (6の粒子及びブロック含)
8. オリーブ黒 7.5Y-3/2 (しまり強)
9. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (しまり強、ソフトローム土ブロック含)

第13号土坑 (A-A') (H区)

1. 耕作土
2. オリーブ黒砂質 5Y-3/2
3. 黒褐砂質 10YR-3/1
4. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (土器片有)
5. 黄灰砂質 2.5Y-4/1
6. オリーブ黒粘質 10Y-3/1 (少々シルト質)
7. 灰オリーブ粘質 7.5Y-4/2

第14号土坑 (A-A') (H区)

1. 耕作土
2. オリーブ黒砂質 5Y-3/2
3. 黄褐 2.5Y-5/3 (黒褐 10YR-3/1 ブロック有)
4. 灰オリーブ砂質 5Y-5/2
5. 黒褐 2.5Y-3/1 (一部しまり弱、にぶい黄 2.5Y-6/4 有、黄 2.5Y-7/8 ブロック少量有)
6. オリーブ黒 5Y-3/2 (若干粘質)

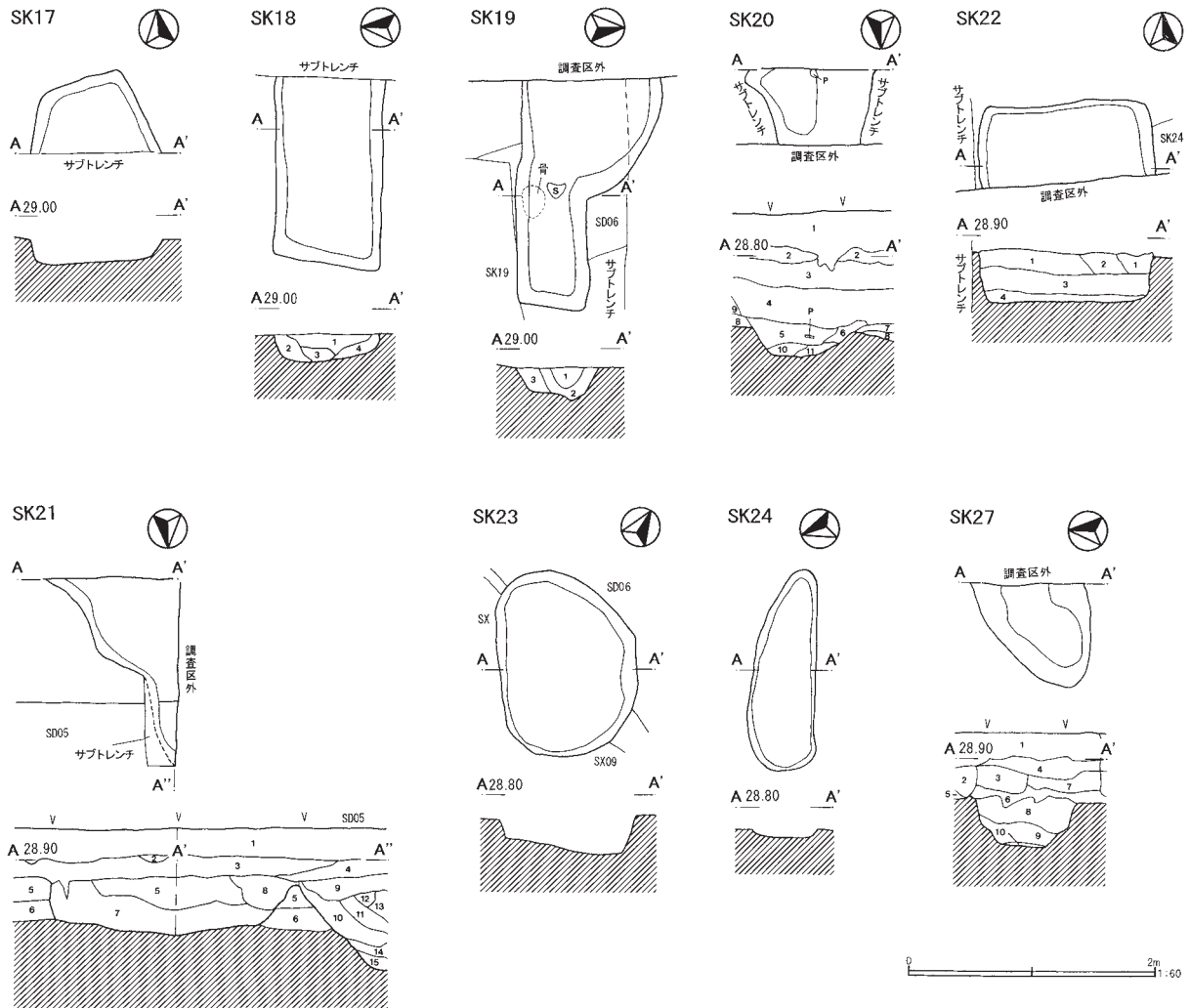
第15号土坑 (A-A') (H区)

1. 灰オリーブ 5Y-4/2 (少々ゆるい)
2. 黒褐粘質 2.5Y-4/1
3. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (少々砂質)

第16号土坑 (A-A') (I区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2
2. 黒褐 2.5Y-3/1
3. 2に黄灰 2.5Y-4/1 ブロック有

第62図 第10～16号土坑 (R2区・H区)



第18号土坑 (A-A') (I区)

1. 灰黄褐 10YR-4/2 (一部砂質)
2. 黒褐 10YR-3/1 (土器片有)
3. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (土器片)
4. 暗灰黄砂質 2.5Y-4/2

第19号土坑 (A-A') (I区)

1. 灰黄褐 10YR-4/2 (黒褐 2.5Y-3/1 ブロック及び粒子多量)
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (少々砂質)
3. にぶい黄砂質 2.5Y-6/3

第20号土坑 (A-A') (I区)

1. 耕作土
2. オリーブ黒 5Y-3/1 (土器片、灰オリーブ 5Y-5/2 ブロッカー一部有)
3. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (土器片、少々砂質)
4. 黄褐 2.5Y-5/3 (土器片、焼土少量有)
5. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (少々粘質、黄 2.5Y-7/8 粒子ブロック有)
6. 黒褐 2.5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子多量に有)
7. 黄灰 2.5Y-4/1 (しまりかなり弱、土器片、焼土有、一部砂質)
8. 黄褐砂質 2.5Y-5/3 (しまりかなり弱)
9. 暗灰黄 2.5Y-5/2 (少々砂質)
10. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黒褐 2.5Y-3/1 ブロック混入)
11. 暗灰黄砂質 2.5Y-4/2

第22号土坑 (A-A') (K区)

1. オリーブ黒 10Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 及び黒 2.5GY-2/1 粒子混入、しまり弱)
2. オリーブ黒 5Y-3/1 (土器片多量、灰オリーブ 5Y-5/2 ブロック多量)
3. 黒粘質 2.5GY-2/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子ブロック少量有、しまり強)
4. 黄灰 2.5Y-4/1 (黄 2.5Y-7/8 多量に混入、しまり弱)

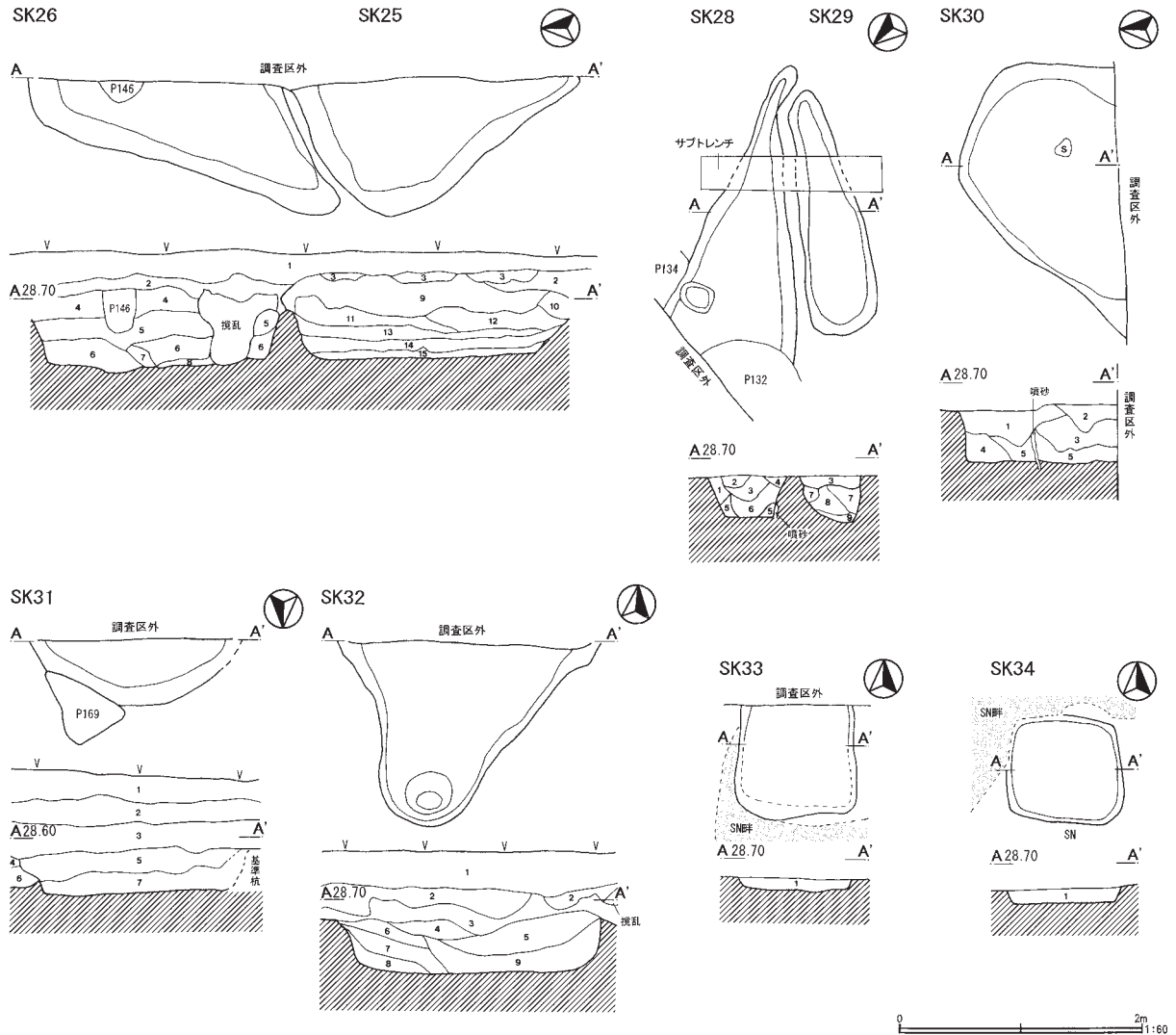
第21号土坑 (A-A') (J区)

1. 耕作土
2. 灰オリーブ砂質 5Y-5/2 (しまりかなり弱)
3. オリーブ黒 5Y-3/1 (土器片多量、灰オリーブ 5Y-5/2 ブロック多量)
4. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (土器片含)
5. 黒粘質 2.5GY-2/1 (ソフトローム上粒子及びブロック少量、しまり強)
6. 灰黄褐 10YR-4/2 (にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック含、しまりかなり強)
7. 黒粘質 2.5GY-2/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子ブロック少量、しまり強)
8. 黒褐 2.5Y-3/2 (土器片含、にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック有)
9. 暗オリーブ灰 2.5GY-4/1 (にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック有)
10. オリーブ黒 7.5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 ブロック有、一部に5のブロック有)
11. 灰オリーブ砂質 5Y-5/3 (黄 2.5Y-7/8 ブロック有、しまり若干弱)
12. オリーブ黒 5Y-3/2 (しまりかなり弱)
13. 灰オリーブ 5Y-4/2 (シルト質一部有、土器片、炭化物有)
14. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (一部12含、黄 2.5Y-7/8 ブロック有)
15. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 ブロック混入)

第27号土坑 (A-A') (R3区)

1. 表土 (耕作土)
2. オリーブ黒 5Y-3/1 (土器片多量、灰オリーブ 5Y-5/2 ブロック多量)
3. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (一部炭化物、ソフトローム土有)
4. 暗灰黄 2.5Y-4/2
5. ソフトローム土 (少々砂質、オリーブ黒 10Y-3/1 ブロック及び粒子多量)
6. ソフトローム土 (少々砂質、オリーブ黒 10Y-3/1 ブロック及び粒子多量)
7. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (ソフトローム土微粒子有)
8. オリーブ黒 5Y-3/2 (弱かんシルト質、一部ソフトローム土ブロック有)
9. オリーブ黒砂質 5Y-3/1
10. オリーブ黒粘質 10Y-3/1 (灰オリーブ 5Y-5/2 ブロック少量、ソフトローム土ブロック及び粒子有)

第63図 第17～24・27号土坑 (I区・J区・K区・R3区)



第 25.26 号土坑 (A-A') (R3 区)

1. 耕作土 (耕作土)
2. オリーブ黒 5Y-3/1 (土器片多量、灰オリーブ 5Y-5/2 ブロック多量)
3. オリーブ黄 5Y-6/3 (しまり弱、黒褐 2.5Y-3/1 ブロック有)
4. 黄 2.5Y-7/8(オリーブ黒 10Y-3/1 ブロック、粒子多量に含、少々砂質)
5. オリーブ黒 10Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 と黒 2.5GY-2/1 も粒子混ざる、しまり弱)
6. 黒粘質 2.5GY-2/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子ブロック少量有、しまり強)
7. 灰黄粘質 2.5Y-6/2
8. 黄灰 2.5Y-4/1 (しまっている)
9. オリーブ黒 10Y-3/1 (オリーブ黄 5Y-6/3 ブロック及び粒子有)
10. オリーブ黒 5GY-2/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子多量)
11. にぶい黄 2.5Y-6/4 (黒褐 2.5Y-3/1 ブロック、土器片含、少々しまり弱)
12. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (土器片、黒褐 2.5Y-3/1 ブロック多量、黄 2.5Y-7/8 粒子及びブロック有)
13. 暗オリーブ灰 2.5GY-4/1 (黄 2.5Y-7/8 ブロック、土器片含)
14. オリーブ黒 5Y-3/1 (少々粘質)
15. 灰オリーブ粘質 5Y-5/2

第 28.29 号土坑 (A-A') (R3 区)

1. 2 に少々シルト質有
2. オリーブ黒 5Y-3/1
3. 灰オリーブ 5Y-4/2 (一部しまり弱)
4. にぶい黄砂質 2.5Y-6/4
5. 6 に黄 2.5Y-7/8 粒子
6. 黒褐 2.5Y-3/1 (一部砂質)
7. オリーブ黄 5Y-6/3(黒褐 2.5Y-3/1 粒子含)
8. オリーブ黒 7.5Y-3/2
9. オリーブ黒 7.5Y-3/2 (ソフトローム土粒子多く入る)

第 30 号土坑 (A-A') (R3 区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 ブロック粒子有、土器片含)
2. オリーブ黒 5Y-3/2 (少々ゆるい)
3. 1 ににぶい黄 2.5Y-6/3 多量、炭化物有
4. オリーブ黒 5Y-3/1 (少々砂質)
5. 灰オリーブ 5Y-4/2 (一部黄 2.5Y-7/8 粒子)

第 31 号土坑 (A-A') (R3 区)

1. 耕作土 (耕作土)
2. オリーブ黒 5Y-3/1 (土器片多量、灰オリーブ 5Y-5/2 ブロック多量)
3. 黄 2.5Y-7/8(少々砂質、オリーブ黒 10Y-3/1 ブロック及び粒子多量に含)
4. 暗灰黄 2.5Y-4/2
(黒褐 2.5Y-3/1 ブロック多量、土器片含、にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック有)
5. オリーブ黒 10Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 と黒 2.5GY-2/1 も粒子混ざる、しまり弱)
6. 暗オリーブ灰 2.5GY-4/1
7. 黒粘質 2.5GY-2/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子ブロック少量有、しまり弱)

第 32 号土坑 (A-A') (R3 区)

1. 耕作土
2. オリーブ黒 5Y-3/1 (土器片多量、灰オリーブ 5Y-5/2 ブロック多量)
3. 黄 2.5Y-7/8(オリーブ黒 10Y-3/1 ブロック、粒子多量に含、少々砂質)
4. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (4 のブロック及び粒子が多く含)
5. 黒褐 2.5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 ブロック多く含、土器片含)
6. 灰オリーブ 5Y-4/2 (4 のブロック少々有、しまり有)
7. 灰オリーブ 7.5Y-4/2 (4 のブロック少々有、しまり有、一部砂質)
8. 黒褐砂質 2.5Y-3/1 (多量に黄 2.5Y-7/8 有、かなりゆるい)
9. 黒褐 2.5Y-3/1 (黄灰 2.5Y-4/1、砂質粒子、ブロック多く含)

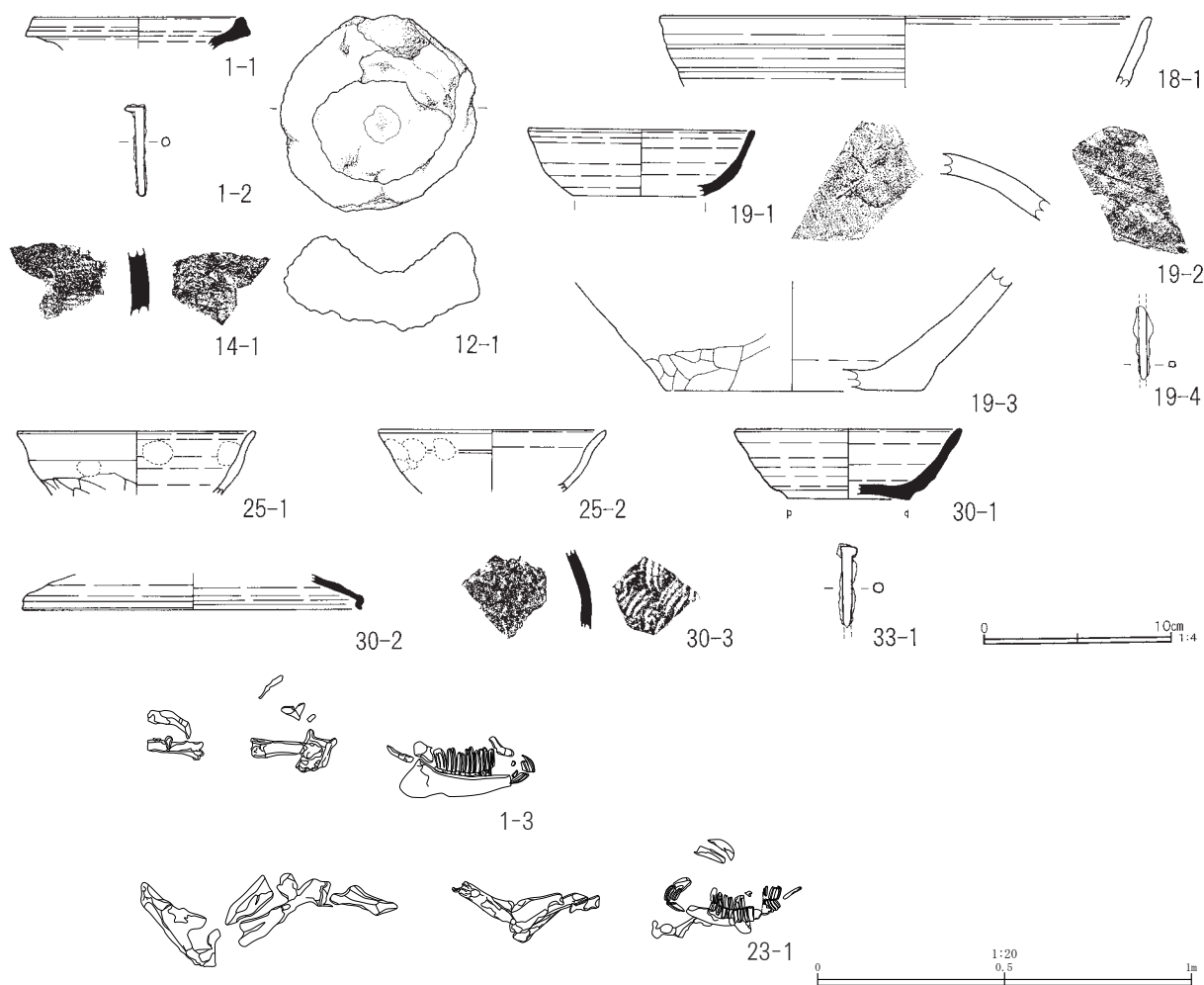
第 33 号土坑 (A-A') (R3 区)

1. オリーブ 5Y-5/4

第 34 号土坑 (A-A') (R3 区)

1. オリーブ 5Y-5/4

第 6 4 図 第 2 5 ・ 2 6 ・ 2 8 ～ 3 4 号土坑 (R 3 区)



第 6 5 図 土坑出土遺物

第 2 1 表 土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
1-1	須恵器 長頸瓶	(11.0)	(1.6)	-		AB	灰白2.5Y-7/1	良好	口縁部片	東海産
1-2	鉄釘	長:(4.8)	幅:0.5	厚:0.5	頭部平らに鍛き出し有		灰黄褐10YR-6/2	-	-	
1-3	馬骨	長:(4.1)	幅:17.5	厚-	頭部顎周辺部のみ残存				頭部。脚部のみ	法量頭部のみ
12-1	五輪塔 風部?	長:10.2	幅:10.3	厚:2.6	中央にくぼみ		にぶい黄橙10YR-6/3	-	-	安山岩(火成岩) 角閃石
14-1	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	ABG	黄灰2.5Y-4/1	良好	胴部片	産地不明
18-1	灰釉陶器	(26.0)	(3.7)	-	外面沈線2条 内外面釉薬		にぶい黄2.5Y-6/3	良好	口縁部片	東海産
19-1	須恵器 坏	(12.0)	(3.5)	-	底部外面回転ヘラケズリ	ABFN	灰黄2.5Y-6/2	良好	20%	南比企産
19-2	陶器 甕	長:(6.2)	幅:(4.5)	厚:(1.0)			褐灰10YR-5/1	良好	肩部片	常滑窯
19-3	土師器 甕	-	(5.8)	-	胴下端部外面ヘラケズリ	ABIN	黄灰2.5Y-6/1	良好	胴下端～底部片	
19-4	鉄釘	長:(3.9)	幅:(0.4)	厚:(0.3)			にぶい褐7.5YR-5/4	-	-	
23-1	馬骨	長:(4.1)	幅:26.5	厚-	頭部顎周辺部分のみ残存				頭部。脚部のみ	法量頭部のみ
25-1	土師器 坏	(12.6)	(3.4)	-	口辺～体部上半外面指頭圧痕有 体部外面手持ちヘラケズリ	ABDIN	にぶい橙7.5YR-6/4	良好	20%	
25-2	土師器 坏	(12.0)	(3.4)	-	口辺部外面指頭圧痕有	ABDIJN	橙5YR-6/6	普通	20%	
30-1	須恵器 坏	(12.0)	(3.7)	-	底部外面回転糸切り	ABIJN	灰黄2.5Y-6/2	良好	40%	末野産
30-2	須恵器 蓋	(18.0)	(1.9)	-		ABIN	灰白2.5Y-7/1	良好	口縁部片	東海産
30-3	陶器 甕?	-	-	-	外面平行タタキ目? 内面同心円状当て具痕 外面鉄釉か?	ABH	灰白2.5Y-7/1	良好	胴部片	
33-1	鉄釘	長:(4.4)	幅:0.4～0.6	厚:0.5	頭部平らに鍛き出し有		にぶい黄橙10YR-6/4	-	-	

4 焼成遺構

第1号焼成遺構（第66図、第22表）

G-11（R2区）グリッドから検出した。いびつな楕円形を呈していると推測され、およそ半分が調査区域外に切られていた。

規模は、検出長1.22m、幅1.20m、深さは0.50mであった。底部は全体的にほぼ平らであり、遺物は遺構の東底部付近で多く検出された。焼土は第4、8、9、10層で検出され、いずれも遺構のやや北側に位置する。

出土遺物は、土師器坏や、土師器片が何点か検出されたが坏の1点のみ以外図示できるものはなかった。この土器から判断すると、時期は9世紀代と考えられる。

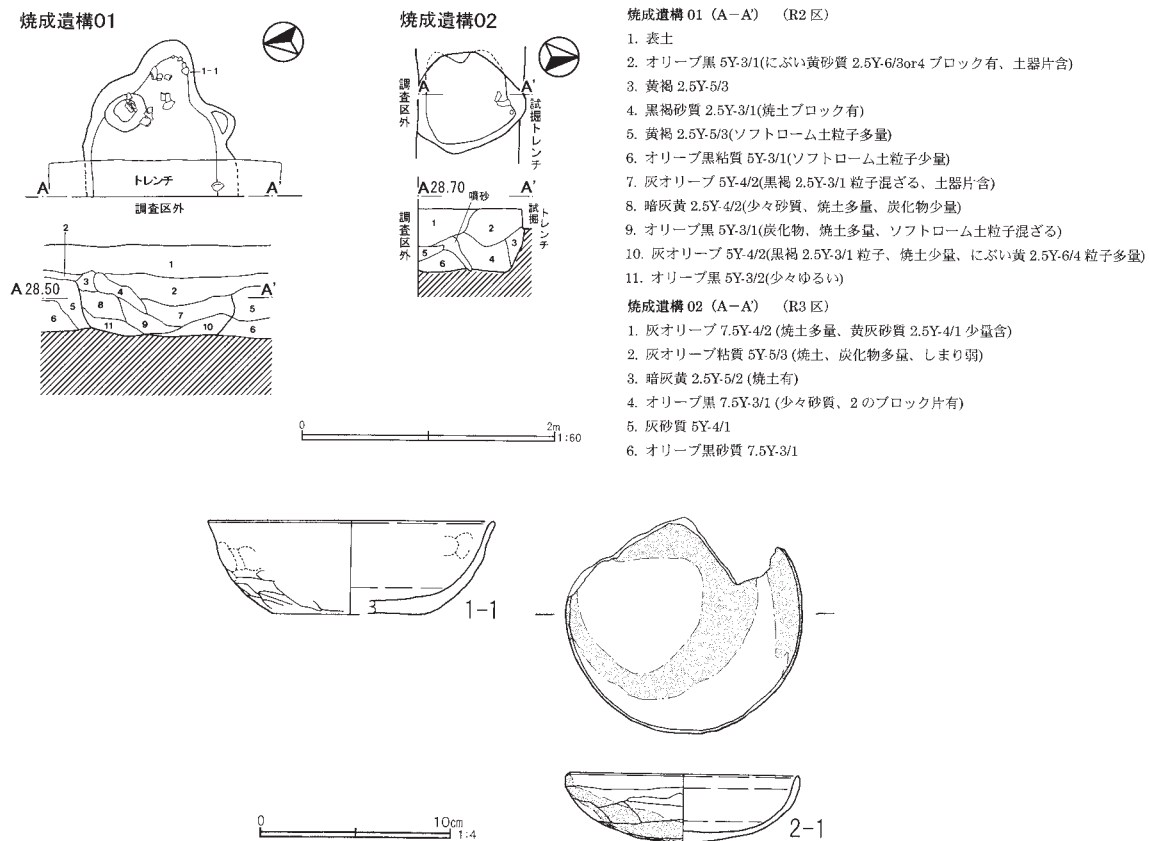
第2号焼成遺構（第66図、第22表）

I-13（R3区）グリッドから検出した。一部が試掘トレンチに切られ、一部が調査区域外であったが、ほぼ全体が検出されており、楕円形を呈していると考えられる。

規模は、検出長0.92m、幅0.84m、深さは0.50mであった。底部は平らであり、遺物は北側底部付近で確認された。焼土は第1、2、3層で検出され、上層と、北側に焼土痕は偏っている印象がある。掘り込みはかなりの傾斜がついており、ほぼ垂直に近い。

遺物としては1号焼成遺構と同様、図示できたものは、土師器坏一点のみであった。

この土器から判断すると、時期は7世紀末から8世紀前半ごろだと推測される。



第66図 第1、2号焼成遺構及び出土遺物

第22表 第1・2号焼成遺構出土遺物観察表（R2区 R3区）

番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
1-1	土師器 坏	(15.0)	(4.9)	-	口辺部内外面指頭圧痕有 体部外面手持ちヘラケズリ	ABDIJN	にぶい褐7.5YR-5/3	普通	30%	
2-1	土師器 坏	12.2	3.7	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ 内外面黒色物	ABDIJN	にぶい赤褐5YR-5/4	良好	70%	

5 水田跡

第1号水田跡（第67、68図、第23表）

ここでいう水田跡とは、R3区のB、C、D-13グリッドから検出した遺構を指す。多くの遺構と重複関係にあり、第33、34号土坑、第194～203号ピットに切られていた。ただし、これら土坑に関してはこの水田と関係性が考えられる。

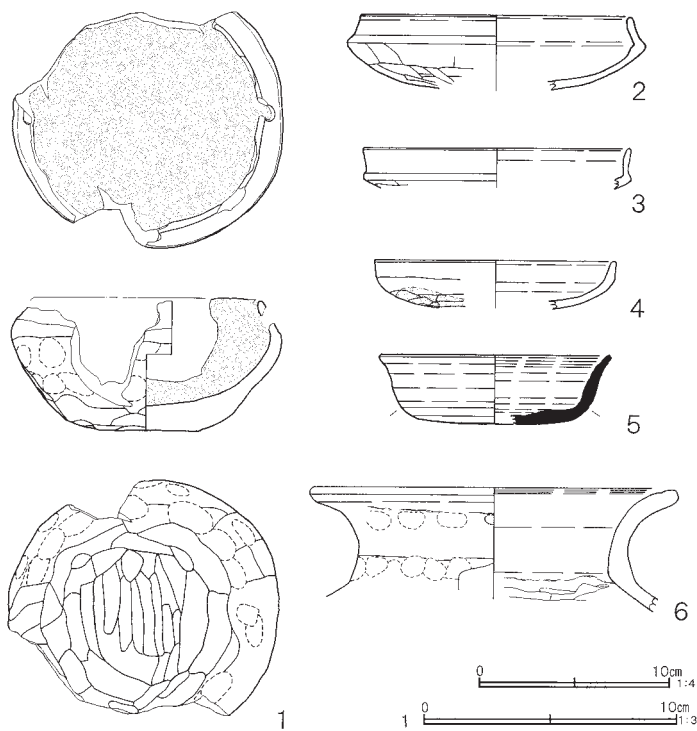
規模は、検出長9.85m、検出幅2.95m、確認面より深さ0.15m、現地表面より0.70mであった。規模の大きい遺構のため、全容は調査区域外にまたがっているため、詳細については不明である。基本土層は全部で3層であり、上部2層は粘質の黒色土が特徴となる。この特徴は後述する性格不明遺構の土層に類似しており、関連があると考えられるべきであろう。また、この遺構は落ち込み方に特徴があり、断面

をみるとそれは横長の楕円形であることがわかる。

さらに、遺構の西側には確認面の高さにおいて、十字の溝状の土を盛ったような跡を確認した。これを畔の跡と推測した。

出土遺物としては、数点のみの出土であるが興味深いものもあった。土師器坏、甕、鉢や、須恵器坏が確認され、須恵器の身模倣坏などはやや古く、7世紀中ごろに比定して問題ないが、北武蔵型の坏や須恵器坏、甕などは7世紀末～8世紀前半であろう。鉢については特徴的な穿孔が対称的に4か所口縁部にあり、紐を括りつけたのだろうか。興味深いものである。時期としては7世紀から8世紀の間であろうか。

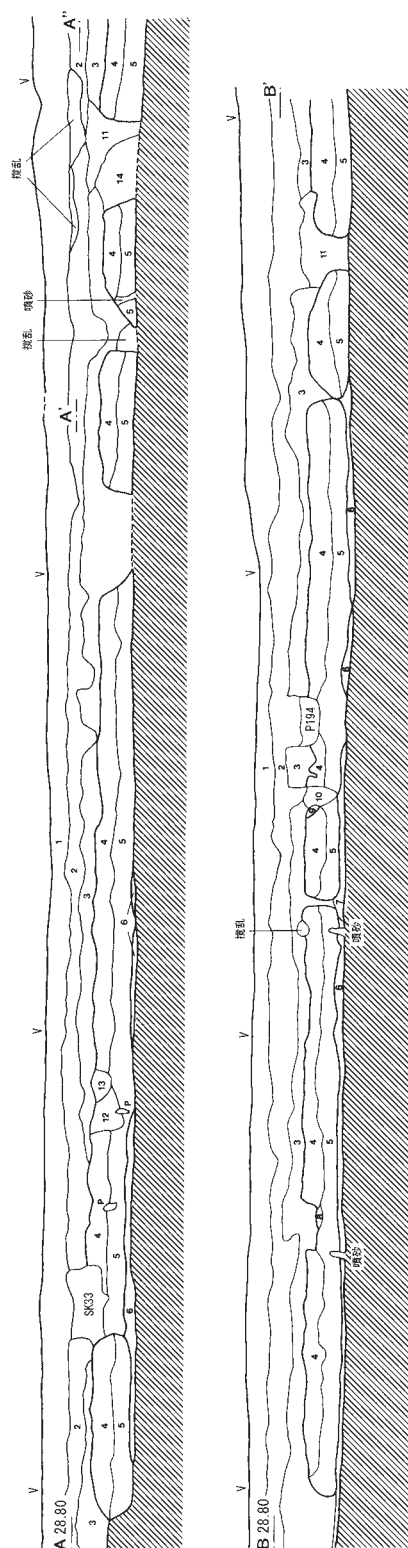
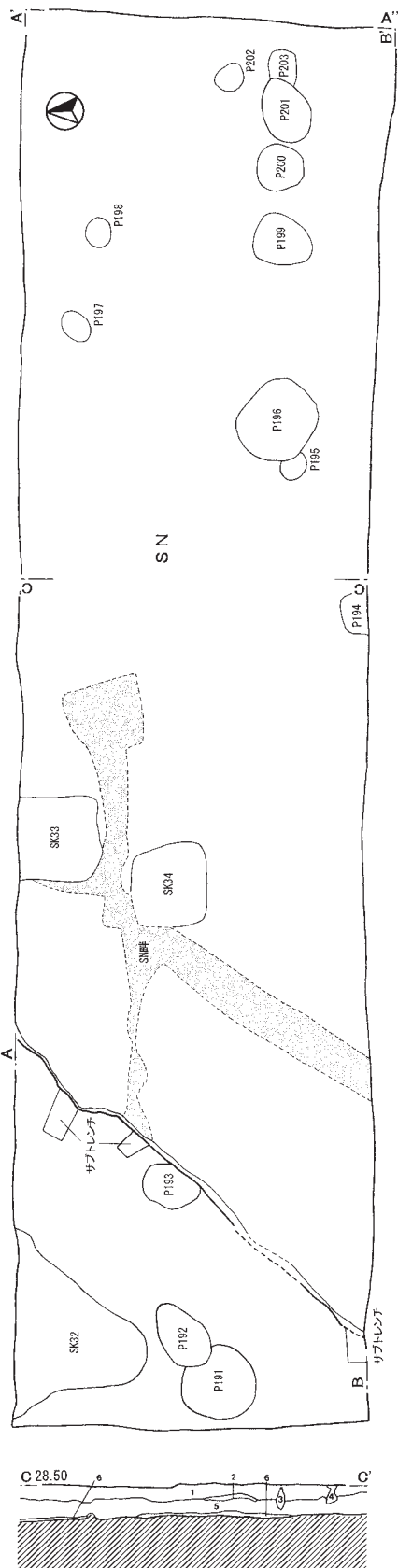
これらのことから、この遺構の主体的な時期は大体7世紀末から8世紀初頭であると推測される。



第67図 第1号水田跡出土遺物（R3区）

第23表 第1号水田跡出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
1	土師器 鉢?	10.6	5.2	4.5	口縁部4カ所(現存3カ所)に穿孔 内面底部にわずかに朱痕あり 体部外面指頭圧痕有 体部下半～底部外面手持ちヘラケズリ	ABIJN	外面：にぶい橙7.5YR-6/4 内面：黒7.5YR-2/1	普通	60%	
2	土師器 坏	(14.0)	(3.5)	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ	ABIJ	褐7.5YR-4/3	良好	30%	
3	土師器 坏	(14.0)	(2.1)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABIJ	褐5YR-4/4	良好		口縁部片
4	土師器 坏	(12.6)	(2.5)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABDHJ	橙5YR-6/6	良好	10%	
5	須恵器 坏	(12.0)	(3.6)	(8.0)	体部下端～底部外面回転ヘラケズリ 口縁部外反	ABN	黄灰2.5Y-6/1	良好	30%	湖西産
6	土師器 甕	(19.0)	(6.5)	-	頸部外面指頭圧痕有	ABGIJ	浅黄橙10YR-8/3	普通		口縁～胴上半部20%



SN (A-A', B-B') (R3 区)

1. 表土
2. オリーブ黒 5Y-3/1 (土器片多量、
灰オリーブ 5Y-5/2 ブロック多量)
3. ソフトローム土
(少々砂質、4 のブロック及び粒子多量)
4. オリーブ黒 10Y-3/1
(3 と 5 の粒子混入、しまり弱)
5. 黒粘質 2.5G-2/1 (しまり強、
ソフトローム土粒子及びブロック少量)
6. 黄灰 2.5Y-4/1
(しまり弱、かなり多くソフトローム土混入)
7. 6 よりしまり強
8. オリーブ黒 5Y-4/2
(3 の粒子及びブロック少量)
9. 黒褐 2.5Y-3/1 (しまり強)
10. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (少々しまり弱、
ソフトローム土ブロックかなり多量)
11. 3 にソフトローム土ブロック、2 の粒子、
オリーブ黄 5Y-6/3 微粒子、土器片含
12. 黒褐色 10YR-3/1 (ソフトローム土粒子少量)
13. 12 に 3 の粒子及びブロック多量
14. 灰オリーブ 7.5Y-4/2
(ソフトローム土ブロック及び粒子混入)

SN (C-C') (R3 区)

1. オリーブ黒 10Y-3/1 (ソフトローム土と黒 2.5G-2/1 粘質の粒子混入、しまり弱)
2. 灰オリーブ 5Y-4/2 (にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック多量)
3. にぶい黄 2.5Y-6/4 (少々砂質、1 の粒子が多量)
4. にぶい黄 2.5Y-6/3
5. 黒粘質 2.5G-2/1 (ソフトローム土粒子及びブロック少量、しまり強)
6. 黄褐 2.5Y-5/3 (5 の粒子多量)

第 6 8 図 第 1 号水田跡 (SN) (R3 区)



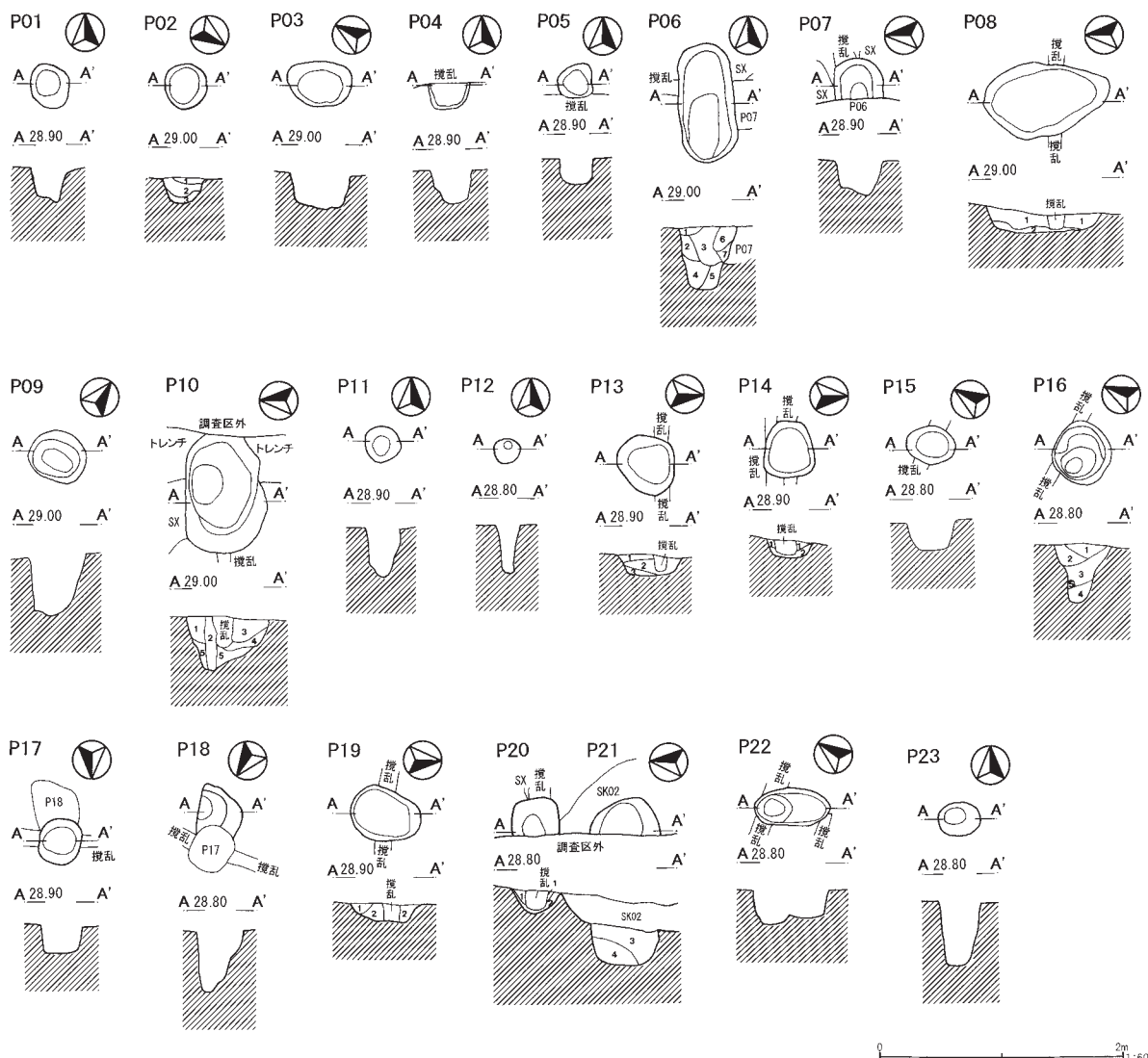
6 ピット (第69～79図、第24、25表)

ピットは、総じて203基検出した。大体が楕円形や、円形、など多様な形をとっている。分布状況を見るとR2区に集中しており、中でもR3区中央の住居跡周辺に集中して分布している。また、R2区、G区などのピットはSX03の上に検出されており、ピットの検出状況はSX03の黒褐色の胎土の中にピットの輪郭が確認できた。また、今回の調査では掘立柱建物跡の遺構と思われるものは確認されなかったが、いくつかのピットは柱痕と想定できるものもあったが、掘立柱建物跡と組み合わせることが可能なものはなく、ピットとした。

以下、紙面の都合上から、ピットの特徴等について一覧表で掲載をする。

第24表 ピット一覧表

No.	位置	平面形状	長軸×短軸×深さ(m)	出土遺物	時期	重複関係(新旧)	備考
1	I-1	楕円形	0.38×0.31×0.24			SX02	
2	I-1, 2	円形	0.37×0.34×0.21			SX02	
3	I-2	楕円形	0.54×0.35×0.28			SX02	
4	I-2	(円形)	0.33×(0.21)×0.26			SX02	
5	I-2	不整円形	0.30×0.29×0.21			SX02	
6	H-2	楕円形	0.95×0.46×0.50			SX02、P07	
7	H-2	(楕円形)	(0.32)×0.39×0.26				
8	H-2	不整楕円形	1.02×0.52×0.18				
9	H-2	楕円形	0.46×0.40×0.47				
10	H-2	楕円形	0.95×0.62×0.43	土師器坏(一部暗文有)、台付甕	7c中～末	SX02	
11	H-2	円形	0.27×0.27×0.40				
12	H-2	円形	0.21×0.19×0.38				
13	I-2, 3	楕円形	0.51×0.45×0.16				
14	H, I-3	円形	0.45×0.38×0.13				
15	H-2, 3	楕円形	0.40×0.31×0.23				
16	H-2, 3	円形	0.54×0.48×0.46				
17	I-3	円形	0.38×0.33×0.23			P18	
18	I-3	(不整楕円形)	(0.28)×0.36×0.49			P17	
19	I-3	楕円形	0.57×0.42×0.14				
20	I-3	(円形)	(0.31)×0.37×0.19			SX02、SK02	
21	I-3	(楕円形)	0.57×(0.24)×0.53			SK02	
22	H-3	楕円形	0.61×0.31×0.28				
23	H-3	楕円形	0.34×0.22×0.52				
24	G-2	(楕円形)	0.43×(0.39)×0.28			SI01	
25	F-2	円形	0.25×0.23×0.07				
26	F-2	楕円形	0.29×0.19×0.09				
27	G-2	(円形)	0.31×0.27×0.18				
28	G-3	楕円形	0.73×0.56×0.05			SX03、SK04	
29	G-3	(円形)	0.41×(0.32)×0.16				
30	F, G-3	(円形)	0.58×(0.28)×0.17			SX03	
31	E-2	楕円形	0.40×0.35×0.54			SX04	
32	F-3	(円形)	0.39×0.34×0.31			SX03	
33	F-3	(楕円形)	0.65×(0.27)×0.22			SX03	
34	M-6	(不整楕円形)	(0.68)×(0.32)×0.38				
35	L-5	円形	0.41×0.37×0.23			SK07	
36	K, L-5	円形	0.56×0.53×0.15			SK08	
37	L-7	円形	0.36×0.34×0.18			SI09	
38	L-7	円形	0.50×0.44×0.08			P39	
39	L-7	(不整楕円形)	0.56×(0.26)×0.09			P38	
40	L, M-7	不整楕円形	0.46×0.35×0.23				
41	M-7	円形	0.25×0.25×0.17				
42	L-7	楕円形	0.45×0.38×0.08				
43	M-8	円形	0.39×0.35×0.12				
44	L, M-8	(楕円形)	(0.46)×0.41×0.17			P45	
45	M-8	楕円形	0.59×0.35×0.18			P44	
46	K-7	(楕円形)	0.64×(0.43)×-			SD02	基準杭(未掘削)
47	K-7	円形	0.69×0.65×0.13				
48	K-7	不整円形	0.31×0.24×0.40				
49	J-7	楕円形	0.42×0.37×0.31			SI13	
50	J-8	円形	0.65×0.61×0.26				
51	J-8	不整楕円形	0.56×0.47×0.21				
52	H-7	不整楕円形	0.52×0.33×0.49				
53	H-7	不整楕円形	0.75×0.51×0.15				
54	H-7	(不整楕円形)	1.75×(0.74)×0.14			SX03	
55	I-7, 8	不整円形	0.34×0.33×0.16				
56	H-7, 8	(楕円形)	(0.39)×0.41×0.10			P58	
57	H, I-7, 8	円形	0.38×0.34×0.16				



第2号ピット (A-A') (A区)

1. オリーブ黒 5Y-3/2
2. オリーブ黒 5Y-3/1 (少々しまり弱)
3. 黒褐粘質 2.5Y-3/2 (しまり強)

第6号ピット (A-A') (A区)

1. オリーブ黒 5Y-3/1
2. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (少々粘質)
3. オリーブ黒シルト質 5Y-3/2 (しまり弱、黄 2.5Y-7/8 ブロック含)
4. オリーブ黒シルト質 5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子、ブロック有、黒褐 2.5Y-3/1 ブロック少量含)
5. 黒褐砂質 2.5Y-3/1
6. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (微塵に黄 2.5Y-7/8 粒子含)
7. オリーブ黒シルト質 5Y-3/2

第8号ピット (A-A') (A区)

1. 黒 7.5Y-2/1 (ごく少量 2 の粒子含)
2. オリーブ褐粘質 2.5Y-4/3

第10号ピット (A-A') (A区)

1. 黒褐 2.5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 ブロック少量、しまり強)
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (少々にぶい黄 2.5Y-6/4 粒子含)
3. オリーブ黒 5Y-3/1 (灰オリーブ 5Y-5/3 ブロック、土器片)
4. オリーブ黒砂質 5Y-3/1
5. オリーブ黒砂質 5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 少量含)

第13号ピット (A-A') (A区)

1. 黒褐 2.5Y-3/2 (浅黄 2.5Y-7/4 ブロック有)
2. オリーブ黒 5Y-2/2 (しまり強)
3. 暗灰黄 2.5Y-5/2 (若干黄 2.5Y-7/8 粒子含)

第14号ピット (A-A') (A区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2
2. 黒褐 2.5Y-3/1 (一部 1 の粒子含)

第16号ピット (A-A') (A区)

1. 黄褐 2.5Y-5/3 (黒褐 2.5Y-3/1 ブロック有)
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (しまりかなり弱、一部黄 2.5Y-7/8 少量含)
3. 黒褐 2.5Y-3/1 (少々粘質、黄 2.5Y-7/8 ブロック有)
4. オリーブ黒砂質 7.5Y-3/1
5. 黒 2.5Y-2/1 (根による攪乱か?)

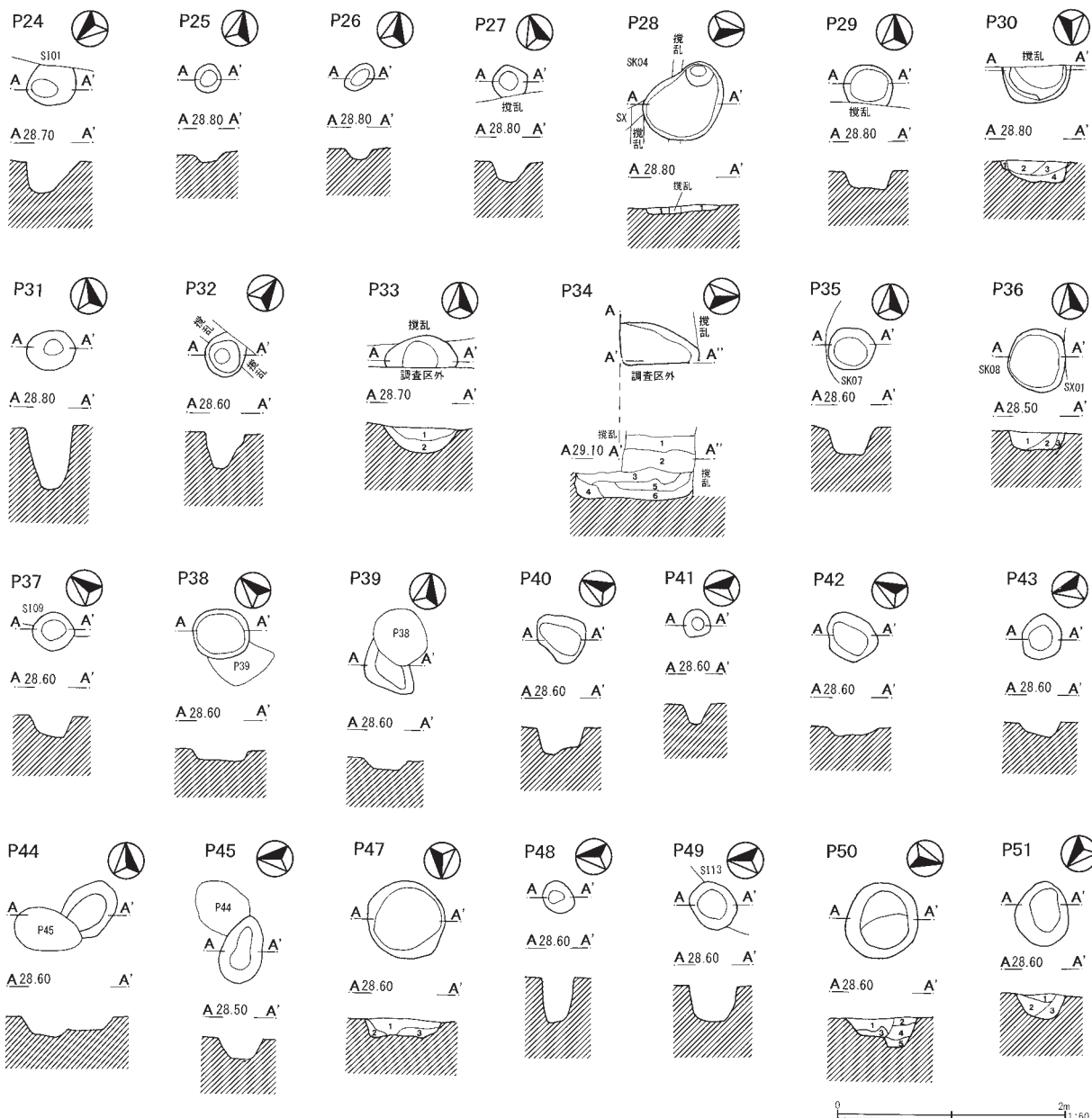
第19号ピット (A-A') (A区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (土器片含)
2. 黄褐 2.5Y-5/3 (少々砂質)

第20.21号ピット (A-A') (A区)

1. オリーブ黒 5Y-3/1 (少々粘質)
2. オリーブ黒 5Y-3/1 (しまり弱、ソフトローム土ブロック有)
3. 黒褐 2.5Y-3/2 (少々粘質、しまり若干強)
4. 暗オリーブ灰 2.5GY-3/1、ソフトローム土粒子少量、しまり強

第69図 第1～23号ピット (A区)



第28号ピット (A-A') (B区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (多量に黄 2.5Y-7/8 粒子含)

第30号ピット (A-A') (B区)

1. オリーブ黒粘質 5Y-3/1
2. 黄褐 2.5Y-5/3 (土器片少量)
3. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黒褐 2.5Y-3/1 ブロック有)
4. 黒褐 2.5Y-3/2

第33号ピット (A-A') (C区)

1. 灰オリーブ 5Y-4/2 (オリーブ黒砂質 5Y-3/1 多量、一部明るい)
2. 黒褐 2.5Y-3/1 (少々砂質、黄 2.5Y-7/8 粒子少量含)

第34号ピット (A-A') (R1区)

1. オリーブ黒砂質 10Y-3/1 (しまり弱)
2. オリーブ黒砂質 10Y-3/1 (ソフトローム土粒子及びブロック多量)
3. オリーブ黒粘質 5Y-3/1
4. 黄褐 2.5Y-5/3 (土器片含)
5. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黒褐 2.5Y-3/1 ブロック有)
6. 黒褐 2.5Y-3/2

第36号ピット (A-A') (R1区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (しまり弱)
2. オリーブ黒砂質 10Y-3/1 (ソフトローム土粒子及びブロック多量)
3. オリーブ黒粘質 5Y-3/1

第47号ピット (A-A') (E区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子ブロック多量)
2. 黒 7.5Y-3/1 (しまり強)
3. 黒 5Y-2/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子ブロック少量)

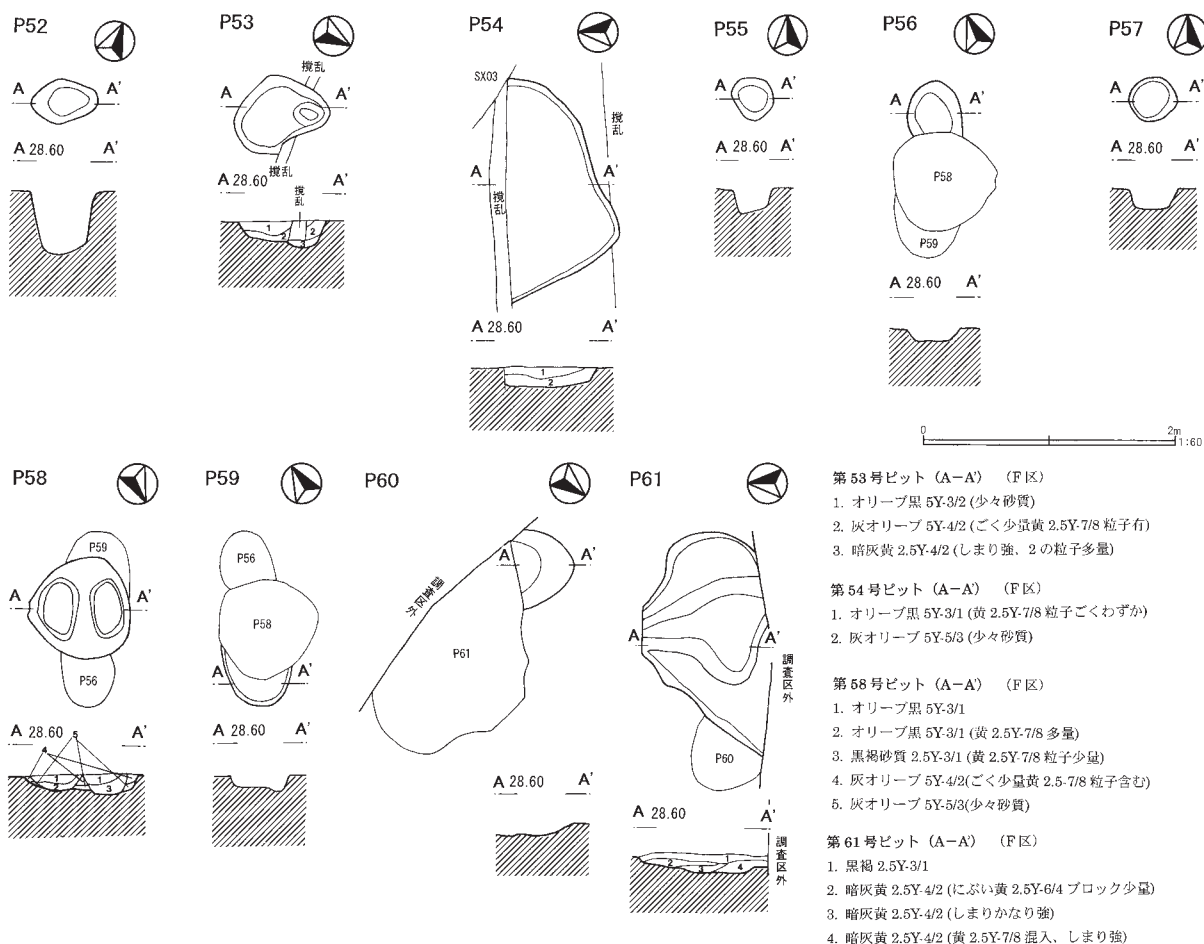
第50号ピット (A-A') (E区)

1. 黒褐 2.5Y-3/1 (少々砂質)
2. 黒 2.5Y-2/1
3. オリーブ褐 2.5Y-4/3
4. 黄褐砂質 2.5Y-5/4
5. オリーブ黒 5Y-3/1 (黄褐 2.5Y-5/4 ブロック少量有)

第51号ピット (A-A') (E区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子多量)
2. オリーブ黒砂質 5Y-3/1
3. オリーブ黒 5Y-3/2 (一部に黒褐 2.5Y-3/1 ブロック有)

第70図 第24～45・47～51号ピット (B区・C区・D区・E区・R1区)



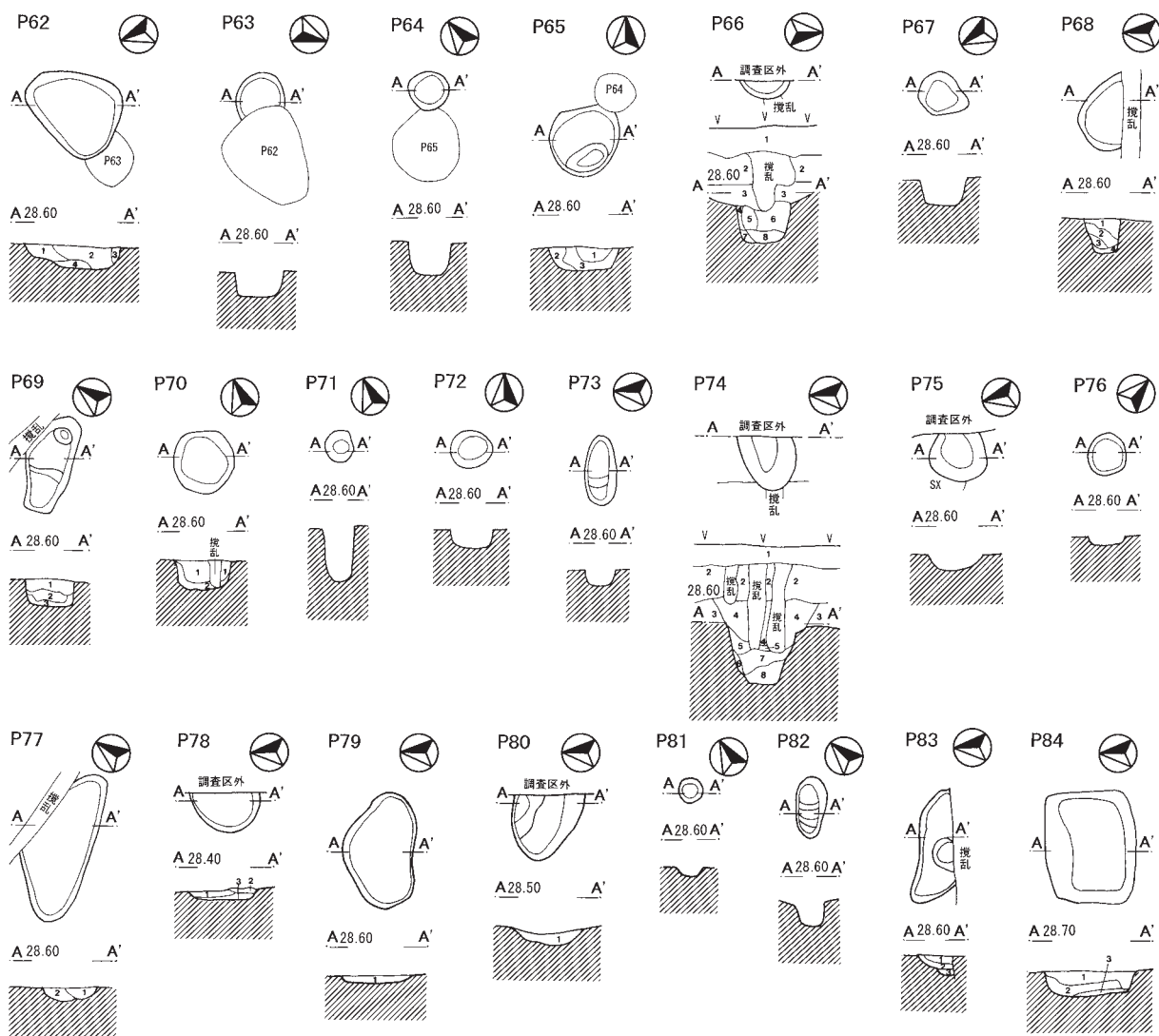
第71図 第52～61号ピット (F区)

第24表 ピット一覧表

No.	位置	平面形状	長軸×短軸×深さ(m)	出土遺物	時期	重複関係(新旧)	備考
58	H-8	円形	0.78×0.77×0.15			P56、P59	
59	H-8	(楕円形)	(0.20)×0.52×0.12			P58	
60	H-8	(楕円形)	(0.46)×0.56×0.10			P61	
61	H-8	(不整楕円形)	1.81×(0.96)×0.11			P60	
62	F-6	不整楕円形	0.80×0.61×0.18			SX03、P63	
63	F、G-6	(楕円形)	(0.30)×0.40×0.21			SX03、P62	
64	G-7	円形	0.34×0.32×0.26			SX03、P65	
65	G-7	(楕円形)	0.62×0.55×0.18			SX03、P64	
66	G-7	(円形)	0.42×(0.16)×0.31			SX03	
67	F-7	不整楕円形	0.42×0.34×0.21			SX03	
68	F-7	(楕円形)	0.66×(0.34)×0.28			SX03	
69	F-7	(不整楕円形)	0.83×0.39×0.21			SX03	
70	G-7	円形	0.52×0.48×0.24			SX03	
71	G-7	楕円形	0.27×0.22×0.45			SX03	
72	F-7	円形	0.36×0.30×0.15			SX03	
73	F、G-7	楕円形	0.57×0.25×0.14			SX03	
74	F-7	(楕円形)	(0.45)×0.44×0.69	土師器皿	7c末～8c初	SX03	
75	F-8	(円形)	0.48×(0.44)×0.12			SX03	
76	G-8	円形	0.35×0.31×0.08				
77	F、G-9	(不整楕円形)	1.27×(0.49)×0.11				
78	F-9	(楕円形)	(0.37)×(0.35)×0.08				
79	F、G-9	不整楕円形	0.95×0.57×0.05				
80	F-9	(楕円形)	(0.55)×0.57×0.14				
81	F-9	円形	0.20×0.19×0.08				
82	F-9	楕円形	0.50×0.23×0.18				
83	F、G-9	(不整楕円形)	0.97×(0.29)×0.16				
84	F-10	不整楕円形	1.04×0.85×0.20				
85	E-7	不整円形	0.31×0.31×0.14				
86	E-8	楕円形	0.54×0.46×0.22				
87	F-8	(楕円形)	(0.47)×0.78×0.54	土師器坏 (暗文有)	7c末～8c前		
88	E-8	楕円形	0.99×0.55×0.25	土師器坏 (暗文有)			
89	E-8	円形	0.42×0.37×0.28				
90	E-8	楕円形	0.36×0.30×0.23				
91	F-8	円形	0.61×0.60×0.32				
92	L-9、10	(楕円形)	1.46×(0.49)×0.08				
93	L-10	楕円形	0.52×0.44×0.35	土師器皿	7c末～8c前		
94	L-10	(楕円形)	0.92×0.37×0.15			P95	
95	L-10	楕円形	0.34×0.27×0.15			P94	
96	L-10	円形	0.39×0.35×0.19			P97	
97	L-10	(楕円形)	1.30×0.23×0.12	緑釉陶器	8c末～9cか	P96	

第 2 4 表 ピット一覧表

No.	位置	平面形状	長軸×短軸×深さ(m)	出土遺物	時期	重複関係(新旧)	備考
98	L-10	楕円形	0.38×0.32×0.14			SD07	
99	K-10	円形	0.37×0.37×0.11			SD07	
100	L-11	楕円形	0.57×0.36×0.40			SD06	
101	L-11	楕円形	0.49×0.43×0.24			SD06	
102	L-11	円形	0.48×0.42×0.27				
103	L-11	楕円形	0.40×0.30×0.19				
104	L-11	楕円形	0.35×0.28×0.20			SK15	
105	K-10	円形	0.40×0.39×0.23			P106	
106	K-10	(楕円形)	(0.71)×0.76×0.18	須恵器甕		P105	産地不明
107	J-10	不整円形	0.41×0.34×0.16				
108	J-10	円形	0.45×0.37×0.14				
109	J-10	不整楕円形	0.77×0.49×0.23				
110	J-10	(不整楕円形)	1.04×0.52×0.23				
111	J-10	楕円形	0.46×0.33×0.14			SD04	
112	J-10	楕円形	0.34×0.24×0.09			SD04	
113	K-10	不整楕円形	0.43×0.33×0.12			SD04	
114	K-10	円形	0.38×0.37×0.12				
115	J-10	円形	0.28×0.27×0.15				
116	J-10	楕円形	0.92×0.26×0.14			SD04	
117	J-10	(楕円形)	(0.57)×0.30×0.47				
118	J-10	(楕円形)	0.37×(0.30)×0.35			SD10	
119	I, J-11	不整楕円形	0.79×0.26×0.11				
120	J, K-11	(不整楕円形)	(0.62)×0.27×0.11				
121	J-11	(楕円形)	(0.42)×0.35×0.16				
122	I-11	不整円形	0.43×0.40×0.23				
123	H, I-11	円形	0.33×0.31×0.33				
124	E-11	円形	0.42×0.38×0.26			SX08	
125	E-11	不整楕円形	0.42×0.31×0.25				
126	C-11	不整円形	0.62×0.58×0.29			SD06, SD13	
127	B-12	(円形)	0.61×(0.21)×0.28				
128	I-13	(楕円形)	(0.80)×0.97×0.60	土師器坏、甕	8c 末～9c 初	SD15	
129	I-13	楕円形	0.71×0.65×0.40	土師器坏	8c 末～9c 初	SD15	
130	I-13	不整楕円形	0.67×0.52×0.47				
131	I-13	(楕円形)	(0.60)×(0.28)×0.29			P132	
132	I-13	(楕円形)	(0.64)×0.56×0.31			P131, SK28	
133	I-13	楕円形	0.96×0.33×0.30				
134	H-13	(楕円形)	(0.45)×0.56×0.39			SK28	
135	I-13	楕円形	0.64×0.41×0.20				
136	I-13	(楕円形)	0.58×(0.26)×0.50				
137	H-13	楕円形	0.53×0.22×0.20			SD16	
138	H-13	不整楕円形	0.67×0.46×0.36				
139	G-11	楕円形	1.02×0.73×0.23	土師器坏	9c 末～10c 初	P140	
140	G-11, 12	(不整楕円形)	1.20×0.86×0.34	土師器坏	不明	P139, P141	
141	G-12	円形	0.65×0.56×0.45			SK25, P140	
142	G-12	不整楕円形	1.77×0.81×0.45				
143	G-12	円形	0.55×0.54×0.44				
144	F, G-12	(円形)	6.8×(4.4)×-			SX07	基準点(未掘削)
145	F, G-12	楕円形	0.72×0.56×0.48				
146	G-12	(円形)	0.35×(0.17)×0.40			SK26	
147	G-12	(不整楕円形)	1.17×0.34×0.39			P148	
148	G-12	不整楕円形	0.91×0.65×0.40			P147	
149	F, G-12	楕円形	0.47×0.36×0.43				
150	F, G-12	楕円形	0.42×0.33×0.45				
151	F-12	円形	0.59×0.54×0.41				
152	G-12	楕円形	0.53×0.35×0.39				
153	G-12	楕円形	1.01×0.52×0.33			P156	
154	G-12	楕円形	0.50×0.36×0.35				
155	G-12, 13	円形	0.39×0.35×0.40				
156	G-12, 13	(円形)	0.66×(0.61)×0.35			P153	
157	G-13	楕円形	0.39×0.29×0.37				
158	G-12, 13	楕円形	0.89×0.55×0.41				
159	G-13	楕円形	0.63×0.47×0.39			P161	
160	G-13	楕円形	0.62×0.42×0.37			P161	
161	G-13	(楕円形)	0.92×(0.32)×0.39			P159, P160	
162	G-13	円形	0.85×0.75×0.37			SI18	
163	G-13	楕円形	0.60×0.42×0.35			SI18	
164	G-13	楕円形	0.61×0.30×0.31				
165	G-12, 13	楕円形	0.30×0.22×0.12			P166	
166	G-12, 13	楕円形	0.72×0.47×0.37			P165	
167	F, G-13	楕円形	1.55×0.70×0.42				
168	F, G-13	(楕円形)	1.24×1.03×0.34			SI18	
169	G-13	不整楕円形	0.67×0.28×0.19			SK31, SI17, SI18	
170	G-13	(不整円形)	0.52×0.21×0.31			SI18	
171	F-13	(楕円形)	1.00×0.60×0.30			SI18, P172, P174	
172	F-13	(円形)	0.64×0.48×0.46			P171, P173	
173	F-13	楕円形	1.25×1.02×0.35			P172, P174	
174	F-13	(楕円形)	(6.2)×9.8×-			P171, P173, P175	基準杭(一部のみ掘削)
175	F-13	(楕円形)	(1.08)×1.06×0.44			P174	
176	F-13	円形	0.29×0.28×0.52				
177	F-13	楕円形	0.30×0.25×0.50				
178	F-13	円形	0.29×0.29×0.49				
179	F-13	円形	0.27×0.23×0.48				
180	F-13	円形	0.36×0.36×0.50				



第 62 号ピット (A-A') (R2 区)

1. 灰黄褐 10YR-4/2(少々黒褐 2.5Y-3/1 粒子含)
2. 黒褐 2.5Y-3/1(暗灰黄 2.5Y-4/2 一部砂質ブロック及び粒子有)
3. 暗灰黄 2.5Y-4/2
4. オリーブ黒 5Y-3/2(黒褐砂質 2.5Y-3/1 含)

第 65 号ピット (A-A') (R2 区)

1. にぶい黄 2.5Y-6/4(黒褐 2.5Y-3/1、土器片含)
2. オリーブ黒 5Y-3/1(土器片含)
3. 灰オリーブ 5Y-4/2

第 68 号ピット (A-A') (R2 区)

1. 灰黄褐 10YR-4/2
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2(黒褐 2.5Y-3/1)
3. にぶい黄砂質 2.5Y
4. 黒褐砂質 7.5Y-3/1

第 69 号ピット (A-A') (R2 区)

1. オリーブ黒 5Y-3/1(にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック少量)
2. 黄褐 2.5Y-5/3(黒褐 2.5Y-3/1 粒子少量)
3. 黒褐 10YR-3/1(ソフトローム土粒子少量)

第 66 号ピット (A-A') (R2 区)

1. 表土
2. 黒褐粘質 2.5Y-3/1(土器片有)
3. オリーブ黒 7.5Y-3/1(ソフトローム土粒子及びブロック少量、しまり強)
4. 暗灰黄 2.5Y-4/2
5. オリーブ黒 5Y-3/1(ソフトローム土粒子多量)
6. 暗緑灰 10G-3/1(一部粘質、ソフトローム土粒子多量)
7. 灰オリーブ 5Y-4/2(ソフトローム土粒子少量、灰黄 2.5Y-6/2 砂質土粒子多量)
8. 暗灰黄 2.5Y-4/2(ソフトローム土ブロック及び粒子多量)

第 70 号ピット (A-A') (R2 区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2(にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック及び粒子多量、ゆるい)
2. 黒褐 2.5Y-3/1(ソフトローム土少量)

第 74 号ピット (A-A') (R2 区)

1. 表土
2. 黒褐粘質 2.5Y-3/1(土器片有)
3. オリーブ黒 7.5Y-3/1(ソフトローム土粒子及びブロック少量、しまり強)
4. 黒褐 2.5Y-3/1(ソフトローム土粒子微量)
5. 黒褐 10Y-3/1(にぶい黄 2.5Y-6/4 砂質ブロック少量)
6. ソフトローム土(黒褐 2.5Y-3/1 粒子含)
7. 灰オリーブ粘質 5Y-4/2(しまり強)
8. オリーブ黒 5Y-3/1(少々粘質、しまり強)

第 77 号ピット (A-A') (R2 区)

1. 黄褐 2.5Y-5/3
2. 暗灰黄 2.5Y-5/2(しまっている)

第 78 号ピット (A-A') (R2 区)

1. オリーブ黒 5Y-3/1
2. オリーブ黒粘質 7.5Y-3/1
3. 黒粘質 7.5Y2/1(ソフトローム土粒子含)

第 79 号ピット (A-A') (R2 区)

1. 黄褐 2.5Y-4/1

第 80 号ピット (A-A') (R2 区)

1. オリーブ黒 7.5Y-3/1(ソフトローム土粒子多量)

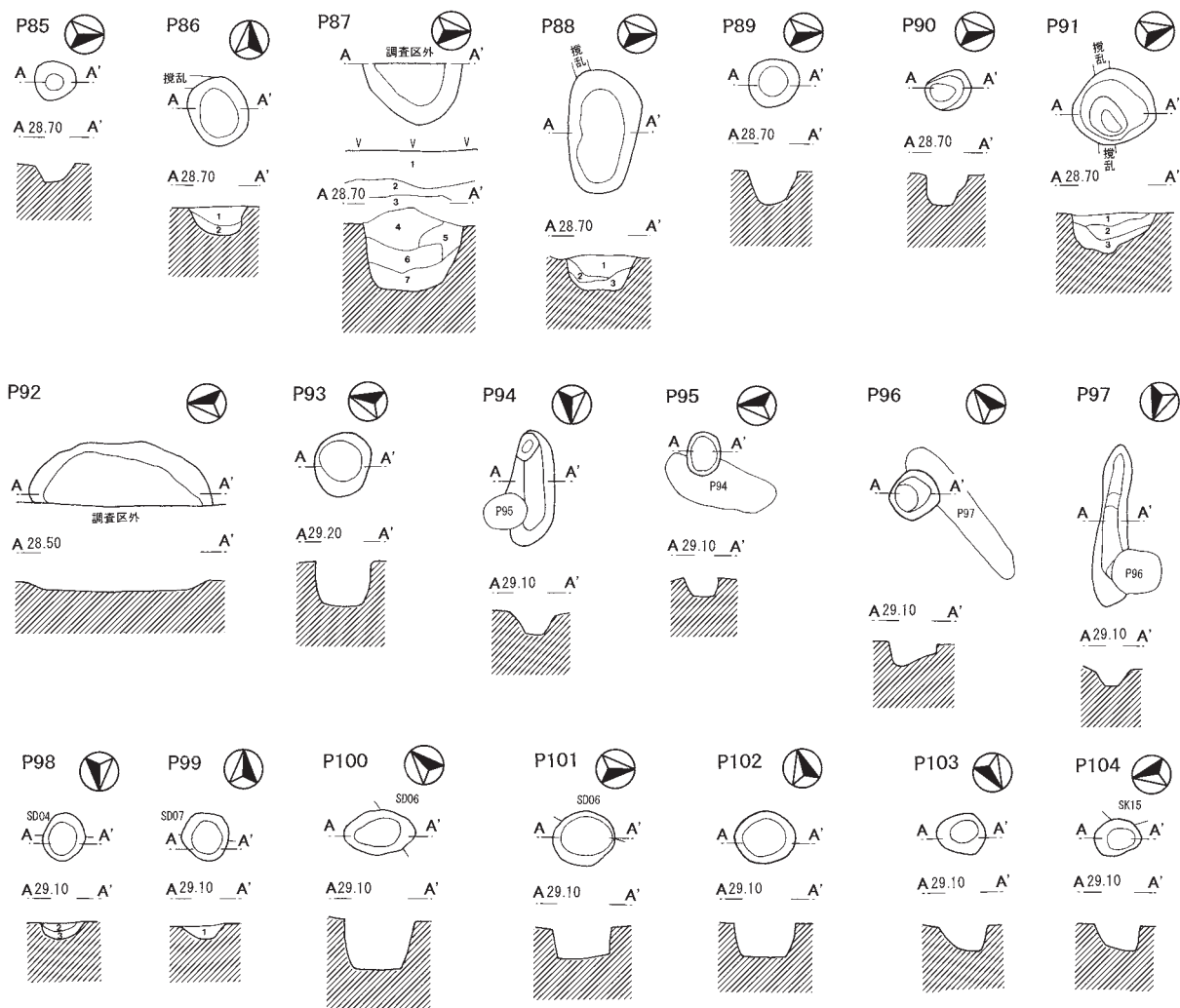
第 83 号ピット (A-A') (R2 区)

1. 黒 7.5Y-3/1(にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック有)
2. にぶい黄砂質 2.5Y-6/4
3. 黒褐砂質 2.5Y-3/2(ソフトローム土粒子?)

第 84 号ピット (A-A') (R2 区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2(ソフトローム土ブロック多量)
2. 暗灰黄粘質 2.5Y-4/2
3. 暗灰黄 2.5Y-5/2(ソフトローム土多量)

第 7 2 図 第 6 2 ~ 8 4 号ピット (R 2 区)



第86号ピット (A-A') (G区)

1. 黄 2.5Y-7/8 (暗オリーブ 5Y-4/3 粒子多量)
2. オリーブ黒 5Y-3/1 (若干粘質)

第87号ピット (A-A') (G区)

1. 耕作土
2. にぶい黄 2.5Y-6/3 (土器片少量、黄 2.5Y-7/8 微量に含)
3. 黄 2.5Y-7/8 (暗灰黄 2.5Y-4/2 多量に混入、土器片含)
4. 明黄褐 2.5Y-6/6 (暗灰黄 2.5Y-4/2 ブロック少量)
5. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (しまり若干弱、土器片含)
6. にぶい黄 2.5Y-6/4 (少々砂質、炭化物、黒褐 2.5Y-3/1 ブロック有)
7. 黒褐 2.5Y-3/1 (少々粘質、黄 2.5Y-7/8 混入)

第88号ピット (A-A') (G区)

1. 黄 2.5Y-7/8 (黒褐 2.5Y-3/1 ブロック、粒子多量)
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (少々粘質)
3. 黒褐 2.5Y-3/1 (少々粘質)

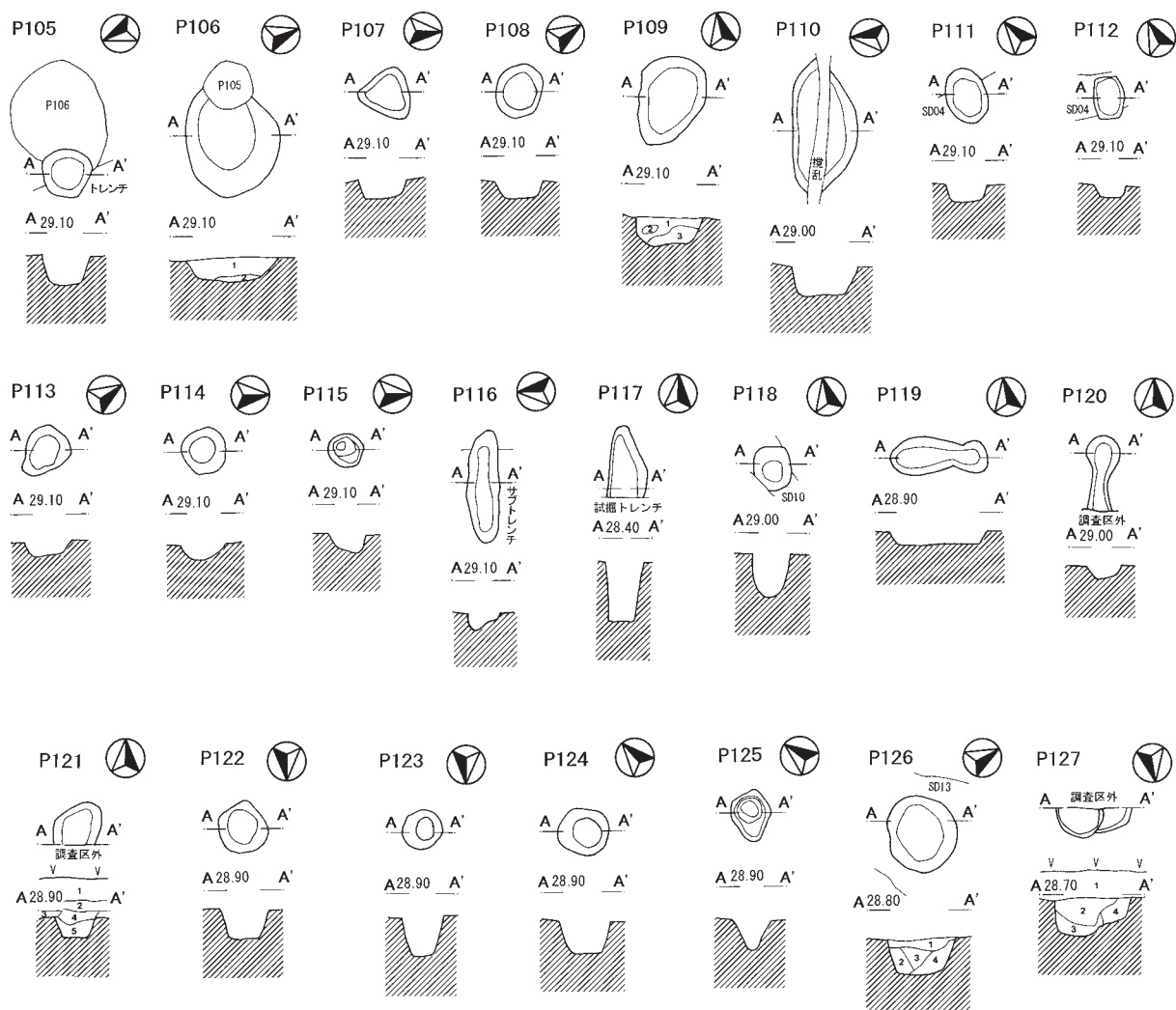
第91号ピット (A-A') (G区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 多量、かなりしまり弱)
2. 灰オリーブ 7.5Y-4/2 (土器片、黄 2.5Y-7/8 粒子少量)
3. オリーブ黒砂質 5Y-3/1 (少々しまり弱)

第98.99号ピット (A-A') (H区)

1. オリーブ黒 7.5Y-3/1
2. オリーブ黒 7.5Y-3/1
3. 黒褐 2.5Y-3/2 (少々砂質)

第73図 第85～104号ピット (G区・H区)



第106号ピット (A-A') (I区)

1. オリーブ黒 5Y-3/2
2. オリーブ黒 5Y-3/1

第121号ピット (A-A') (I区)

1. 耕作土
2. オリーブ黒 5Y-3/1 (土器片、灰オリーブ 5Y-5/2 ブロック一部有)
3. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (しまり強、黄 2.5Y-7/8 粒子かなり多量)
4. 灰オリーブ 5Y-4/2 (少々粘質)
5. オリーブ黒粘質 5Y-3/1

第109号ピット (A-A') (I区)

1. 灰オリーブ 5Y-4/2
2. オリーブ黒 5Y-3/2
3. 灰オリーブ砂質 5Y-4/2

第126号ピット (A-A') (L区)

1. オリーブ黒砂質 5Y-3/2
2. オリーブ黒 5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 ブロック有)
3. 黄褐 2.5Y-5/4 (少々砂質、しまり強)
4. にがい黄 2.5Y-5/3 (黄 2.5Y-7/8 少々有)

第127号ピット (A-A') (L区)

1. オリーブ黒 5Y-3/1 (しまり若干弱、黄 2.5Y-7/8 粒子少量)
2. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (しまり弱、土器片含)
3. オリーブ黒 5Y-3/2 (多量に黄 2.5Y-7/8 粒子有)
4. オリーブ黒 10Y-3/1 (炭化物有)

第74図 第105～127号ピット (I区・J区・K区・L区)



0 2m 1:60

第128号ピット (A-A') (R3区)

1. 黒褐 2.5Y-3/1
2. 灰オリブ 5Y-5/3
3. 灰オリブ 5Y-4/2 (土器片、炭化物含、しまり弱)
4. 灰オリブ砂質 5Y-4/2 (多量に炭化物)
5. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 ブロック多量、土器片、にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック)

第129号ピット (A-A') (R3区)

1. 灰オリブ 5Y-5/2
2. 灰オリブ粘質 5Y-5/2
3. オリブ黒粘質 5Y-3/2

第130号ピット (A-A') (R3区)

1. オリブ黒シルト質 5Y-3/1
2. オリブ黒 7.5Y-3/2 (一部シルト質、かなりしまり弱)
3. オリブ黒 7.5Y-3/2 (灰オリブ 5Y-4/2 ブロック粒子多量)

第132号ピット (A-A') (R3区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (にぶい黄 2.5Y-6/3 ブロック有、しまり若干弱)
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (少々しまっている)
3. 黒褐 2.5Y-3/2 (にぶい黄 2.5Y-6/3 ブロック有)
4. オリブ黒 5Y-3/2

第133号ピット (A-A') (R3区)

1. 灰オリブシルト質 5Y-5/2 (かなりゆるい)
2. 灰オリブ砂質 5Y-5/2
3. 黒褐 2.5Y-3/1 (しまり弱)

第135号ピット (A-A') (R3区)

1. 灰オリブ 5Y-4/2 (焼土、ごく微量に有)
2. 灰オリブ 7.5Y-4/2 (黄褐 10YR-5/6 ブロック有)

第139号ピット (A-A') (R3区)

1. 灰オリブ 5Y-4/2 (しまり弱)
2. 暗オリブ 5Y-4/3 (オリブ黄 5Y-6/3 ブロック有)
3. 1に2の粒子多量
4. オリブ黒 5Y-3/1

第142号ピット (A-A') (R3区)

1. 黒褐 2.5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 混ざる)
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2
3. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック及び、黄 2.5Y-7/8 粒子有)
4. オリブ黒 5Y-3/2 (にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック有)
5. オリブ黒 7.5Y-3/2
6. オリブ黒 7.5Y-3/2 (にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック有)

第145号ピット (A-A') (R3区)

1. オリブ黒 10Y-3/1 (ごく微量に黄 2.5Y-7/8 粒子)
2. オリブ黒 5Y-3/2 (しまり弱)
3. オリブ黒粘質 5Y-3/2 (オリブ黄 5Y-6/3 ブロック有)
4. 灰オリブ砂質 5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 多量)

第146号ピット (A-A') (R3区)

1. 耕作土
2. 黒褐 2.5Y-3/2
3. 暗オリブ灰 2.5GY-3/1 (一部黄 2.5Y-7/8 粒子、土器片含)
4. 暗オリブ灰砂質 2.5GY-3/1
5. オリブ黒 5Y-3/1 (少々シルト質)

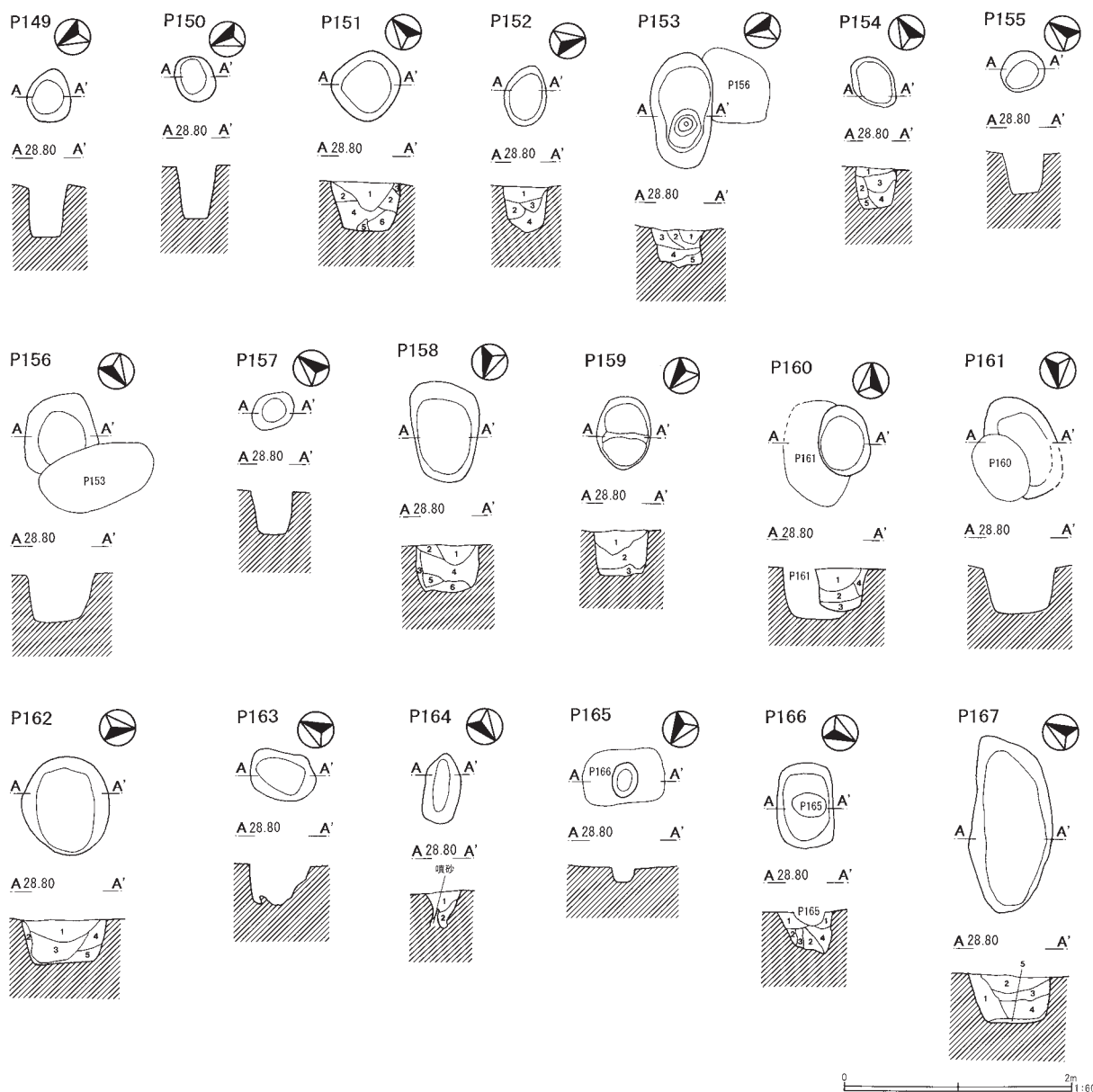
第147号ピット (A-A') (R3区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黒褐 2.5Y-3/1 粒子多量)
2. オリブ黒砂質 5Y-3/2
3. オリブ黒砂質 5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 ブロック多量)

第148号ピット (A-A') (R3区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (少々砂質)
2. 黒褐 2.5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 ブロック有)
3. オリブ黒 10Y-3/1 (一部砂質)
4. オリブ黒 5Y-3/2 (少々粘質)

第75図 第128～143、145～148号ピット (R3区)



第151号ピット (A-A') (R3区)

1. 黄灰 2.5Y-4/1 (にぶい黄 2.5Y-6/3 有、しまり若干弱)
2. オリーブ黒 5Y-3/2
3. にぶい黄 2.5Y-6/3
4. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (少々しまり弱)
5. 黒褐 2.5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子少量)
6. オリーブ黒 5Y-3/1 (一部炭化物有)

第152号ピット (A-A') (R3区)

1. 灰オリーブ 7.5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 ブロック有)
2. オリーブ黒砂質 7.5Y-3/1
3. 灰オリーブ 5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 ブロック多量に含)
4. オリーブ黒 5Y-3/1 (ごく微量に黄 2.5Y-7/8 粒子含)

第153号ピット (A-A') (R3区)

1. オリーブ黒 5Y-3/2 (にぶい黄 2.5Y-6/3 ブロック有)
2. 灰オリーブ砂質 5Y-4/2
3. 灰オリーブ 5Y-4/2 (2より少々暗い)
4. 黒褐 2.5Y-3/1 (しまり弱)
5. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 微粒子有、しまっている)

第154号ピット (A-A') (R3区)

1. オリーブ黒 5Y-3/2 (かなりしまり弱)
2. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (かなりしまり弱)
3. 灰オリーブ 5Y-4/2 (オリーブ黒 5Y-6/3 ブロック有)
4. オリーブ黒 5Y-3/1
5. 黒褐 2.5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 多量)

第158号ピット (A-A') (R3区)

1. 灰オリーブ 7.5Y-4/2 (にぶい黄 2.5Y-6/3 ブロック)
2. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 ブロック微量)
3. 黒褐 2.5Y-3/1 (しまり弱)
4. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (1のブロック少量有)
5. オリーブ黒 10Y-3/1 (かなりしまり弱)
6. オリーブ黒砂質 10Y-3/1 (しまり弱)

第159号ピット (A-A') (R3区)

1. 暗灰黄 2.5Y-5/2 (黄 2.5Y-7/8 少量)
2. オリーブ黒 5Y-3/1 (1のブロック少量)
3. 灰オリーブ砂質 5Y-4/2 (しまり弱)

第160号ピット (A-A') (R3区)

1. オリーブ黒 5Y-3/2
2. オリーブ黒 10Y-3/1
3. オリーブ黒 7.5Y-3/2
4. 1に2のブロック多量)

第162.158号ピット (A-A') (R3区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (にぶい黄 2.5Y-6/3 ブロック)
2. 黒褐 2.5Y-3/1
3. 黒褐 2.5Y-3/1 (オリーブ黒 5Y-3/1 ブロック、黄 2.5Y-7/8 ブロック有)
4. 黒褐 2.5Y-3/1 に黄 2.5Y-7/8 ブロック有
5. 黒 2.5Y-2/1 (黄 2.5Y-7/8 ブロック微量に含)

第164号ピット (A-A') (R3区)

1. 黄灰 2.5Y-4/1 (黄 2.5Y-7/8 微粒子少量含)
2. オリーブ黒 5Y-3/1 (しまり強い)

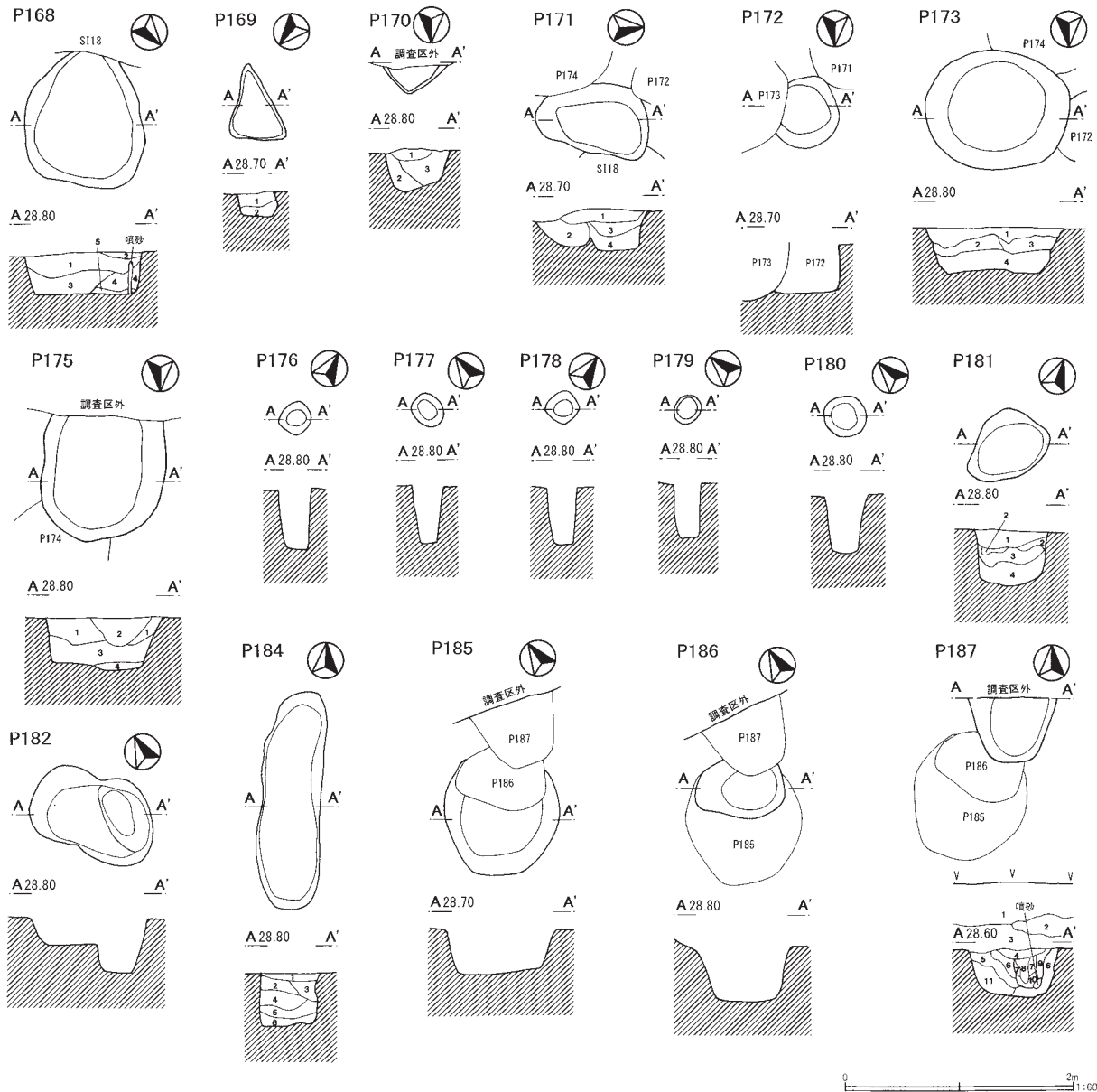
第166号ピット (A-A') (R3区)

1. 黄褐 2.5Y-5/3 (にぶい黄 2.5Y-6/3 ブロック有)
2. 黒褐砂質 2.5Y-3/1
3. 暗灰黄砂質 2.5Y-5/2
4. 灰オリーブ砂質 5Y-4/2 (しまり弱)

第167号ピット (A-A') (R3区)

1. オリーブ黒 5Y-3/1 (しまっている、にぶい黄 2.5Y-6/3 ブロック有)
2. 灰オリーブ 5Y-4/4 (黄 2.5Y-7/8 ブロック有)
3. オリーブ黒 7.5Y-3/2 (少々しまっている)
4. オリーブ黒 10Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 少量)
5. 灰オリーブ砂質 5Y-4/2

第76図 第149～167号ピット (R3区)



第168号ピット (A-A') (R3区)

1. オリーブ黒 10Y-3/1 (少々粘質、黄 2.5Y-7/8 粒子少量含)
2. 灰オリーブ 5Y-4/2 (1 が少々含)
3. 黒 7.5Y-2/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子ブロック有、
灰オリーブ 7.5Y-5/2 ブロック有)
4. オリーブ黒 5Y-3/1 (少々黄 2.5Y-7/8 粒子有)
5. オリーブ黒 5Y-3/2
6. 暗灰黄 2.5Y-5/2 (噴砂か)

第169号ピット (A-A') (R3区)

1. 暗オリーブ 2.5GY-4/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子有、しまり強)
2. 暗オリーブ 2.5GY-3/1 (しまり強)

第170号ピット (A-A') (R3区)

1. オリーブ黒 7.5Y-3/1
2. オリーブ黒粘質 5Y-3/1
3. オリーブ黒粘質 5Y-3/2

第171号ピット (A-A') (R3区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 微粒子少量含)
2. 黒 2.5Y-3/2 (しまり強)
3. オリーブ黒 5Y-3/2 (1 の粒子少量有)
4. 黒粘質 2.5GY-2/1

第173号ピット (A-A') (R3区)

1. 暗灰黄 2.5Y-5/2 (2 が多量)
2. 灰オリーブ 5Y-5/2
3. 灰オリーブ粘質 5Y-5/2
4. オリーブ黒粘質 5Y-3/2

第175号ピット (A-A') (R3区)

1. 灰オリーブ 5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子多量、少々しまり弱)
2. オリーブ黒 5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子多量、少々しまり弱)
3. 黒粘質 5Y-2/1 (灰オリーブ 5Y-4/2 ブロック有)
4. 暗オリーブ灰粘質 5GY-3/1

第181号ピット (A-A') (R3区)

1. 灰砂質 10Y-4/1 (かなりゆるい、黄 2.5Y-7/8 粒子少量)
2. 黄 2.5Y-7/8 (1 が少量含)
3. オリーブ黒 7.5Y-3/2 (2 の粒子が少量有)
4. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (しまっている)

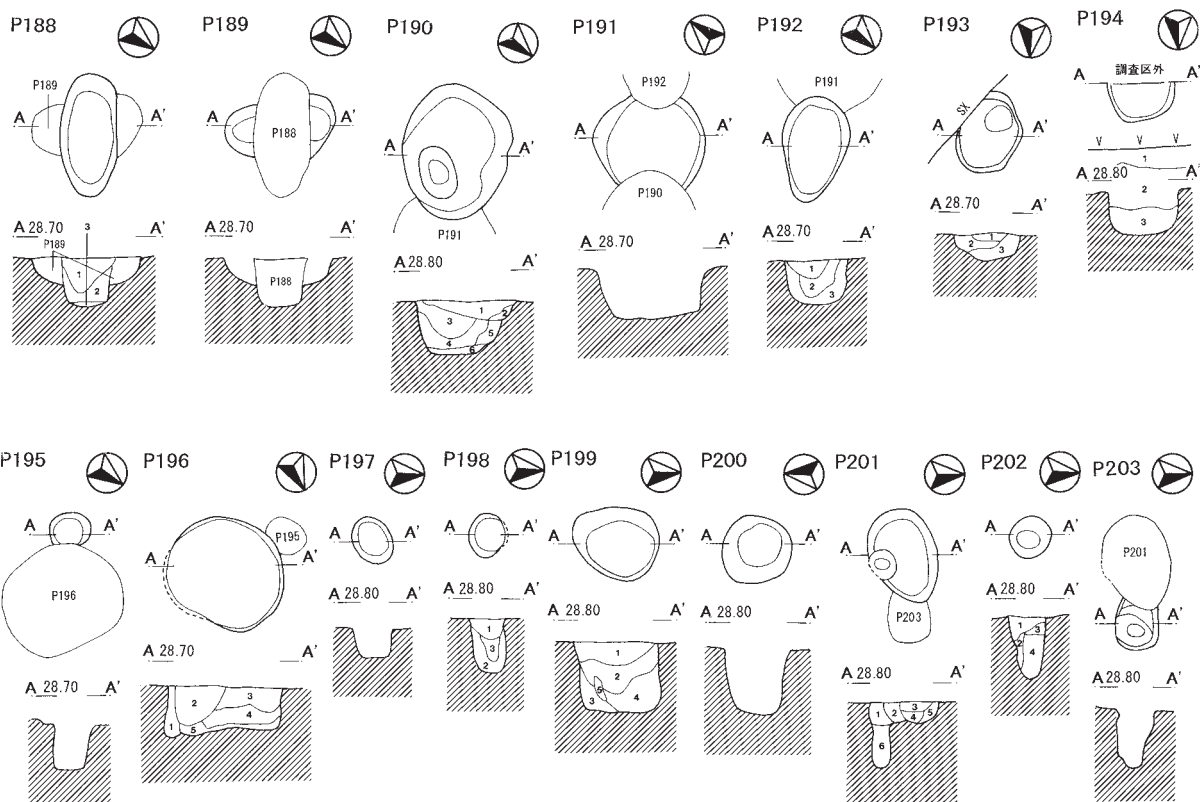
第184号ピット (A-A') (R3区)

1. 灰オリーブ 5Y-5/3 (オリーブ黒 5Y-3/1 ブロック少量)
2. 暗オリーブ砂質 5Y-4/4 (しまり弱)
3. 1 にオリーブ黒 5Y-3/1 ブロックが多量に有
4. 2 にオリーブ黒 5Y-3/1 (φ3~5 cm) ブロック多量
5. 灰オリーブ砂質 7.5Y-4/2
(オリーブ黒 5Y-3/1 ブロック少量)
6. オリーブ黒砂質 5Y-3/1

第187号ピット (A-A') (R3区)

1. 耕作土
2. オリーブ黒 5Y-3/1 (土器片少量、
灰オリーブ 5Y-5/2 ブロック多量)
3. 黄 2.5Y-7/8 (少々砂質、4・6 のブロック粒子多量に含)
4. 灰オリーブ 5Y-4/2 (3 の粒子多量に有)
5. 黒褐砂質 2.5Y-3/1
6. 黒粘質 2.5GY-2/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子ブロック少量有、
しまり強)
7. 暗灰黄 2.5Y-5/2 (8 のブロック有)
8. オリーブ黒 5Y-3/1
9. 灰オリーブ 5Y-4/2
10. 7 に多量に黄 2.5Y-7/8 粒子
11. 黒褐 2.5Y-3/1 (多く黄 2.5Y-7/8 粒子混ざる)

第77図 第168~173、175~182、184~187号ピット (R3区)



第 188・189 号ピット (A-A') (R3 区)

1. 灰オリーブ砂質 7.5Y-4/2
2. 暗オリーブ灰砂質 2.5GY-3/1
3. オリーブ黒砂質 10Y-3/1

第 190 号ピット (A-A') (R3 区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 ブロック微量、にぶい黄 2.5Y-4/3 ブロック有)
2. オリーブ黒 5Y-3/2
3. オリーブ黒 5Y-3/1 (にぶい黄 2.5Y-6/3 ブロック少量)
4. 黒褐 2.5Y-3/1
5. オリーブ黒 5Y-3/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子混合)
6. 灰オリーブ 5Y-4/2 (少々砂質)

第 192 号ピット (A-A') (R3 区)

1. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 有)
2. 黒褐 2.5Y-3/1 (しまり強)
3. オリーブ黒 5Y-3/2 (1 のブロック有、黄 2.5Y-7/8 ブロック有)

第 193 号ピット (A-A') (R3 区)

1. 灰オリーブ砂質 7.5Y-4/2
2. 暗オリーブ灰砂質 2.5GY-3/1
3. オリーブ黒シルト質 10Y-3/1

第 194 号ピット (A-A') (R3 区)

1. 表土
2. オリーブ黒 5Y-3/1 (灰オリーブ 5Y-5/2 ブロック多量)
3. オリーブ黒砂質 7.5Y-3/2

第 196 号ピット (A-A') (R3 区)

1. オリーブ黒 5Y-3/1 (しまり弱)
2. 灰オリーブ 5Y-4/2 (一部 1 の粒子が有)
3. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黄褐 2.5Y-5/3 ブロック粒子有)
4. 黒褐 2.5Y-3/1 (2 のブロック有)
5. 灰オリーブシルト質 5Y-4/2

第 198 号ピット (A-A') (R3 区)

1. 暗灰黄 2.5Y-5/2 (少々シルト質)
2. 黒褐シルト質 2.5Y-3/1
3. オリーブ黒砂質 7.5Y-3/1

第 199 号ピット (A-A') (R3 区)

1. にぶい黄 2.5Y-6/3 (少々しまり弱)
2. オリーブ黒 5Y-3/2 (1 のブロック少量有、しまり弱)
3. 黒褐 2.5Y-3/1 (わずかに粘質)
4. 黒褐 2.5Y-3/1 (1 のブロック及び粒子有)
5. 黄褐 2.5Y-5/3

第 201 号ピット (A-A') (R3 区)

1. 暗灰黄 2.5Y-5/2 (若干シルト質)
2. 1 に黄褐 2.5Y-5/3 粒子多量
3. オリーブ黒 5Y-3/1 (1 が多量に混入)
4. オリーブ黒 5Y-3/1 (微量に 1 が有)
5. 黒褐 2.5Y-3/1
6. 黒粘質 5Y-2/1

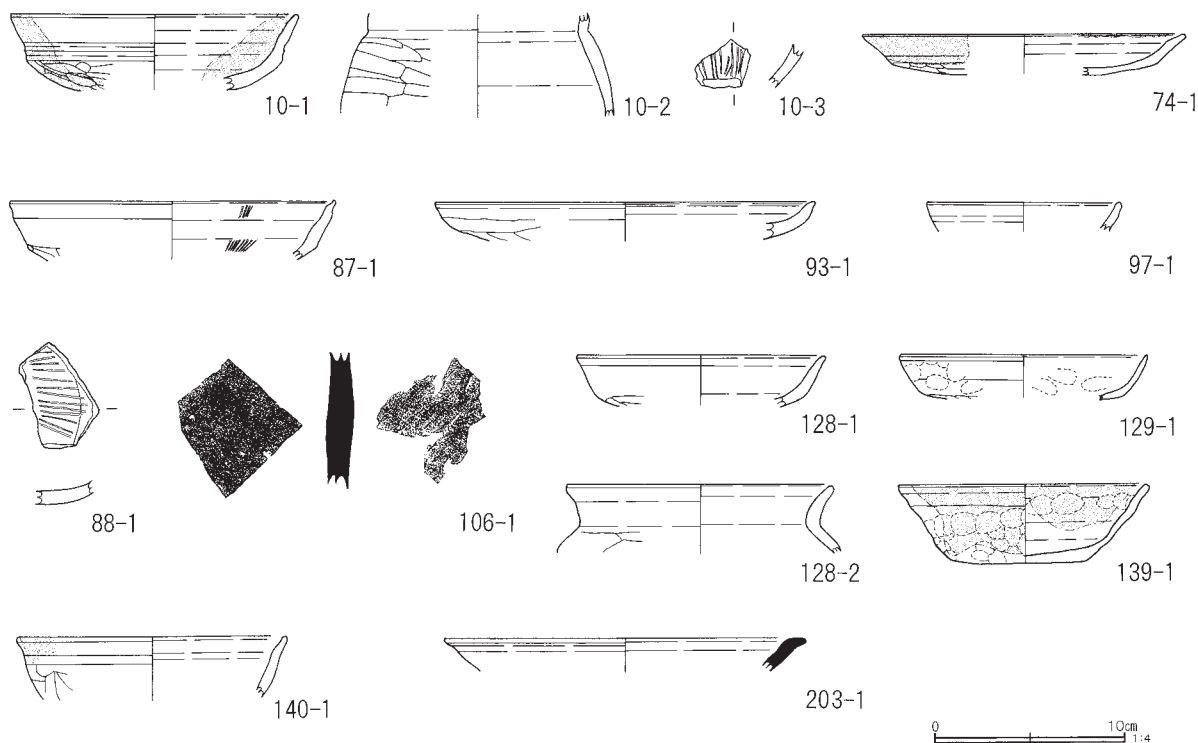
第 202 号ピット (A-A') (R3 区)

1. 暗灰黄 2.5Y-5/2 (少々シルト質)
2. 黒褐シルト質 2.5Y-3/1
3. オリーブ黒 5Y-3/1
4. オリーブ黒砂質 5Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 多量)

第 78 図 第 188～203 号ピット (R3 区)

第24表 ピット一覧表

No.	位置	平面形状	長軸×短軸×深さ(m)	出土遺物	時期	重複関係(新旧)	備考
181	F-13	不整楕円形	0.76×0.56×0.47				
182	E, F-13	不整楕円形	1.10×0.71×0.47				
183	E, F-13	(不整円形)	0.4×(2.0)×-				基準杭(未掘削)
184	E-13	楕円形	1.85×0.50×0.44				
185	E-13	(円形)	(0.56)×1.00×0.37			P186	
186	E-13	楕円形	0.78×(0.46)×0.46			P185、P187	
187	E-13	(楕円形)	(0.55)×0.75×0.41			P186	
188	E-13	楕円形	0.96×0.44×0.37			P189	
189	E-13	(楕円形)	0.87×0.50×0.19			P188	
190	E-13	楕円形	1.06×0.82×0.41			P191	
191	E-13	(円形)	0.87×(0.49)×0.39			P190、192	
192	E-13	楕円形	0.84×0.47×0.35			P191	
193	D-13	(楕円形)	0.66×(0.48)×0.20			SN	
194	C-13	(円形)	0.52×(0.29)×0.34			SN	
195	C-13	(円形)	0.32×(0.25)×0.34			SN、P196	
196	C-13	楕円形	0.93×0.81×0.32			SN、P195	
197	B-13	楕円形	0.39×0.29×0.21			SN	
198	B-13	楕円形	0.34×0.28×0.41			SN	
199	B-13	楕円形	0.69×0.51×0.54			SN	
200	B-13	円形	0.57×0.55×0.50			SN	
201	B-13	楕円形	0.76×0.54×0.15			SN、P203	
202	B-13	楕円形	0.34×0.30×0.49			SN	
203	B-13	(楕円形)	(0.34)×0.34×0.44	須恵器鉢		SN、P201	



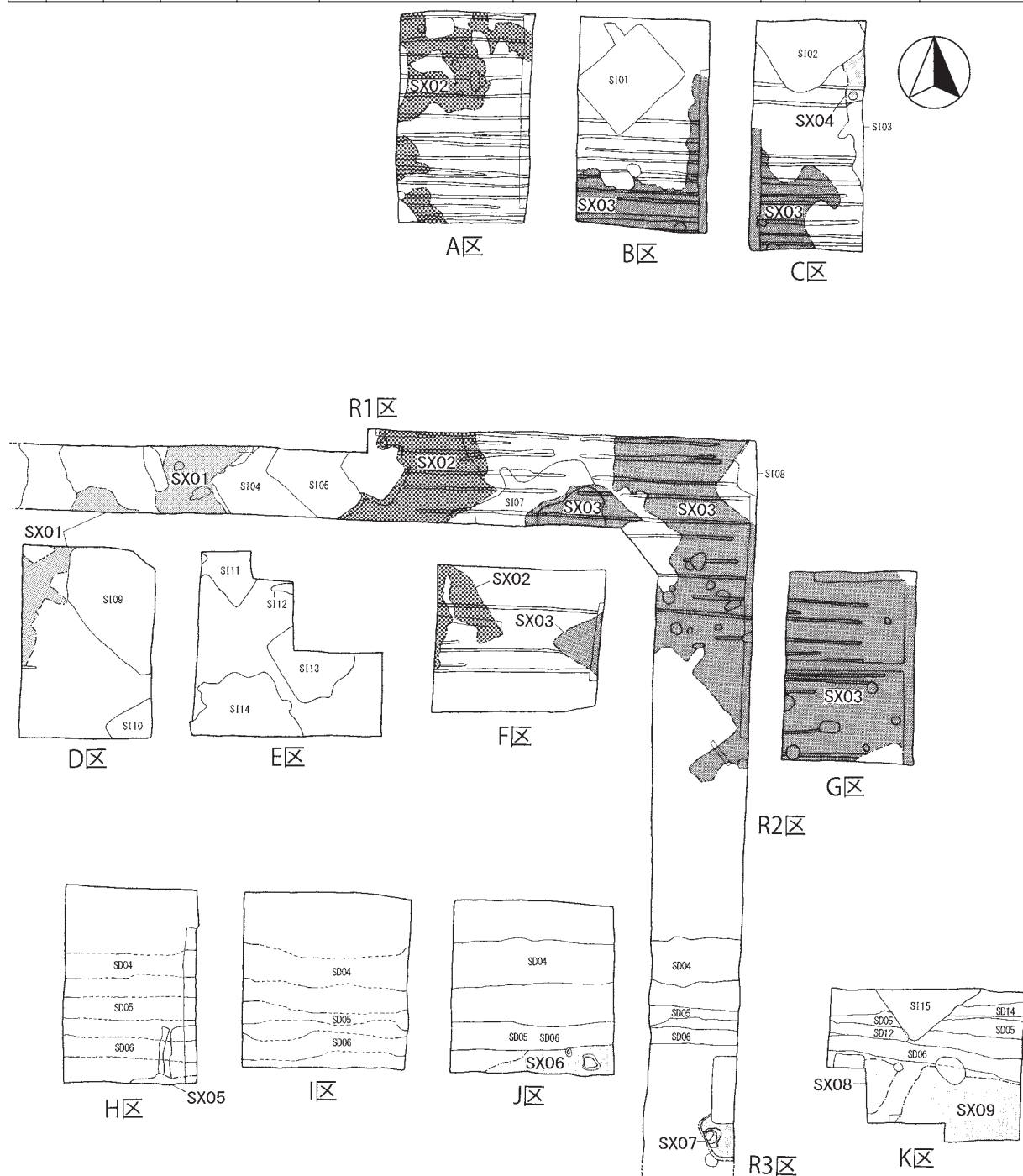
第79図 各ピット出土遺物

第25表 各ピット出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
10-1	土師器 杯	(15.0)	(4.0)	-	口辺部外面有段 体部外面手持ちヘラケズリ 内外面一部スス付着	ABJ	橙2.5YR-6/8	良好	20%	
10-2	土師器 台付甕	(胴径) 12.0	-	-	胴部外面横位ヘラケズリ	ABJ	橙2.5YR-6/8	良好	胴部片	
10-3	土師器 杯	-	-	-	内面放射状暗文	B	外面：にぶい橙7.5YR-7/4 内面：橙2.5YR-6/8	良好	胴部片	
74-1	土師器 皿	(17.0)	(2.1)	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ 口辺部外面黒色物	ABJ	橙5YR-6/6	良好	20%	
87-1	土師器 杯	(17.0)	(3.1)	-	体部外面黒色物 体部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	BJ	橙2.5YR-6/6	良好	口縁～体部片	
88-1	土師器 杯	-	-	-	底部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	AB	橙2.5YR-6/8	良好	底部片	
93-1	土師器 皿	(20.0)	(2.0)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABJ	橙5YR-6/6	普通	口縁～体部片	

第25表 各ピット出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
97-1	緑釉陶器	(10.0)	(1.5)	-	内外面緑釉		灰オリーブ5Y-6/2	良好	口縁部片	
106-1	須恵器甕	-	-	-	外面平行タキ目 内面無文当て具痕	GN	黄灰2.5Y-6/1	良好	胴部片	産地不明
128-1	土師器杯	(13.0)	(2.6)	-	口辺部外面ヨコナデ 体部外面手持ちヘラケズリ	BDJ	橙5YR-6/6	良好	口縁～体部片	
128-2	土師器甕	(14.0)	(3.6)	-	胴上半部外面横位ヘラケズリ	ABJ	にぶい赤褐5YR-5/3	普通	口縁部片	
129-1	土師器杯	(13.0)	(2.3)	-	口辺～体部内外面指頭圧痕有 底部外面手持ちヘラケズリ	ABJ	橙7.5YR-6/4	良好	10%	
139-1	土師器杯	6.5	4.1	-	体部内外面指頭圧痕有 底部外面手持ちヘラケズリ 内外面一部スス付着	ABDE	橙5YR-7/6	普通	60%	
140-1	土師器杯	(14.0)	(3.3)	-	外面黒色物 体部外面手持ちヘラケズリ	DJ	にぶい橙7.5YR-6/4	普通	口縁～体部片	
203-1	須恵器鉢	(19.0)	(1.7)	-	口縁部外反	B	黄灰2.5Y-6/1	良好	口縁部片	



第80図 性格不明遺構 全体図

7 性格不明遺構（S X）

この遺跡での性格不明遺構については、第80図で示されているように全部で9基検出された。S X 01～S X 04はそれぞれが独立していると推測し大別した。形状は人工的ではなく、自然に形成されたと推測されるいびつな形を呈しており、特にA区や、R2区ではそれが顕著なものとして見られる。土層断面を観察するとS X部分と推測される層序は、いずれも2層から3層の堆積で、現地表面から0.60mから0.80mにかけて堆積しており、ほぼすべてにおいて、粘質の黒色土もしくは、オリーブ黒色土である。このS Xは一部の堆積に特徴的なものがあり、R1区などのS Xの土層で観察するとそうであるが、S Xの堆積状況が横長の楕円形であり、通常の堆積状況とは異なり、やや不自然な堆積状況であった。平面的には大半は形がいびつな不整形で、自然に形成されたと推定できるものであった。

また、それ以外のS X 05～09は自然による形成ではなく、人工的と考えられるような竪穴状であった。土層断面を観察するに、一部は、S X 01～04と似通った堆積を呈しているものもあった。

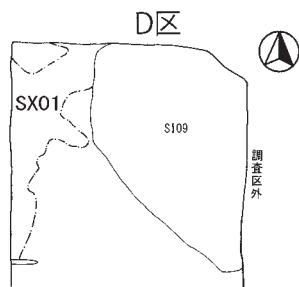
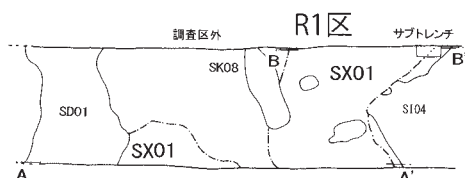
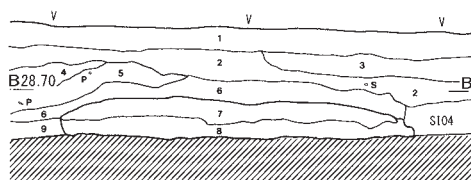
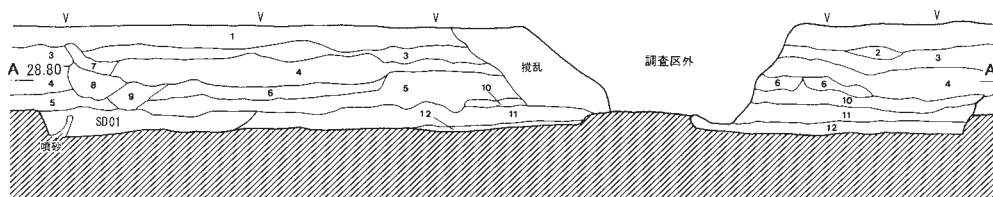
今回のS Xの全体を観察すると、遺跡中央部に東西に横断する溝跡を境にS X 01～04の遺構群とS X 05～S X 09の遺構群が分かれることが特徴的であろう。

S X 03で土師器坏や皿、須恵器坏などが出土したほか、遺物については、ほとんど検出されず、S X 03から他のS Xも推測すると、7世紀末～8世紀初頭の時期の形成と考えることができるが、住居跡と重複する箇所においては、その時期に比類するといささか不都合な点があることから、流れ込みと考えることも可能である。

以下、紙面の都合上から、性格不明遺構の特徴等について一覧表で掲載をする。（第80～85図・第26、27表）

第26表 性格不明遺構一覧表

No.	位置	平面形状	検出長×幅×深さ(m)	出土遺物	重複関係(新旧)	備考
1	M, L-5, 6, 7, K-5, 6	不整形	3.02×1.85～0.92×	土師器坏、須恵器蓋	SI09. SD01. SI04. SK08. P36	
2	I, K-1, 2, 3, I-5, 6, I-6, 7	不整形	5.20×0.58～0.52×		SK01. P01～07. SK02. P20. 21. SI05	
3	G-1, 2, 3, G, H-6, 7, F, G-5, 6, 7, 8, F, E-7, 8	不整形	11.54×0.92～1.89×	土師器坏、皿、甕 須恵器坏	SK04. P28. P30. SI07. 08. P62～75. P85～91	
4	E-2	不整形	2.72×0.71×		SI03	竪穴状
5	L, K-11	不整形	3.20×0.45×	須恵器坏、蓋	SD08. SK15	竪穴状
6	H-11	不整形	6.00×1.40×	石器?	SD05	竪穴状
7	F-12	(楕円形)	2.10×1.70×		SK11. P144	竪穴状
8	E-11	(楕円形)	2.67×0.52×		P124	竪穴状
9	E, D-11, 12	いびつな方形	5.82×2.80×		SK23	竪穴状

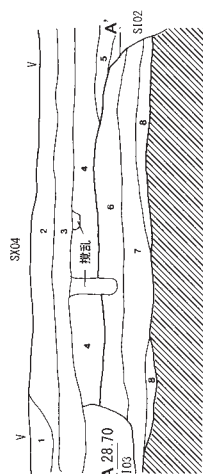
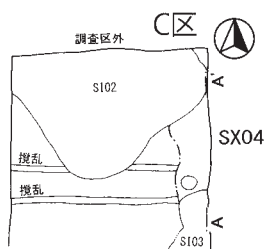


SX01 (A-A') (R1区)

1. 表土
2. オリーブ黒 5Y-3/2 (土器片含、しまりかなり弱)
3. オリーブ黒 5Y-3/1 (土器片含、しまり弱)
4. オリーブ黒 5Y-3/1 (ソフトローム土多量、土器片含、しまり若干弱)
5. 灰オリーブ 5Y-4/2 (にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック少量、炭化物少量)
6. ソフトローム土 (一部に黒褐 2.5Y-3/1 ブロック及び粒子含)
7. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (灰 5Y-4/1 粒子及びブロック多量、しまり弱)
8. 灰オリーブ 5Y-5/2 (ソフトローム土粒子少量)
9. 灰 5Y-4/1 (ソフトローム土多量、しまり若干弱)
10. 黒褐 2.5Y-3/1 (少々粘質、にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック有、ソフトローム土ブロック有)
11. 暗灰粘質 N-3/ (ソフトローム土粒子ごく少量、にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック有)
12. オリーブ黒砂質 5Y-3/2

SX01 (B-B') (R1区)

1. 表土
2. オリーブ黒 5Y-3/2 (土器片含、しまり弱)
3. 暗灰黄 2.5Y-5/2 (黒褐 10YR-3/1 ブロック及び粒子少々混ざる)
4. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (炭化物、土器片少量)
5. 黒褐 2.5Y-3/1 (少々砂質、土器片含)
6. オリーブ黒 5Y-3/1 (ソフトローム土多量、土器片含、しまり若干弱)
7. 灰オリーブ 5Y-4/2 (土器片含、にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック少量、炭化物少量)
8. 黒褐粘質 2.5Y-3/1 (ソフトローム土粒子多量、黄褐 2.5Y-5/3 粒子少量)
9. オリーブ黒 5Y-3/1 (やや粘質、ソフトローム土粒子若干有)

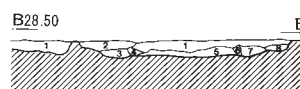
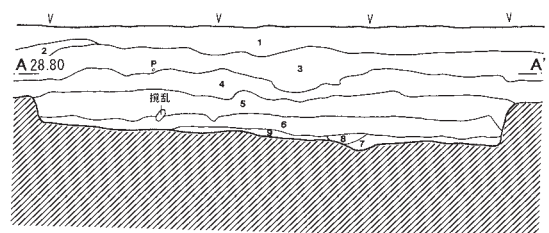
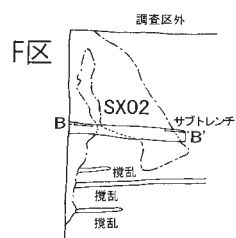
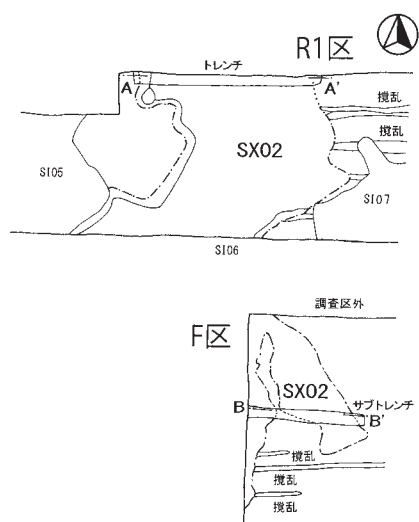
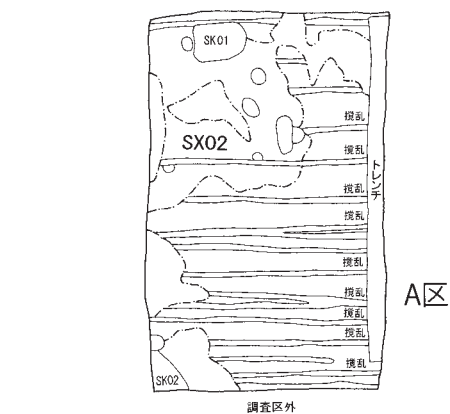


SX04 (A-A') (C区)

1. 灰オリーブ 5Y-4/2 (しまり弱)
2. 表土
3. 灰オリーブ 7.5Y-4/2 (少々粘質)
4. オリーブ黒 5Y-3/1 (ソフトローム土多量、しまり弱)
5. オリーブ黒 5Y-3/1 (やや粘質)
6. 黒粘質 5Y-2/1
7. オリーブ黒 7.5Y-3/1 (灰オリーブ 7.5Y-5/2 ブロック多量)
8. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (少々砂質、一部黒褐 2.5Y-3/1 ブロック少量)

断面図 0 1m 1:80 平面図 0 5m 1:200

第81図 第1・4号性格不明遺構 (C区・D区・R1区)



断面図 0 1m 1:80 平面図 0 5m 1:200

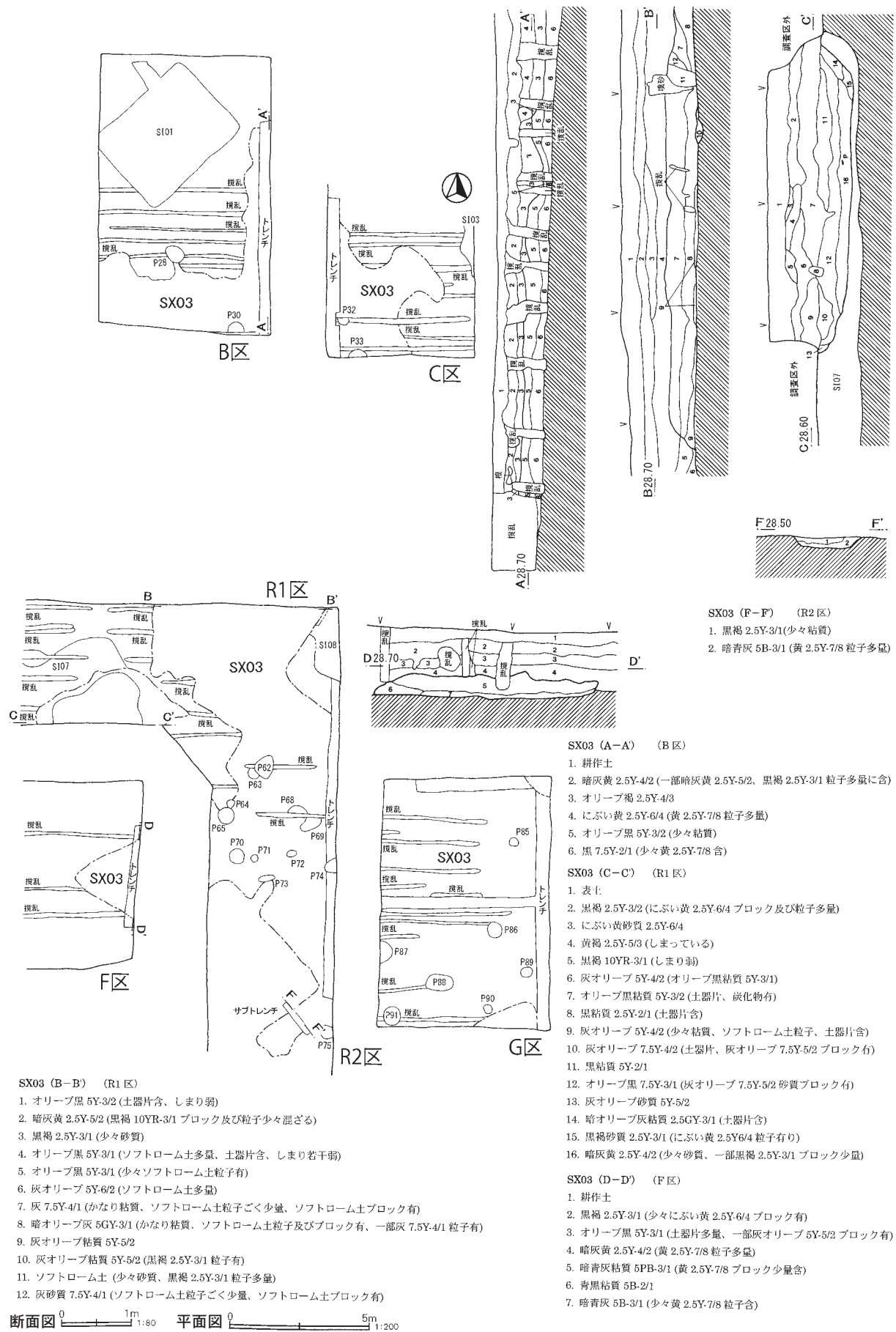
SX02 (A-A') (R1区)

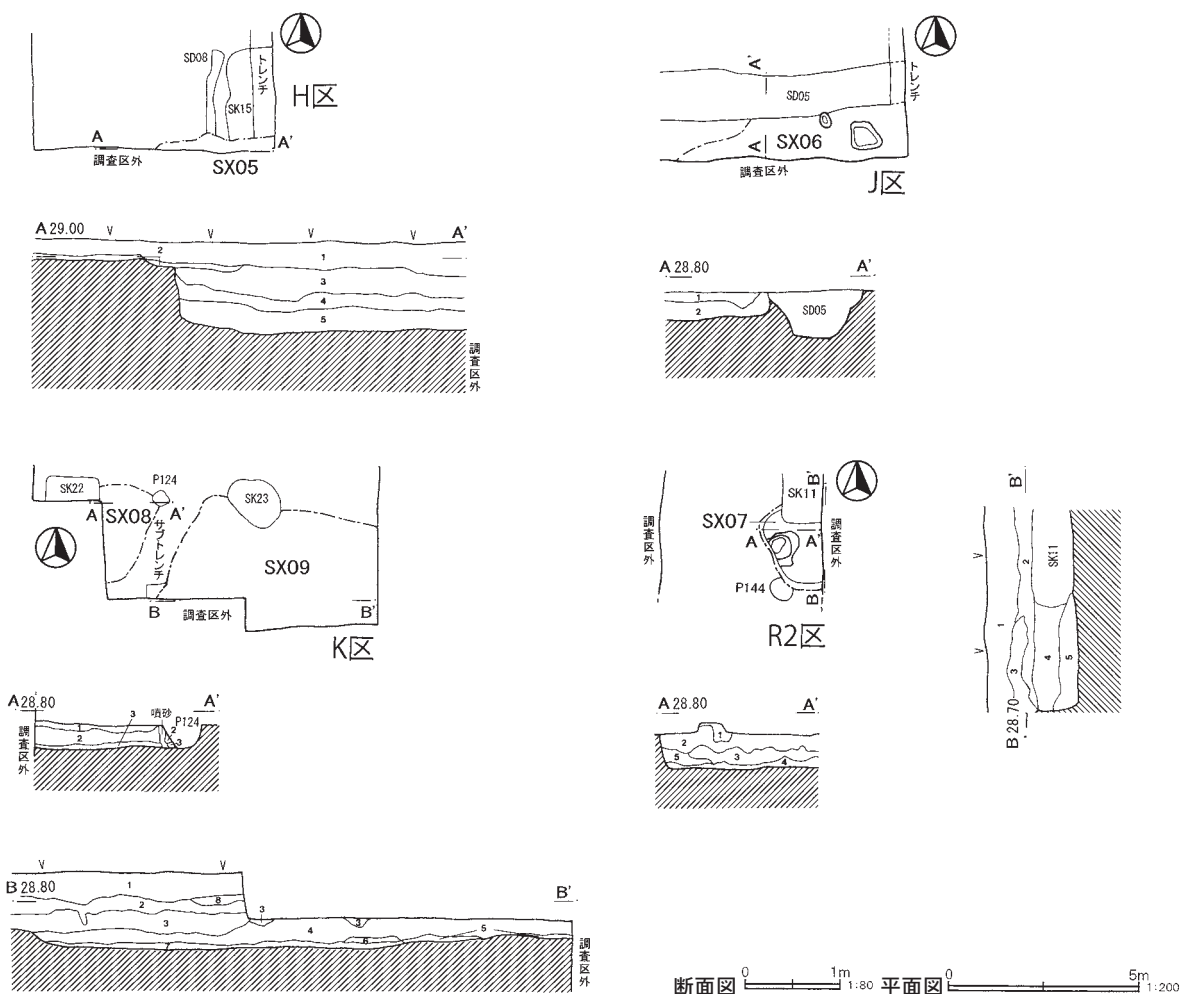
1. 表土
2. オリーブ黒 5Y-3/2 (土器片含、しまりかなり弱)
3. オリーブ黒 5Y-3/1 (土器片含、しまり弱)
4. 灰オリーブ 5Y-4/2 (にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック少量、炭化物少)
5. 黒褐 2.5Y-3/1 (少々粘質、にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック有、ソフトローム土ブロック有)
6. 暗灰粘質 N-3/ (ソフトローム上粒子ごく少量、にぶい黄 2.5Y-6/4 ブロック有)
7. オリーブ黒砂質 5Y-3/2
8. オリーブ黒 5Y-3/1 (少々砂質)
9. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (ソフトローム上粒子少量)

SX02 (B-B') (F区)

1. 暗青灰粘質 5B-3/1 (微量に黄 2.5Y-7/8 有)
2. 黒 5Y-2/1 (微量に黄 2.5Y-7/8 粒子有)
3. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (黄 2.5Y-7/8 粒子、ブロック含)
4. 黄 2.5Y-7/8 (2 の粒子多量に含)
5. オリーブ黒 5Y-3/1 (少々粘質)
6. 黄 2.5Y-7/8
7. 黒褐 10YR-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子少量含)
8. 黒褐粘質 10YR-3/1

第 8 2 図 第 2 号性格不明遺構 (A 区・F 区・R 1 区)





SX05 (A-A') (H区)

1. 耕作土
2. オリーブ黒砂質 5Y-3/2
3. 黄褐 2.5Y5/3 (暗灰黄砂質 2.5Y-5/2 若干有)
4. オリーブ黒 10Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子少量、しまり弱)
5. 黒褐粘質 2.5-2/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子ブロック少量有、しまり強)

SX06 (A-A') (J区)

1. 暗オリーブ灰 2.5GY-4/1
2. 青黒粘質 10BG-2/1 (しまり弱)

SX07 (A-A') (R3区)

1. オリーブ黄砂質 5Y-6/3
2. オリーブ黒粘質 10Y-3/1 (灰オリーブ 5Y-5/2 ブロック少量、ソフトローム土ブロック及び粒子含)
3. 緑黒粘質 10G-2/1 (ソフトローム土ブロック及び粒子少量含)
4. 暗灰黄 2.5Y-4/2 (一部ソフトローム土)
5. 黒褐 2.5Y-3/1

SX07 (B-B') (R3区)

1. 表土 (耕作土)
2. ソフトローム土 (少々砂質、オリーブ黒 10-3/1 ブロック及び粒子多量)
3. オリーブ黒 5Y-3/1 (土器片多量、灰オリーブ 5Y-5/2 ブロック多量)
4. オリーブ黒 10Y-3/1 (ソフトローム土粒子、黒 2.5GY-2/1 粒子混ざる、ゆるい)
5. 黒粘質 2.5GY-2/1 (ソフトローム土ブロック及び粒子少量)

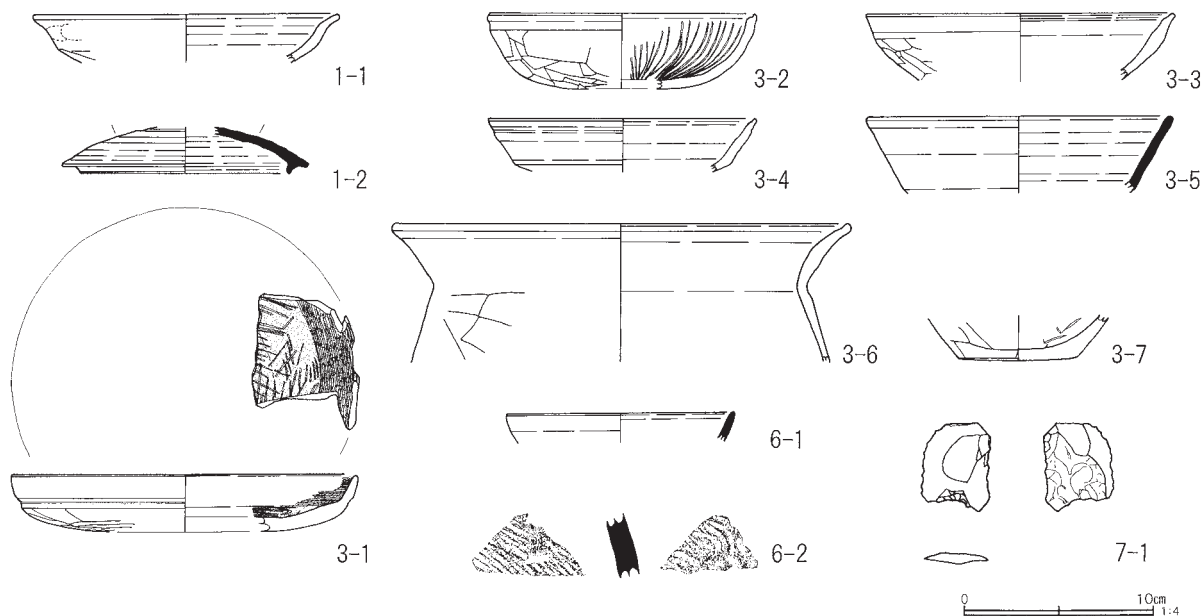
SX08 (A-A') (K区)

1. 黄灰 2.5Y-4/1 (ソフトローム土ブロック有)
2. 黒粘質 2.5GY-2/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子ブロック少量有、しまり弱)
3. 黄灰 2.5Y-4/1 (かなり多く黄 2.5Y-7/8 混入、しまり弱)

SX09 (B-B') (K区)

1. 耕作土
2. オリーブ黒 5Y-3/1 (土器片多量、灰オリーブ 5Y-5/2 ブロック多量)
3. オリーブ黒 10Y-3/1 (黄 2.5Y-7/8 と黒 2.5GY-2/1 の粒子混入、しまり弱)
4. 黒粘質 2.5GY-2/1 (黄 2.5Y-7/8 粒子ブロック少量有、しまり強)
5. 黄 2.5Y-7/8 (黒褐 2.5Y-3/1 ブロック粒子少量含)
6. 4 にソフトローム土粒子多量に含
7. 黄灰 2.5Y-4/1 (黄 2.5Y-7/8 多量に混入、しまり弱)
8. 黄 2.5Y-7/8 (少々砂質、オリーブ黒 10Y-3/1 のブロック、粒子多量)

第84図 第5～9号性格不明遺構 (H区・J区・K区・R3区)



第 8 5 図 性格不明遺構出土遺物（J 区・R 1 区・R 3 区）

第 2 7 表 性格不明遺構出土遺物観察表（R 1 区・J 区・R 3 区）

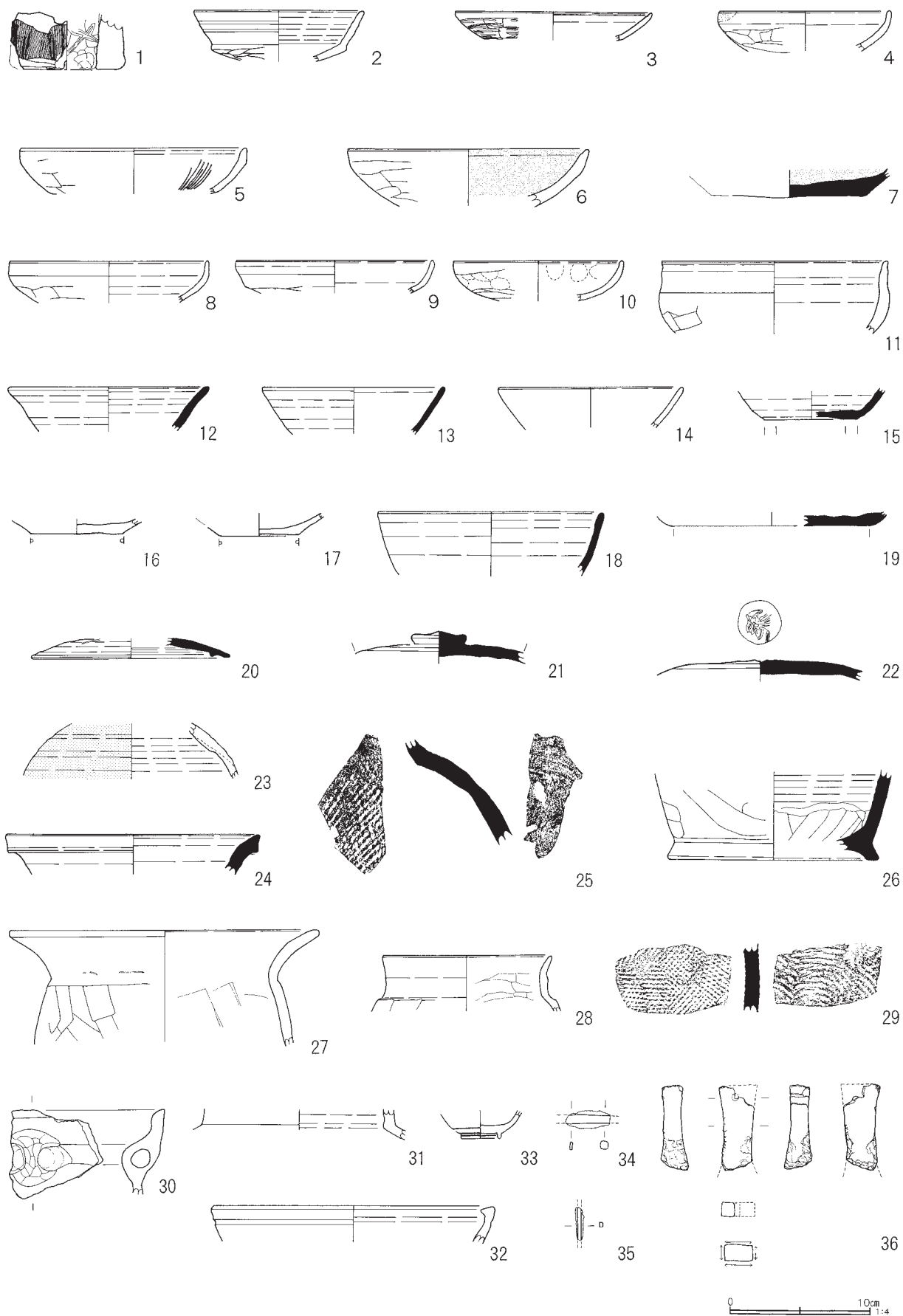
番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
1-1	土師器 坏	(16.0)	(2.5)	-	口辺部外面指頭圧痕有 体部外面手持ちヘラケズリ	ABDIJN	橙5YR-6/6	普通	口縁部片	
1-2	須恵器 蓋	(13.0)	(2.4)	-	口縁部内面返り 外面降灰付着	AB	褐灰10YR-6/1	良好	口縁部片	未野産
3-1	土師器 皿	-	-	-	体～底部外面手持ちヘラケズリ 内面黒色処理・ミガキ	EJ	外面：橙5YR-6/8 内面：黒褐10YR-3/1	普通	口縁～底部片	
3-2	土師器 坏	(16.0)	(4.0)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	EJ	橙5YR-6/6	良好	30%	
3-3	土師器 坏	(16.0)	(3.5)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 口唇部内面沈線	J	橙5YR-6/6	良好	口縁～体部片	
3-4	土師器 坏	(14.0)	(2.8)	-	底部外面手持ちヘラケズリ 口唇部内面沈線	EJ	橙5YR-6/6	良好	口縁～体部片	
3-5	須恵器 坏?	(16.0)	(4.0)	-	体部やや直線的	AB	褐灰10YR-6/1	良好	口縁～体部片	未野産?
3-6	土師器 甕	(24.0)	(7.3)	-	胴上半部外面横位ヘラケズリ	DJN	にぶい橙7.5YR-6/4	良好	口縁～胴上半部片	
3-7	土師器 甕	-	(2.4)	(6.0)	胴下端部斜位横位ヘラケズリ	IJN	にぶい橙7.5YR-6/4	普通	底部20%	
6-1	須恵器 坏	(12.0)	(1.5)	-	口縁部やや内湾	ABDIN	灰黄褐10YR-5/2	良好	口縁部片	
6-2	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タキ目 内面同心円状当て具痕	ABN	黄灰2.5Y-6/1	良好	胴部片	産地不明
7-1	石器 剥片?	長:4.6	幅:3.5	厚:0.5	大部分に剥片痕		灰5Y-4/1	-	-	ホルンフェルス (粘板岩)

8 遺構外出土遺物（第86図、第28表）

遺構外からの出土遺物については、主に表土はぎ、試掘時の遺物である。

出土遺物は、主に、土師器坏、椀、焙烙、甕、台付甕、須恵器坏、蓋、甕、短頸瓶、長頸瓶、緑釉陶器椀、灰釉陶器長頸瓶、磁器、鉄釘等などが確認されている。大体が7世紀から8世紀に該当するものである。

以下、それらについて、以下のとおり掲載する。（第86図・第28表）



第 8 6 図 遺構外出土遺物

第 2 8 表 遺構外出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm)			手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
		口径	器高	底径						
1	円筒埴輪	-	(3.1)	(8.0)	胴下端部外面縦ハケ 胴下端部内面「×」ヘラ記号 流れ込みか?	ABDG1JN	橙5YR-6/6	良好	底部片	
2	土師器 坏	(12.0)	(3.6)	-	口縁部外面有段 底部外面手持ちヘラケズリ	ABDG1J	橙7.5YR-6/6	良好	20%	
3	土師器 坏	14.0	2.0	-	体部外面手持ちヘラケズリ及びミ ガキ 口唇部内面沈線1条	ABDJ	明赤褐2.5YR-5/6	良好	口縁～体部片	
4	土師器 坏	(12.0)	(2.9)	-	口縁～体部黒斑 体部外面手持ちヘラケズリ	ABG1JN	橙5YR-6/6	良好	20%	
5	土師器 坏	(16.0)	(3.2)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 内面放射状暗文	BGJN	橙2.5YR-6/8	良好	口縁～体部片	
6	土師器 坏	(17.0)	(4.1)	-	体部外面手持ちヘラケズリ 内面黒色処理	ABIJ	外面：橙2.5YR-6/8 内面：黒褐10YR-3/1	良好	20%	
7	須恵器 坏	-	(2.0)	(11.0)	底部外面全面回転ヘラケズリ 内面黒色処理・ミガキ	ABDH1JN	外面：にぶい橙7.5YR-7/4 内面：黒褐10YR-3/1	良好	底部50%	
8	土師器 坏	(14.0)	(2.9)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABIJN	橙5YR-6/6	良好	口縁～体部片	
9	土師器 坏	(14.0)	(2.3)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABDIJ	橙5YR-6/8	良好	口縁～体部片	
10	土師器 坏	(12.0)	(2.8)	-	口縁部内面指頭圧痕有 体部外面指頭圧痕有・手持ちヘラ ケズリ	ABDIJ	にぶい褐7.5YR-5/4	普通	口縁～体部片	
11	土師器 碗	(16.0)	(5.1)	-	体部外面手持ちヘラケズリ	ABG1J	にぶい橙7.5YR-6/4	良好	20%	
12	須恵器 坏	(14.0)	(3.1)	-	口縁部外反	ABGN	褐灰10YR-5/1	良好	口縁部片	未野産
13	須恵器 坏	(13.0)	(3.3)	-	口縁部直線的	ABGN	黄灰2.5Y-5/1	良好	口縁～体部片	南比企産
14	緑釉陶器 碗	(13.0)	(3.0)	-	内面釉薬 外面施文		黄褐2.5Y5/3	良好	口縁部片	
15	須恵器 坏	(10.4)	(2.2)	(6.6)	底部外面周辺回転ヘラケズリ	ABDGJN	灰黄2.5Y-6/2	良好	底部50%	東海産
16	土師質須 恵器 坏	-	(1.1)	(6.6)	底部外面回転糸切り	ABDGH1JN	明赤褐5YR-5/6	普通	底部60%	
17	土師質須 恵器 坏	-	(1.6)	(5.7)	底部外面回転糸切り	AGHL	にぶい赤褐5YR-5/4	普通	底部50%	
18	須恵器 坏	16.0	4.6	-	口縁やや内湾	AN	黄灰2.5Y-5/1	良好	口縁～体部片	未野産
19	須恵器 坏	-	(1.0)	(14.0)	底部外面回転ヘラケズリ	HJN	灰黄2.5Y-7/2	良好	底部40%	未野産
20	須恵器 蓋	(14.0)	(1.4)	-	外面「一」ヘラ記号 口縁内面返り	GJN	褐灰10YR-5/1	良好	口縁部片	未野産
21	須恵器 蓋	(12.2)	(2.2)	(鈕径)4.0	擬宝珠鈕 天井部外面回転ヘラケズリ	HJ	にぶい黄橙10YR-6/3	普通	天井部片	
22	須恵器 蓋	(14.6)	(1.6)	-	天井部外面回転ヘラケズリ 鈕部外面接合痕有り	GHIJ	灰白2.5Y-7/1	良好	天井部100%	東海産
23	灰釉陶器 長頸瓶	-	-	-	外面釉薬		灰黄褐10YR-6/2	良好	肩部片	
24	須恵器 短頸壺	18.0	2.8	-		AGHN	紫灰5P-5/1	良好	口縁部片	未野産
25	須恵器 甕	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	ABGN	灰N-5/	良好	肩部片	未野産
26	須恵器 長頸瓶	15.0	6.2	-	胴下端部外面ヘラケズリ 底部内面ナデ	AN	黄灰2.5Y-6/1	良好	高台部片	未野産
27	土師器 甕	(22.0)	(8.1)	-	胴上半部外面斜位ヘラケズリ	ABIJ	橙5YR-6/6	普通	口縁～胴上半部片	
28	土師器 台付甕	(12.0)	(4.0)	-	胴上半部横位ヘラケズリ	ABDJ	にぶい黄橙10YR-6/4	良好	口縁～胴上半部片	
29	須恵器 蓋	-	-	-	外面平行タタキ目 内面同心円状当て具痕	AGN	褐灰10YR-4/1	良好	胴部片	
30	土師器 焙烙	-	-	-	体部内面取っ手 内面ス多量付着	ABHJ	黒褐10YR-3/2	普通	口縁～体部片	東海産?
31	青磁	-	-	-			灰白10Y-7/1	良好	頸～肩部片	
32	灰釉 陶器 碗?	(20.0)	(2.6)	-	口縁部外面沈線1条 内外面釉薬		灰白10Y-7/1	良好	口縁部片	
33	磁器	-	(2.0)	2.8	外面施文		明緑灰10GY-8/1	良好	高台部片	
34	鉄製品	長:3.0	幅:0.6	厚:0.2～0.6			明赤褐5YR-5/6	-	-	
35	鉄釘	長:2.3	幅:0.3	厚:0.3～0.35	頭部及び先端部欠損		灰黄褐10YR-6/2	-	-	
36	砥石	長:(6.0)	幅:2.2	厚:1.2	擦痕 穿孔		褐灰10YR-4/1	-	95%	チャート

V 調査のまとめ

今回の調査地点は旧妻沼町の中心付近であり、わずか100m程度北東には平成24年に国宝に指定された「歓喜院聖天堂」がある。創建は治承3年（1179年）で、平家物語等に登場する斎藤別当実盛公により本尊を祀ったことにより始まったとされる。それから幾重にもわたる歳月の中、聖天堂は地域の民衆の支えを受け、人々の信仰の中心として周辺地域は発展していったものと考えられる。

創建に携わったとされる斎藤氏は妻沼の西城地域に居住していたが、のちに、自然堤防をなしている大我井の台地に館を構えたとされ、最終的に長井地域の館を構えたようである。大我井とは、当社鎮座地南方の微高地にある聖天山歓喜院の境内一帯を指し、当時は今以上に広大な森であったようで、斎藤氏、特に貞盛は森の中に祀られていた白髪神社を崇敬していたようである。（妻沼町史）

斎藤別当実盛館跡は長井の福川の北側にあったとされ、現在は塚とともに板石塔婆が残る。その周囲が当時は斎藤氏の一族の館跡であったものと推察される。

そうしたことを踏まえると、隣接するこの調査地点において、この周辺の歴史を背景とを意識し検討せざるを得ない。そうした点を考慮にいれ、以下、特筆すべき点について述べていきたい。

第4～6及び14号溝跡の性格について

調査のなかで特に際立って検出されたのが調査区域の南側での溝跡（SD4、5、6、14）である。

溝跡はいずれも東から西に向かって検出されておりそれらは平行して走っているのが特徴である。検出遺物はSD4が12世紀～13世紀ごろ、SD5、6は7世紀末～12世紀にかけての時期、SD14は12世紀と、SD5、6は幅があるものの、それらの数条については同時期に平行して存在していたものと考えられる。

今回、次のとおりこれらの溝跡のポイントの標高（28.80）からの溝跡の深さを、西から東に向かってポイントごとに出し、それらを比較し、落ち込み方を調べてみた。（ポイントについてはA-A'→(A)と省略する。数値はm）

まず、SD04は1.15(A)、1.07(B)、1.18(C)、1.08(D)、1.00(E)、1.21(G)、0.95(J)、0.95(L)となり、続いてSD05は1.20(A)、1.45(B)、1.30(C)、0.75(D)、0.67(F)、0.40(H)、0.73(J)、0.85(L)となる。SD06に至っては、0.85(A)、1.00(B)、1.00(C)、0.68(D)、0.67(F)、0.63(H)、0.79(J)、0.82(L)となる。最後にSD14は2点のみであるが、0.68(J)、0.50(L)と計測できる。

この調査箇所は、地形的には東へ向かうにつれ微高地の頂上となり、西に向かうと谷地形となり、最終的に西側に流れている芝川へと落ち込んでいる。検出されたこれら溝跡群も落ち込み方から見て、地形に沿った形で芝川へ向かって走っているように考えられる。

溝跡がいくらかの時期差はあるものの、数条に渡って張り巡らされていたことになると思えば用途として疑問を呈す。

仮に流路として考えるとすれば、現在水源と思われる方向には幼稚園や寺院が所在しており、地形的にも、そのあたりはこの周辺で一番高い標高の地点となる。しかし水源となるようなものは現在存在し

ない。

視野を広げて周囲を見渡すと、北東方向にわずか100mに聖天堂があり、その築造には斎藤別当貞守が関係している。斎藤氏に関係する建物跡がこの周囲にあるとの伝承があるが、詳しいことは不明で、現在に至るまで確認されていない。可能性の一つとして、建物跡が今回の調査箇所の東に位置するとなれば、排水設備の役割を果たすための溝跡だった可能性も考えられる。

また、仮に堀跡と考えれば、集落の境界としての堀跡か、建物や館跡などの堀跡が考えられる。この場合、集落は今回の調査地においては、溝跡と同時期の住居跡の検出がないことから、後者の建物や館跡の周囲に廻った堀跡の可能性が考えられる。一例として先述した斎藤別当貞守の関連建物があり、周囲からの侵入を防ぐために、外周を溝跡が数条に廻っていた可能性が考えられる。

いずれにせよ、今回の調査ではこの溝跡の性格を決定づけるには資料が不足しているため、今後の周辺での発掘調査に期待したい。

性格不明遺構（S X）について

今回の調査に際して、多くの調査区でS Xが検出された。そのうちS X 0 1～0 4については、最終的にS Xとしているが、土層観察によって腐食痕による黒色や粘質土の堆積や、平面上からは人工的とは思えない遺構の輪郭（特にA区）から、これらは自然に形成されたものと判断できる。

また、興味深い検出例として、R 3区でS X 0 1～0 4などと似通った土層断面を持つ水田跡（S N）が検出されたが、このS Nは遺構を十字に横断する形で黄褐色土を盛った幅15cm～30cm程度のすじが確認された。稲等の痕跡は確認できなかったが、現在の農耕でも利用される「畔」の跡だろうと推測される。この「畔」は土層観察からS Nの上に盛って築造したことが確認できることから、当初はS Xとして自然形成の箇所だったものを、水田に利用していたのではないかという想定が考えられる。

さらに、このあたり一帯は少なくとも江戸期には現在の字名の「池ノ上」のとおり池が存在していた。それは江戸期に描かれた絵地図からも見てとれ、当時芝川の東には池（御手洗池）が存在している。もともとこの遺跡周辺は利根川と芝川の間に形成された微高地だが、この遺跡が立地する「池ノ上」は周囲よりさらに高くなっている。「池ノ上」の地名もこの微高地の上に池が立地していたことによる由来と考えられる。

これらを総合的に検討するとS Xは沼地・湿地のようなものが点在していたと思われる。これらは「池」の字のごとくの池ではなく、湿地帯や沼地のような印象である。おそらく、利根川流域の氾濫が芝川へ押し寄せ、結果的に芝川周辺に池や湿地を形成したのだと想定される。

しかしながら、対象土層（G区）において、ご教授いただいた清水康守氏により、現地で土壌のサンプリングを行い、珪藻分析をおこなったが、その結果珪藻に関する痕跡は確認されず、堆積時に珪藻の生育していない水域に堆積したものか、地層の堆積後に珪藻殻が溶解してしまったかのどちらかという結論に達するということであった。

以上のことから、決定的な証拠は分析から得ることはできなかったが、推測として当時、湿地や沼地が形成されていたことはとらえておきたい。

また、先述した水田跡からは、土師器の鉢と考えられる遺物が出土しており、口縁部付近には4か所

の穿孔があり（うち1か所は推定）、直径10cm程度である。おそらくは穿孔部に紐を括り付け、紐を垂らした状態で利用していたものと考えられる。内面底部には朱の痕跡がわずかに確認できる。

瓦の出土があれば、朱の付着が考えられるが、この朱を顔料と捉えれば、祭祀的なことも視野に入れて考えられ、豊穰を祈る催事等で朱を顔に塗り、踊りや舞を舞ったのかもしれない。あるいは、隣接する歓喜院等に関連する祭祀で利用したのかもしれない。いずれにせよ土器への朱塗ではなく、朱墨硯などのようなパレット的な役割の土器と考えられ、大変興味深い遺物である。

集落について

今回の調査は、周辺での発掘事例がほとんどなかったために貴重な調査となった。調査箇所から西へ1km程度のあたりの飯塚北遺跡などは竪穴式建物跡及び掘立柱建物跡が多数検出され古墳～平安時代の大規模な集落があったことが確認されており、同時期の遺跡として南に目を向けると、鵜の森遺跡が弥生後期～平安時代までの展開であり、こちらについても飯塚北遺跡と同様に拠点的な集落と考えられるほどの大規模な数の建物跡が検出されている。

このことを踏まえると本遺跡においても同時代の痕跡が確認でき、古くから人々の営みが妻沼地域に点在して展開していることが考えられる。

今回の調査で、遺跡の主体的な時期としては7世紀～9世紀が主体時期だろうと思われ、今回検出した住居跡は大きく分類して3つのグループに分類することができる。

まず、1つ目として、カマドが北西方向で、遺物のうち土師器杯のタイプに有段口縁杯や模倣杯が含まれる7世紀～8世紀初頭と考えられるグループで、第1. 2. 5号住居跡が挙げられる。2つ目として7世紀後半～8世紀末にかけてのグループで、カマドが北西向きで、遺物が他種産地且つ出土遺物が多量のものを含んでいるもので、第4. 6. 7. 8. 13. 14. 15号住居跡がある。さらに3つ目として、調査区中央に横断する溝跡（SD4. 5. 6）の南側に検出された8世紀末～9世紀にかけてのグループで、北カマドを有し、緑釉陶器片や黒色土器を含む第16. 17. 18号住居跡とに分類することが可能である。それらを先述の順に第1～3住居群とすると、この地域には第1住居群が当初存在し、その後、7世紀後半から8世紀初頭において、使用する器種の変化や杯の種類の集約化が次第に行われ、これまで以上に群馬方面や東海地方との交流が増えていったものと考えられ、これが第2住居群への変化と捉えることができる。そして第3住居群の場合においてはおそらく溝跡に密接な関係があるものと思われ、先に述べた溝跡の北か南かの立地の違いによる変化で大きく第2住居群と第3住居群は大別することが可能だと思われる。第3住居群における時期に該当する住居跡やそれに付随した遺構は溝跡より北側では検出していない。こうしたことから、何らかの理由により、第2住居群は、溝跡の南側へ移転したのではという仮説が成り立つ。今回の調査では第3住居群に該当する住居は3軒のみと少ないことから、今後周辺の調査事例があった際には、さらなる成果が得られることを期待し、ひとまずの結びとしたい。

引用・参考文献

- 熊谷市『熊谷市史』前編 1963
『熊谷市史 資料編1 考古』2014
- 妻沼町『妻沼町史』1977
- 熊谷市教育委員会『熊谷市史研究 第3号』2011
- 国土地理院『治水地形分類図』—D 1—No.586— 2011
- 妻沼郷土史研究会『妻沼地名考 昔の群郷村大字小字の呼称と背景』2005
- 王子西遺跡調査会『王子西遺跡Ⅱ』2012
- 雄山閣出版『朱の考古学』1998
- 全国シンポジウム実行委員会2005『全国シンポジウム中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』2005
- 澤澤良祐『施釉陶器の生産形態(瀬戸窯を中心に)』—第25回 日本福祉大学知多半島総合研究所歴史、民俗部研究集会シンポジウム「中世渥美、常滑焼をおって」報告— 2012
- 中野晴久『瓷器系中世窯』古瀬戸をめぐる中世陶器の世界—その生産と流通— 1996
- 中野春久『常滑窯の展開』—第25回 日本福祉大学知多半島総合研究所歴史、民俗部研究集会シンポジウム「中世渥美、常滑焼をおって」報告— 2012
- 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団『飯塚北遺跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第306集 2005
『飯塚北Ⅱ/飯塚古墳群Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団第321集 2006
『熊野遺跡(A・C・D区)』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第279集 2002
『川越田遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第375集 2011
- 妻沼町教育委員会『鵜ノ森遺跡』2005
『大我井遺跡』1982
- 熊谷市教育委員会『不二ノ腰遺跡』2000
『西別府祭祀遺跡、西別府廃寺、西別府遺跡総括報告書Ⅰ』—西別府官衙遺跡群確認調査報告書Ⅲ— 2013
『西別府遺跡Ⅰ 西別府廃寺Ⅲ』—西別府官衙遺跡群確認調査報告書Ⅱ— 2012

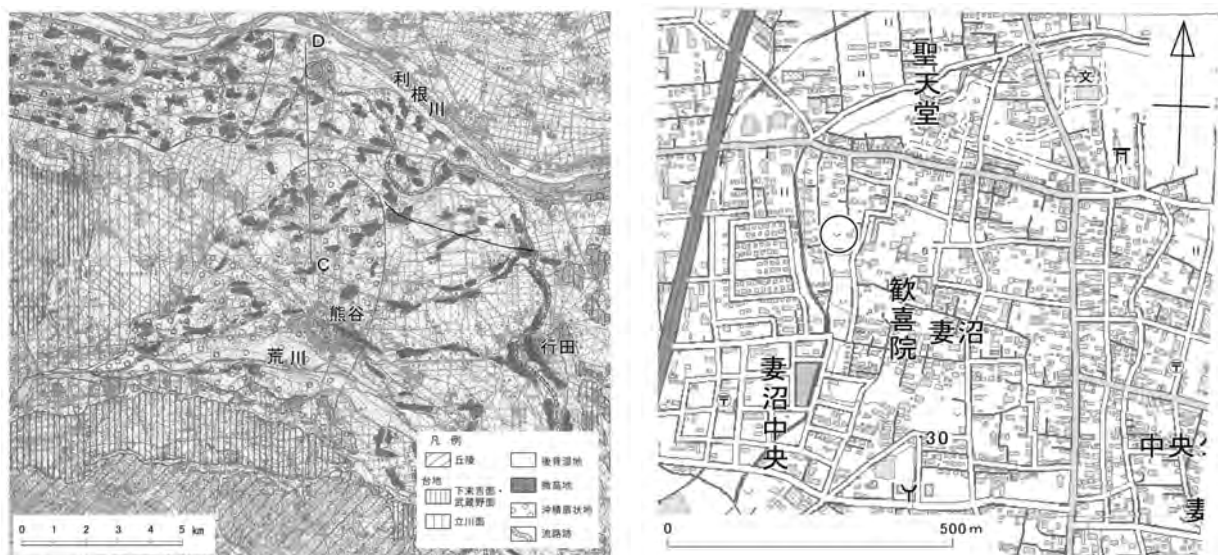
附編 池ノ上遺跡の周辺の地形と地質

清水康守・小勝幸夫・小川政之・武藤博士

1. 遺跡周辺の地形と地質

池ノ上遺跡は妻沼低地の中央部の北西寄りに位置している。妻沼低地の地形は大きく新期扇状地と自然堤防・後背湿地に分けられる。新期扇状地は完新世に形成されたもので、形成した河川と位置により2つに分けられる。一つは新期利根川扇状地で、これは群馬県の広瀬川低地から本庄市・深谷市・熊谷市（旧妻沼町）の利根川沿いに発達している。もう一つは新期荒川扇状地で、深谷市（旧川本町）三ツ井の荒川の河床を扇頂とし、熊谷市の西半分を占めている。

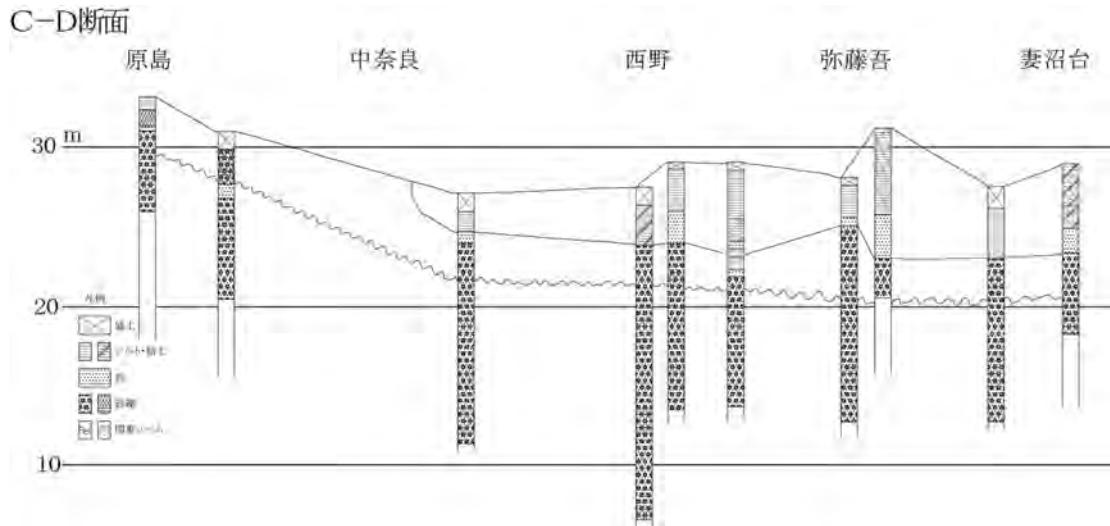
この新期扇状地の東側には自然堤防・後背湿地が広がっている。池ノ上遺跡は新期利根川扇状地から東に外れたところにあり、自然堤防上の遺跡である（第87図）。後背湿地は自然堤防に比べやや低い



第87図 周辺の地形区分図(左)及び遺跡位置図(右) ※丸印部分が遺跡位置

ため、水田として利用されることが多い。後背湿地中にはこれよりも一段と低く、細長い流路跡と呼べる地形がみられる。この遺跡と旧妻沼町聖天山などはこの流路跡によって、西～北～東へと周囲を取り囲まれていたことがわかる。

池ノ上遺跡周辺は標高が低い低地域であるため、周辺の地質は既存の建設用のボーリングデータによって、知ることができる。熊谷市史（資料編1考古）に、遺跡の西側に南北に走る国道407号線に沿ってまとめられた地質断面図がある（第88図）。これによると、沖積層の基底には新期扇状地の礫層が3m前後の厚さで分布している。このすぐ上には砂層が分布するところがあるが、多くのところで、泥を主体にした沖積層が地表まで5m前後の厚さで分布している。



第 8 8 図 国道 4 0 7 号線沿いの地質断面図

2. 遺跡の地質

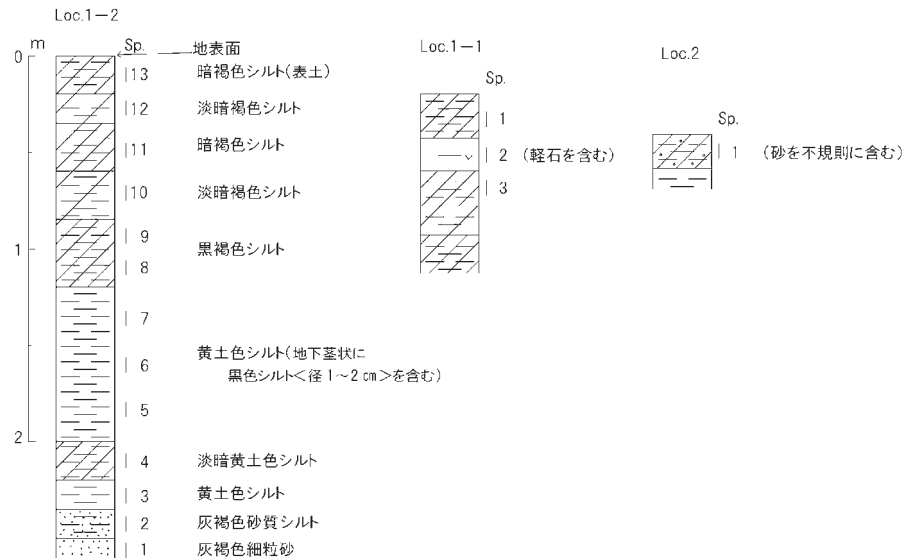
遺跡の Loc. 1 地点の表土を剥ぎ、遺跡の確認面を出した写真（第 8 9 図）みると、土の色が赤褐色を呈している。写真の右側の壁面が東端のもので、Loc. 1 - 2 の地質調査地点がある。左側の壁面が北側のもので、Loc. 1 - 1 の地質調査地点がある。



第 8 9 図 発掘区中央付近の遠景

両地点の地質は、地表から 20cm ほどの表土層があり、その下には粘土質のシルト層が続いている（第 9 0 図）。一部分深く掘り下げた Loc. 1 - 2 地点でみると、地下 2.2m までに腐食によって黒くなった層が 3 層認められた。地表下約 1 m の位置の黒色層に本遺跡の主要な生活（7 ～ 8 世紀）の痕跡が残されていた。

発掘区の Loc. 2 地点は、北西の端に当たり、表土の下に黒色の色の濃い土層が分布している地域である。

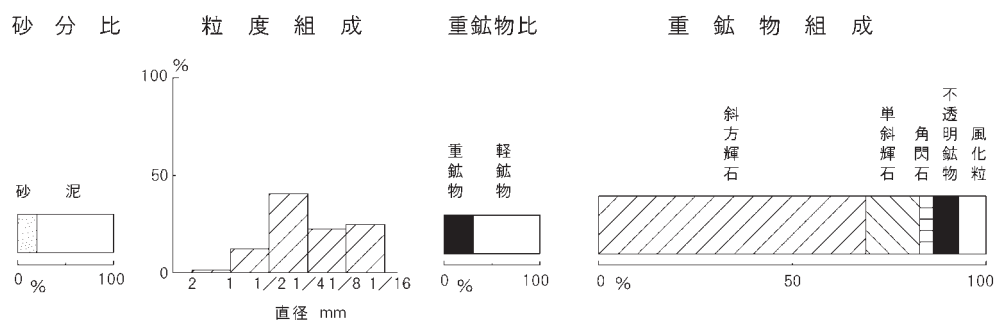


第 9 0 図 遺跡の地質柱状図

3. 自然科学分析

(1) 火山灰分析

Loc. 1 - 1 地点の表土層の下 (sp. 2) に、灰白色の軽石が散在していた。これを試料にして火山灰分析を実施した。分析方法について以下に略述する。試料はよく乾燥し、秤量後、水中で篩分けをする。使用する篩は 1 φ ごとのものである。乾燥後、秤量し、砂の粒度組成を求めた。また、全ての砂の量の合計を基に、試料中の砂成分の割合 (砂分比) も求めた。その後、まず、粒度ごとの砂粒子を観察する (主に双眼実体顕微鏡で)。その他、細粒砂について重液としてブロムホルムを用いて、重鉱物と軽鉱物に分け、秤量後、重鉱物の割合である重鉱物比を求めた。その後、重鉱物と軽鉱物のプレパラートを作り、偏光顕微鏡で鉱物の同定と計数を実施し、重鉱物組成などを求めた (第 9 1 図)。

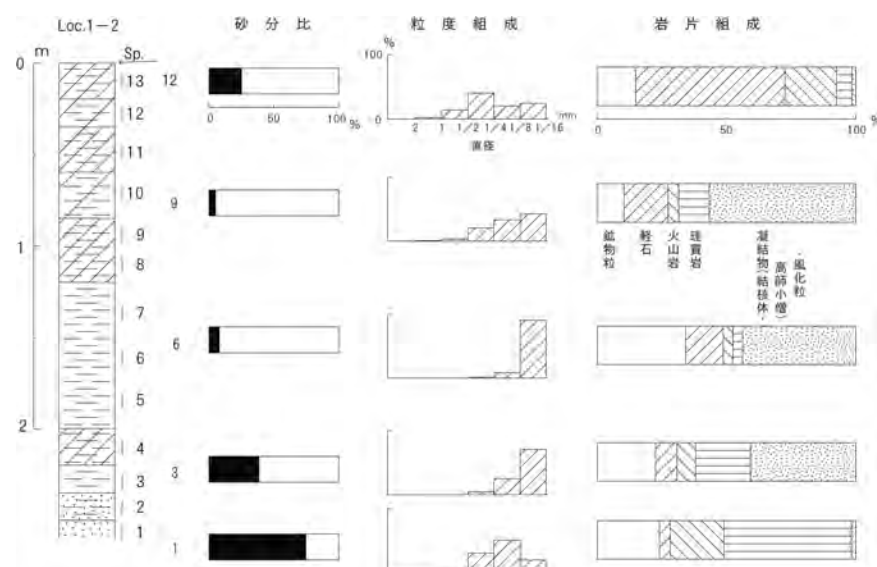


第 9 1 図 火山灰分析

分析結果は、重鉱物比が 32% となり、新鮮な鉱物粒が多いなど火山灰層の特徴を多く持っている。重鉱物組成は斜方輝石が 69% と多く、次いで単斜輝石、磁鉄鉱などの不透明鉱物となっている。角閃石は非常に少なく、浅間山の火山灰の特徴を示している。また、極細粒砂成分が多いのは、遺跡の覆土などの混入が大きいと考えられる。この分析で粗粒砂より量が少なく、すべて灰白色の軽石であることから、それらは浅間-A に比定できる。

(2) 岩片組成

Loc. 1－2 地点のsp. 1・3・6・9・12の5試料について岩片組成を検討した。分析方法は火山灰分析で示した方法によって篩分けを実施し、中粒砂以上の砂粒について、双眼実体顕微鏡で粒子の岩片同定を行ったものである。



第92図 砂分比・粒度組成・岩片組成図

分析試料のうち、sp. 1は砂層であるため、砂分比が74%と大きな値を示し、粒度組成をみると、細粒砂(径 $1/4 \sim 1/8$ mm)が最も多く、49%となっている。岩片組成はsp. 6のみ中粒砂(径 $1/2 \sim 1/4$ mm)で実施したが、その他は粗粒砂(径 $1 \sim 1/2$ mm)で行った。その結果、sp. 1はチャートや珪質の凝灰岩からなる珪質岩が49%と多く、次いで火山岩片が21%、軽石が4%となっていた。その他の試料は砂成分の量が40%以下と少なく、泥を主体にしていることが分かる。粒度組成をみると、sp. 12を除いて細粒な砂ほど多くなっていて、泥を主体にした地層であることがわかる。sp. 12は火山灰分析の稿で述べたLoc. 1－1 地点のsp. 2の層に対比できる。よって、sp. 12は降下火山灰の混入によって、第92図のような値を示していると考えられる。それ以外のsp. 3・6・9の各試料は層準によって違っているが、凝結物が最も多くなっている。凝結物はリモナイトによって固められた植物根などの高師小僧が多く、その他に植物根がもとになり形成された白色の結核体などである。これは、地層の堆積後に作られたもので、初生のものではない。それ以外の岩片は軽石、珪質岩や火山岩が含まれてくる。

岩片組成の結果、この遺跡の地層は火山岩片が多く、軽石を含むことから利根川によってもたらされたものであるといえる。

(3) 珪藻分析

分析に使用した試料はLoc. 2 地点のsp. 1で、黒色の泥層の堆積環境を知るためである。分析方法は、試料を湿潤重量約5 gとし、ビーカー中で過酸化水素水により、泥化と有機物の分解・漂白を行った。

その後、蒸留水で洗浄の後、ブルーラックスでスライドガラスに封じ、永久プレパラートを作製した。

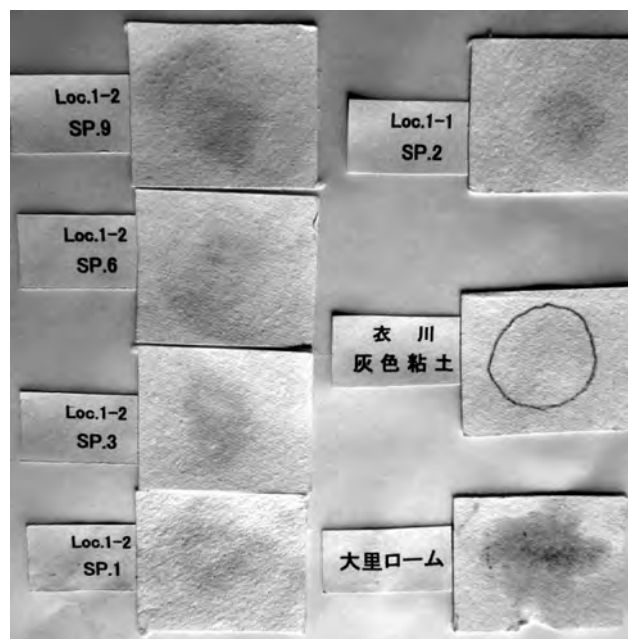
作成した永久プレパラートを複数枚検鏡したが、珪藻殻は検出できなかった。これは、この地層が、堆積時に珪藻の生育していない水域に堆積したものか、地層の堆積後に珪藻殻が溶解してしまったのかのどちらかであろう。

(4) 妻沼の遺跡の土層が赤褐色の理由

妻沼の遺跡の土層は赤褐色になっていて、台地域に分布している関東ローム層に非常に良く似ている。建築用のボーリング資料（第88図）をみると、ローム層と記載されたものも認められた。関東ローム層は、もとは火山灰で、それが風化作用によって、赤色土化したものである。周辺に広く分布する新期ローム層中には、粘土鉱物としてアロフェンができていとされている。そこで、呈色反応でアロフェンの検出を試みた。

アロフェンを確認する方法は、渋谷紘（1948）に従った。1%フェノールフタレインアルコール溶液をろ紙全体に滴下し、ろ紙を風乾した。採集した試料約1gを風乾し、メノウ乳鉢で軽く粉碎して粉末試料とした。粉末試料0.2gをマイクロスピーテルで取り、風乾したろ紙の上にのせる。その上から、4%フッ化ナトリウム水溶液をスポイトで0.5ml滴下する。アロフェンが存在すると、ろ紙が赤変する。

池ノ上遺跡Loc. 1-2では、最上部のsp. 13からsp. 10の試料が、ほんの僅かピンク色を呈し、その下のsp. 9から最下部のsp. 1までは淡いピンク色を呈した。池ノ上遺跡Loc. 1-1の試料sp. 1～sp. 3もほんの僅かピンク色を呈した。比較のために、さいたま市岩槻区の大宮台地上の新期ローム最上部の大里ローム層について、同様の方法で呈色反応を調べたところ、濃い赤色を呈した。同様に、新期荒川扇状地上の熊谷市前中西遺跡で衣川沿いに堆積していた灰色粘土などを同様の方法で呈色反応を調べたところ、全く反応を示さなかった（第93図）、第93図では、フッ化ナトリウム溶液が浸み込み、乾いた染みを鉛筆で囲った。



第93図 アロフェンの呈色反応（※ろ紙を裏側から見た写真）

吉村尚久（2001）によると、アロフェンは非晶質の含水アルミニウムケイ酸塩鉱物で、主に湿潤な気候のもとで風化作用が進行した火山灰土壤中などで産出する。ケイ酸とアルミニウムを含む温泉、冷泉、川床でも生成する。

熊谷市前中西遺跡の粘土層は、アロフェンの呈色反応を示さず、妻沼低地の堆積物である池ノ上遺跡の土層から、アロフェンが検出できた。池ノ上遺跡に堆積した堆積物が、利根川起源で、上流部の群馬県の火山由来の碎屑物が多く、風化作用によって粘土化し、アロフェンが生成されたものと考えられる。更新世の火山灰である関東ローム層は赤色が強くあらわれ、沖積層の妻沼低地の堆積物はピンク色になったのはアロフェンの量に差があったためと考えられる。ピンク色になった池ノ上遺跡の堆積物の中には、含まれるアロフェンの量は少ないと推定できるが、これは風化作用の時間が短かったためと考えられる。すなわち、関東ローム層は新期ローム層でも1万年以上前のものであり、池ノ上遺跡は古墳時代7～8世紀を主体とする遺跡で、今から1300～1400年前のものである。この時代の土層と考えられるsp. 9より下の地層が淡いピンク色に変化した。しかも、天明の浅間-A（1783年）を含むLoc. 1-1の試料sp. 2がほんの僅かピンク色を呈したのは、アロフェンができて始めていたためであり、大変重要なことである。なお、赤色土化は鉄の酸化作用によるものであり、一般に、アロフェンの形成よりはるかに短い時間でできると考えられるためである。

〔引用文献〕

清水康守(2015) 地理と古環境, 「熊谷市史 資料編1 考古」, 3-18, 熊谷市

渋谷 紘(1971) STAINING TESTによる関東ローム中のアロフェンの検出, 埼玉県立川越高等学校紀要, 8号, 50-55.

吉村尚久編著(2001) 「粘土鉱物と変質作用」地学双書32, 地学団体研究会, P. 292.

写真図版



A区調査区全景（南東から）



B区調査区全景（南東から）



第1号土坑（馬骨）（北から）（A区）



第1号土坑（馬骨検出状況）（A区）



第1号住居跡（南東から）（B区）



第1号住居跡（カマド部分）（B区）



第1号住居跡（P 4. 5）（B区）



第1号住居跡（P 3. 6）（B区）



第3. 4号土坑（東から）（B区）



C区調査区全景（南西から）



R 1 区調査区全景（西から）



第2号住居跡（南東から）（C区）



第3号住居跡（東から）（C区）



第3号性格不明遺構（南西から）（C区）



第4号住居跡（南から）（R 1区）



第8号住居跡（煙道部から）（R 1区）



第8号住居跡（南東から）（R 1区）



第7号住居跡（カマド部分）（R 1区）



第7号住居跡（南から）（R 1区）



第7号住居跡（カマド部分）（R 1区）



第7号住居跡(柱穴(左)貯蔵穴(右))(R 1区)



第5号住居跡(南から)(R 1区)



R 2 区調査区全景(南から)



第7号土坑(西から)(R 1区)



第10号土坑(南から)(R 2区)



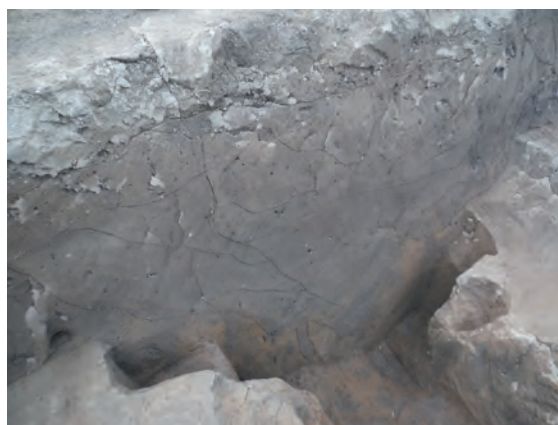
第 5, 6 号溝跡 (東から) (R 2 区)



第 4 号溝跡 (東から) (R 2 区)



第 3 号性格不明遺構 (南東から) (R 2 区)



第 4 号溝跡 土層断面 (西) (R 2 区)



第70.71号ピット (西から) (R 2 区)



第73号ピット (西から) (R 2 区)



第72号ピット (西から) (R 2 区)



第68号ピット (西から) (R 2 区)



第69号ピット (西から) (R 2 区)



D区調査区全景（西から）



E区調査区全景（西から）



第9号住居跡（南西から）（D区）



第10号住居跡（南から）（D区）



第1号性格不明遺構（西から）（D区）



第11号住居跡（北から）（E区）



第12号住居跡（東から）（E区）



第13号住居跡（北から）（E区）



第14号住居跡（東から）（E区）



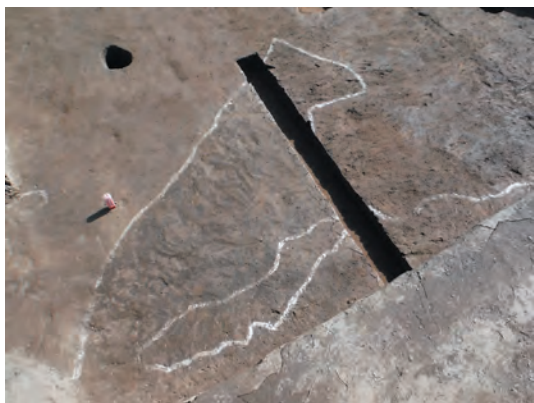
第14号住居跡カマド付近（東から）（E区）



F区調査区全景（東から）



G区調査区全景（南から）



第2号性格不明遺構（西から）（F区）



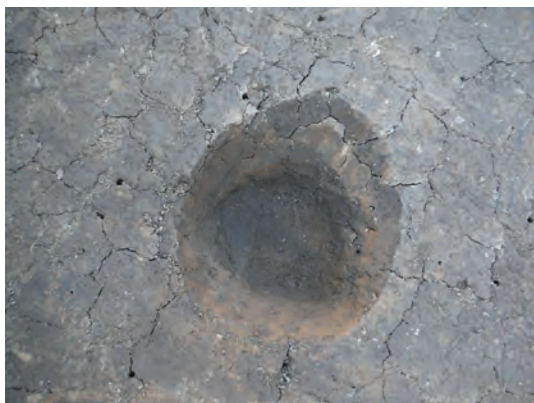
第56～59号ピット（西から）（F区）



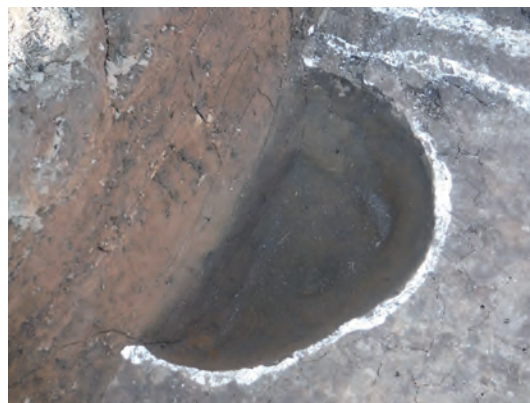
第88号ピット（南から）（G区）



第91号ピット（南から）（G区）



第87号ピット（南から）（G区）



第89号ピット（南から）（G区）



第90号ピット（南から）（G区）



第85号ピット（南から）（G区）



H区調査区全景（東から）



I区調査区全景（西から）



第12号土坑（東から）（H区）



第18号土坑（北から）（I区）



第15号土坑、第104号ピット、第8号溝跡（南から）（H区）



第105～107. 114. 115号ピット、第9号溝跡（東から）（I区）



第10号溝跡（南東から）（I区）



H区、I区全景（西から望む）



J区調査区全景（西から）



K区調査区全景（東から）



第4号溝跡（西から）（J区）



第5.6号溝跡、第6号性格不明遺構（西から）（J区）



第6.5.14号溝跡（東から）（K区）



第15号住居跡（南東から）（K区）



第24号土坑（西から）（K区）



第11.12号溝跡（西から）（K区）



第23号土坑（馬骨前歯）（K区）



第23号土坑（馬骨検出）（南から）（K区）



第23号土坑（西から）（K区）



第9号性格不明遺構（南から）（K区）



L区調査区全景（第4. 14. 5. 6号溝跡）（西から）



第13号溝跡（南西から）（L区）



作業風景（R3区付近）



R 3 区調査区全景（西から）



第18号住居跡出土遺物（南から）（R 3 区）



第18号住居跡（南から）（R 3 区）



第17号住居跡（南から）（R 3 区）



第16号住居跡出土遺物（南東から）（B 区）



第16号住居跡（南東から）（R 3 区）



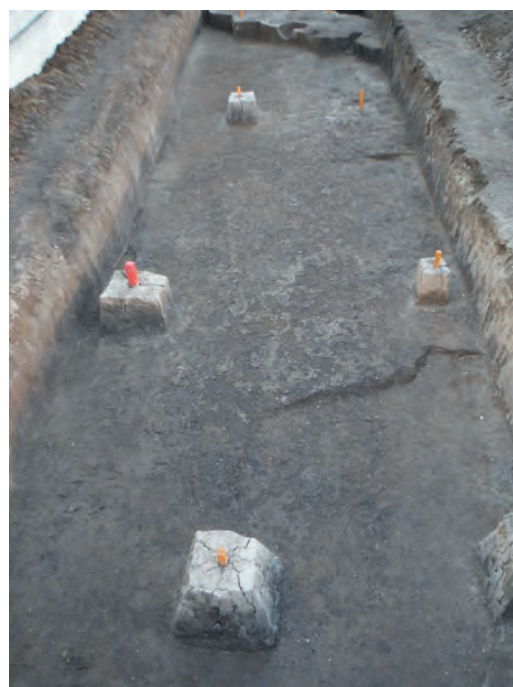
水田跡 南壁土層断面（北から）（R 3 区）



水田跡 南壁土層断面 遺構西端(北から)(R 3 区)



水田跡 畔跡検出状況（北から）（R 3 区）



水田跡 完掘状況（東から）（R 3 区）



作業員作業風景（R 3 区）



第 1 号住居跡 (第17図-1)



第 1 号住居跡 (第17図-12)



第 1 号住居跡 (第17図-27)



第 1 号住居跡 (第17図-4)



第 1 号住居跡 (第17図-35)



第 1 号住居跡 (第17図-36)



第 1 号住居跡 (第17図-37)



第 1 号住居跡 (第17図-39)



第 2 号住居跡 (第20図-11)



第 4 号住居跡 (第23図-1)



第 4 号住居跡 (第23図-5)



第 4 号住居跡 (第23図-10)



第 4 号住居跡 (第23図-16)



第 7 号住居跡 (第23図-1)



第 7 号住居跡 (第28図-2)



第 7 号住居跡 (第28図-3)



第 7 号住居跡 (第28図-5)



第 7 号住居跡 (第28図-8)



第 7 号住居跡 (第28図-9)



第 7 号住居跡 (第28図-11)



第 7 号住居跡 (第28図-17)



第 9 号住居跡 (第28図-2)



第 7 号住居跡 (第28図-4)



第 9 号住居跡 (第33図-3)



第 9 号住居跡 (第33図-4)



第 9 号住居跡 (第33図-13)



第 9 号住居跡 (第33図-17)



第10号住居跡 (第35図-1)



第14号住居跡 (第41図-1)



第14号住居跡 (第41図-2)



第14号住居跡 (第41図-4)



第14号住居跡 (第41図-5)



第14号住居跡 (第41図-6)



第14号住居跡 (第41図-7)



第14号住居跡 (第41図-10)



第14号住居跡 (第41図-27)



第15号住居跡 (第41図-2)



第16号住居跡 (第46図-1)



第16号住居跡 (第46図-4)



第17号住居跡（第48図-5）



第18号住居跡（第50図-4）



第1号住居跡（第17図-40）



第7号住居跡（第28図-18）



第7号住居跡（第28図-15）



第4号住居跡（第23図-9）



第1号住居跡（第17図-27. 28（上）
-29. 30（下））



第1号住居跡（第17図-41. 42（上）
-43. 44（下））



第 1 号住居跡 (第18図-47)



第 1 号住居跡 (第18図-48)



第 2 号住居跡 (第20図-7. 9 (上)
-10 (下))



第 2 号住居跡 (第20図-1. 2. 4 (上)
-5. 6 (下))



第 2 号住居跡 (第20図-17. 18 (上)
-12 (下))



第 2 号住居跡 (第20図-15)



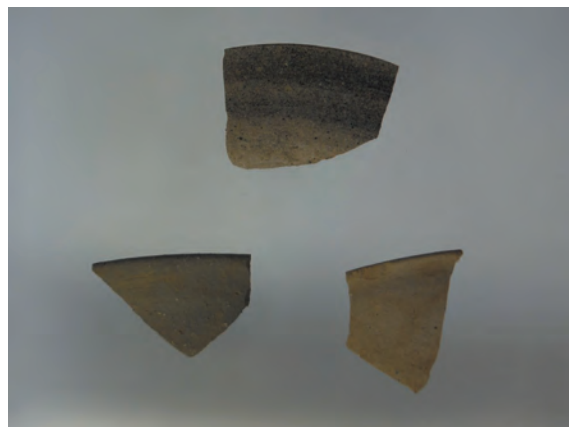
第 2 号住居跡 (第20図-19)



第 2 号住居跡 (第20図-20)



第 4 号住居跡 (第23図-12. 13 (上)
-14. 15 (下))



第 4 号住居跡 (第23図-16 (上)
-17. 18 (下))



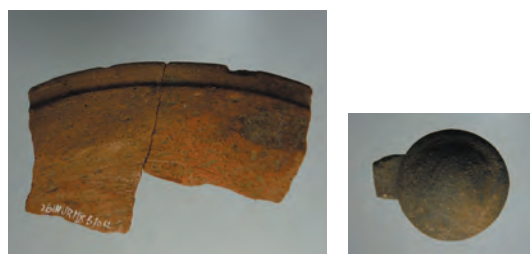
第 4 号住居跡 (第23図-20. 21)



第 5 号住居跡 (第23図-3. 4)



第 5 号住居跡 (第25図-5. 6)



第 7 号住居跡 (第28図-7. 19)



第 7 号住居跡 (第28図-6. 13)



第 7 号住居跡 (第28図-23. 20)



第9号住居跡 (第33図-6. 8 (上)
-10. 11 (下))



第9号住居跡 (第33図-18. 20)



第9号住居跡 (第33図-23)



第9号住居跡 (第33図-28 (上)
-27. 29 (下))



第10号住居跡 (第35図-2. 4)



第14号住居跡 (第41図-8. 12 (上)
-15. 20 (下))



第14号住居跡 (第41図-14. 16 (上)
-19 (下))



第14号住居跡 (第41図-21. 22 (上)
-23. 24 (下))



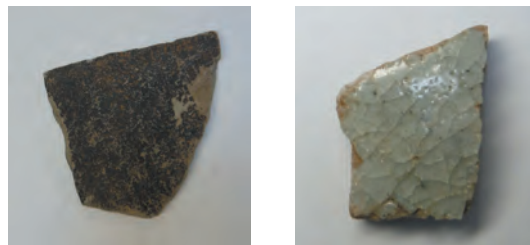
第14号住居跡 (第41図-27)



第14号住居跡 (第41図-29)



第14号住居跡 (第41図-32 (上)
-31. 33. 34 (下))



第14号住居跡 (第41図-36. 37)



第14号住居跡 (第41図-45)



第15号住居跡 (第44図-8. 5 (上)
-6. 7 (下))



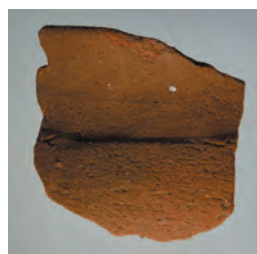
第16号住居跡 (第46図-8. 10)



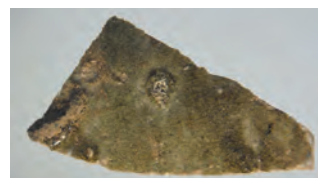
第16号住居跡 (第46図-3. 12)



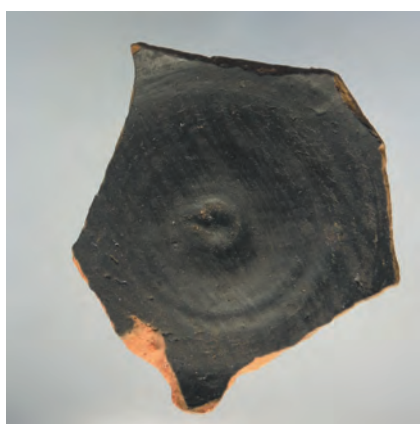
第17号住居跡 (第48図-1. 3)



第17号住居跡 (第48図-4. 7)



第18号住居跡 (第50図-1. 5)



第18号住居跡 (第50図-3)



第18号住居跡 (第50図-13)



第 1 号住居跡 (第18図-45)



第 7 号住居跡 (第29図-25)



第 7 号住居跡 (第29図-28)



第 7 号住居跡 (第29図-29)



第 8 号住居跡 (第31図-1. 2)



第 8 号住居跡 (第31図-1. 2)



第 8 号住居跡 (第31図-1. 2)



第 7 号住居跡 (第29図-28)



第 7 号住居跡 (第29図-28)



第16号住居跡 (第46図-3. 12)



第15号住居跡 (第44図-8. 5 (上)
-6. 7 (下))



第 9 号住居跡 (第33図-38. 39. 40)



第14号住居跡 (第42図-48)



第 4 号溝跡 (第56図-5)



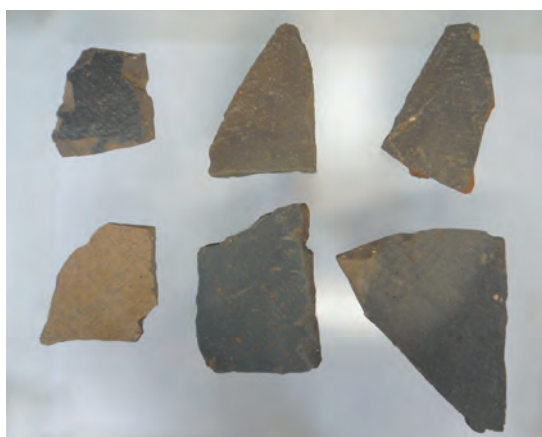
第 4 号溝跡 (第56図-9)



第 4 号溝跡 (第56図-15)



第 4 号溝跡 (第56図-6. 8. 9 (上)
-10. 12 (下))



第 4 号溝跡 (第56図-17. 18. 19 (上)
-20. 21. 22 (下))



第 4 号溝跡 (第56図-24. 25. 26 (上)
-27. 28. 29. 30 (下))



第 4 号溝跡 (第56. 57図-7 (上)
-38. 31 (下))



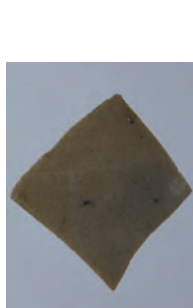
第 5 号溝跡 (第58図-6. 7 (上)
-8. 9. 10 (下))



第 5 号溝跡 (第58図-11. 12. 13 (上)
-14. 15 (下))



第 5 号溝跡 (第58図-3. 16. 17 (上)
-18. 19 (下))



第 5 号溝跡 (第58図-2. 4)



第 6 号溝跡 (第59図-1. 2)



第 6 号溝跡 (第59図-7. 8)



第 7 号溝跡 (第60図-7-1. 7-2)



第15号溝跡 (第60図-15-1. 15-2)



水田跡 (左：第67図-1 右：底部「朱」)



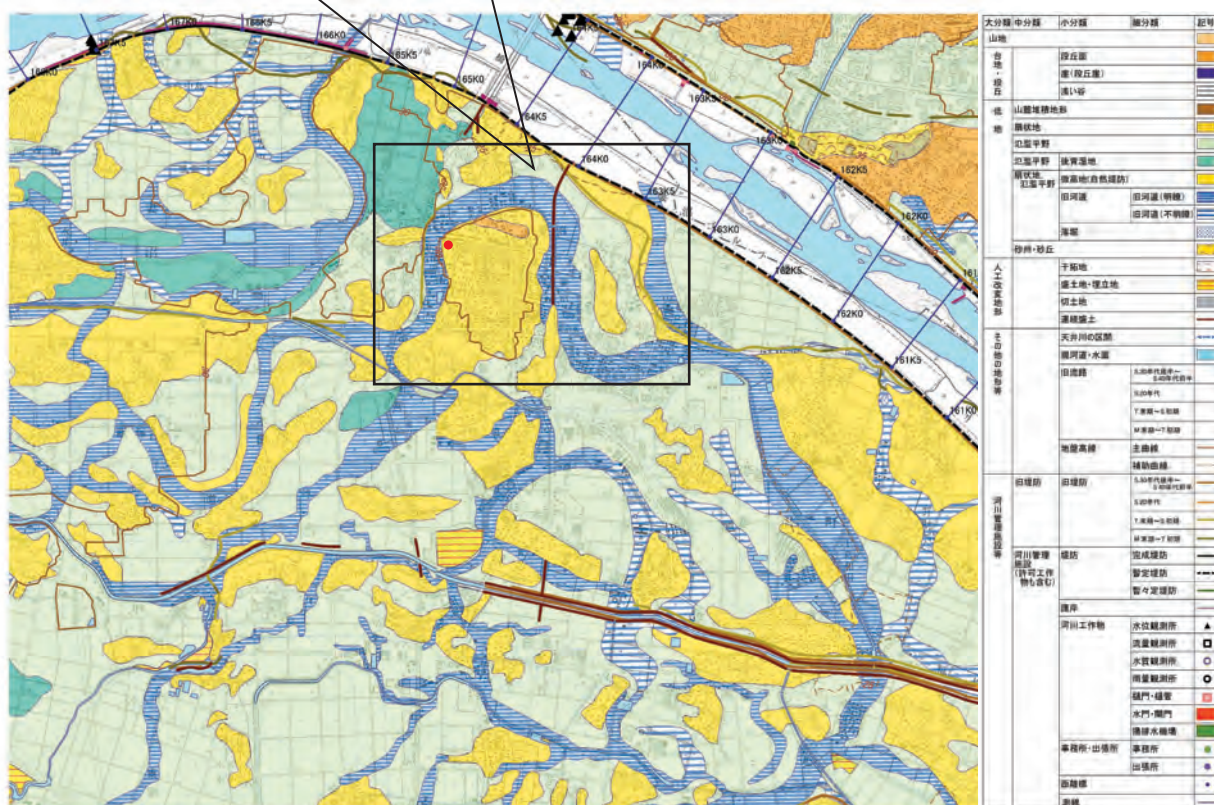
水田跡 (第67図-5)



水田跡 (第67図-2)



江戸期における妻沼村田惣反別絵図
(熊谷市史研究 第3号より)



妻沼地域の治水地形分類図
(国土地理院より)

※赤印は調査区域

報告書抄録

ふ り が な	いけのうえいせき							
書 名	池ノ上遺跡							
副 書 名	埼玉県熊谷市教育委員会埋蔵文化財調査報告書 第21集							
巻 次	—							
シ リ ー ズ 名	—							
シリーズ番号	—							
編 集 者 名	吉野 健 腰塚 博隆 原野 真祐							
編 集 機 関	熊谷市教育委員会							
所 在 地	〒360-8601 熊谷市宮町 2-47-1 TEL048-524-1111							
発 行 年 月 日	西暦2016（平成28）年3月25日							
ふ り が な	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所 収 遺 跡 名	所在地	市町村	遺跡番号	(°′″)	(°′″)			
いけ の うえ い せき 池 ノ 上 遺 跡	くまがや し め ぬまあざいけ の うえ 熊谷市妻沼字池ノ上 1575-1、 1612-1番地	11202	061-052	36° 22′ 64″	139° 37′ 28″	20141027 ～ 20150227	2,794	分譲住宅 道路造成 工事
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物		特 記 事 項		
池 ノ 上 遺 跡	集落跡	奈良・平安時代 鎌倉時代	竪穴式住居跡・溝跡 ・水田跡・沼地湿地跡	土師器・須恵器 陶磁器・馬骨		7世紀～8世紀ごろの集落跡 12世紀～13世紀ごろの溝跡 数条		

埼玉県熊谷市教育委員会埋蔵文化財調査報告書 第21集

池ノ上遺跡

平成28年3月25日発行

発 行／埼玉県熊谷市教育委員会

印 刷／大屋印刷株式会社

